（財）大阪府文化財センター調査報告書　第143集

寝屋川市

# 太秦遺跡・太秦古墳群Ⅱ

一般国道１号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006年３月

財団法人　大阪府文化財センター

太秦遺跡・太秦古墳群Ⅱ

二〇〇六年三月

財団法人　大阪府文化財センター

（財）大阪府文化財センター調査報告書　第143集

寝屋川市

# 太秦遺跡・太秦古墳群Ⅱ

一般国道１号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

財団法人　大阪府文化財センター

1．遺跡遠景　淀川・北摂山地を望む（南東から）

2．遺跡遠景　中央の帯が第二京阪道路路線（北東から）

巻頭図版 2

1．遺跡遠景　手前中央に整備された高塚古墳（北西から）

2．遺跡近景（南東から）

空中合成写真　調査区全景

巻頭図版 4

1．弥生時代中期集落　4・7トレンチ（南東から）

2．弥生時代中期集落　7トレンチ（南東から）

１．弥生時代中期集落　竪穴住居２４（南から）

２．弥生時代中期集落　竪穴住居９～１４（南東から）

巻頭図版６

１．弥生時代中期　周溝墓１（北から）

２．太秦古墳群　３トレンチ全景（北東から）

１．太秦古墳群　３トレンチ全景（北から）

２．太秦古墳群　１７号墳（北から）

巻頭図版 8

1．竪穴住居 1 出土　弥生時代中期土器

2．弥生時代中期　磨製石剣・石鏃・石斧

3. 弥生時代中期　勾玉

# 序　　文

太秦遺跡・太秦古墳群は大阪府寝屋川市国守町に所在しており、遺跡から西側や南側を見渡すと大阪平野を展望できる見晴らしのよい丘陵上にあることがわかります。調査地の北側には寝屋川市指定史跡第１号の太秦高塚古墳が復元整備され、太秦遺跡の存在を知ることができ、広く市民に公開されています。

当センターの平成13年度調査では、今年度の調査地に隣接して13基の古墳が密集して見つかりました。今回の調査では、この古墳群がさらにひろがることがわかり、また、弥生時代と古代の集落も存在することが明らかになりました。

古墳群は新たに12基みつかり、これで合計25基となりました。弥生時代の集落では大型の竪穴住居跡が多数みつかり、この地域の拠点となる集落であったと考えられます。古代の掘立柱建物は建物の軸を意識して建てられており、近接する国指定史跡の高宮廃寺との関連も注視しなければなりません。

今回の調査により、太秦遺跡の新たな知見を多く得ることができ、北河内の歴史を考える上で貴重な調査成果を提示することができたと思います。みなさんに活用していただくことを願います。

調査の実施にあたっては、多大な協力を賜った国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所、西日本高速道路株式会社、寝屋川市をはじめとする地元の皆様に深く謝意を表したいと思います。

2006年３月

財団法人　大阪府文化財センター
理事長　　水　野　正　好

# 例　　言

1．本書は第二京阪道路、及び一般国道１号バイパス（大阪北道路）建設に伴う太秦遺跡・太秦古墳群Ⅱ発掘調査報告書である（調査区名称「太秦遺跡03－1」）。太秦遺跡・太秦古墳群は大阪府寝屋川市国守町に所在する。

2．発掘調査は、国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所から財団法人大阪府文化財センターが平成15年４月１日から平成16年３月31日の間、委託を受けた（委託名称「第二京阪道路（大阪北道路）大尾・太秦遺跡（太秦古墳群）発掘調査」）。現地での発掘調査は平成15年５月14日から平成16年３月19日まで実施し（工事名称「太秦遺跡（太秦古墳群・その２）発掘調査に伴う工事」）、また、調査地の航空測量及び基準点測量を平成15年６月18日から平成16年３月19日まで実施した（委託名称「大尾・太秦遺跡発掘調査に伴う航空測量」）。撮影図化のスケールは1/50である。調査面積は約9,710㎡である。

　現地での発掘調査終了後の整理事業は平成16年４月１日から平成18年３月31日まで実施し、平成18年３月31日、本書の刊行をもって完了した。

3．発掘調査・整理作業ならびに本報告書作成は、大阪府教育委員会の指導の下、財団法人大阪府文化財センターが実施し、京阪調査事務所（平成15年度は京阪支所）が所管した。

　発掘調査は以下の体制で実施した。調査部長 玉井功、京阪調査事務所長 渡邊昌宏、主査 上野貞子［写真担当］、調査第三係長 岡戸哲紀、技師 小松武彦・市本芳三、非常勤専門調査員　松下知世（平成15年10月から）・清岡廣子、調整課長 赤木克視、調整係長 森屋直樹、技師 山元建。

　本書作成に関わる整理作業は以下の体制で実施した。調査部長 玉井功（平成17年３月まで）・赤木克視（平成17年４月から）、京阪調査事務所長 渡邊昌宏（平成17年３月まで）・山本彰（平成17年４月から）、主査 上野貞子［写真担当］、調査第一係長 宮野淳一、主任技師 市本芳三、調整課長 赤木克視（平成17年３月まで）・田中和弘（平成17年４月から）、調整係長 森屋直樹（平成17年３月まで）・芝野圭之助（平成17年４月から）、技師 信田真美世。

4．発掘調査および整理作業の実施にあたっては京阪調査事務所をはじめとする当センター職員の多くの協力を受けた。

　非常勤職員の参加者は下記である。

　青山由美子・上河善子・大塚達夫・奥平廣子・久保牧・神月さやか・地代広信・鈴木孝治・瀬田由紀子・長博志・辻井和子・中川寿美・波岸初美・野口佳子・橋村一也・平野貴之・藤井海彦・前川聡子・松尾久子・松田直子・山本香織・吉田誉子

5．発掘調査および整理作業の過程で、地元寝屋川市教育委員会、あさひ丘・打上町・国守町・各自治会、清風寺、大阪府教育委員会をはじめ、下記の方々にご協力、ご指導を賜った。記して厚く謝意を表したい。また、出土遺物のうち、耳環に関しては独立行政法人奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室にて蛍光Ｘ線分析の協力を得た。

　塩山則之・濱田延充（寝屋川市教育委員会）、野島稔（四條畷市教育委員会）、植野浩三（奈良大学）、寺前直人（大阪大学）、工楽善通（大阪府立狭山池博物館）、中川和哉（財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）

6．本書の執筆のうち第４章第２節２．遺物の磨製石剣・勾玉の記述、及び表２・３大阪府出土磨製打製石剣一覧の作成は中部調査事務所非常勤専門調査員松下知世によるものである。他は編集とともに市本が担当した。

7．本調査に関わる遺物、写真、図面、データ等は当センターにおいて保管している。広く利用されることを希望する。また、これらの資料にはすべて「太秦遺跡03－1」の調査区名称を付している。

# 凡　　例

1．挿図の縮尺は各図のスケールに縮尺率を明示している。使用単位尺はｍ、㎝を基準として使用する。基準高は東京湾平均海水位（T.P.）を使用している。

2．遺構平面図の使用測地系は「世界測地系（測地成果2000）」を使用している。単位はすべてｍである。

3．本書で用いた遺構平面図に付す方位針の方向は座標北を示す。

4．現地調査や遺物整理は『遺跡調査基本マニュアル』財団法人大阪府文化財センター2003.8に準拠して行った。遺物の取り上げ等は国土座標軸（世界測地系）を使用した地区割を設定している。

5．土層等の土色は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2000年版　農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。

6．遺構番号の付与方法は種類に関わらず、また、トレンチ単位にせずに通しの番号を与え、「番号－遺構種類」の記載方法をとっている。但し、建物などの複数遺構の集合体は遺構種類ごと別途に遺構番号を設定し、「遺構種類－番号」の記載方法とした。原則として調査時に付した遺構番号を報告書に使用しているが、本報告書作成において新たな遺構番号を与えている場合もあり、現地説明会資料や調査成果資料と異なる。遺構番号変更一覧を参照していただきたい。

7．遺物実測図の縮尺は１／３を基本としている。それぞれの挿図にスケールを明示している。

8．遺構図における断面位置および見通し位置は図面上に「L」形によってその位置を明記した。

9．挿図および写真図版の番号は各挿図・写真で完結する番号を付与している。

10．遺物への注記は「ウズマサ03－1－2－34」（例　太秦遺跡03－1工区の２トレンチから出土した登録番号34番の遺物）とした。

# 目　　次

巻頭図版
序文
例言・凡例
目次
挿図目次・表目次・写真図版目次

第１章　調査の経過と方法
　第１節　発掘調査の経緯と経過 …… 1
　第２節　発掘調査の方法 …… 3
第２章　位置と環境 …… 5
第３章　調査の概要 …… 8
第４章　調査成果
　第１節　基本層序 ……11
　第２節　弥生時代の遺構・遺物
　　１．遺構 ……15
　　２．遺物 ……57
　第３節　古墳時代中期の遺構・遺物
　　１．遺構 ……81
　　２．遺物 ……94
　第４節　古墳時代後期の遺構・遺物
　　１．遺構 ……97
　　２．遺物 ……104
　第５節　古代の遺構・遺物
　　１．遺構 ……104
　　２．遺物 ……119
　第６節　中世以降の遺構・遺物 ……122
第５章　基礎分析・総括
　第1節　弥生時代の様相 ……124
　第２節　太秦古墳群尾支群の様相 ……130
　第３節　太秦遺跡の古墳時代後期の様相 ……136
　第４節　古代の様相 ……136
第５節　総括 ……139

主要遺構一覧 ……142
掲載遺物一覧 ……151

# 巻頭図版目次


巻頭図版１　１．遺跡遠景
淀川・北摂山地を望む（南東から）
２．遺跡遠景
中央の帯が第二京阪道路路線（北東から）
巻頭図版２　１．遺跡遠景
手前中央に整備された高塚古墳（北西から）
２．遺跡近景（南東から）
巻頭図版３　空中合成写真調査区全景
巻頭図版４　１．弥生時代中期集落
４・７トレンチ（南東から）
２．弥生時代中期集落７トレンチ（南東から）
巻頭図版５　１．弥生時代中期集落
竪穴住居24（南から）
２．弥生時代中期集落
竪穴住居９～14（南東から）
巻頭図版６　１．弥生時代中期 周溝墓１（北から）
２．太秦古墳群３トレンチ全景（北東から）
巻頭図版７　１．太秦古墳群３トレンチ全景（北から）
２．太秦古墳群17号墳（北から）
巻頭図版８　１．竪穴住居１出土弥生時代中期土器
２．弥生時代中期 磨製石剣・石鏃・石斧
３．弥生時代中期 勾玉


# 表　目　次


表１　焼土塊出土遺構一覧
表２　大阪府出土磨製打製石剣一覧（１）
表３　大阪府出土磨製打製石剣一覧（２）
表４　尾支群古墳一覧
表５　掲載遺物一覧（１）
表６　掲載遺物一覧（２）
表７　掲載遺物一覧（３）
表８　掲載遺物一覧（４）
表９　掲載遺物一覧（５）
表10　掲載遺物一覧（６）
表11　掲載遺物一覧（７）
表12　掲載遺物一覧（８）
表13　掲載遺物一覧（９）
表14　主要遺構一覧（１）
表15　主要遺構一覧（２）
表16　主要遺構一覧（３）
表17　主要遺構一覧（４）
表18　主要遺構一覧（５）
表19　主要遺構一覧（６）
表20　主要遺構一覧（７）
表21　主要遺構一覧（８）

# 挿図図版目次


図１　現地説明会資料
（左：平成15年10月４日・右：平成16年１月31日）
図２　周辺の遺跡と調査地
図３　地区割の基準とトレンチ配置
図４　周辺の遺跡
図５　主要遺構図
図６　調査地の基本層序
図７　調査地の地形
図８　６トレンチ斜面地・27谷の土層断面図
図９　弥生時代主要遺構図
図10　弥生時代遺構図（１）５・６トレンチ
図11　弥生時代遺構図（２）５・６ トレンチ
図12　弥生時代遺構図（３）４・５・６ トレンチ
図13　弥生時代遺構図（４）４・６・７ トレンチ
図14　弥生時代遺構図（５）７・８トレンチ
図15　弥生時代遺構図（６）８トレンチ
図16　竪穴住居１平面・断面図
図17　竪穴住居７・８平面図、竪穴住居７変遷図
図18　竪穴住居３・４平面・断面図
図19　竪穴住居３・４変遷図
図20　竪穴住居５・６平面・断面図
図21　竪穴住居５変遷図
図22　竪穴住居９平面・断面・変遷図
図23　竪穴住居10平面・断面・変遷図
図24　竪穴住居11平面・断面図
図25　2386・2403・2619土坑、1160排水溝断面図、
竪穴住居11変遷図
図26　竪穴住居12平面・断面図
図27　1271・2554・2561・2636・2637土坑、
1274溝断面図、竪穴住居12変遷図
図28　竪穴住居13平面・断面・変遷図
図29　竪穴住居14平面・断面・変遷図
図30　竪穴住居17・18、53溝平面・断面図
図31　竪穴住居20・21平面・断面図
図32　竪穴住居26・27平面・断面図
図33　竪穴住居22・23平面・断面・変遷図
図34　竪穴住居24平面・断面図
図35　竪穴住居24変遷図
図36　竪穴住居29・30・31平面・断面・変遷図
図37　竪穴住居35平面・断面図
図38　竪穴住居36・37平面・断面・変遷図
図39　竪穴住居38平面・断面・変遷図
図40　竪穴住居39平面・断面・変遷図
図41　388・767土坑平面図、789溝断面図
図42　32・42・55・56土坑・28溝平面・断面図
図43　1684・1800・1882・1886・1927・1956
土坑平面・断面図
図44　周溝墓１平面・断面図
図45　20・107・108周溝・21墓壙断面図
図46　竪穴住居１出土遺物
図47　573・2330土坑、1055落込、
1321・1383・1806ピット出土遺物
図48　竪穴住居３・４・５・７、
2878・3200土坑、3318ピット出土遺物
図49　竪穴住居９・10・11・12・13・14出土遺物
図50　竪穴住居22・23・24出土遺物
図51　223・388・767土坑、260ピット出土遺物
図52　789溝出土遺物
図53　竪穴住居35・36・37・38出土遺物
図54　182・202溝、197・1512・1516・1721土坑、
1474・1483・1494ピット出土遺物
図55　1684土坑出土遺物
図56　1708・1714・1715・1716・1756・1925土坑、
1749ピット、1751溝出土遺物
図57　1800・1886・1927・1992土坑出土遺物
図58　1569・1956・1957・1991土坑、
1922溝、2090ピット出土遺物
図59　竪穴住居18・39、42・55・56土坑出土遺物
図60　27谷、28溝、103・105・215土坑出土遺物
図61　周溝墓１出土遺物
図62　周溝墓１出土遺物
図63　谷部第１・第２層、包含層出土遺物

図64　石器（竪穴住居３・４・10・12・13・14、
444土坑、包含層）
図65　石器（竪穴住居11・13・24、
789溝、1384ピット、谷部第１層）
図66　石器（竪穴住居５・13・29、789溝、875ピット）
図67　石器（竪穴住居13・24・29・30、
197・1569土坑、1200ピット）
図68　石器（竪穴住居10・11・12、182溝、包含層）
図69　石器（竪穴住居５・12、
周溝墓１、411ピット、包含層）
図70　古墳群遺構配置図
図71　14・15・16号墳平面・断面図
図72　17・18号墳平面図
図73　17号墳平面・断面・遺物出土状況図（１）
図74　17号墳平面・断面・遺物出土状況図（２）
図75　18号墳断面・遺物出土状況図、
土壙墓２・19号墳断面図
図76　土壙墓２・19・20号墳平面図
図77　20号墳断面・遺物出土状況図
図78　土壙墓１・21・22・23・24・25号墳平面図
図79　21・22・23号墳断面図
図80　22・23・24・25墳断面図
図81　17号墳出土遺物
図82　17・18・19・20・22・23・24号墳出土遺物
図83　古墳時代遺構配置図
図84　竪穴住居15・19平面・断面図
図85　柱列１・掘立柱建物２平面・断面図
図86　428・429・1789土坑平面図
図87　土壙墓３・７平面・断面図
図88　周溝墓１、土壙墓７、竪穴住居15、
27谷、428・429・1789土坑出土遺物
図89　古代遺構配置図
図90　竪穴住居16・25平面・断面図
図91　竪穴住居32平面・断面図
図92　竪穴住居33平面・断面・遺物出土状況図
図93　掘立柱建物１・４平面・断面図
図94　掘立柱建物３平面・断面図
図95　掘立柱建物５平面・断面図
図96　掘立柱建物６平面・断面図
図97　掘立柱建物７平面・断面図
図98　掘立柱建物８平面・断面図
図99　掘立柱建物９平面・断面図
図100　掘立柱建物10平面・断面図
図101　掘立柱建物11平面・断面図
図102　柱列２・３・４平面・断面図
図103　1720井戸平面・断面図、2100井戸断面図
図104　掘立柱建物７、竪穴住居33・34、
1720・2100井戸出土遺物
図105　24・26・28溝出土遺物
図106　27谷、谷部第１層出土遺物
図107　26・3208溝平面・断面図
図108　弥生時代 集落構造
図109　弥生時代 太秦遺跡･大尾遺跡 検出遺構
図110　太秦古墳群尾支群配置図
図111　太秦古墳群尾支群の群構造
図112　太秦古墳群と周辺の古墳
図113　古代 太秦遺跡とその周辺 検出遺構
図114　太秦遺跡･大尾遺跡･高宮遺跡 古代遺構図

# 写真図版目次

図版１　空中写真
１．１～３・８トレンチ合成写真
Ｓ＝１/500（左上が北）
図版２　空中写真
１．４～８トレンチ合成写真Ｓ＝１/500（左上が北）
図版３　空中写真
１．４～７トレンチ合成写真Ｓ＝１/500（左上が北）
図版４　空中写真
１．４・７トレンチ合成写真
弥生時代中期集落（左上が北）

図版５　空中写真

１．４・５トレンチ合成写真 古代集落（上が北）

図版６　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居９～14 （南西から）

２．竪穴住居９～14・22～24（南西から）

図版７　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居１（南東から）

２．竪穴住居１壁溝（南東から）

３．竪穴住居１遺物出土状況（南東から）

４．竪穴住居１遺物出土状況（北東から）

図版８　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居３（南東から）

２．竪穴住居３ー③④期（北西から）

３．竪穴住居３ー①②期（北西から）

４．竪穴住居３ー③④期（南から）

図版９　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居４（北から）

２．竪穴住居４ー①②期（北西から）

３．竪穴住居４ー③～⑤期（北西から）

図版10　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居３・４（北東から）

２．竪穴住居４　3225排水溝（南から）

３．竪穴住居４　3077排水溝（東から）

４．竪穴住居４　2985・2986壁溝断面（南東から）

５．竪穴住居４　2985・3009壁溝断面（南東から）

図版11　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居５（北西から）

２．竪穴住居５（南西から）

３．竪穴住居５内焼土検出状況（西から）

４．竪穴住居６
　2874土坑・2875排水溝断面（西から）

図版12　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居７・８（南西から）

２．竪穴住居７（西から）

３．竪穴住居８　2739土坑・排水溝（南西から）

４．竪穴住居７　3241・3242排水溝（南西から）

図版13　弥生時代中期遺構

１．2878土坑（西から）

２．竪穴住居２　3187土坑・排水溝（南西から）

３．８トレンチ南東側斜面（西から）

４．８トレンチ南東側斜面土層（西から）

図版14　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居10（北西から）

２．竪穴住居10（西から）

図版15　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居９（北東から）

２．竪穴住居10　720土坑・排水溝断面（南東から）

３．竪穴住居10　718土坑断面（北東から）

４．竪穴住居11
　2403土坑・2607排水溝断面（東から）

５．竪穴住居11　1147・1148壁溝断面（東から）

図版16　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居11ー④～⑧期（北から）

２．竪穴住居11ー①～⑥期（南東から）

図版17　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居12（南から）

２．竪穴住居12（北西から）

３．竪穴住居12ー⑤期（東から）

４．竪穴住居12　1274土坑断面（東から）

図版18　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居13断面（南東から）

２．竪穴住居13　1428土坑（南東から）

３．竪穴住居13　1390土坑（南東から）

図版19　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居13南北方向断面（東から）

２．竪穴住居13　磨製石剣出土状況（南西から）

３．1200ピット　勾玉出土状況（東から）

４．2330土坑断面（東から）

図版20　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居14ー③期（北西から）

２．竪穴住居14ー②期（南東から）

図版21　弥生時代中期遺構

１．竪穴住居14ー①期（南東から）

２．竪穴住居14　1390土坑（北から）

３．竪穴住居14　2447土坑検出状況（西から）

４．竪穴住居14貼床　南北方向断面（東から）

図版22　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居18（北西から）

2．竪穴住居18（南西から）

3．竪穴住居18　南北方向断面（東から）

4．６トレンチ東半　斜面堆積状況（南西から）

図版23　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居20（西から）

2．竪穴住居21（南から）

3．竪穴住居22（南東から）

4．竪穴住居26（北東から）

図版24　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居24　498土坑断面（南から）

2．竪穴住居24
401壁溝内石剣出土状況（南東から）

3．竪穴住居23（南東から）

4．竪穴住居23
1045土坑遺物出土状況（北西から）

図版25　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居24 （南から）

2．竪穴住居26　913土坑断面（東から）

3．789溝断面（東から）

4．767土坑遺物出土状況（東から）

5．388土坑遺物出土状況（西から）

図版26　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居26、789溝、ピット群（南西から）

2．竪穴住居21・26、789溝（東から）

図版27　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居29・30（北西から）

2．竪穴住居30　68土坑・排水溝断面（南から）

3．竪穴住居39ー①期（北から）

4．竪穴住居39ー①期断面（東から）

5．竪穴住居39遺物出土状況（北東から）

図版28　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居35（南西から）

2．竪穴住居35　2172壁溝断面（南から）

3．竪穴住 35　2193土坑（南から）

4．竪穴住 35　1710排水溝（南から）

5．竪穴住 35
2194排水溝・2172壁溝接合部（南西から）

図版29　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居38（南東から）

2．竪穴住居38　1074土坑・排水溝断面（南西から）

3．竪穴住居37（東から）

4．竪穴住居27（南から）

図版30　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居28　2062排水溝（南東から）

2．1886土坑遺物出土状況（北から）

3．1569土坑断面（北西から）

4．1516土坑断面（北から）

図版31　弥生時代中期遺構

1．32土坑遺物出土状況（南東から）

2．42土坑遺物出土状況（北東から）

3．55土坑遺物出土状況（北東から）

4．56土坑遺物出土状況（西から）

図版32　弥生時代中期遺構

1．方形周溝墓１全景（北西から）

2．方形周溝墓１　20・105・107周溝（南から）

3．方形周溝墓１
20周溝遺物出土状況（北東から）

図版33　弥生時代中期遺構

1．方形周溝墓１
20周溝遺物出土状況（南東から）

2．方形周溝墓１　20周溝遺物出土状況（南から）

3．方形周溝墓１
108周溝遺物出土状況（南東から）

4．方形周溝墓１
21墓壙 木棺底板検出状況（南西から）

図版34　弥生時代中期遺構

1．27谷・28溝（西から）

2．27谷（北から）

3．28溝（南西から）

4．28溝断面（北西から）

図版35　古墳時代中期遺構

1．古墳群全景（北西から）

2．22～24号墳（北から）

図版36　古墳時代中期遺構

１．17～20号墳、土壙墓２（北西から）
２．14～18号墳（北から）
図版37　古墳時代中期遺構
１．14号墳（北西から）
２．15号墳（北西から）
３．14号墳周溝断面（南東から）
４．15号墳周溝（南東から）
図版38　古墳時代中期遺構
１．17・18号墳（北西から）
２．16号墳（北東から）
３．17号墳北西周溝 遺物出土状況（北東から）
図版39　古墳時代中期遺構
１．16号墳周溝 トレンチ壁断面（北西から）
２．17号墳北東周溝遺物出土状況（北西から）
３．17号墳南西周溝 遺物出土状況（北西から）
４．17号墳南西周溝断面（南西から）
図版40　古墳時代中期遺構
１．17号墳北東周溝　埴輪出土状況（西から）
２．17号墳南西周溝　埴輪出土状況（南東から）
３．17号墳北東周溝　須恵器出土状況（南から）
４．17号墳南西周溝　トレンチ壁断面（北西から）
図版41　古墳時代中期遺構
１．17号墳北東周溝断面（南西から）
２．17号墳北西周溝断面（北東から）
３．19号墳北東周溝断面（南西から）
４．19号墳北西周溝断面（南東から）
図版42　古墳時代中期遺構
１．19・20号墳（北西から）
２．18号墳北東周溝断面（南西から）
３．18号墳南西周溝断面（南東から）
４．18号墳南東周溝断面（北東から）
５．18号墳東隅周溝 遺物出土状況（南西から）
図版43　古墳時代中期遺構
１．20号墳（北西から）
２．20号墳北西周溝断面（南東から）
３．20号墳南東周溝断面（北東から）
４．20号墳北西周溝 須恵器出土状況（北から）
５．20号墳北東周溝断面（南東から）
図版44　古墳時代中期遺構
１．21～24号墳（西から）
２．22号墳北東周溝断面（南東から）
３．21号墳周溝・22号墳南東周溝断面（北から）
４．22号墳北西周溝断面（北東から）
５．22・23号墳周溝断面（北東から）
図版45　古墳時代中期遺構
１．24号墳（北西から）
２．24号墳北東周溝断面（南東から）
３．23号墳北西周溝断面（北東から）
４．23号墳南東周溝断面（北東から）
５．23号墳南西周溝断面（南東から）
図版46　古墳時代中期遺構
１．25号墳（南から）
２．22・24号墳周溝断面（南東から）
３．土壙墓２（南東から）
４．土壙墓２断面（北東から）
図版47　古墳時代後期遺構
１．土壙墓７（北東から）
２．土壙墓７ 須恵器出土状況（南から）
３．土壙墓７ 鉄鏃出土状況（南から）
４．土壙墓７断面（北東から）
５．土壙墓６（西から）
６．土壙墓３（南西から）
図版48　古代遺構
１．竪穴住居32（南東から）
２．竪穴住居25（北から）
３．竪穴住居15（北から）
４．竪穴住居16（北西から）
図版49　古代遺構
１．竪穴住居33（南東から）
２．竪穴住居33　1755壁溝内暗渠（南から）
３．竪穴住居19　895土坑（南東から）
４．竪穴住居19（北東から）
図版50　古代遺構
１．掘立柱建物５～８（南東から）
２．掘立柱建物６～８（北西から）
図版51　古代遺構

１．掘立柱建物９（北東から）
２．掘立柱建物３（南から）
３．掘立柱建物４（東から）
４．柱列２（北から）
図版52　古代遺構
１．掘立柱建物６（東から）
２．掘立柱建物８（南から）
３．掘立柱建物５、柱列３・４（北から）
図版53　古代遺構
１．掘立柱建物７（東から）
２．掘立柱建物10（北から）
３．掘立柱建物10（北西から）
図版54　古代遺構
１．掘立柱建物６　1629ピット断面（南から）
２．掘立柱建物６　1630ピット断面（南から）
３．掘立柱建物６　1621ピット断面（西から）
４．掘立柱建物３　2111ピット断面（東から）
５．竪穴住居33　1688ピット断面（東から）
６．竪穴住居33　1686ピット断面（西から）
７．1720井戸（北から）
８．2100井戸断面（南から）
図版55　古代遺構
１．24・29・30溝、27谷（西から）
２．24溝（南から）
３．30溝（南西から）
４．６トレンチ６N－９g地区
堆積状況断面（南から）
５．27谷堆積状況断面（東から）
図版56　中世以降遺構
１．１トレンチ全景（南東から）
２．26溝（北から）
３．26溝断面（南から）
４．26溝 トレンチ南壁断面（北から）
図版57　弥生時代 土器
竪穴住居１
図版58　弥生時代 土器
竪穴住居７・９・10、2330土坑
図版59　弥生時代 土器
竪穴住居23、388・767土坑
図版60　弥生時代 土器
767土坑、789溝
図版61　弥生時代 土器
竪穴住居５・11・12・14・22・35・36・38
図版62　弥生時代 土器
竪穴住居36・37、1512土坑、182溝、1494ピット
図版63　弥生時代 土器
1684・1714・1886・1925土坑
図版64　弥生時代 土器
1800・1927・1956土坑
図版65　弥生時代 土器
1569・1956・1957土坑
図版66　弥生時代 土器
竪穴住居18・39、42・56・215土坑
第１層
図版67　弥生時代 土器
56・197土坑
図版68　弥生時代 土器
周溝墓１
図版69　弥生時代 石器
竪穴住居３・４・５・10・11・12・13・14・24・29、
444土坑、789溝、875・1384ピット、谷部、第１層
図版70　弥生時代 石器
竪穴住居13・24・29・３０、197・1569土坑
図版71　弥生時代 石器
竪穴住居５・10・12、182溝、1055落込
411ピット、第１層
図版72　古墳時代 埴輪
17号墳
図版73　古墳時代 埴輪
17号墳
図版74　古墳時代 埴輪・須恵器
17・18・19・20号墳
図版75　古墳時代 須恵器・鉄器・銀環
22・24号墳、竪穴住居15、土壙墓７、429土坑
図版76　古代 土器・骨
竪穴住居33、35土坑、26・28溝、1720井戸

# 第１章　調査の経緯と方法

## 第１節　調査の経緯と経過

大阪府寝屋川市に所在する太秦遺跡は弥生時代の遺跡として、また、太秦古墳群として古墳時代の遺跡として認知されていた。調査地の北西方向には太秦高塚古墳が寝屋川市指定史跡として整備されており、遺跡の存在を知ることができる[(1)]。

当調査地は、その後、一般国道１号バイパス（大阪北道路）建設に伴う用地となり、大阪府教育委員会の指導によって、当調査地の北東側の用地内を平成12年度に当センターが確認調査を実施し[(2)]、翌13年度には全面的な調査を実施し[(3)]、古墳群の存在が明らかになった。

当調査地は平成14年３月から６月に確認調査を実施し[(4)]、古墳の周溝、弥生時代の竪穴住居跡、古代の掘立柱建物を確認し、尾根上に遺構が広がることが明らかになった。

これを受け、平成15年４月１日付けで国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所と財団法人大阪府文化財センターは発掘調査の委託契約を締結し、その後、平成15年５月14日から平成16年３月19日までの工期で発掘調査を実施した。

調査対象地は北東方向から南西方向へ伸びる丘陵上に位置しており、その間にいくつかの谷地形が認められる。調査地は一部の谷部や未買収地、溜池を除いて、建設予定地を全面調査した。調査面積は約9,710㎡である。

調査の進捗に伴い、３トレンチでは12基の古墳が密集して検出されたことから、平成15年10月４日に現地説明会を開催した[(5)]。その後、弥生時代の成果が蓄積したことから、平成16年１月31日には７トレンチを中心として弥生時代の集落について現地説明会を実施した[(6)]。

平成16年３月19日には、現地での調査を完了し、京阪支所に引き上げた。その後、京阪調査事務所において、整理事業を平成16年４月１日から平成18年３月31日まで実施し、本書の刊行をもって完了した。

なお、整理事業期間内、平成16年９月18日開催の第49回大阪府埋蔵文化財研究会において、発掘調査成果発表を行っている[(7)]。

註

(1) 寝屋川市教育委員会　リーフレット『太秦高塚古墳』　2003.3

(2) （財）大阪府文化財センター『讃良郡条里遺跡、小路遺跡、打上遺跡、茄子作遺跡、藤阪大亀谷遺跡、長尾窯跡群、長尾東地区』　2002.8

(3) （財）大阪府文化財センター『太秦古墳群』　2003.6

(4) （財）大阪府文化財センター『門真西地区、讃良郡条里遺跡西地区、讃良郡条里遺跡、大尾遺跡・太秦遺跡・太秦古墳群、打上遺跡、寝屋南遺跡、寝屋東遺跡、私部南遺跡、東倉治遺跡、津田城遺跡東地区』　2003.2

(5) （財）大阪府文化財センター『太秦遺跡現地公開資料』　2004.10

(6) （財）大阪府文化財センター『太秦遺跡現地公開資料』　2005.１

(7) 市本芳三「太秦遺跡の調査」　（財）大阪府文化財センター『大阪府埋蔵文化財研究会（第49回）資料』　2004.9

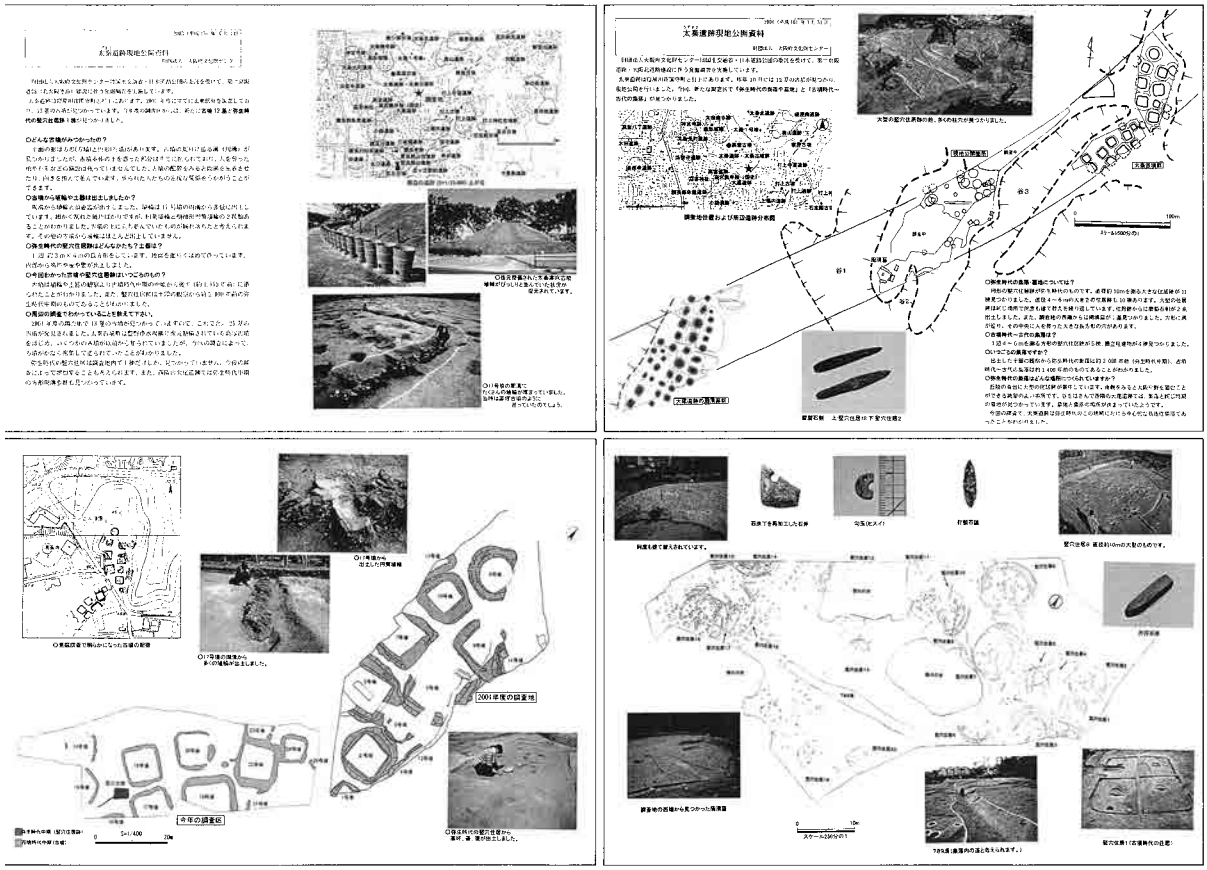


図１　現地説明会資料（左：平成15年10月４日・右：平成16年１月31日）

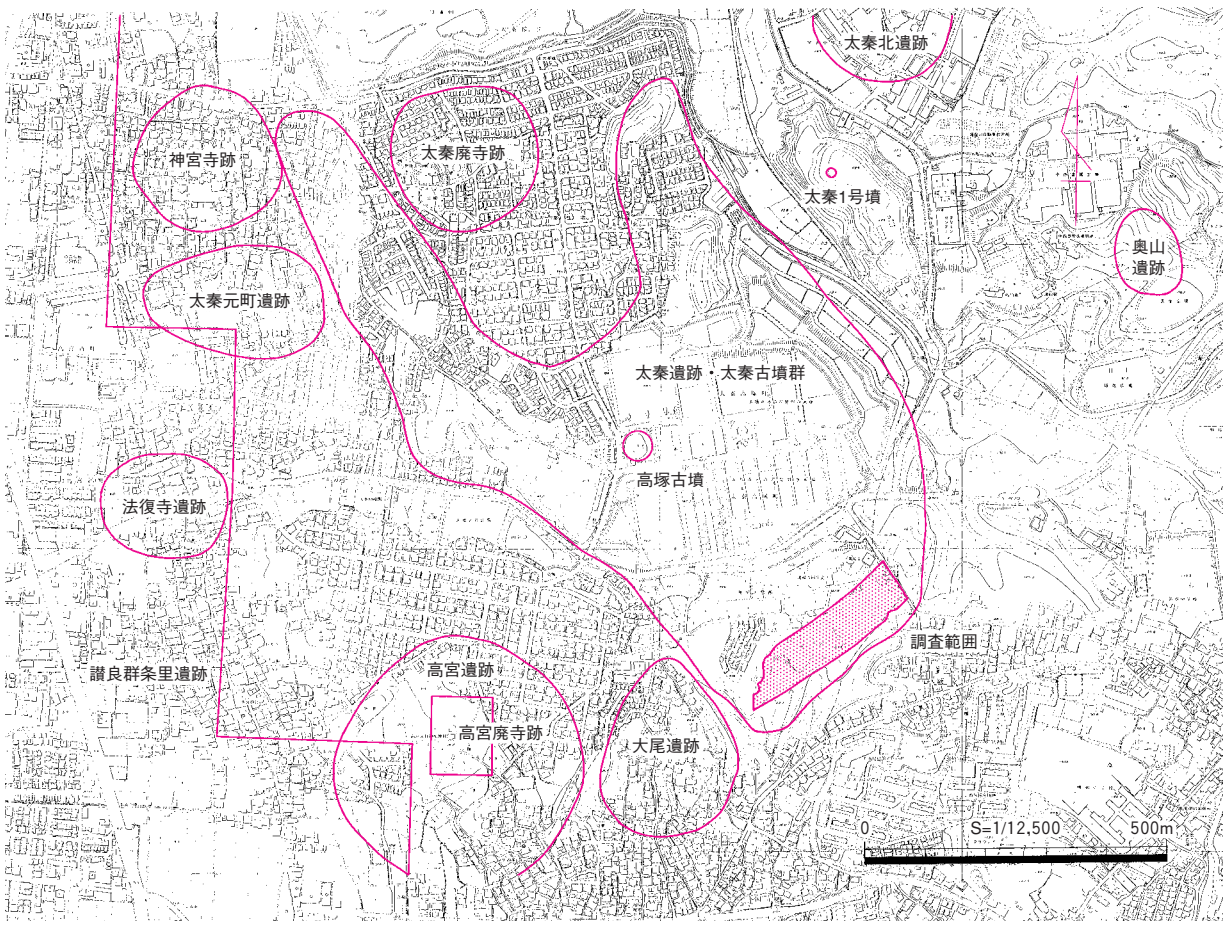



図２　周辺の遺跡と調査地

## 第２節　調査の方法

調査の方法は、（財）大阪府文化財センター2003.8『遺跡調査基本マニュアル【暫定版】』に依拠した。

調査区（トレンチ）は自然地形、排土置場、航空測量の回数を考慮し、１トレンチから８トレンチに分割設定した。調査区（トレンチ）の名称は、北東側から順に番号を付けることを原則としたが、調査途中において調査区をさらに分割することになり、４～８トレンチはこの原則に即していない。

調査区の呼称は「太秦遺跡03－１－１トレンチ」～「太秦遺跡03－１－８トレンチ」である。

地区割りは上記マニュアルをもととし、世界測地系の国土座標軸にのっとった基準線を遺物の取り上げ、及び遺構図作成の基準線として用いた（図３）。国土座標軸（第Ⅵ座標系）を基準とし、第Ⅰ区画は大阪府の南西端X=－192,000ｍ、Y=－88,000ｍを基準とし、縦６㎞、横８㎞で区画する。第Ⅱ区画は第Ⅰ区画を縦1.5㎞、横2.0㎞で区画し、縦横それぞれ４分割、16区画にする。第Ⅲ区画は第Ⅱ区画を東西20分割、南北15分割した、一辺100ｍの範囲となる。第Ⅳ区画は第Ⅲ区画を東西、南北ともに10分割した一辺10mの範囲となる。第Ⅴ区画は第Ⅳ区画を５ｍ単位で区画した範囲となる。遺物のとりあげは、基本的に第Ⅳ区画である一辺10ｍの範囲でおこなった。なお、第Ⅲ区画、第Ⅳ区画の表示方法は横方向の数字、縦方向のアルファベットの順である。

ちなみに、本調査地は第Ⅰ区画－J6、第Ⅱ区画－４、第Ⅲ区画－4L・4M・5L・5M・6M・6N・6O・7N・7Oがあたる。

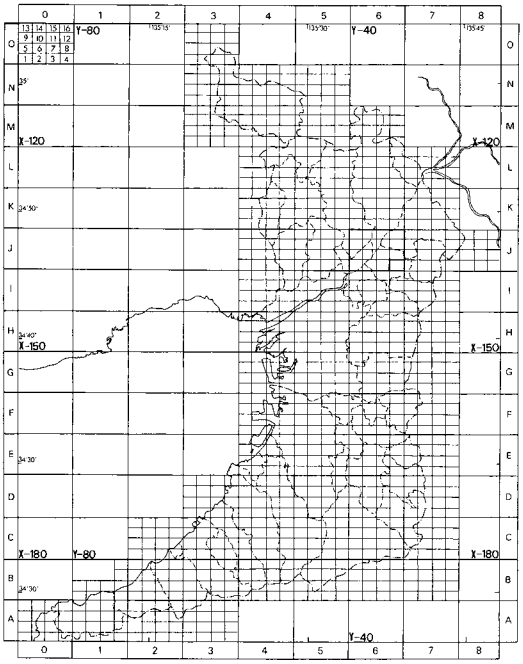
遺構番号は種類やトレンチ、遺構面にかかわらず通し番号を付しており、記載方法は「番号－遺構種類」としている。本報告書記載の番号は、調査時のものを踏襲したが、現地での調査以降に番号を付け直した遺構や遺構の集合体である掘立柱建物や竪穴住居、古墳等は、「遺構種類－番号」の表現をとっている。

調査の手順は、まず、竹林・樹木の伐開を行い、その搬出のための工事道路を設置した。

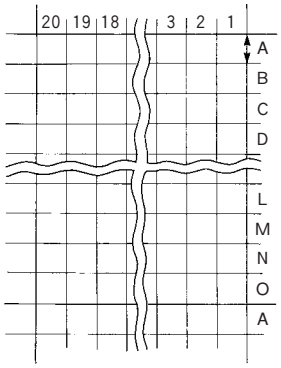
その後、盛土・現代耕作土をバックホウによる機械掘削で除去し、遺物包含層の掘削及び、遺構検出、遺構掘削は人力によっておこなった。後述するように調査地の大部分は遺物包含層が存在せず、機械掘削後、遺構検出にあたった。

遺構は各時代のものが同一面で検出され、測量はヘリコプターとクレーンを用いた空中撮影による平面図を1/50スケールで図化、作成した。また、６トレンチ西半は遺構面を２面確認したため、２面共に空中撮影を実施した。クレーンによる撮影は、１・２トレンチにおいて実施した。また、空中測量の実施にあたっては、基準点測量をおこなった。その他、必要に応じて、詳細な断面図、遺物の出土状況図等の作成、写真撮影をおこなった。

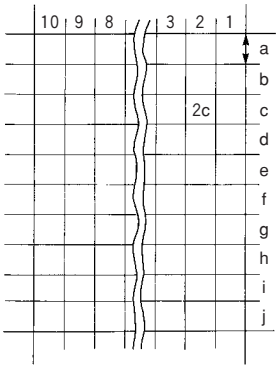
出土遺物は、登録、洗浄、注記までの基本的な整理を発掘調査と並行して現場でおこなった。登録はトレンチにかかわらず通し番号を付した。但し、遺物への注記は「ウズマサ03－１－２（トレンチ名）－３（登録番号）」のようにトレンチ名と登録番号を記した。現場での調査終了後、遺物、図面を京阪調査事務所へ移送し、遺物の復元、実測、製図など報告書作成に関わる作業を実施した。




第Ⅰ・Ⅱ区画




第Ⅲ区画




第Ⅳ区画

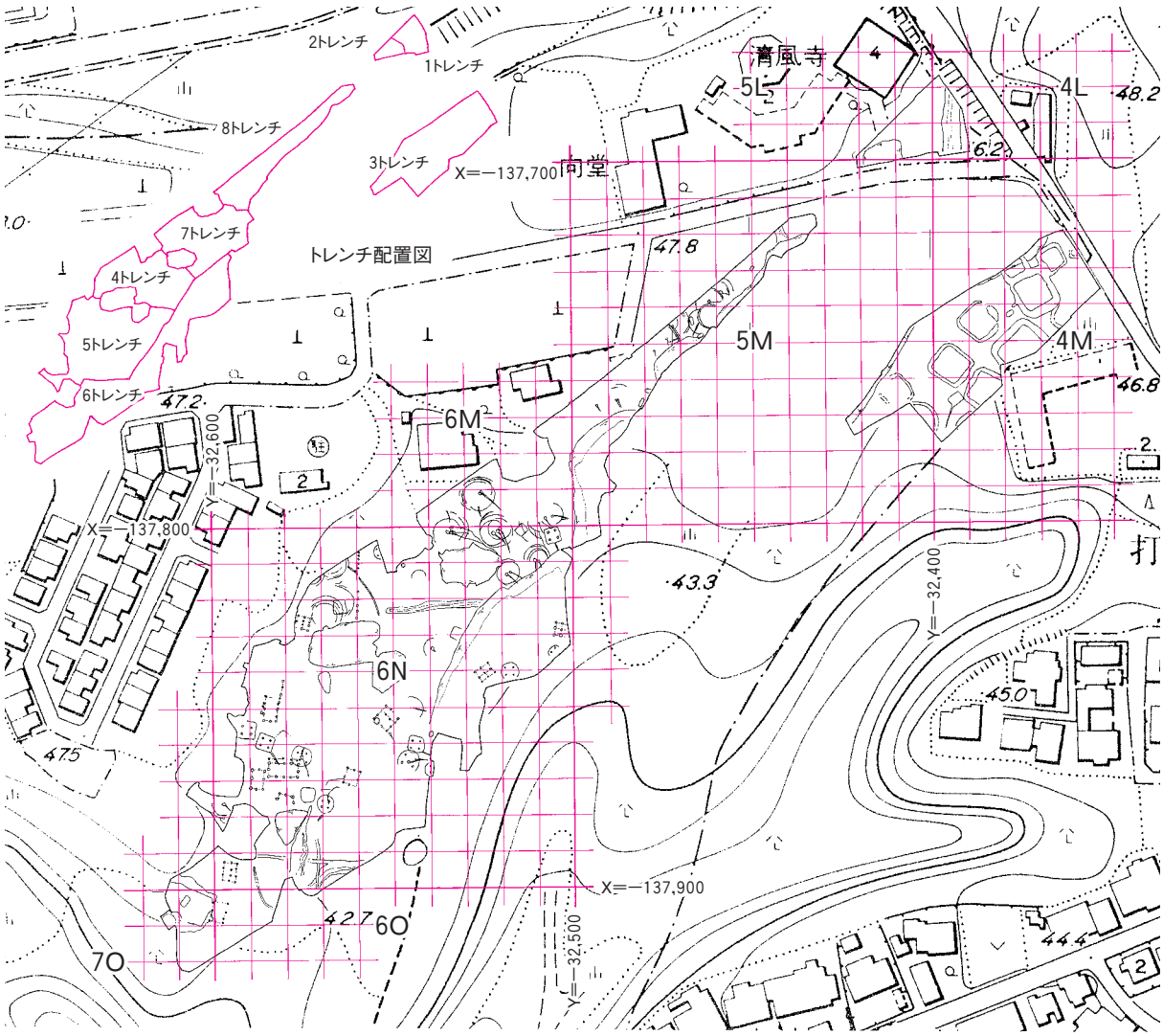



**図３　地区割の基準とトレンチ配置**

# 第２章　位置と環境

地理的環境

太秦遺跡・太秦古墳群は大阪府の北東部、淀川左岸に位置する寝屋川市に所在する。寝屋川市域の西部は旧河内潟が形成した沖積平野がひろがり、一方、東部は生駒山地西麓から連なる段丘面がひろがる。遺跡はこの段丘面に流れる打上川と讃良川にはさまれた位置に立地する。調査地は段丘面南端と一部段丘緩斜面に位置し、そこにはいくつかの小規模の谷地形が存在している。調査地と西側に隣接する大尾遺跡・高宮遺跡から南西を望むと沖積平野の河内平野を見晴らすことができ、南西に向かって段丘面から段丘緩斜面を経て沖積平野への地形変化をみることができる。南北に走る現在の旧170号線は、古代の官道のひとつである東高野街道にあたり、地形的にも段丘の緩斜面と沖積平野の境界上にあたる。

歴史的環境

ここでは特に太秦遺跡を考える上で重要と思われる周辺の遺跡を取り上げることとする。

**旧石器時代**

太秦遺跡・讃良川遺跡では国府型ナイフ形石器が採集されている。高宮遺跡は国府型ナイフ形石器の散布地として知られている。

**縄文時代**

太秦遺跡からやや離れるが早期の交野市神宮寺遺跡、枚方市穂谷遺跡、四條畷市田原遺跡がある。前期では高宮遺跡から北白川下層式や大歳山式土器が出土している。小路遺跡では前期から後期の遺物が出土している。中期では讃良川遺跡でドングリの貯蔵穴が検出され、土器と共に獣骨・貝殻などが出土している。長保寺遺跡では晩期の土器が出土し、四條畷市更良岡山遺跡からは後期・晩期の土器が出土している。

**弥生時代**

前期では高宮八丁遺跡、四條畷市雁屋遺跡・田原遺跡をあげることができる。高宮八丁遺跡は北河内を代表とする集落跡である。前期土器が縄文時代晩期の土器と共伴し、中期中葉で消滅する。長保寺遺跡では前期から後期の土器が出土し、高宮八丁遺跡と一体となる可能性がある。四條畷市雁屋遺跡は前期から後期まで続く集落である。中期には墓域も検出されている。

中期では大尾遺跡・太秦遺跡をあげることができる。太秦遺跡は中期の高地性集落として知られていたが、その実態は明らかではなかった。一帯の開発により破壊されたが、採集遺物により中期初めから後期まで認められる。前期の高宮八丁遺跡の集落との消長が注目されている。また、近年の調査により、遺跡範囲が拡大し、新たに大尾遺跡の存在も明らかになった。今回の調査では中期後半に限られた集落が検出された。また、西隣の大尾遺跡は同じく中期後半の方形周溝墓が30基以上検出された。枚方市交北城ノ山遺跡では中期初めから中頃の集落と42基の方形周溝墓が検出された。枚方市田ノ口山遺跡では中期終わりの集落が検出され、交北城ノ山遺跡から田ノ口山遺跡へ移動したことが考えられている。星ケ丘西遺跡は中期から後期の集落と方形周溝墓群が確認されている。

後期では讃良郡条里遺跡では後期末から古墳時代初頭の集落が検出されている。打上中道遺跡では後期の集落が考えられている。田ノ口山遺跡で竪穴住居が検出されている。また、周辺では枚方市北山遺跡・長尾西遺跡・ごんぼう山遺跡・藤阪遺跡・出屋敷遺跡が存在し、田ノ口山遺跡を拠点としたネット

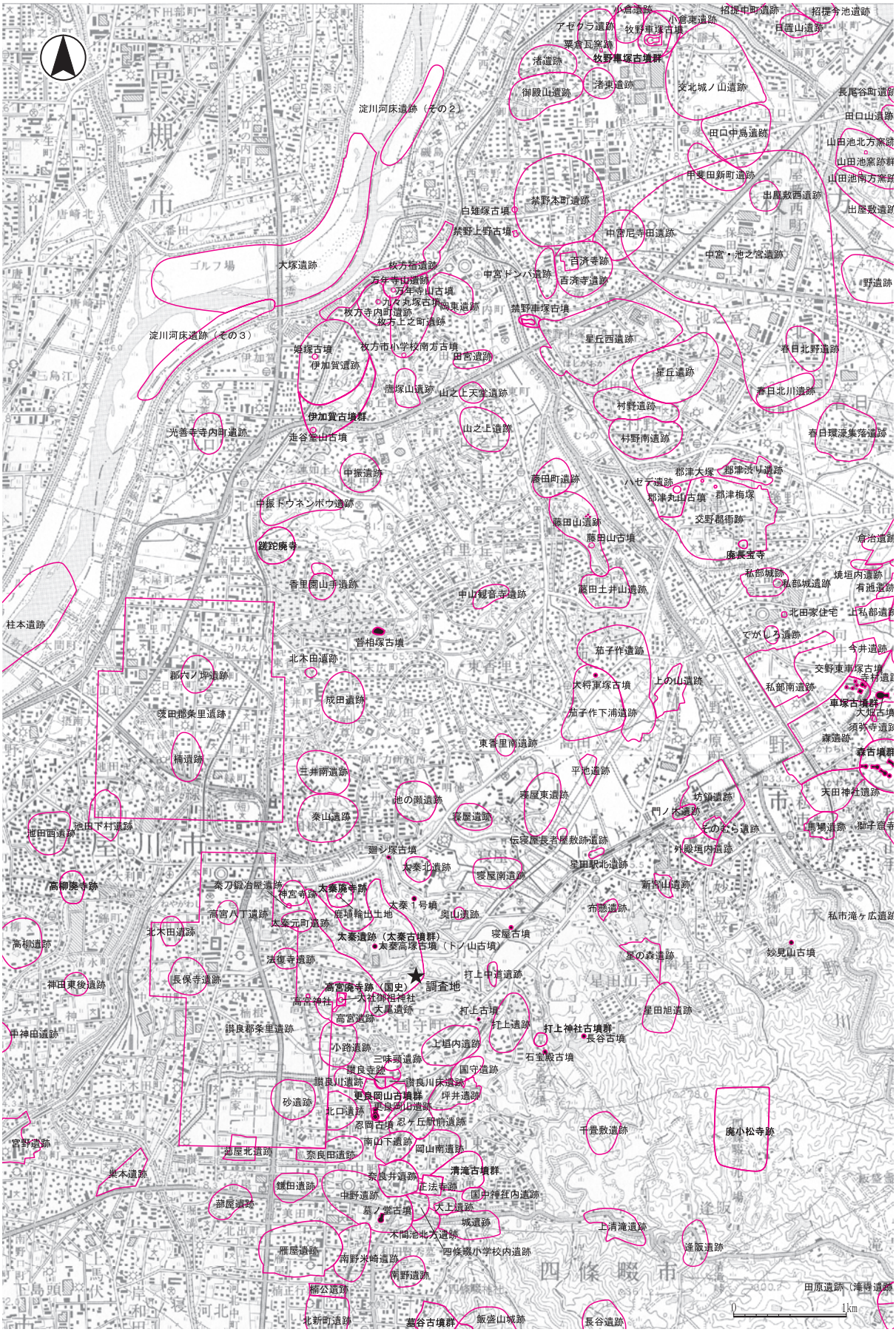

高槻市
枚方市
寝屋川市
四條畷市
大塚遺跡
淀川河床遺跡（その２）
淀川河床遺跡（その３）
ゴルフ場
枚方宿遺跡
万年寺山遺跡
万年寺山古墳
九々丸塚古墳
尚東遺跡
枚方寺内町遺跡
枚方上之町遺跡
枚方市小学校南方古墳
姫塚古墳
伊加賀遺跡
田宮遺跡
伊加賀古墳群
光善寺寺内町遺跡
走谷皇山古墳
中振遺跡
中振ドウネンボウ遺跡
磯路廃寺
香里園山手遺跡
中山観音寺遺跡
柱本遺跡
菅相塚古墳
北木田遺跡
郡ハノ坪遺跡
成田遺跡
茨田郡条里遺跡
楠遺跡
池田下村遺跡
池田西遺跡
高柳廃寺跡
高柳遺跡
神田東後遺跡
中神田遺跡
宮野遺跡
巣本遺跡
奈良刀鍛冶屋遺跡
神宮寺跡
太秦廃寺跡
高宮八丁遺跡
太秦元町遺跡
鹿嶋輪出土地
北木田遺跡
法復寺遺跡
長保寺遺跡
高宮廃寺跡（国史）
高宮神社
一大社御祖神社
大尾遺跡
高宮遺跡
讃良郡条里遺跡
小路遺跡
三味線遺跡
讃良寺跡
讃良川遺跡
讃良川床遺跡
更良岡山古墳群
更良岡山遺跡
北口遺跡
忍岡古墳
忍ヶ丘駅前遺跡
南山下遺跡
岡山南遺跡
都屋北遺跡
奈良田遺跡
奈良井遺跡
鍋田遺跡
中野遺跡
庄法寺跡
国中神社内遺跡
都屋遺跡
墓ノ堂古墳
大上遺跡
城遺跡
木間池北方遺跡
四條畷小学校内遺跡
雅屋遺跡
南野米崎遺跡
南野遺跡
楠公遺跡
北新町遺跡
墓谷古墳群
飯盛山城跡
長谷遺跡
清滝古墳群
上清滝遺跡
逢阪遺跡
田原遺跡（滝時遺跡）
太秦遺跡（太秦古墳群）
太秦高塚古墳（トノ山古墳）
調査地
打上中道遺跡
打上古墳
打上遺跡
打上神社古墳群
長谷古墳
上垣内遺跡
石室殿古墳
坪井遺跡
千畳敷遺跡
廃小松寺跡
星の森遺跡
妙見山古墳
星田旭遺跡
新宮山遺跡
布懸遺跡
私市滝ヶ広遺跡
外殿垣内遺跡
星田駅北遺跡
寝屋南遺跡
寝屋古墳
太秦北遺跡
太秦１号墳
奥山遺跡
獅ノ塚古墳
伝寝屋長者屋敷跡遺跡
寝屋遺跡
寝屋東遺跡
池の瀬遺跡
秦山遺跡
三井南遺跡
東香里南遺跡
平池遺跡
坊領遺跡
門ノ木遺跡
そのむら遺跡
馬場遺跡
御子宮寺
天田神社遺跡
森古墳群
森遺跡
須弥寺遺跡
車塚古墳群
大塚古墳
交野東車塚古墳
寺村遺跡
私部南遺跡
今井遺跡
でがしら遺跡
茄子作遺跡
茄子作下浦遺跡
大将軍塚古墳
上の山遺跡
藤田土井山遺跡
北田家住宅
上私部遺跡
私部城跡
私部城遺跡
焼垣内遺跡
有池遺跡
廃長宝寺
倉治遺跡
藤田山遺跡
藤田山古墳
交野都衙跡
郡津大塚
郡津渋り遺跡
郡津丸山古墳
郡津梅塚
ハゼヤ遺跡
藤田町遺跡
村野南遺跡
村野遺跡
春日環濠集落遺跡
春日北野遺跡
春日北川遺跡
星丘遺跡
星丘西遺跡
山之上遺跡
山之上天堂遺跡
鹿塚山遺跡
中宮ドンバ遺跡
百済寺遺跡
百済寺跡
禁野車塚古墳
禁野上野古墳
白雉塚古墳
禁野本町遺跡
中宮尼寺田遺跡
中宮・池之宮遺跡
甲斐田新町遺跡
出屋敷西遺跡
出屋敷遺跡
田口中島遺跡
交北城ノ山遺跡
御殿山遺跡
渚遺跡
渚東遺跡
牧野車塚古墳群
栗倉瓦窯跡
アゼクラ遺跡
牧野車塚古墳
小倉遺跡
小倉東遺跡
招提中町遺跡
招提今池遺跡
日置山遺跡
長尾谷町遺跡
田口山遺跡
山田池北方窯跡
山田池窯跡群
山田池南方窯跡
野遺跡
0
1km

**図４　周辺の遺跡**

ワークも考えられている。枚方市鷹塚山遺跡では集落が検出され、小形仿製鏡が出土している。他に枚方市山ノ上天堂遺跡・茄子作遺跡がある。

**古墳時代**

前期では平成14年の調査で小路遺跡から前方後方形周溝墓・方形周溝墓群が検出されている。四條畷市忍ケ丘古墳、交野市森古墳群・藤田山古墳がある。

中期では大型の枚方市禁野車塚古墳が知られている。交野市寺・車塚古墳群では５基確認されている。太秦古墳群は後期の古墳群として、その存在は知られていたが、浄水場建設などに伴って消滅し、高塚古墳等が残存するのみである。甲冑形埴輪・須恵器・方格規矩文鏡・三環鈴・子持勾玉などの採集遺物をみることができる。周辺にはモロ塚古墳・太秦１号墳・廻し塚古墳が知られ、太秦中町遺跡では古墳の周濠が検出され、円筒埴輪の他、鳥形埴輪などの形象埴輪が出土している。円墳の高塚古墳は寝屋川市の指定史跡として整備されており、古墳の復元が行われている。整備に伴う発掘調査の結果、造り出しの区画が付属され、墳丘には１段のテラスが巡る。円筒埴輪の他、人物などの形象埴輪、須恵器が出土している。墳頂部には主体部が検出され、木棺と推定された。副葬品として短甲・鉄鏃・鉄斧・鐙も出土している。平成13年度には「尾支群」と命名された中期の13基の古墳が今回調査地の隣接地で検出された。西側の平野部にあたる守口市・門真市では大庭北古墳群・梶古墳群・普賢寺古墳が近年の調査により古墳の調査がなされている。

集落跡は、高宮遺跡では中期の竪穴住居が29棟検出された。これらの竪穴住居は丘陵端部の斜面を造成し、同一方向軸で建てられていた。楠遺跡では初期須恵器・韓式系土器が出土している。長保寺遺跡では中期から後期の集落が検出され、初期須恵器の他、船材転用の井戸枠、扉材などが出土している。讃良郡条里遺跡では、谷から須恵器と共に数多くの木製品が出土した。四條畷市岡山南遺跡では家形埴輪が出土し、四條畷市中野遺跡では初期須恵器が、四條畷市奈良井遺跡では祭祀遺構を検出し、手捏ね土器、人形・動物形土製品が出土している。四條畷市蔀屋北遺跡では馬埋納土坑が検出され、韓式系土器、移動式かまど、木製輪鐙が出土し、朝鮮半島との関連や馬飼の存在を推定している。

後期では寝屋川市打上古墳群は『河内名所図会』に「八十塚」と紹介されているが、その多くは不明である。「塚」の小字が多く残っており、府史跡の寝屋古墳、国指定の石の宝殿古墳が知られている。石の宝殿古墳は横口式石槨をもつ終末期古墳である。平成15年には横穴式石室をもつ奥山1号墳の調査がなされている。三味頭遺跡では周濠から埴輪など出土している。隣接する四條畷市更良岡山古墳群と一体の古墳群と考えられる。

**古代・中世**

高宮遺跡では大型総柱掘立柱建物が東西方向に軸を揃えて並んで５棟検出された。他に掘立柱建物が検出されており、北西方向に存在する高宮廃寺との関連が注視される。高宮廃寺は薬師寺式或いは川原寺式伽藍配置を有すると推定されている。隣接する大尾遺跡では掘立柱建物が38棟検出されており、高宮遺跡との密接な関係がうかがえる。小路遺跡では井堰を伴う流路から多くの人面墨書土器が出土した。長保寺遺跡では集落が検出されている。

古代寺院は寝屋川市太秦廃寺・讃良寺跡、四條畷市正法寺跡が知られている。

讃良郡条里遺跡は奈良時代後期には条里制開発が行われたことが明らかになった。

中世では2005年の門真市巣本遺跡の調査で区画溝や井戸、掘立柱建物、耕作痕が検出されている。

# 第３章　調査の概要

太秦遺跡・太秦古墳群は弥生時代中期の高地性集落として周知されていた。また、高塚古墳をはじめとする古墳の存在が確認されており、今回の調査地の隣接地でも古墳群が確認されていた。

今回の調査地は太秦遺跡の範囲の中で南端に位置する。北東から南西方向に伸びる尾根上にあたり、その間にいくつかの小規模な谷地形が認められる。

調査地では、この尾根上から弥生時代中期後半を中心とした竪穴住居・周溝墓、古墳時代中期の古墳群、古墳時代後期の竪穴住居・墓壙、７世紀から８世紀の竪穴住居・掘立柱建物を検出した。遺構面は後世の削平を受けており、各時期の遺構は同一面で検出されている。

弥生時代中期では、竪穴住居が32棟検出され、集落が尾根上に展開していたことが明らかになった。また、調査地西端では方形周溝墓を１基検出した。これらは、弥生時代中期後半を中心とする遺構であると考えられる。

竪穴住居は重複関係が著しく、複数の壁溝、無数の柱穴を検出した。これらの中には直径8.0～10.0mを測る大形の円形竪穴住居がみられ、検出状況から同一箇所での建て替え、或いは拡張が繰り替えされていたことがわかる。竪穴住居に伴う炉、排水溝も同様に重複して検出された。大型竪穴住居は二群あり、集落の中心部分になると想定される。

調査区の西端からは約10×15mの長方形を呈する周溝墓が検出された。北東側周溝のみから、多量の土器が出土した。墓壙は大型であり、壁は垂直に掘り込まれている。北東－南西方向を長軸とし、周溝の方向とほぼ合致する。内部からは木棺痕跡を認めた。墓壙からの出土遺物はない。なお、周溝の下層から竪穴住居が２棟検出されている。

注目すべき遺物として磨製石剣２点と勾玉がある。磨製石剣は竪穴住居から出土した。材質は粘板岩で、鉄剣形である。勾玉は長さ1.0㎝を測る小型のものである。半玦状を呈しており、材質はヒスイである。また、土器では、北河内における弥生時代中期後半の資料として有効な一群である。

古墳時代中期（５世紀前半）では、方墳11基、円墳１基の古墳群を検出した。隣接した調査地と合わせ、尾根上に25基の小規模古墳の群集墳が確認できた。主に方墳であり、古墳の向きは尾根の地形に沿っている。古墳の配置は並列したものや、周溝を共有したものもある。これらの内、１基のみに埴輪が出土した。また、古墳の間には土壙墓を２基検出した。

古墳時代後期（６世紀後半）では、竪穴住居２棟を検出した。方形を呈する。

土壙墓は、須恵器・耳環・鉄鏃を副葬し、丘陵平坦部から斜面へ移行する場所に立地する。また、近辺には同様の長方形土坑を４基検出しており、マウンドを有さない墳墓の墓域が形成されていた可能性がある。

古代（７世紀から8世紀）では、竪穴住居２棟、掘立柱建物12棟を検出した。竪穴住居は方形を呈する。掘立柱建物は方位軸を意識した同一方向の配置である。西隣の大尾遺跡の掘立柱建物群や高宮廃寺との関連が注目される。

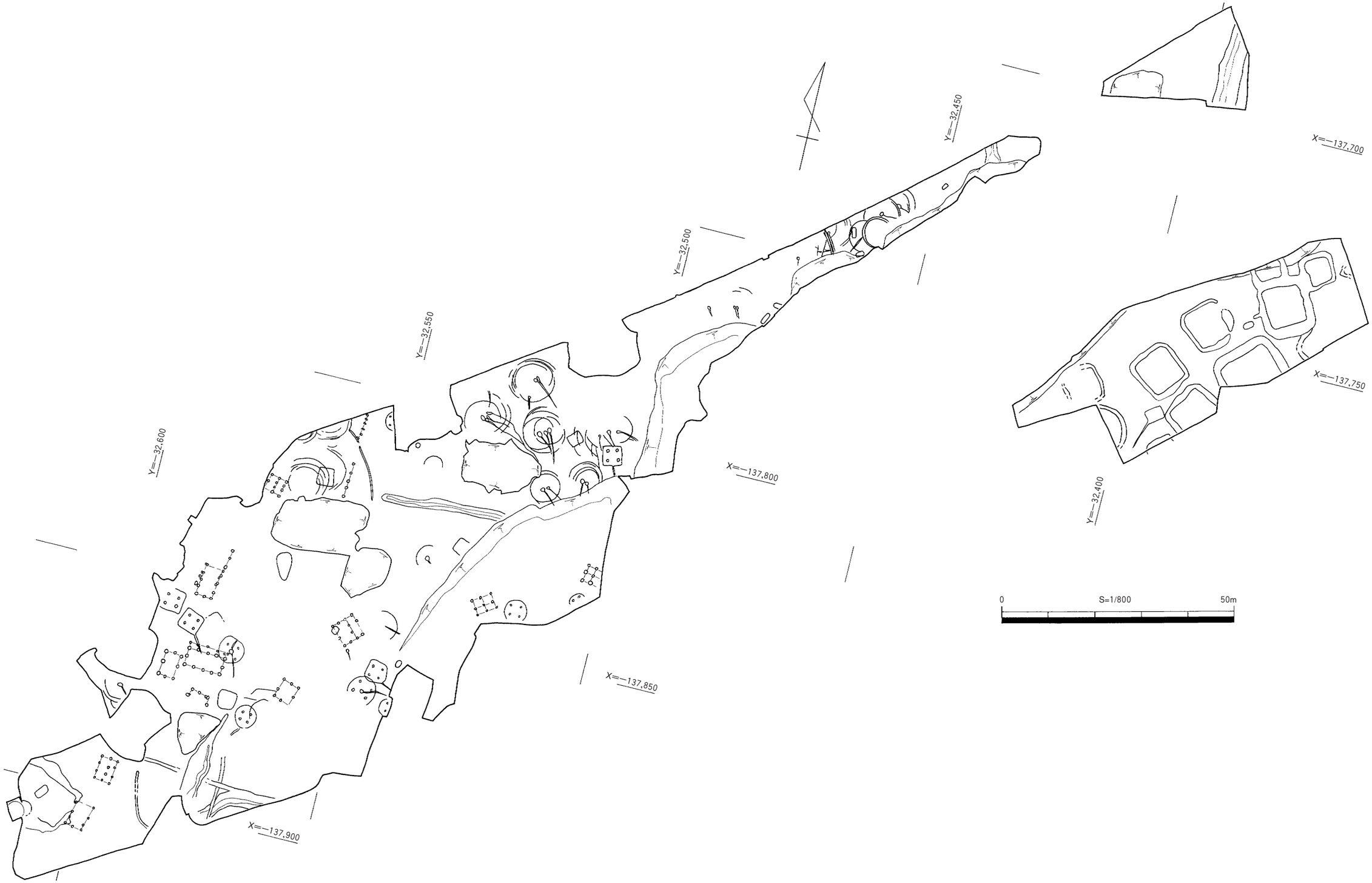

Y=−32,450
Y=−32,500
Y=−32,550
Y=−32,600
Y=−32,400
X=−137,700
X=−137,750
X=−137,800
X=−137,850
X=−137,900
0
S=1/800
50m

図５　主要遺構図

# 第４章　調査成果

## 第１節　基本層序

調査地は北東－南西方向に伸びる丘陵上に位置している。現状の地形は現代の改変を受けており、丘陵上面は削平を受け、平坦面を作り出し、丘陵に入り込む谷地形は埋没している。旧地形を復元（図109）すると、１・２・４～８トレンチと３トレンチはそれぞれ丘陵上に位置しており、その間には谷地形（谷２）が存在し、丘陵は南方向に伸びている。６トレンチ南西端は丘陵先端に位置しており、その西側には大尾遺跡と隔てる谷４がある。谷４の最奥部は現代の造成により埋没している。また、６トレンチ西半の中央には狭い谷地形（谷３）を観察することができた。

丘陵上の層序は現代盛土と耕作土層が0.2～0.7mを測り、部分的に遺物包含層が存在する。これらを除去することにより弥生時代・古墳時代・古代・中世、各時代に属する遺構を同一面において検出した。遺構面はいわゆる地山層である黄褐色粘質シルトをベース層とし、部分的に黄褐色砂礫や黄褐色粘土をベース層とする部分も存在する。丘陵１の遺構面はT.P.41.2～47.8mを測り、北東から南西方向へ低くなっている。遺構面はT.P. 46.3～46.9mを測り、平坦面を作り出しており、トレンチ西端では谷３の傾斜面を検出している。

遺物包含層は調査地の南斜面側、５～８トレンチのごく限られた範囲のみ存在し（図６）、調査地の大部分は現代の造成により、著しく削平を受けていた。包含層は谷地形の斜面部のみに残存しており、灰黄褐色から灰黄色のシルト層を主とする。１・２トレンチは造成により、削平を受けており、遺物包含層は残存していなかった。遺構面の標高はT.P.46.9～47.4mである。３トレンチは削平を受けると共に竹林による攪乱が著しい。遺物包含層はもとより、古墳群のマウンドも残存せず、周溝のみが残存していた。遺構面の標高はT.P.46.3～46.9mである。トレンチの北西端は谷３への斜面地形が観察できた。４・７トレンチも削平を受けており、遺物包含層は残存していなかった。また、現代の溜池が数か所あり、遺構が残存していなかった場所もある。遺構面の標高はT.P.44.7～45.9mである。５トレンチ南西側から６トレンチ西半にかけては谷３に連なる緩やかな斜面地に約1.0mの灰黄褐色系のシルトである遺物包含層が確認できた（図８）。５トレンチの遺構面の標高はT.P.42.7～44.3mである。６トレンチ東半では西から東への傾斜面において近世の棚田造成層の黄褐色シルトが約0.5m、その下層には弥生時代から古代の遺物を含む黒褐色粘質シルトが0.1～0.2m堆積していた（図版22）。４・７トレンチの間には近現代の開発で形成された段差（比高差約1.0m）があり、６トレンチ側の遺構ベース層が大きく削平されている。遺構面の標高はT.P.42.0～43.5mである。６トレンチ西半では谷２が検出された。幅狭く、深い谷である。最深部からは弥生土器が出土し、谷が埋没する途中の面において古代遺構面を検出した（図89の29溝）。古代遺構面の標高はT.P.42.0～43.5mである。８トレンチ南東隅、及び７トレンチ北東隅では谷２への斜面を部分的に検出した（図版13）。弥生時代、古墳時代の遺物包含層が堆積していた。遺構面の標高はT.P.47.0～47.8mである。

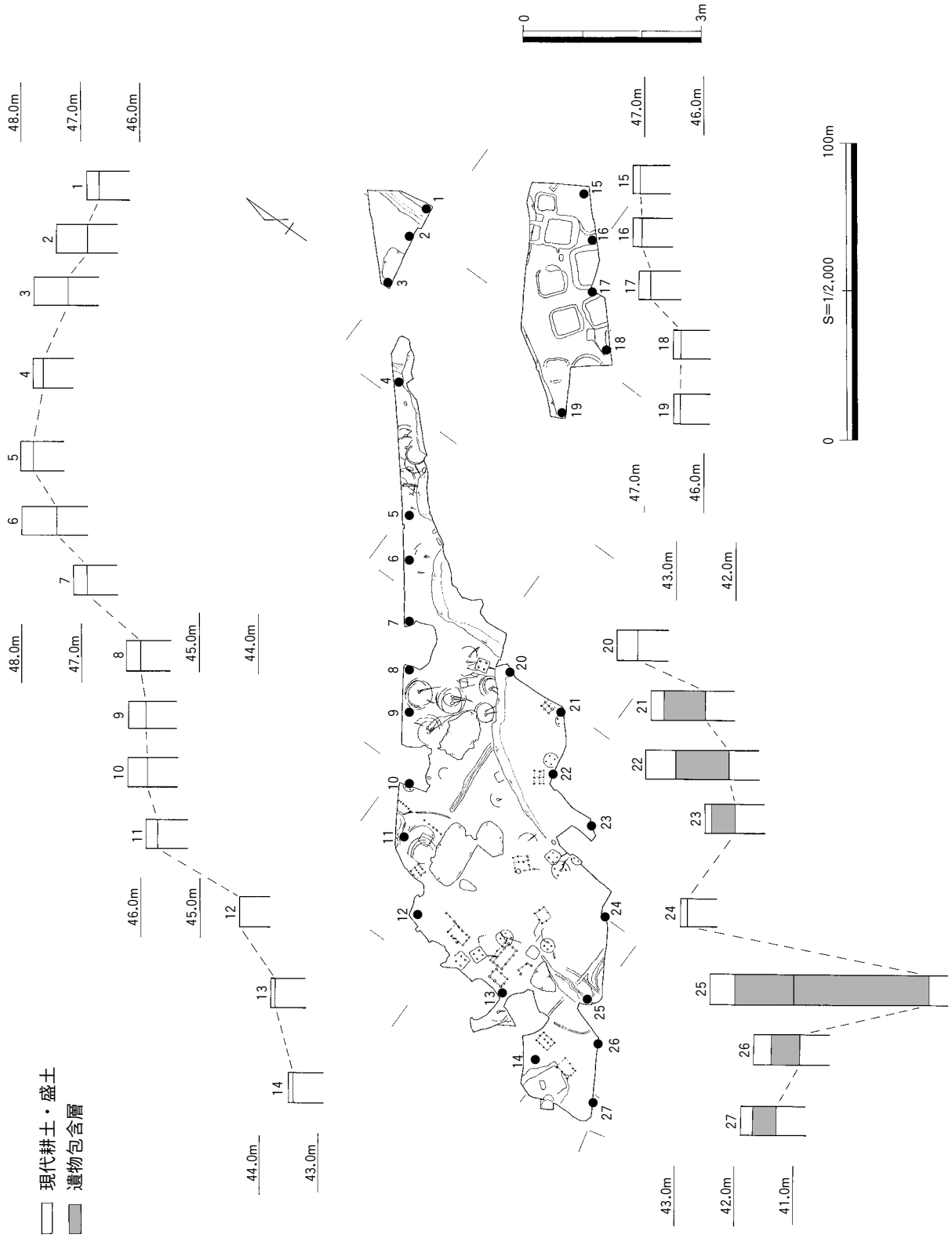

現代耕土・盛土
遺物包含層
S=1/2,000
0
100m
0
3m
48.0m
47.0m
46.0m
45.0m
44.0m
43.0m
42.0m
41.0m

**図6　調査地の基本層序**

**図７　調査地の地形**

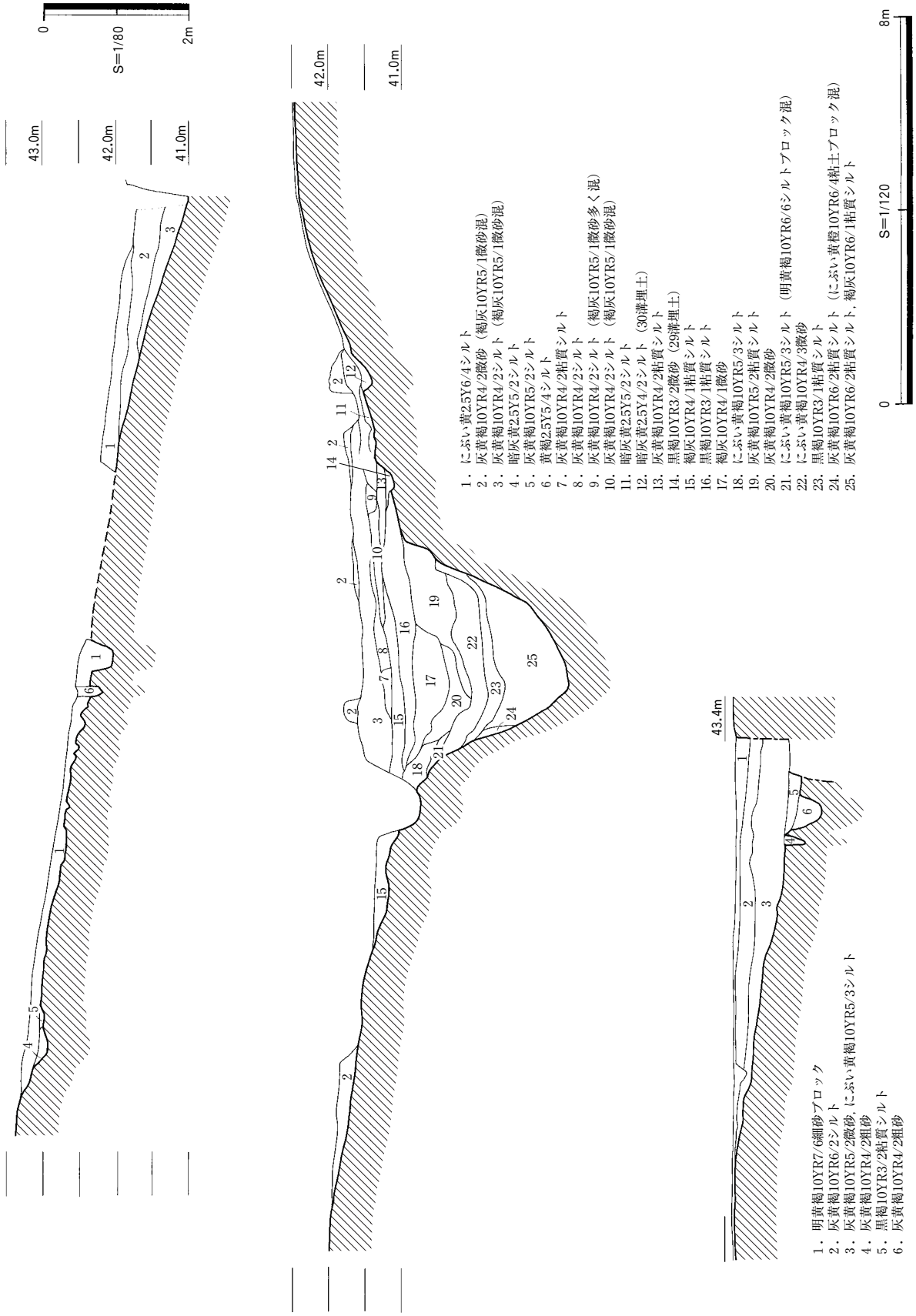



**図８　６トレンチ斜面地・27谷の土層断面図**

## 第２節　弥生時代の遺構・遺物

１．遺構

3～８トレンチにおいて、弥生時代中期の遺構を検出した。主要な遺構である竪穴住居は32棟検出した（巻頭図版４・５）。竪穴住居の壁溝の様相から建て替え或いは拡張が行われていることがわかり、また、住居内から無数の柱穴を検出した。壁溝が検出されていない場所であっても小規模の柱穴が多数検出され、今回抽出した竪穴住居以外にも存在していたことが考えられる。また、32棟という数字は、同一箇所での建て替えを１棟とみなしてカウントした数字である。溝、土坑の他、調査区の西端からは周溝墓を１基検出した（巻頭図版６）。これらの遺構は出土遺物から弥生時代中期後半を中心とした遺構であると考えられる。

**竪穴住居１**（図16、図版７）　平面形は長方形を呈し、長軸約3.8m、短軸約2.8mを測る。床面まで深さ約0.1mを測り、壁直下には幅約0.2mの壁溝が巡る。壁溝の北西辺と南東辺の一部は竪穴住居内のやや内側に巡る。竪穴住居の南隅からは南側の谷方向に向かって２溝が伸びる。住居内北隅部分には壁溝から0.1～0.2m内側に約５㎝の段差が認められる。住居内からは柱穴、土坑は検出されていない。

床面から高杯・鉢・壺・甕が出土した（図46）中期後葉の一括資料である。３トレンチからは1棟のみの単独での検出であり、周辺から弥生時代の遺構は検出されていない。

**竪穴住居２**（図９、図版13－２）　3187土坑は竪穴住居中央に位置し、直径約0.5mを測り、埋土はにぶい黄褐色シルトである。排水溝と考えられる3188溝が付属し、南東方向に伸びる。柱穴、壁溝は不明である。

**竪穴住居３**（図18・19、図版８・10－１）　壁溝の重複より４時期の変遷が認められる。平面円形であり、②3125壁溝は北東部のみ検出され、復元直径約6.6mを測る。3100土坑と南東へ伸びる3101排水溝がこの3125壁溝と組み合うと考えられる。

3100土坑と3101排水溝は明黄褐色粘土ブロックと炭化物を含む。3125壁溝から約1.2m内側には①3120壁溝があり、復元直径約6.4mを測る。

さらに約2.8m内側へは3052壁溝と3053壁溝が接して検出した。外側の3052壁溝が先行し、3053壁溝が後出する。③3052壁溝と3351・3352壁溝は同一遺構と考えられ、復元直径約8.0mを測る。④3053壁溝は復元直径約7.4mを測る。3031土坑と東へ伸びる3077排水溝はこれら壁溝と組み合うと考えられる。炭化物を含む。

切り合い関係から①→②→③→④（古→新）の先後関係がわかる。また、③期の3352壁溝は後述する竪穴住居４の2948壁溝との切り合い関係から竪穴住居３が先行することがわかる。

図48－５・６の土器が出土した。

**竪穴住居４**（図18・19、図版９・10）　壁溝の重複より５時期の変遷が認められる。平面円形であり、2948壁溝と3350壁溝は接して検出されており、復元直径は①3350壁溝が約6.4m、②2948壁溝が約6.8mを測る。2948壁溝は北西側で直線部分が認められ、平面形が多角形を呈すると考えられる。内側の①3350壁溝が先行し、②2948壁溝が後出する。3225排水溝がこれら壁溝と組み合うと考えられ、南西方向に伸びる。明黄褐色粘土ブロックを含む。

北東側へ約3.2mには3条の2985・2986・2987・3009壁溝を接して検出した。床面まで深さ約0.2m残存し、③2987・3009壁溝の復元直径は約5.0m、④2985壁溝の復元直径は約6.4m、⑤2985・2986壁溝の復

元直径は約6.2mを測る。

切り合い関係から①→②→③→④（古→新）の先後関係がわかる。また、竪穴住居４は前述した竪穴住居３より2948壁溝との切り合い関係から後出し、後述する竪穴住居５の2934壁溝より先行することがわかる。いずれも多数のピットを検出したが、その組み合わせは不明である。覆土から図48－２の甕底部が出土している。

**竪穴住居５**（図20・21、図版11－１～３）　平面円形であり、壁溝の重複より５時期の変遷が認められる。復元直径は①2938壁溝が約10.0m、②2901・2902・2903・2939壁溝が約8.0m、③2934・2940壁溝が約8.4m、④2900・2933・2940壁溝が約10.0m、⑤2924壁溝が約6.1mを測る。これらの壁溝に伴う排水溝が７条、南方向或いは南東方向に伸びており、壁溝と同様に造り替えが認められる。2904排水溝は調査区外に伸びており、⑤期に伴うと考えられる。2899・2904～2907排水溝は①～④期に伴うと考えられる。2907排水溝の北西端には炉と考えられる3354土坑が付属する。

切り合い関係から①→②→③→④→⑤（古→新）の先後関係がわかる。覆土から図48－１の広口壺が出土している。

**竪穴住居６**（図20、図版11－４）　2874土坑と2875排水溝を有する住居である。双方共、炭化物を含む。壁溝が検出されていないため、住居跡の平面規模は不明である。排水溝は南方向の谷へ伸びる。

**竪穴住居７**（図17、図版12－１・２・４）　3259・3260溝は約４㎝の段差を有し、弧を描いており、円形の竪穴住居の痕跡と考えられる。推定直径７～10mを測る。2771・3241・3242排水溝が付属し、南方向の谷へ伸びる。

**竪穴住居８**（図17、図版12－１・３）　2739排水溝を有する住居である。排水溝は北西端が丸く、炉と考えられる。双方共、炭化物を含む。壁溝が検出されていないため、住居跡の平面規模は不明であるが、竪穴住居７と重複している可能性が高い。排水溝は南東方向の谷へ伸びる。

**竪穴住居９**（図22、図版15－１）　壁溝の重複より４時期の変遷が認められる。覆土は残存していない。平面円形を基本とするが、1423壁溝の西側二隅は隅丸を呈し、769・1422壁溝はやや楕円を呈する。それぞれの復元直径は①1423壁溝が約7.4m、②1422壁溝が約8.6m、③1421壁溝が約9.2m、④769壁溝が約9.6mを測る。これらの壁溝に伴う989排水溝は南東方向に伸びている。北西端は二股に別れており、南東側の本体部分は2条の溝が重複して検出された。また、南方向へ伸びる770排水溝も検出した。壁溝と同様に造り替えが認められる。988土坑は989排水溝と連なる。989排水溝は後述する竪穴住居11の1148壁溝と重複しており、989排水溝は1148壁溝より先行する。壁溝より内側で柱穴を多数検出したが、どの壁溝と対応する柱穴であるかは不明である。柱穴はいずれも深い。

切り合い関係より①→②→③→④（古→新）の先後関係がわかる。

また、竪穴住居９の北西端には3355溝が南東－北西方向に伸びて検出されている。その北側の調査区外に別の竪穴住居が存在し、3355溝はその付属する排水溝の可能性がある。

出土遺物（図49－1～10）から中期中葉に位置づけられる。

**竪穴住居10**（図23、図版14・15－２・３）　壁溝の重複より３時期、排水溝の重複より５時期の変遷が認められる。覆土は残存していない。平面円形であり、復元直径は①1424壁溝が約8.0m、②1425壁溝が約8.0m、③774壁溝が約8.8mを測る。竪穴住居には720・721・723・772・3359排水溝が伸び、①期には721・773排水溝が、②期には720・723・3359排水溝が、③期には772排水溝が組み合うと考えられる。また、柱穴は中央部に4基、その周辺に８基或いは９基の柱穴が配置されていたと考えられる。柱穴は

図 9　弥生時代主要遺構図

深く、0.5m～0.7mを測り、多数検出している。

切り合い関係から①→②→③（古→新）の先後関係がわかる。

また、竪穴住居10の北西側には776溝が南東－北西方向に伸びている。その北側の調査区外に竪穴住居が存在し、776溝はその付属する排水溝の可能性がある。

図49－11・12の土器が出土しており、720排水溝からは図68－5の扁平片刃石斧が出土した。697ピットから焼土塊（図版58－10）が出土している。用途不明である。

**竪穴住居11**（図24・25、図版15－４・５・16）　壁溝の重複より８時期の変遷が認められる。覆土が約５㎝残存していた。平面円形を基本とするが1147・1148・1149壁溝は多角形を呈する。復元直径は①2380・2383壁溝が約5.4m、②2380壁溝が約5.4m、③3361・3362・3363壁溝が約7.0m、④3356・3358壁溝が約8.8m、⑤3356・3357壁溝が約9.4m、⑥1147・1148・2405壁溝が約9.2m、⑦1147・1148壁溝が約9.2m、⑧1149壁溝が約7.0mを測る。竪穴住居には中央ピットと排水溝が付属する。①②期には2619土坑と2435排水溝が組み合い、竪穴住居外側で1160排水溝へ連なる。2619土坑は炭化物を含む。④～⑦期には2403土坑と2607排水溝が組み合い、竪穴住居外側で1160排水溝へ連なる。1160排水溝は南端で1055落込へ繋がる。⑧期には1430土坑と3364排水溝が組み合う。柱穴については⑦期において８基の配置を推定した。⑥～⑧期においては貼床の状況を観察することができた。貼床は３～８㎝の厚さを測り、にぶい黄褐色粘土ブロックである。

切り合い関係から①→②→③→④→⑤→⑥→⑦→⑧（古→新）の先後関係がわかる。

出土遺物（図49－14～28）から中期中葉に位置づけられる。また、覆土からサヌカイトの剥片が多く出土した。1160排水溝先端の1055落込からは図47－１～13の土器の他、図68－1の柱状片刃石斧が出土した。

**竪穴住居12**（図26・27、図版17）　壁溝の重複より５時期の変遷が認められる。覆土はごく部分的に残存していたのみである。平面形は円形であり、復元直径は①1363壁溝が約8.0m、②1365壁溝が約6.2m、③1366壁溝が約8.0m、④1367壁溝が約7.4m、⑤1368壁溝が約6.4mを測る。竪穴住居には中央ピットと排水溝が付属し、南東の谷方向に向かって伸びる。①②期には1303或いは1373排水溝が、③期には1287土坑と2495排水溝或いは2554土坑と3375排水溝が、④期には2558土坑と2668排水溝が、⑤期には2661・2637土坑と1274排水溝が組み合う。

柱穴については図27のように６～８基の配置を推定できる。柱穴はこれら以外にも多量に検出されており、５時期以上の変遷があったことが考えられる。しかしながら、①～⑤の壁溝の先後関係は不明である。

⑤期の1368壁溝から磨製柱状片刃石斧（図68－３）が出土した。出土土器（図49－32～36）から中期後葉に位置づけられる。

**竪穴住居13**（図28、図版18・19－１・２）　壁溝の重複より５時期の変遷が認められる。斜面地で検出され、北西側で覆土が約0.5m残存していた。平面形は円形であり、復元直径は①2417壁溝が約6.8m、②1374壁溝が約7.0m、③2401壁溝が約5.6m、④1375壁溝が約5.8m、⑤2276壁溝が約5.2mを測る。竪穴住居には中央に土坑と排水溝が付属し、南の谷方向に向かって伸びる。①②期には2394土坑と3411排水溝が③～⑤期には1428土坑と排水溝が組み合う。1428土坑周辺には炭化物が観察される。また、柱穴は６基或いは７基の配置を推定することができる。2394土坑は不定形ながらも一辺約0.8mを測る方形を呈し、炭化物を含む。

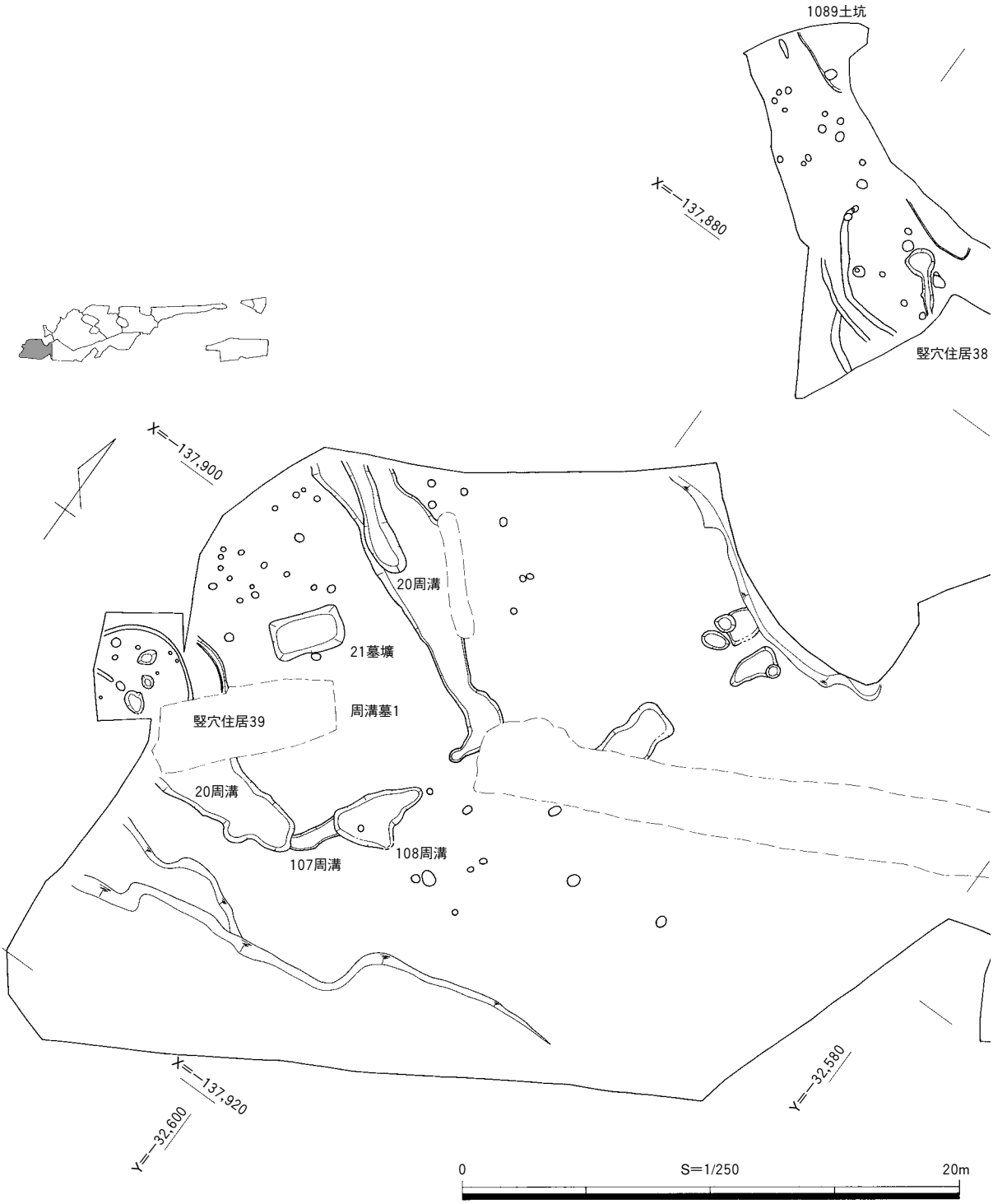



**図10　弥生時代遺構図（1）5・6トレンチ**

図11　弥生時代遺構図（２）５・６トレンチ

**図12　弥生時代遺構図（3）4・5・6 トレンチ**

**図13　弥生時代遺構図（4）4・6・7 トレンチ**

**図14　弥生時代遺構図（５）７・８トレンチ**

切り合い関係から①→②→③→④→⑤（古→新）の先後関係がわかる。北から南側に移動し、それに伴い床面も低い位置になっている。

覆土から磨製石剣・磨製石鏃（図67－６・８）、石庖丁（図67－１）が出土している。

**竪穴住居14**（図29、図版20・21）　壁溝と中央土坑（炉）の重複より３時期の変遷が認められる。住居跡には覆土が約５cm残存していた。平面形は円形であり、復元直径は①2658・2634壁溝が約6.8m、②1387壁溝が約6.6mを測る。排水溝は南東の谷方向に向かって伸びる。

①期には1390土坑と2446排水溝が組み合う。1390土坑は一辺約0.8mを測り、焼土・炭化物を含み、炉としての機能が考えられる。2446排水溝の両側面は地山が若干高くなっていた。貼床を有しており、褐灰色シルトに明黄褐色粘土ブロックが混じる。②期には2447土坑と2448排水溝が組み合う。これらには焼土・炭化物を含んでいる。柱穴は５基或いは６基の配置を推定することができる。1052・1053は炭化物を含んだ土坑であり、①②期より後出する竪穴住居の存在（③期）が考えられる。

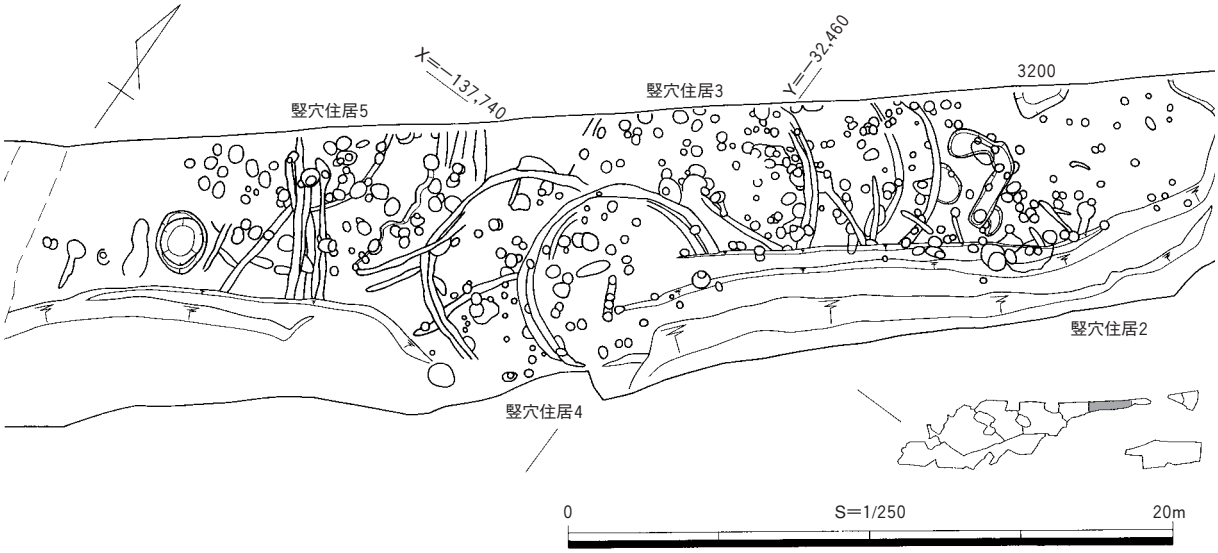



**図15　弥生時代遺構図（６）８トレンチ**

切り合い関係から①→②（古→新）の先後関係がわかる。図49－29～31の遺物が出土している。

**竪穴住居17**（図30、図版22）　平面形は円形であり、全体の約1/3の壁面が遺存していた。深さは約0.04mの残存であり、壁溝は検出されていない。柱穴は96・97ピットの２基のみが検出された。深さ約0.3mを測る。

**竪穴住居18**（図30、図版22－１～３）　平面形は円形であり、直径約2.3mを測る。斜面地で検出されたため、深さは最深部で約0.6mを測る。壁溝は途中からなだらかに外側に拡がっている。東西方向断面の観察から壁溝と壁面の間には空間があり、黄褐色シルトが充填されていたことがわかった。主柱穴は3322・3399・3400ピットの４基が配置され、柱穴の深さは約0.2mを測る。貼床は存在しない。

53溝を竪穴住居の北西側で検出した。斜面上方に位置しており、竪穴住居18の排水機能を有する溝と考えられる。

出土遺物（図59－３～９）から中期中葉に位置づけられる。

**竪穴住居20**（図31、図版23－１）　南半は削平を受けるが、平面形は円形であり、復元直径約3.8mを測る。主柱穴は993・994ピットの２基の配置が考えられ、直径約0.3m、深さ約0.5mを測る。

**竪穴住居21**（図31、図版23－２・26－２）　東半は削平を受けるが、平面形は円形であり、復元直径約4.0mを測る。228炉が西寄りに検出され、炭化物を含んでいる。主柱穴は224・227ピットの２基のみを検出し、４基配置が推定できる。389溝は後出する遺構であり、調査区外に存在する竪穴住居の壁溝或いは排水溝と考えられる。

**竪穴住居22**（図33、図版23－３）　壁溝の重複より８時期の変遷が認められる。平面形は円形であり、復元直径は①391壁溝が約8.6m、②395壁溝が約10.0m、③397・3369壁溝が約8.4m、④3370壁溝が約9.2m、⑤3381壁溝が約9.0m、⑥393壁溝が約9.2m、⑦394壁溝が約8.0m、⑧3382壁溝が約10.0mを測る。中央ピットや排水溝は不明である。柱穴は多数検出したが、壁溝との対応は不明である。竪穴住居22の393・397壁溝と後述する竪穴住居23の363壁溝とは重複しており、竪穴住居22は竪穴住居23より先行する。

切り合い関係より①→②→③→④→⑤→⑥→⑦→⑧（古→新）の先後関係がわかる。図50－８の遺物が出土している。

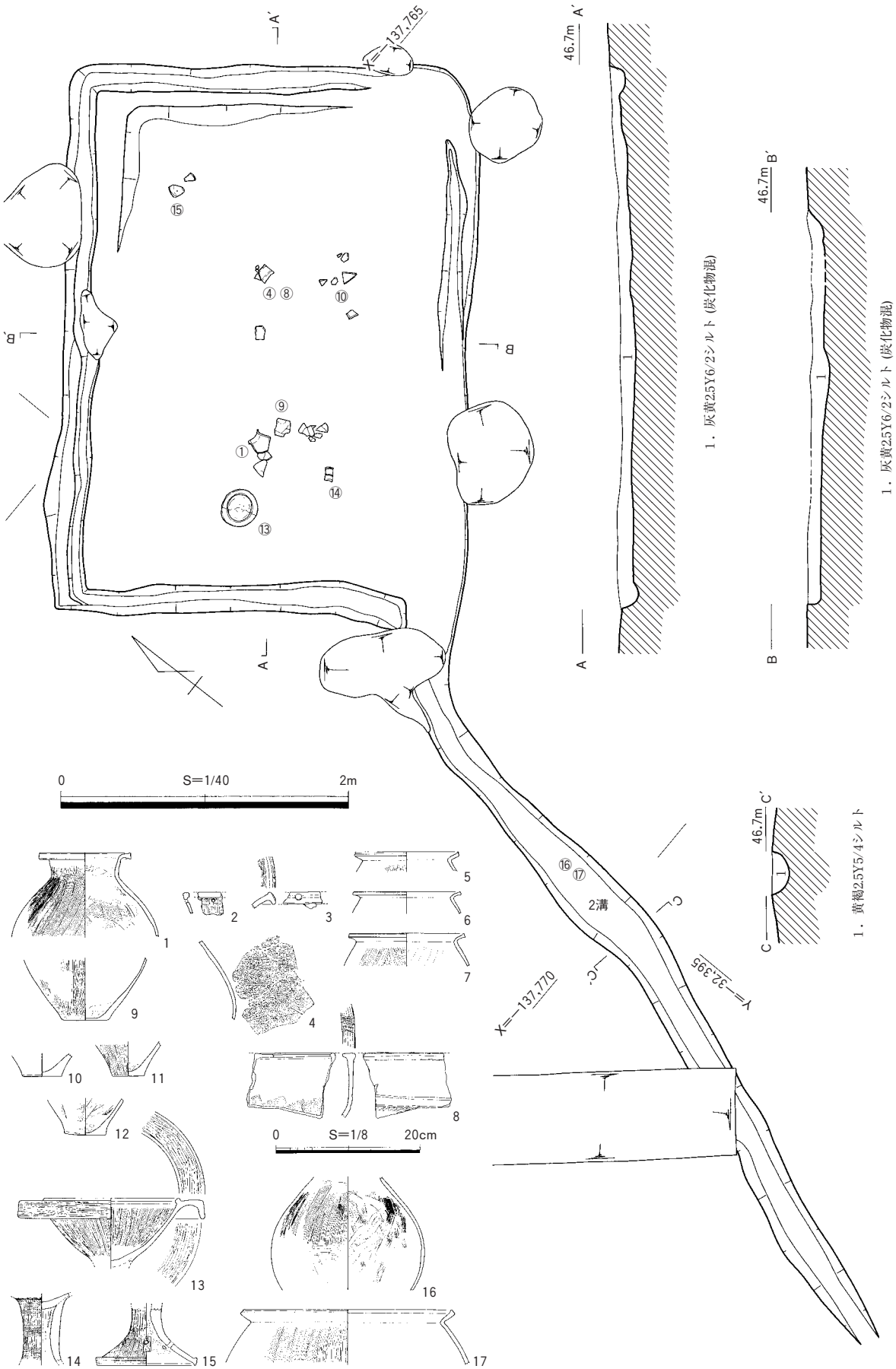



図16　竪穴住居１平面・断面図

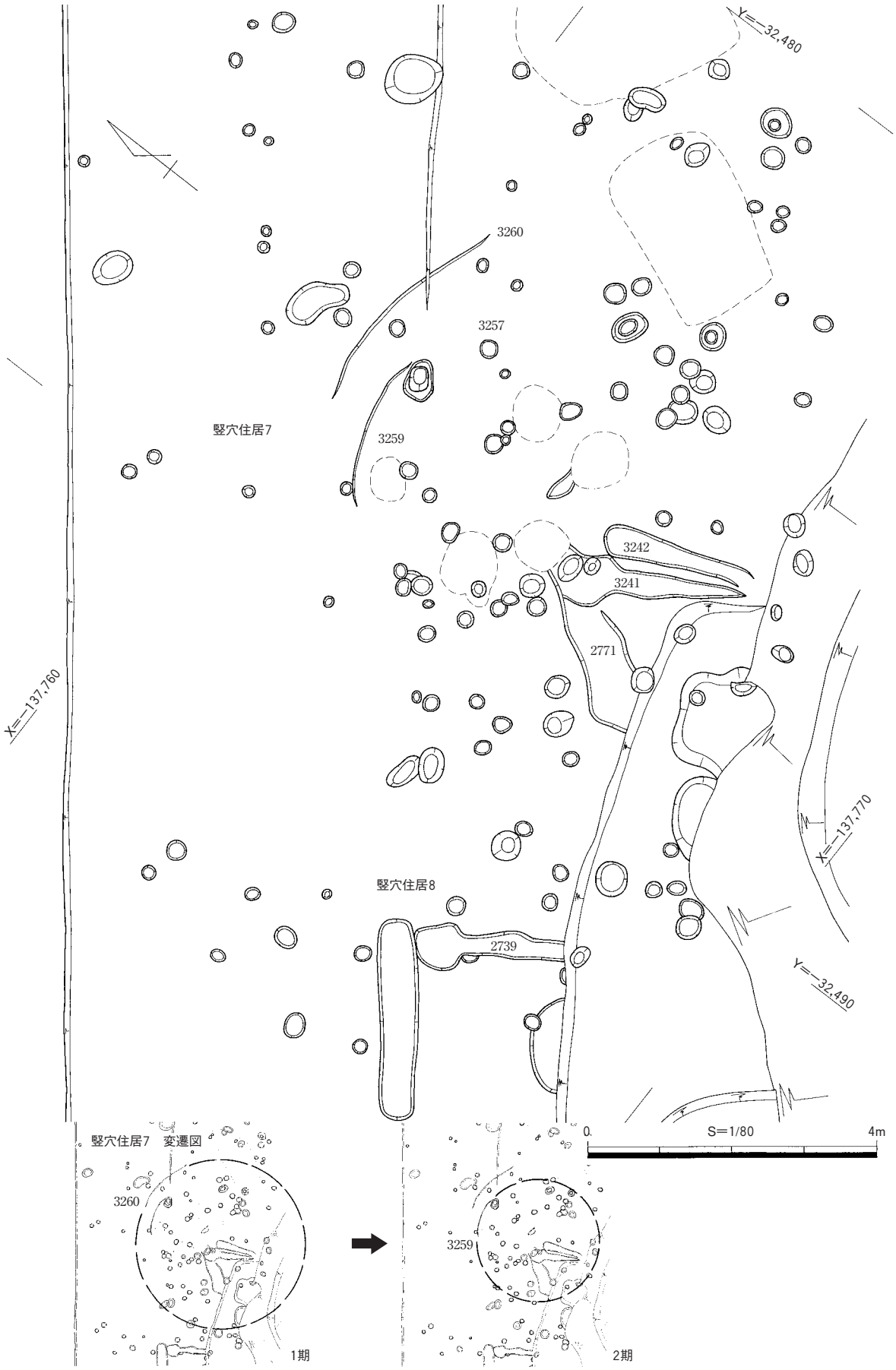



図17　竪穴住居７・８平面図、竪穴住居７変遷図

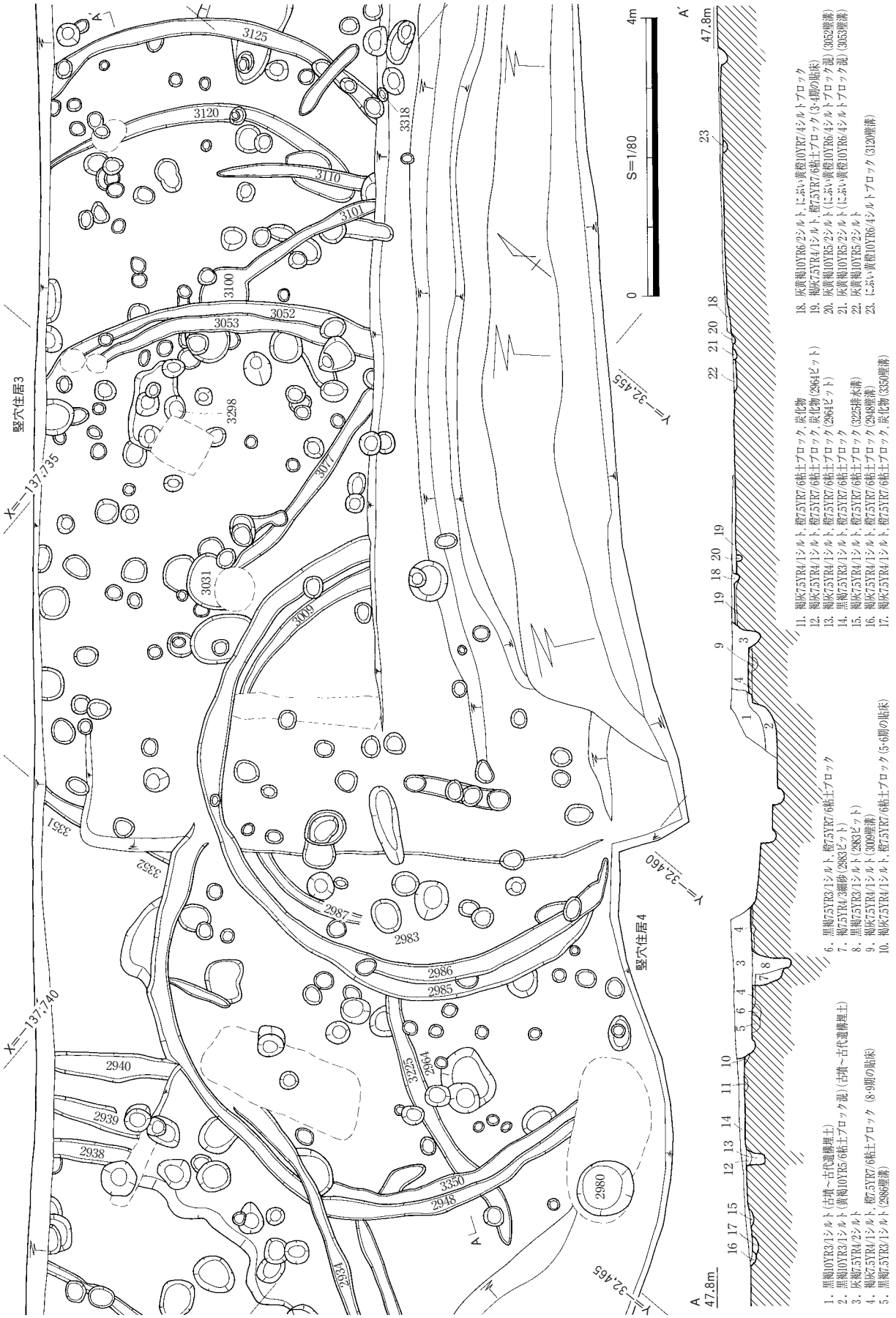



**図18　竪穴住居３・４平面・断面図**

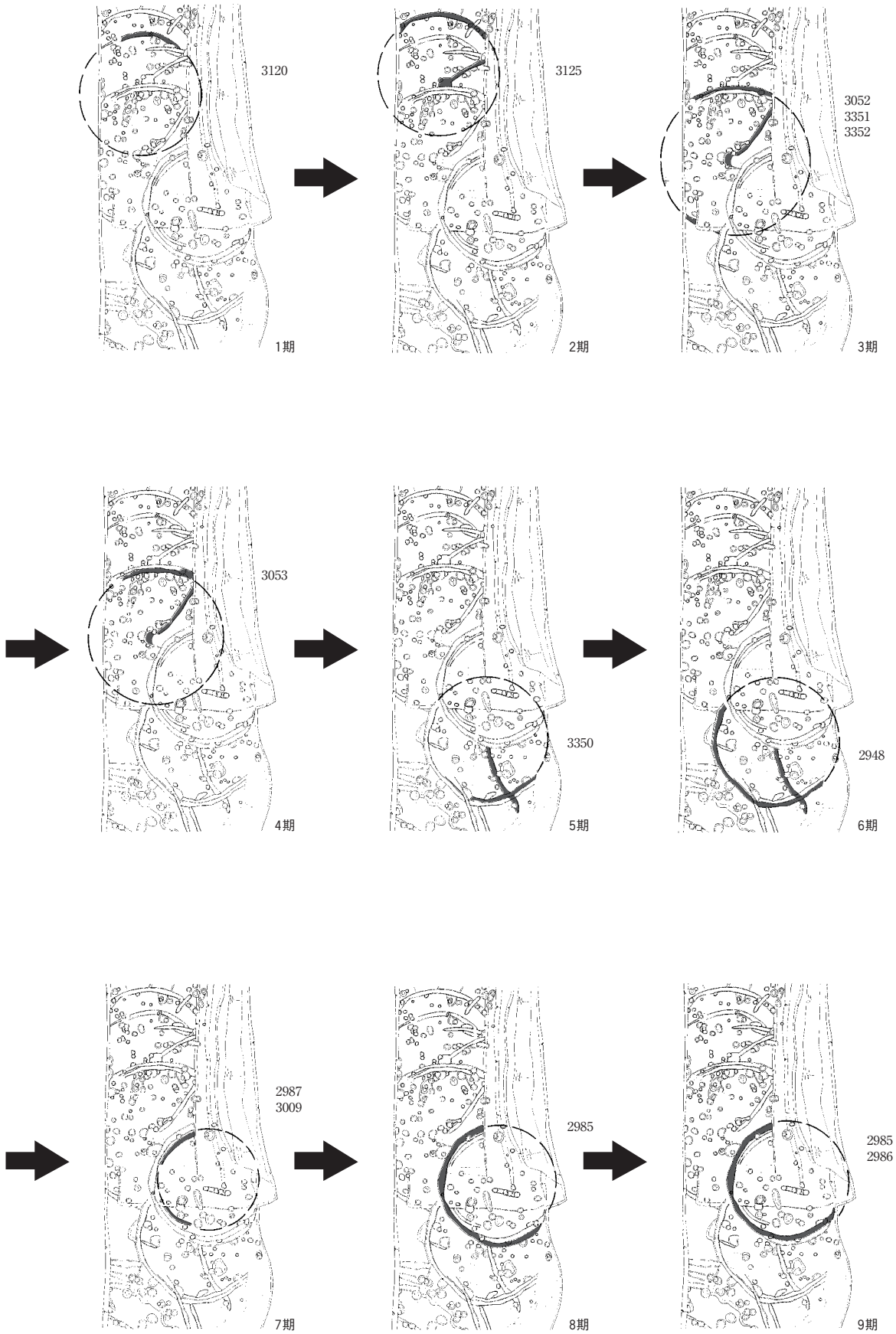



**図19　竪穴住居３・４変遷図**

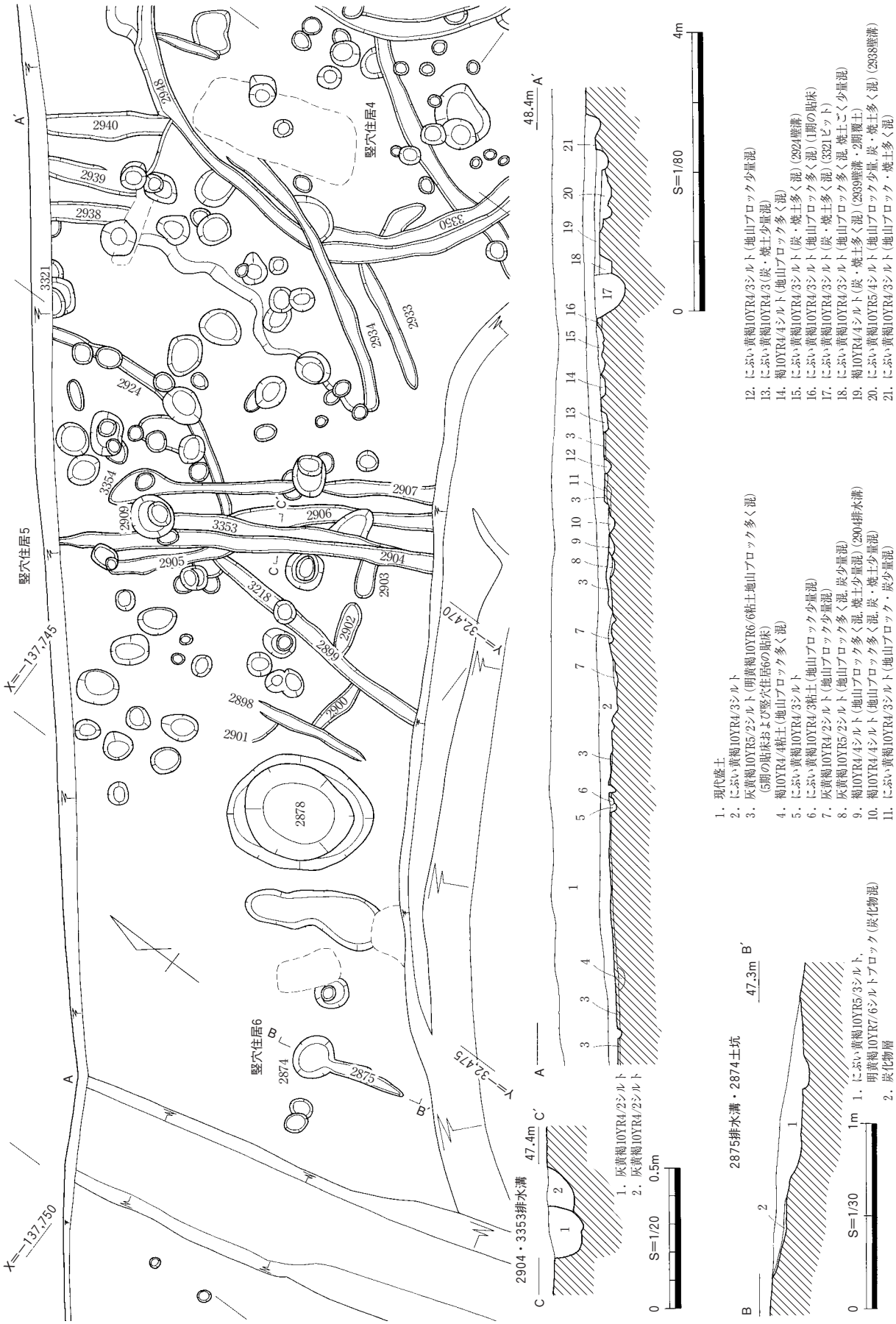



**図20　竪穴住居５・６平面・断面図**

**竪穴住居23**（図33、図版24－３・４）　壁溝の重複より３時期の変遷が認められる。平面形は円形であり、南側の約１/４を検出した。復元直径は①917壁溝が約6.0m、②916壁溝が約5.4m、③363壁溝が約9.4mを測る。前述した竪穴住居22と重複しており、竪穴住居23は竪穴住居22より後出する。

切り合い関係から①→②→③（古→新）の先後関係がわかる。図50－９～13の遺物が出土している。

**竪穴住居24**（図34・35、図版24－１・２・25－１）　壁溝の重複より６時期の変遷が認められる。平面形は円形であり、①403壁溝が約7.6m、②565・1012壁溝が約8.0m、③402・1129壁溝が約9.6m、④401壁溝が約9.2m、⑤400壁溝が約9.2m、⑥399・400壁溝が約9.4mを測る。①～④期には498土坑と500～504排水溝が組み合い、全体が東へ大きく移動した⑤・⑥期には489・977排水溝が付属していたと考えられる。排水溝はいずれも南方向へ伸びる。

切り合い関係より①→②→③→④→⑤→⑥（古→新）の先後関係がわかる。柱穴は多数検出したが、壁溝との対応は不明である。

図50－１～７の土器が出土している他、④期とした401壁溝からは磨製石剣（図67－７）、大形尖頭器（図65－６）が出土している。

**竪穴住居26**（図32、図版23－４・25－２・26）　平面形は円形であり、壁溝が西半部分のみ残存していた。復元直径約5.6mを測る。913土坑は炭化物を含み、南東方向に排水溝が伸びる。906ピットは北側に隣接しており、炭化物を含む。

**竪穴住居27**（図32、図版29－４）　平面形は円形であり、壁溝が東半部分のみ残存していた。復元直径約6.4mを測る。2146排水溝が東方向に伸びる。

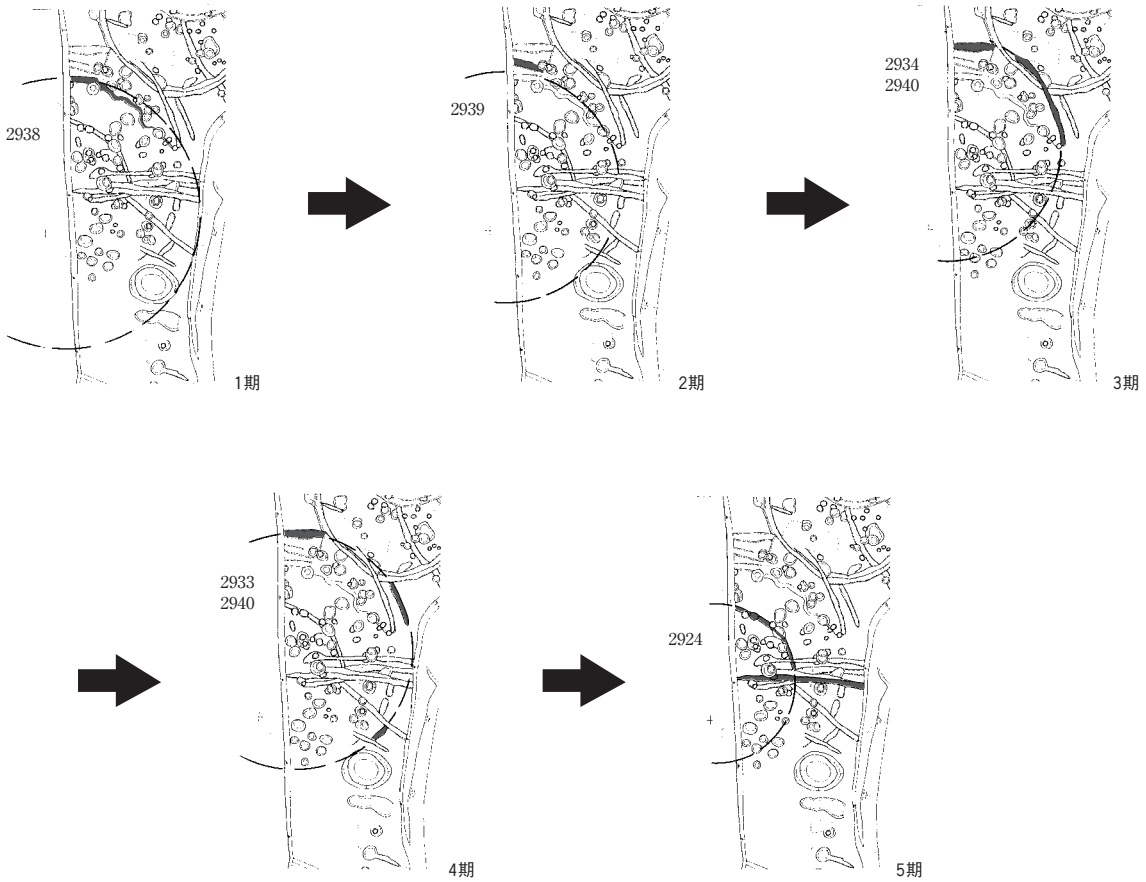



**図21　竪穴住居５変遷図**

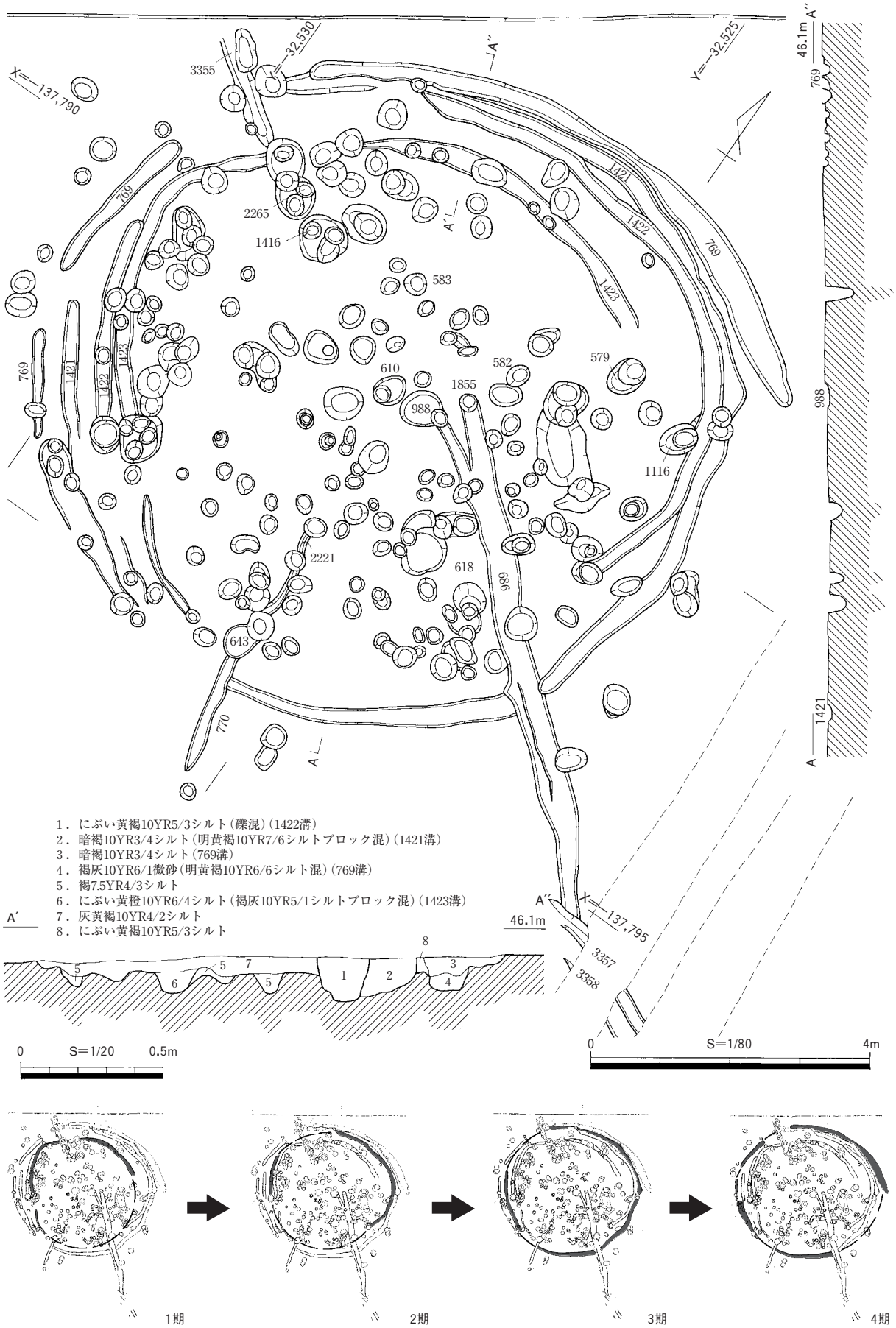



**図22　竪穴住居９平面・断面・変遷図**

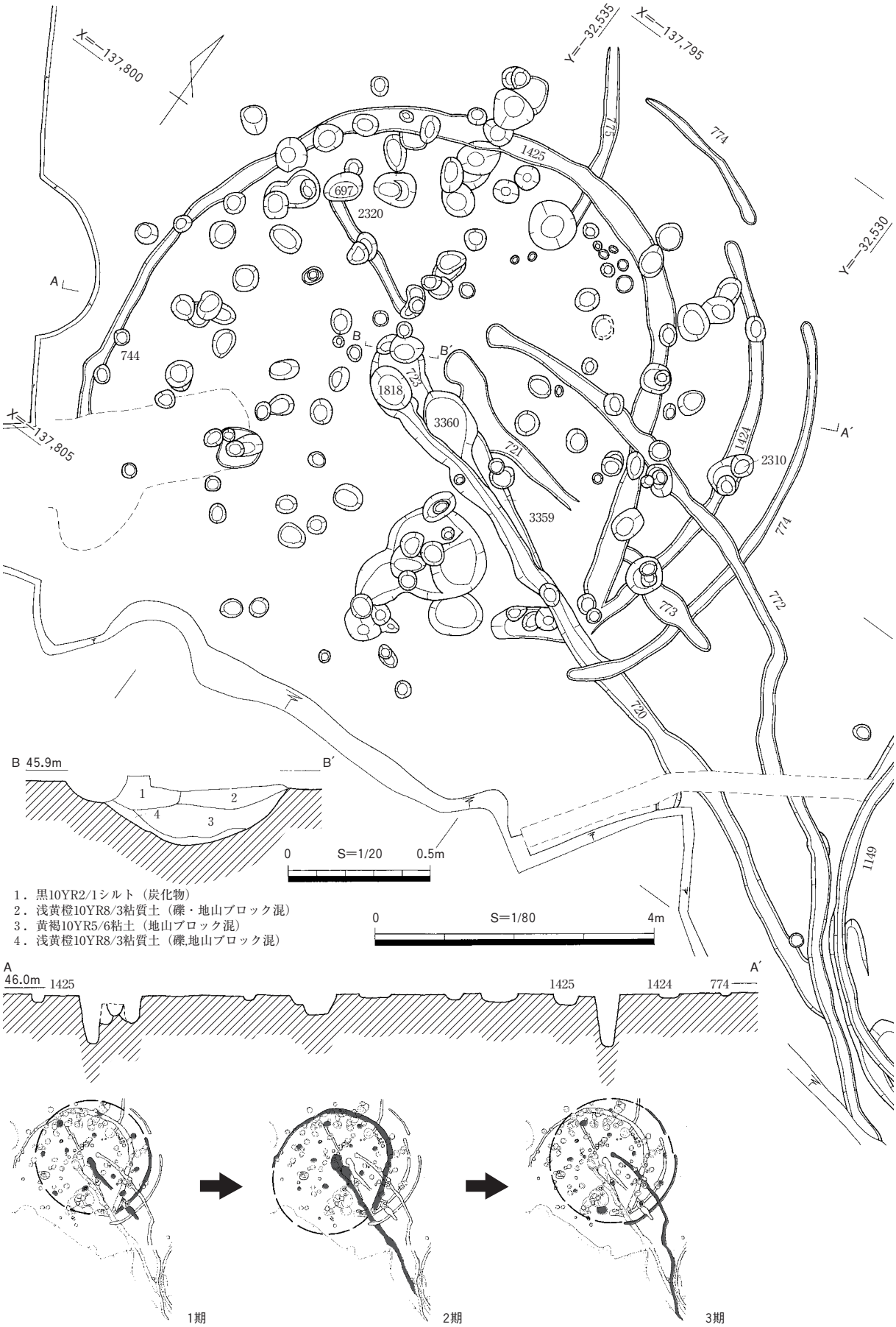
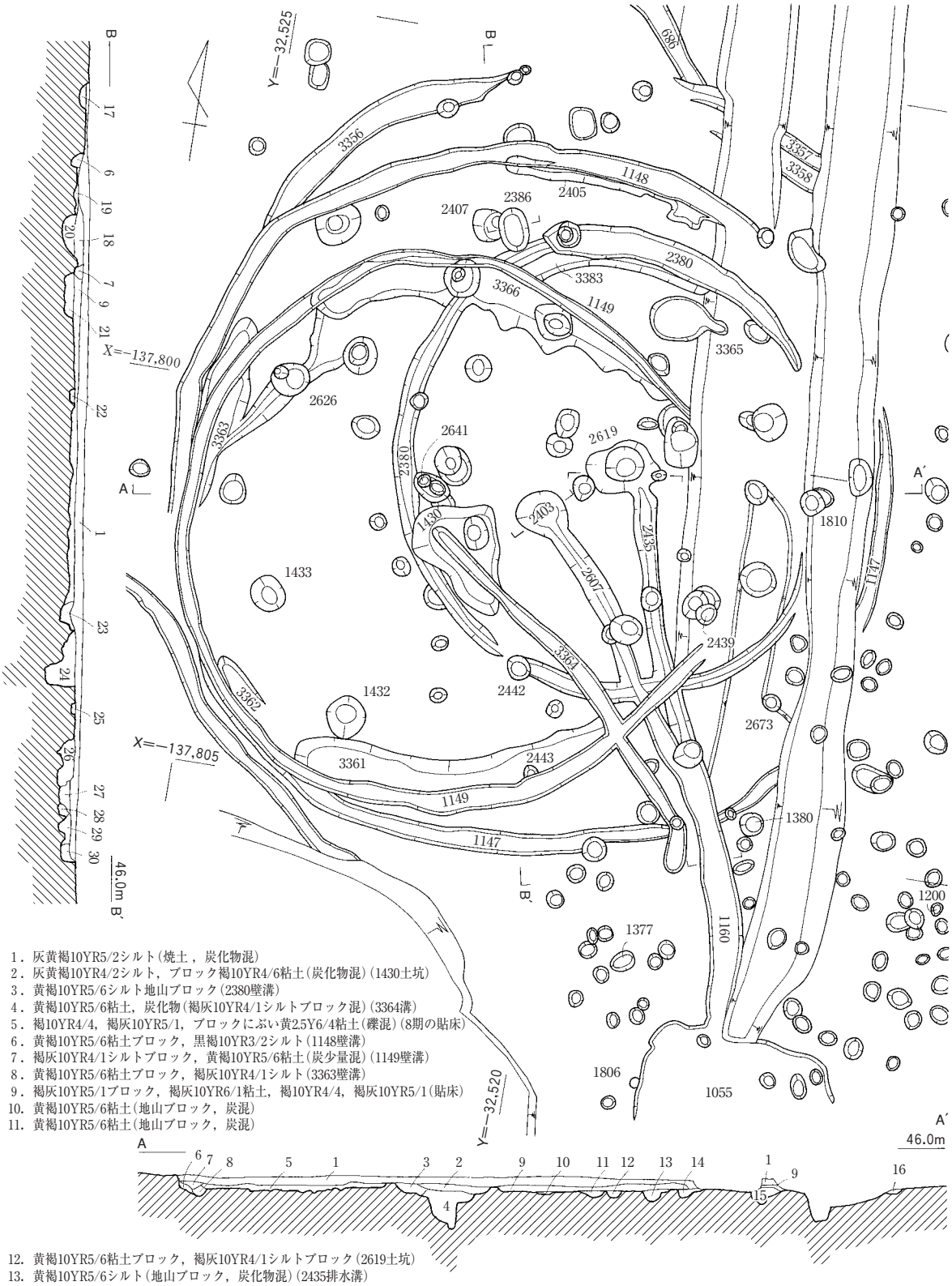



**図23　竪穴住居10平面・断面・変遷図**

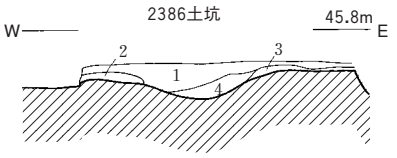



1．灰黄褐10YR5/2シルト（焼土，炭化物混）
2．灰黄褐10YR4/2シルト，ブロック褐10YR4/6粘土（炭化物混）（1430土坑）
3．黄褐10YR5/6シルト地山ブロック（2380壁溝）
4．黄褐10YR5/6粘土，炭化物（褐灰10YR4/1シルトブロック混）（3364溝）
5．褐10YR4/4，褐灰10YR5/1，ブロックにぶい黄2.5Y6/4粘土（礫混）（8期の貼床）
6．黄褐10YR5/6粘土ブロック，黒褐10YR3/2シルト（1148壁溝）
7．褐灰10YR4/1シルトブロック，黄褐10YR5/6粘土（炭少量混）（1149壁溝）
8．黄褐10YR5/6粘土ブロック，褐灰10YR4/1シルト（3363壁溝）
9．褐灰10YR5/1ブロック，褐灰10YR6/1粘土，褐10YR4/4，褐灰10YR5/1（貼床）
10．黄褐10YR5/6粘土（地山ブロック，炭混）
11．黄褐10YR5/6粘土（地山ブロック，炭混）

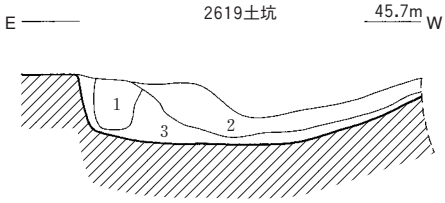
12．黄褐10YR5/6粘土ブロック，褐灰10YR4/1シルトブロック（2619土坑）
13．黄褐10YR5/6シルト（地山ブロック，炭化物混）（2435排水溝）
14．褐灰10YR4/1シルト
15．褐灰10YR5/1シルト
16．褐灰10YR4/1シルト（黄褐10YR5/6粘土混）（1147壁溝）
17．黒褐10YR3/2シルトブロック，黄褐10YR5/6粘土（3356壁溝）
18．褐灰10YR5/1シルト，灰黄褐10YR4/2シルトブロック，褐10YR4/6粘土（炭混）
19．明黄褐10YR6/6粘土，褐灰10YR4/1シルト（6･7期の貼床）
20．黄褐10YR5/6粘土，地山ブロック（2407ピット）
21．褐灰10YR5/1シルト，黄褐10YR5/6地山ブロック粘土（3366壁溝）
22．明黄褐10YR6/6粘土，地山ブロック
23．褐灰10YR4/1シルト，黄褐10YR5/6粘土（炭混）（3364排水溝）
24．暗褐10YR3/3シルト（2442ピット）
25．褐灰10YR5/1シルト
26．褐灰10YR4/1シルト，黄褐10YR5/6ブロック粘土（3361壁溝）
27．褐灰10YR4/1シルト（1149壁溝）
28．褐灰10YR4/1シルト（黄褐10YR5/6地山ブロック，炭混）
29．褐灰10YR4/1シルト（炭混）
30．褐灰10YR4/1シルト（黄褐10YR5/6粘土混）（1147壁溝）

0　S=1/80　4m

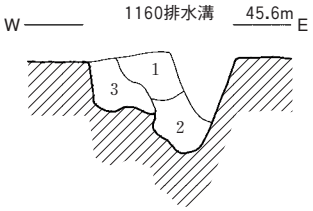
**図24　竪穴住居11平面・断面図**



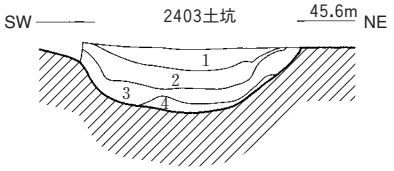

1．明褐7.5YR5/6シルト，褐7.5YR4/6シルト（焼土塊混）
2．明褐7.5YR5/6シルト
3．黄褐10YR5/6粘土
4．黒褐10YR3/1シルト（炭混）




1．褐灰10YR5/1シルト（明黄褐10YR6/6，黄褐10YR5/6地山ブロック混）
2．褐灰10YR4/1シルト（地山ブロック・炭混）
3．明黄褐10YR6/8粘質土（礫混）




1．灰黄褐10YR4/2シルト（炭混）
2．褐灰10YR5/1シルト，褐7.5YR4/6シルト（焼土塊混）
3．褐灰10YR4/1シルト，
明黄褐10YR7/6粘土ブロック（礫・炭混）




1．にぶい黄褐10YR4/3シルト
2．黒10YR2/1シルト（明黄褐10YR6/6ブロック混）
3．明黄褐10YR6/6粘土（地山ブロック混）
4．にぶい黄橙10YR7/2粘質土（礫混）

竪穴住居11　変遷図



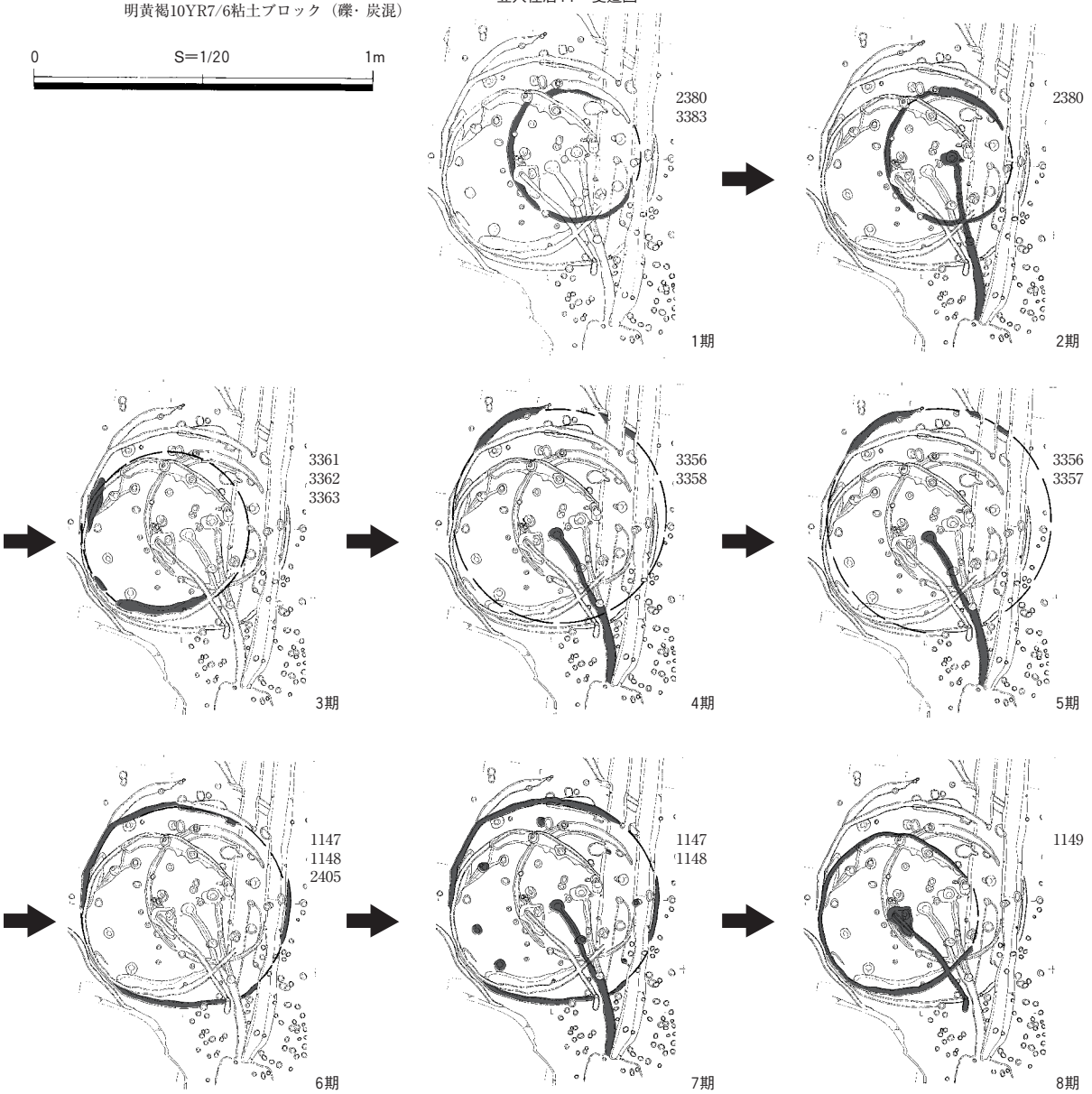
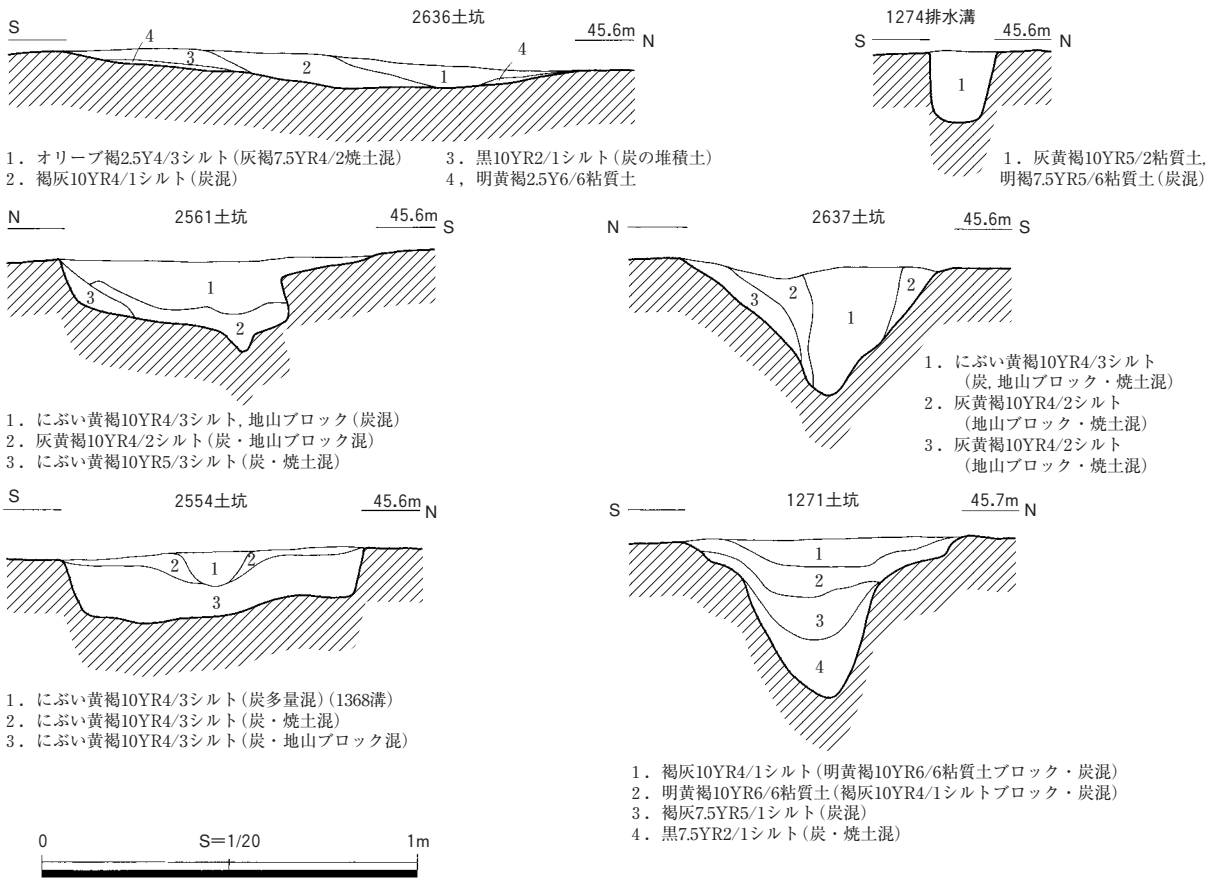




図25　2386・2403・2619土坑・1160排水溝断面図、竪穴住居11変遷図

図26　竪穴住居12平面・断面図



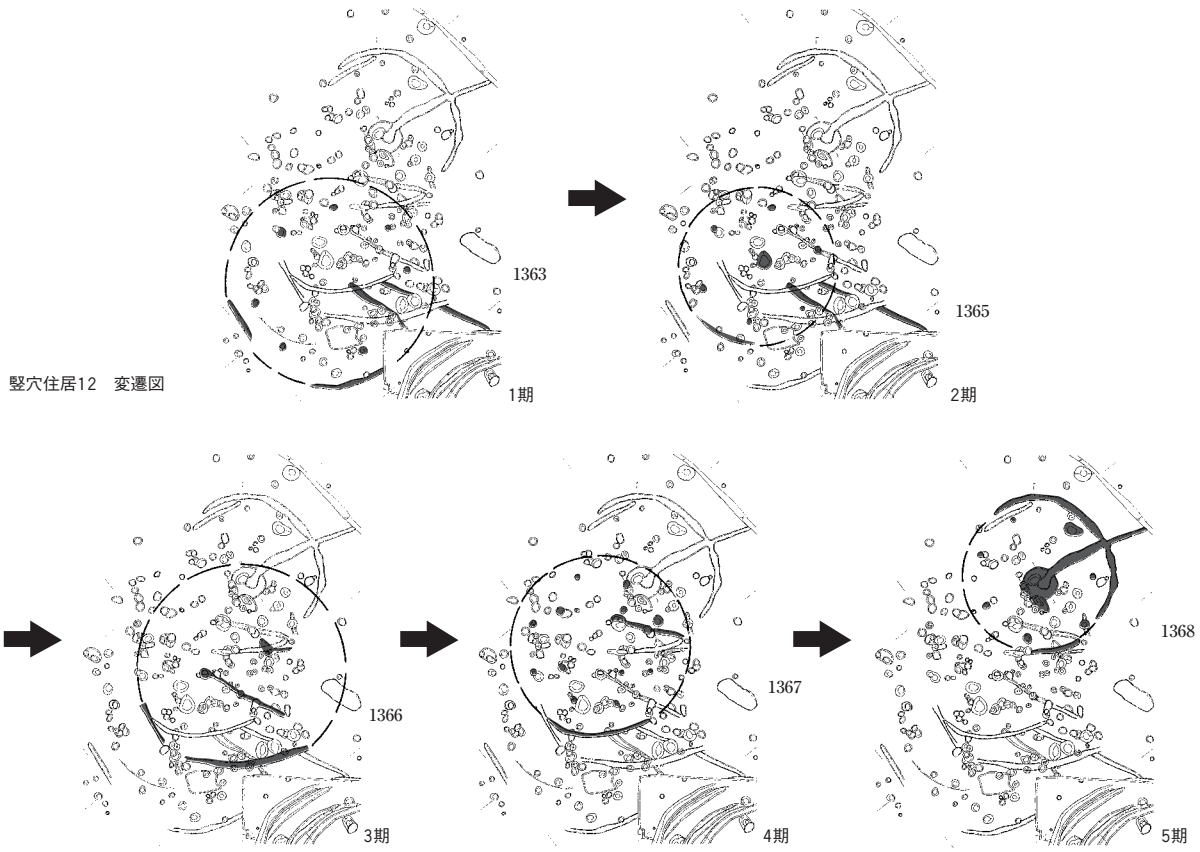




図27　1271・2554・2561・2636・2637土坑・1274溝断面図、竪穴住居12変遷図

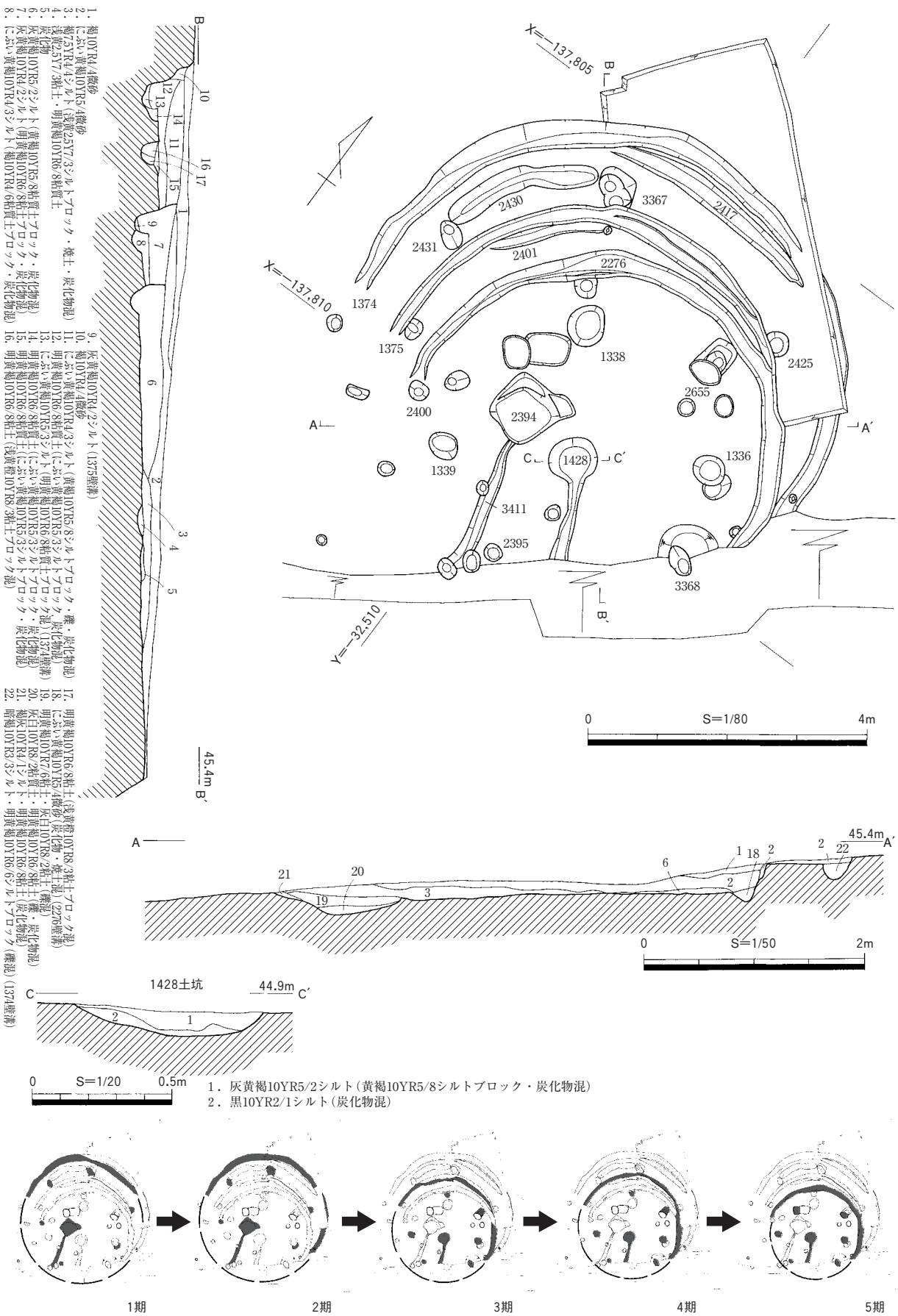



**図28　竪穴住居13平面・断面・変遷図**

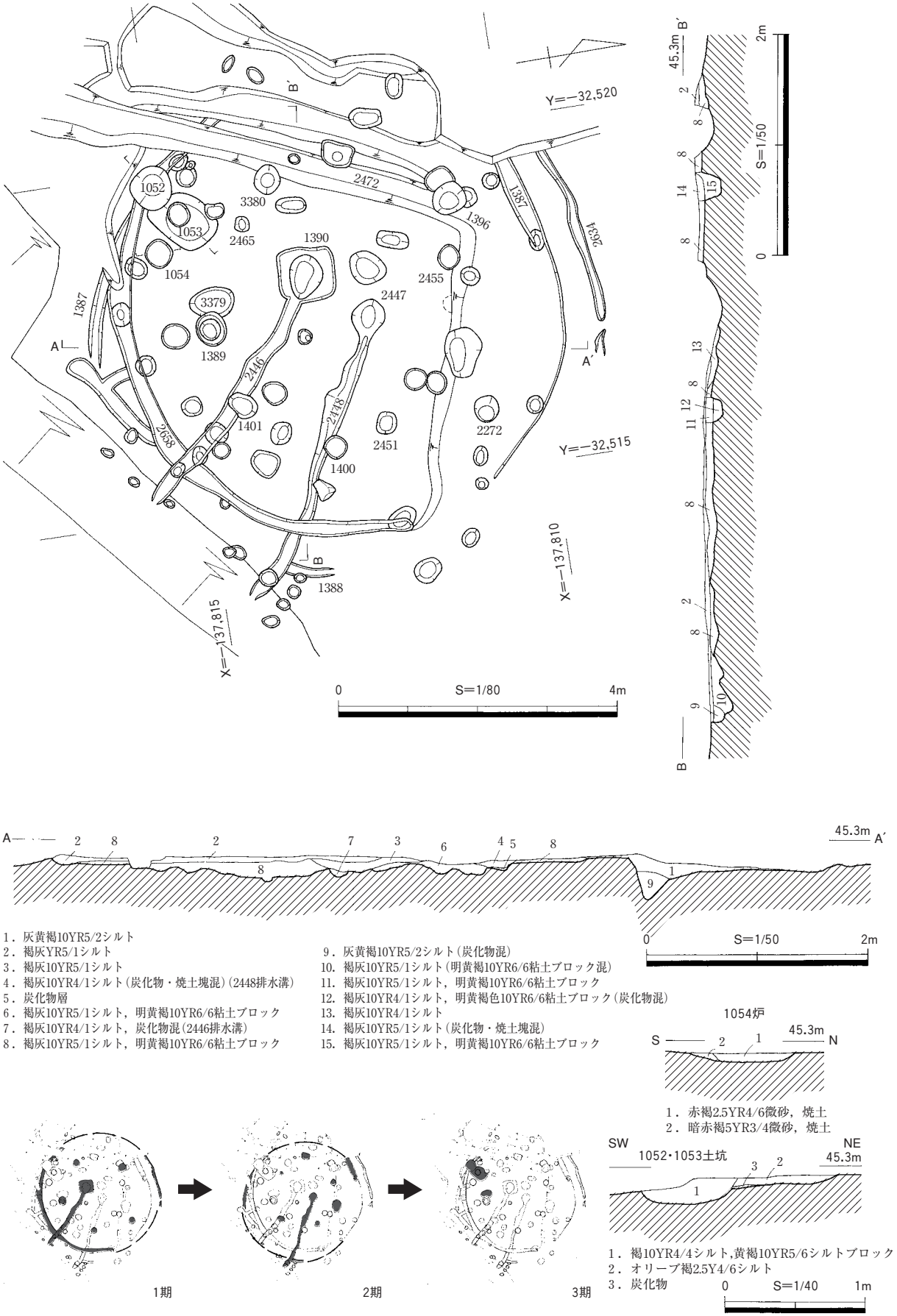
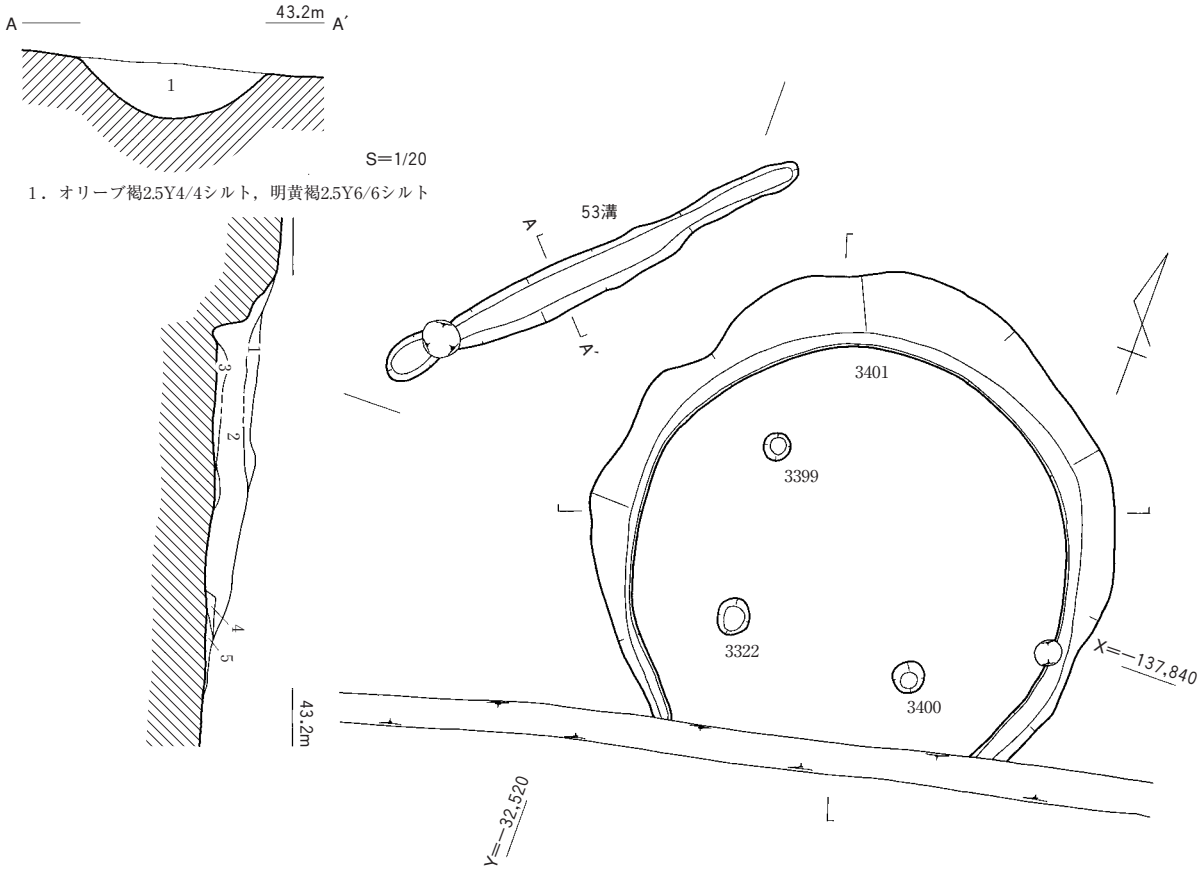
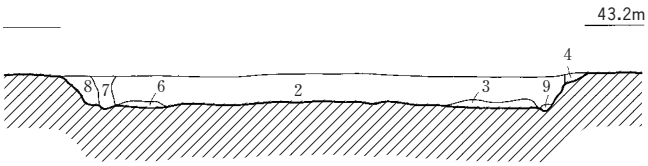


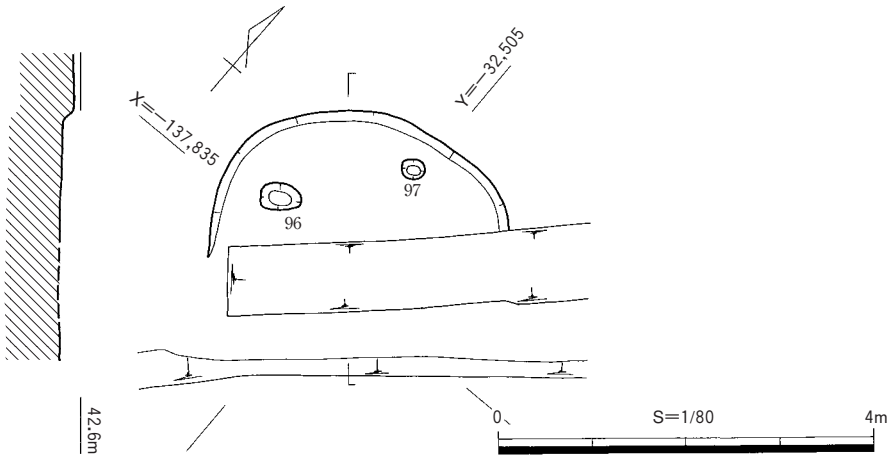

**図29　竪穴住居14平面・断面・変遷図**




1．オリーブ褐2.5Y4/6粘質土
2．にぶい黄橙10YR6/4シルト
（φ2～3mm礫，炭少量混）
3．黄褐10YR5/6砂質土（φ3～5mm礫，炭混）
4．明黄褐10YR6/6砂質土，明黄褐2.5Y6/6砂質土
（φ2～3mm礫混）
5．明黄褐2.5Y6/6シルト
6．明黄褐10YR6/6シルト
7．明黄褐2.5Y6/6シルト
8．黄褐2.5Y5/3シルト
9．にぶい黄2.5Y6/4砂質土




竪穴住居18




竪穴住居17

**図30　竪穴住居17・18、53溝平面・断面図**

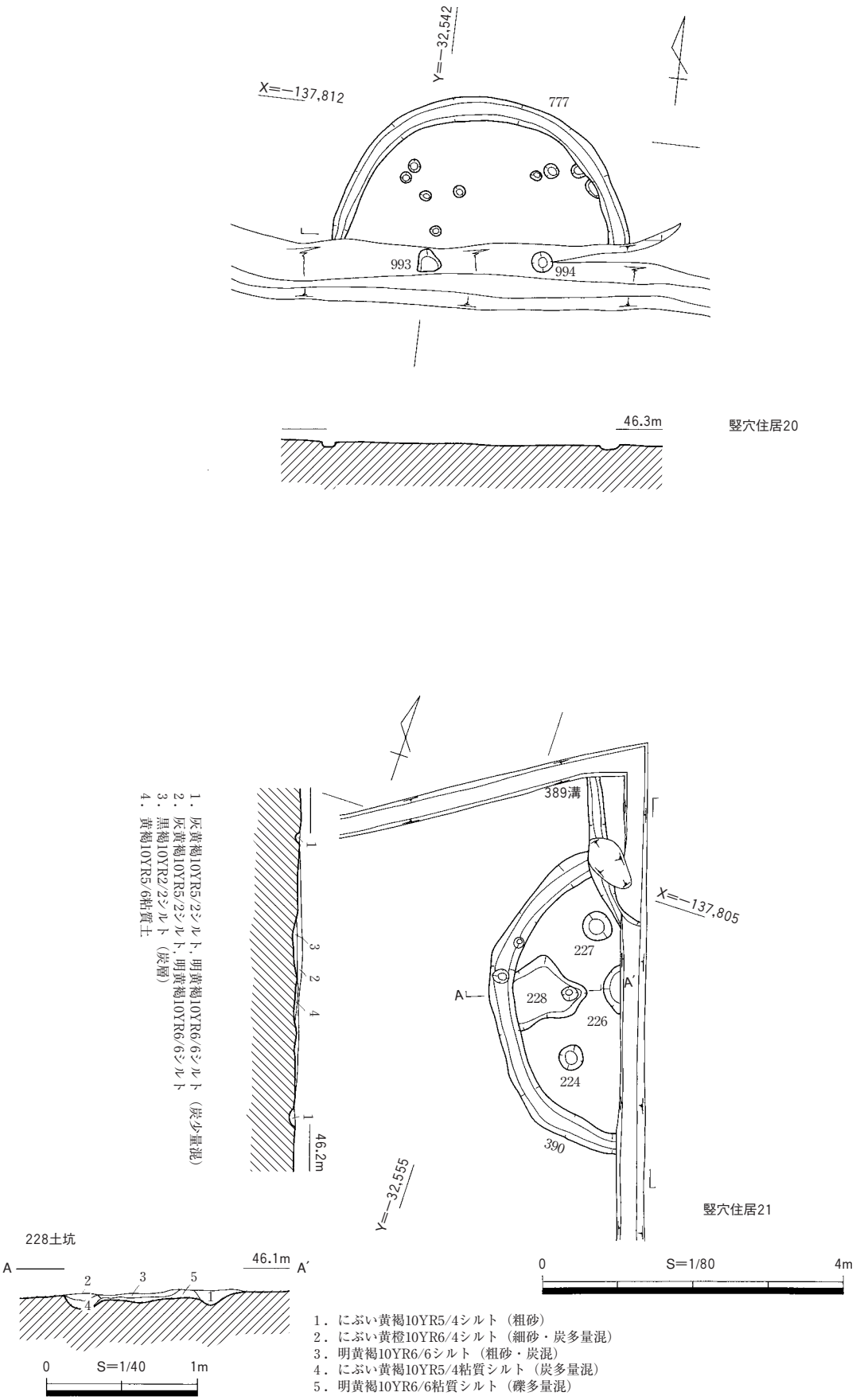



**図31　竪穴住居20・21平面・断面図**

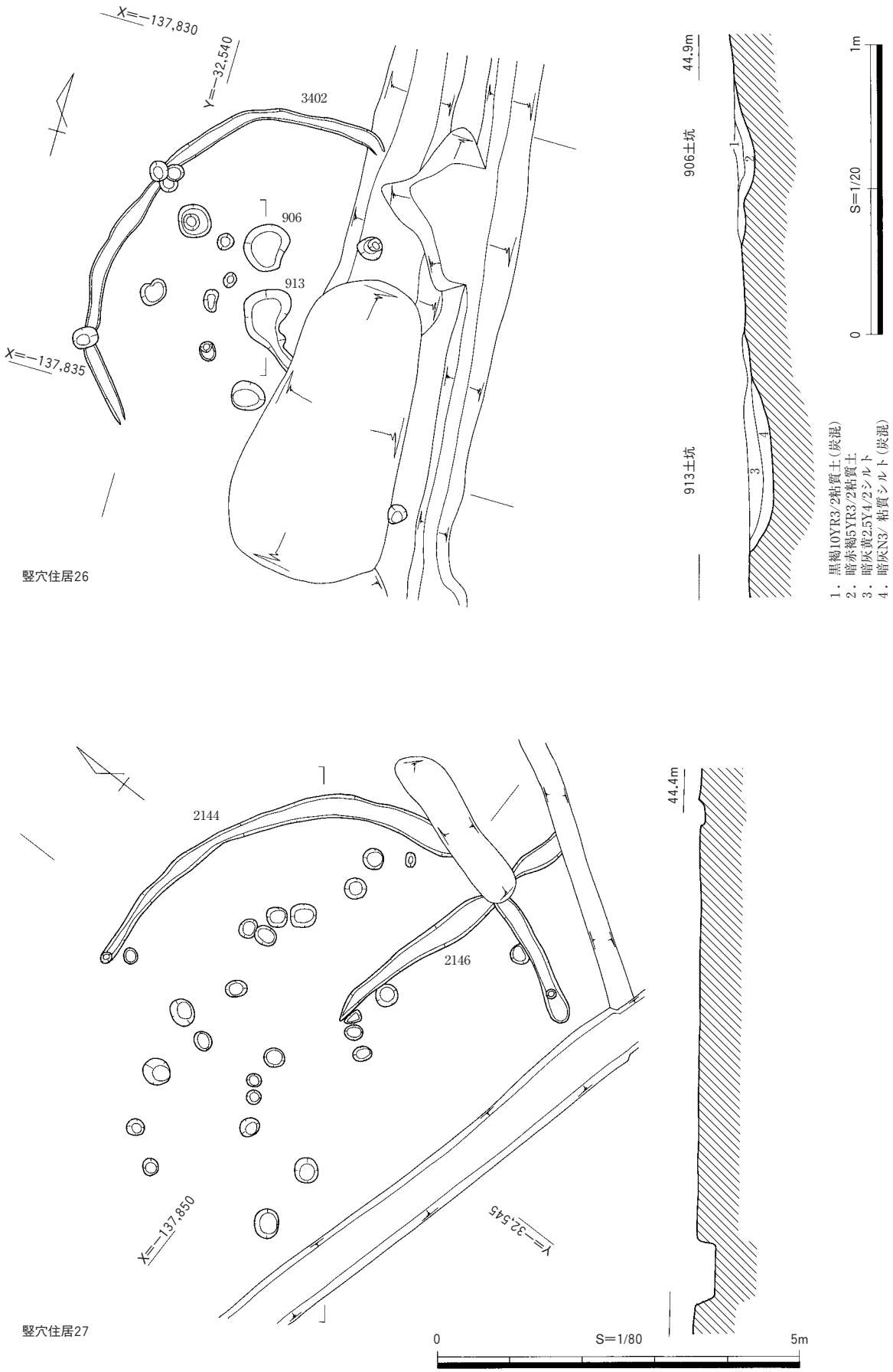



**図32　竪穴住居26・27平面・断面図**

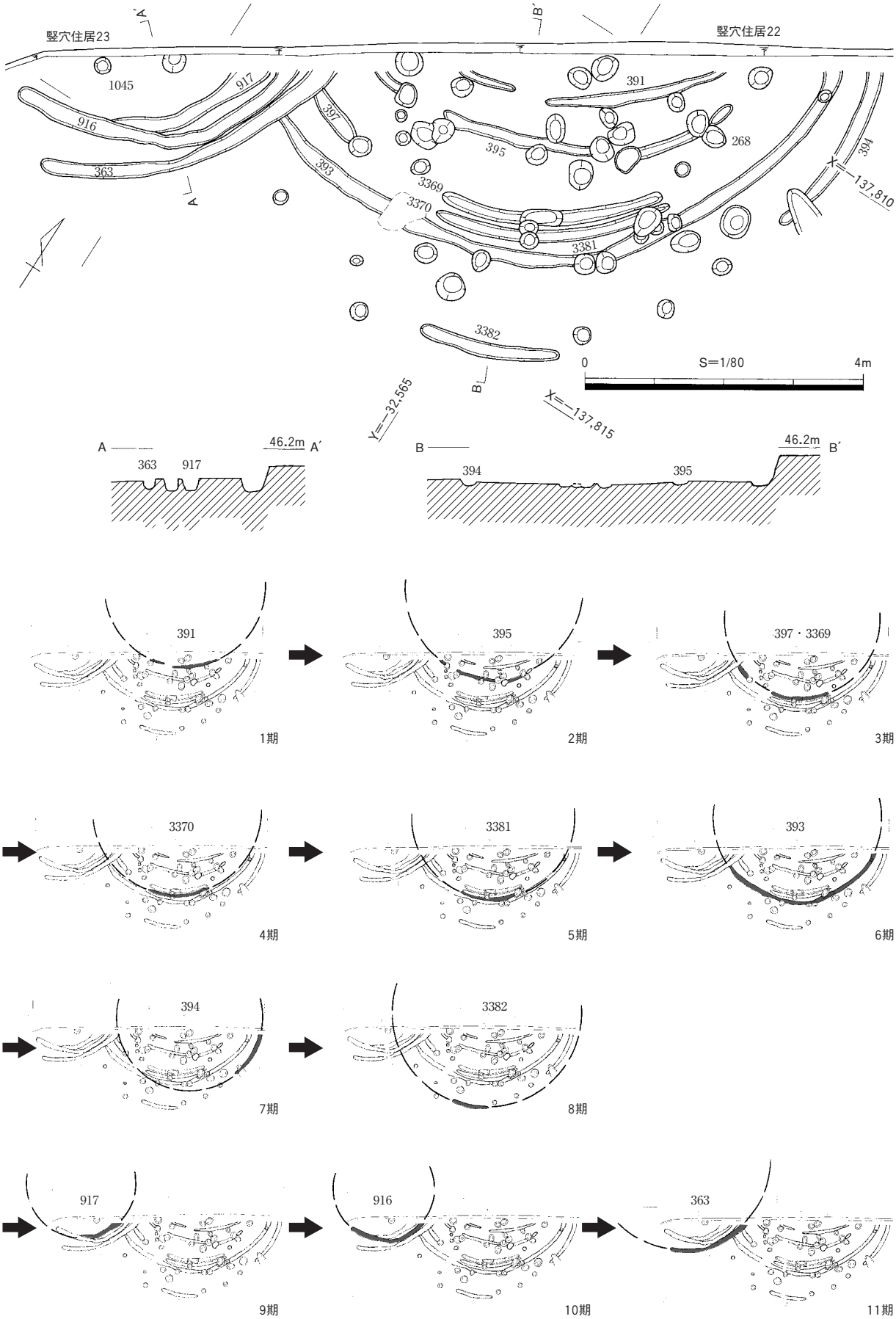



図33　竪穴住居22・23平面・断面・変遷図

**図34　竪穴住居24平面・断面図**

**竪穴住居28**（図９、図版30－１）　2063土坑と2062排水溝のみを検出した。共に炭化物を含み、排水溝は南東方向に伸びる。壁溝は検出されておらず、全体規模は不明である。

**竪穴住居29**（図36、図版27－１）　壁溝の重複より２時期の変遷が認められる。平面形は隅丸方形であり、①70壁溝が一辺約4.3m、②41壁溝が一辺約4.5mを測る。竪穴住居の南隅壁溝からは排水溝がいずれも南東方向に伸びる。内部からは208・3324～3326の柱穴４基が方形に配置され、中央には207・3405炉を検出した。柱穴規模は径0.3～0.4m、深さは約0.4mである。炉は重複しており、3405炉が①期、207炉が②期に対応する。②期の貼床は厚さ約0.05～0.1mが遺存する。２時期の壁溝は住居の規模に大きな差はなく、柱穴の作り替えはなかったようである。

また、南側には67溝を検出しており、異なる竪穴住居が重複していた可能性もある。覆土から図67－2の石庖丁が出土している。

**竪穴住居30**（図36、図版27－１・２）　竪穴住居29と重複して南側で検出した。壁溝の切合い関係から竪穴住居30が古い。上面と南半の一部は削平を受け、壁溝が残存していただけである。平面は円形を呈し、検出面での復元直径は径約6.0mで、貼床は厚さ約0.02～0.04m遺存する。壁溝の幅0.12～0.22m、深さは0.05～0.07mである。主柱穴は64・3327・3406・3407の４基で、規模は径0.3～0.5m、深さは0.4～0.6mである。3408炉は中央部に位置し、平面形は楕円形を呈し、規模は直径0.65m、深さは0.2mである。3408炉には68排水溝が伴い、幅0.2m、深さは0.15～0.25mである。東方向へ伸びる。また、南側には66溝を検出しており、異なる竪穴住居が重複していた可能性もある。覆土から図67－５の石庖丁が出土している。

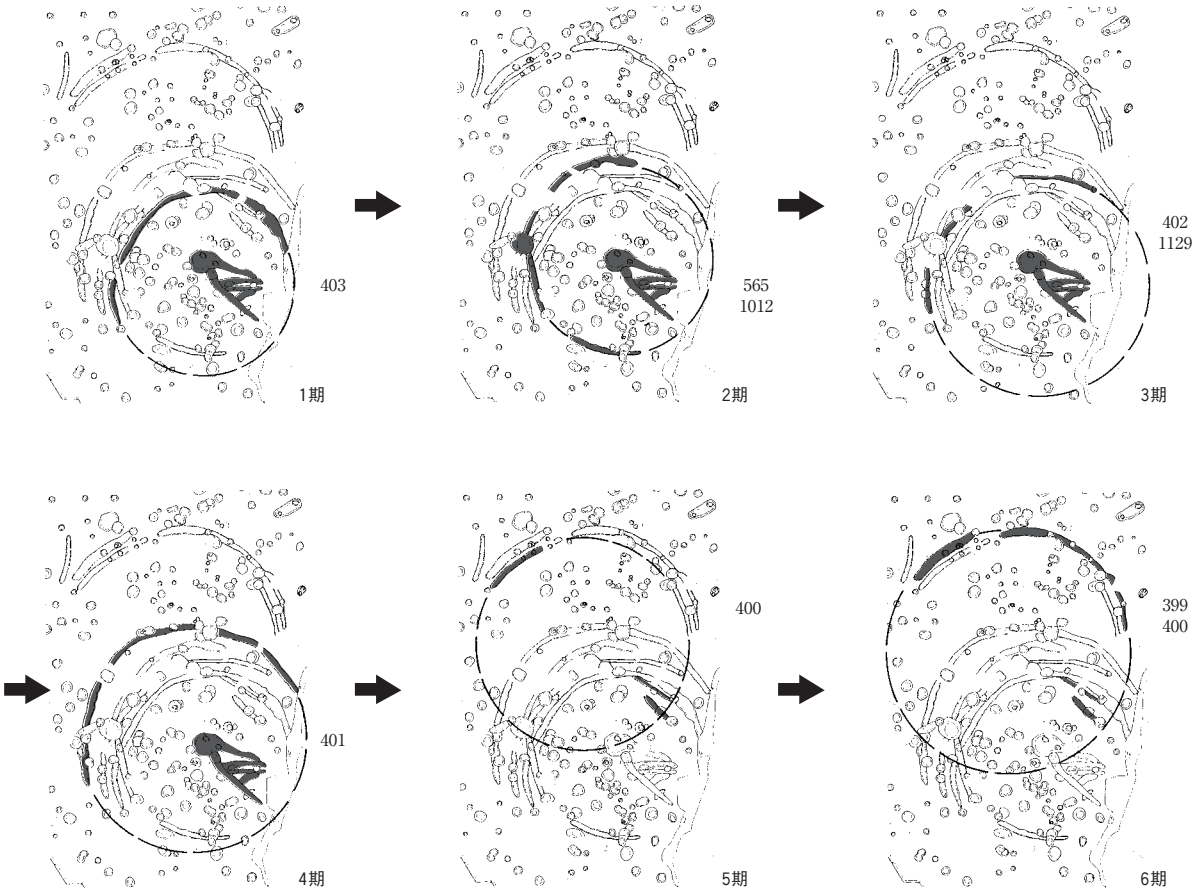
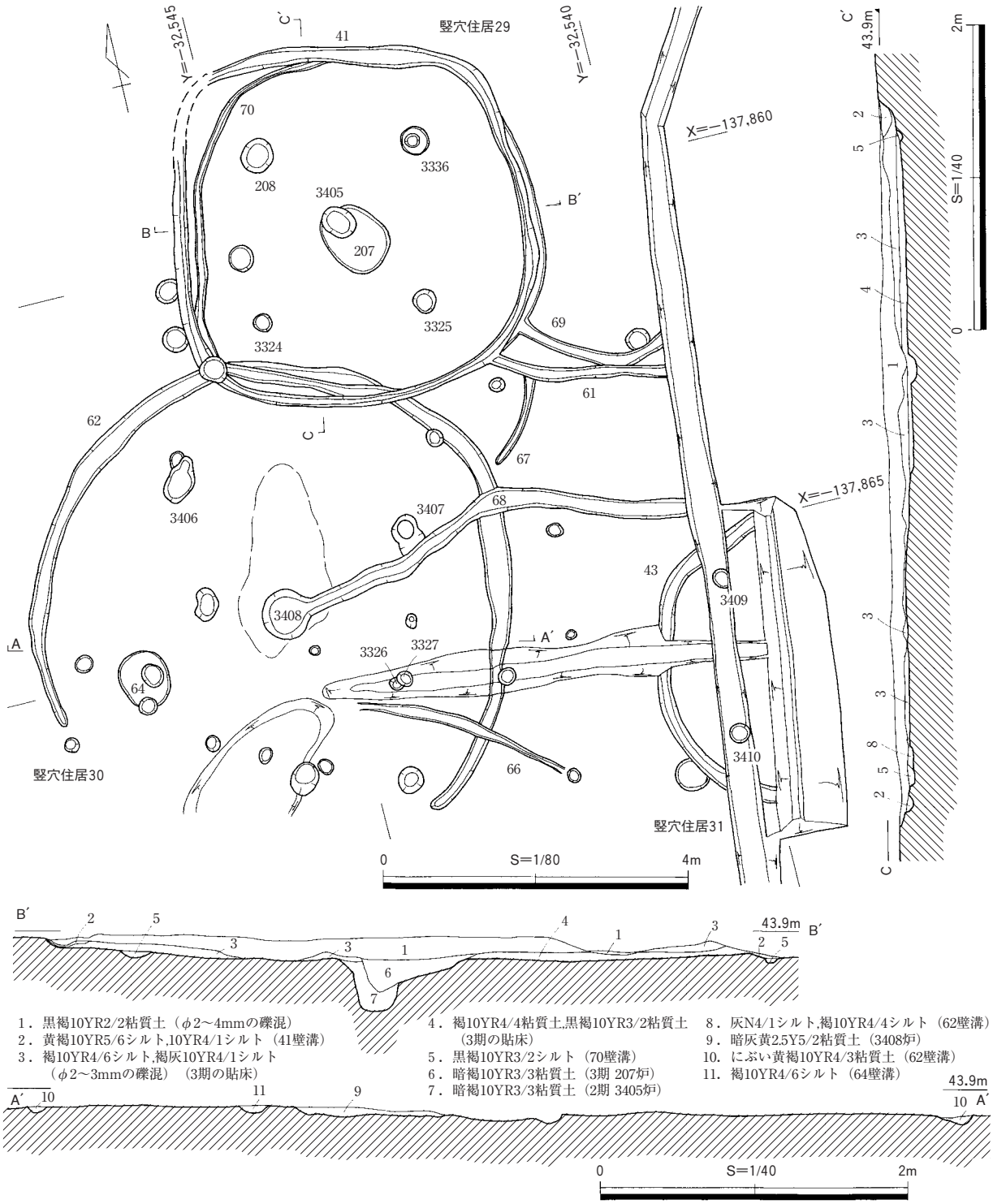



**図35　竪穴住居24変遷図**



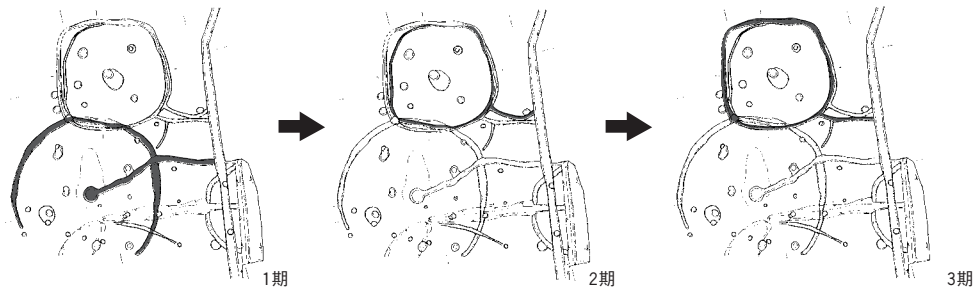
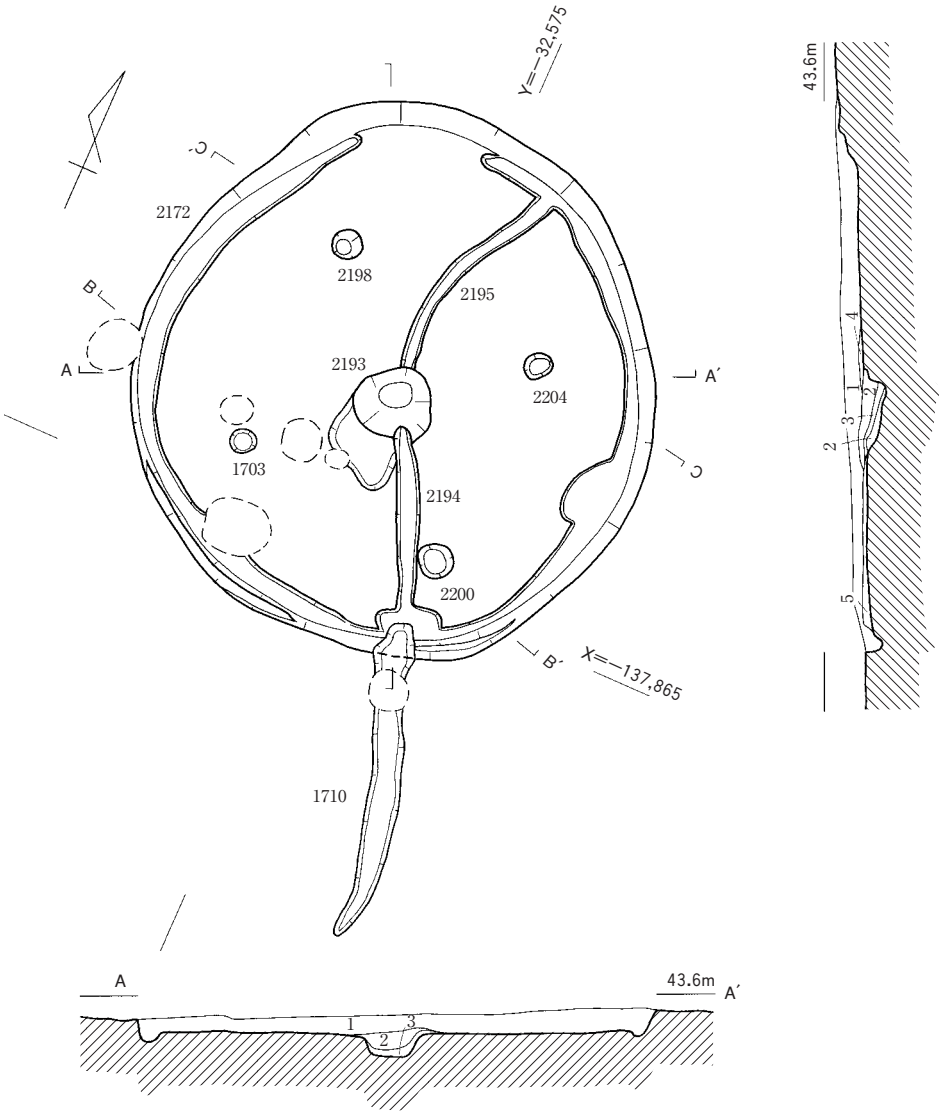




**図36　竪穴住居29・30・31平面・断面・変遷図**




1．褐灰10YR6/1シルト
2．明黄褐10YR6/6シルトブロック（2193炉）
3．褐灰10YR6/1シルト（明黄褐10YR6/6シルトブロック・炭化物混）（2193炉）
4．褐灰10YR6/1シルト（炭化物混）
5．褐灰10YR6/1シルト，明黄褐10YR6/6シルトブロック（貼床）

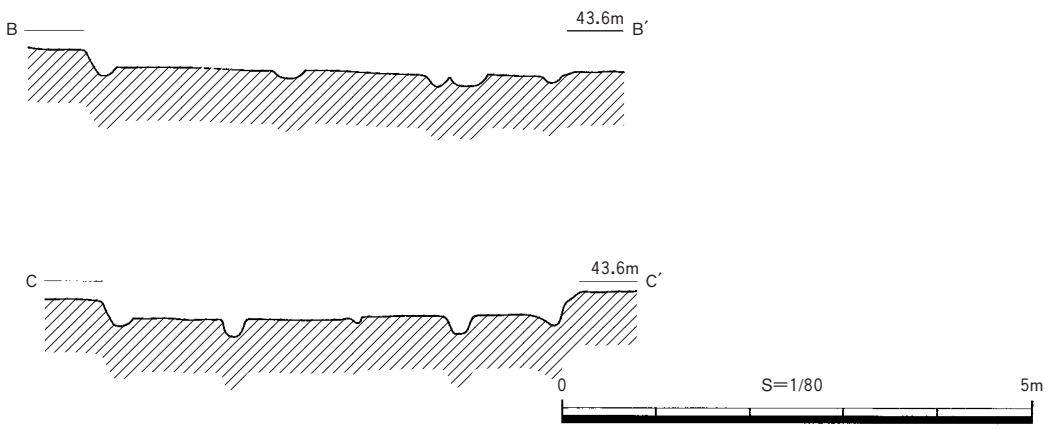



**図37　竪穴住居35平面・断面図**

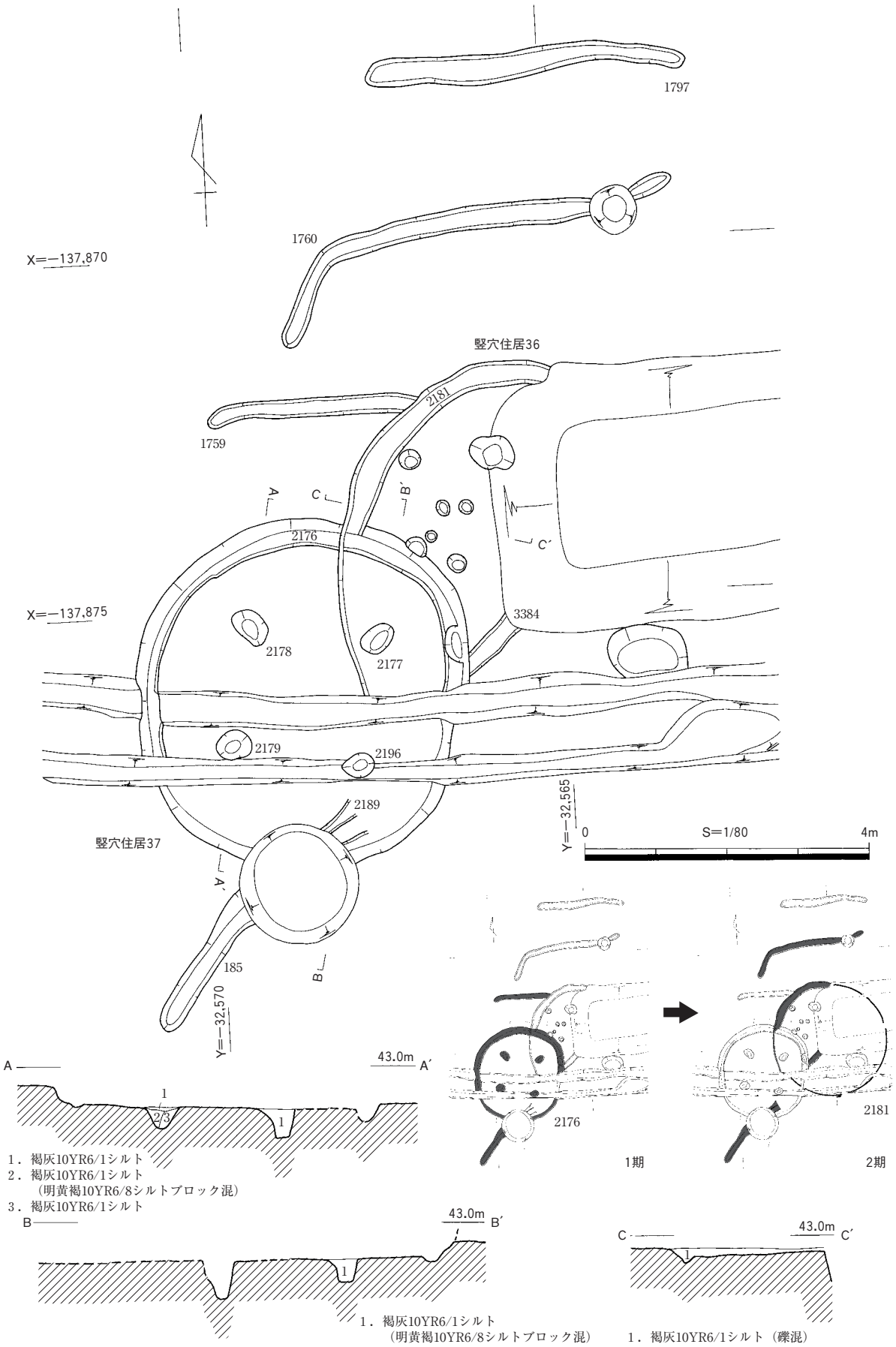



**図38　竪穴住居36・37平面・断面・変遷図**

**竪穴住居31**（図36）　竪穴住居30の東側で検出した。東半は削平を受ける。平面は円形を呈し、検出面での復元直径は径約4.5mで、深さは0.45mである。貼床は厚さ0.02～0.05mが遺存する。壁溝は幅0.12～0.15m、深さは約1.0mである。主柱穴は3409・3410を２基検出し、規模は径約0.2m、深さは約0.3mである。

**竪穴住居35**（図37、図版28）　平面形は円形であり、直径約5.0mを測る。検出面から床面まで深さ約0.2mの覆土があり、壁直下には壁溝が巡るが、北西側一部は途切れている。この部分にはステップ状の凸部が残存しており、住居の出入口が想定できる。2193土坑壁面に赤変は認められなかったが、炭化物をかき出した状態が断面から観察できた。1710排水溝は南方向へ伸び、壁溝部分で膨らみを有し、さらに住居外へ伸びる。また、2193土坑の北側にも溝は伸び、2172壁溝と接合している。主柱穴として４箇所、1703・2198・2200・2204ピットを検出した。

出土遺物（図53－10～20）から中期後葉に位置づけられる。

**竪穴住居36**（図38）　後述する竪穴住居37と重複関係にあり、竪穴住居37→竪穴住居36（古→新）の先後関係がわかる。平面形は円形であり、復元直径約5.8mを測る。覆土が約0.1m残存し、壁直下に壁溝が巡る。南西方向に伸びる3384・2189溝はこの住居に伴う排水溝の可能性が高い。住居外北側に1760・1797溝が東西方向に伸びている。地形的に竪穴住居の上位にあたり、雨水の進入防止を果たす溝と考えられる。出土遺物（図53－４～９）から中期後葉に位置づけられる。

**竪穴住居37**（図38、図版29－３）　先述した竪穴住居36と重複関係にあり、竪穴住居37→竪穴住居36（古→新）の先後関係がわかる。平面形は円形であり、直径約4.8mを測る。覆土が約0.2m残存し、壁直

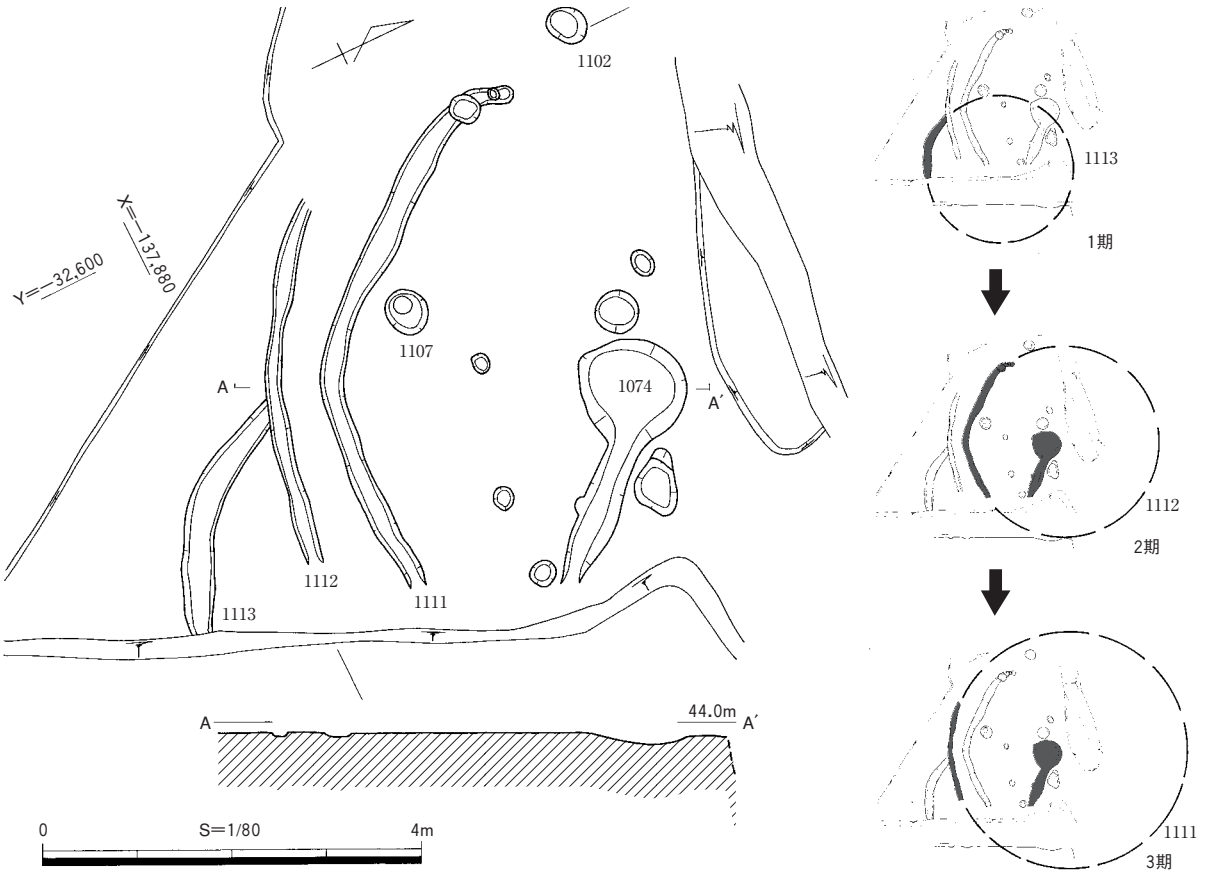



**図39　竪穴住居38平面・断面・変遷図**

下には壁溝が巡る。主柱穴として４箇所、2177・2178・2179・2196ピットを検出した。住居外北側に1759溝が東西方向に伸びている。地形的に竪穴住居の上位にあたり、雨水の進入防止を果たす溝と考えられる。

**竪穴住居38**（図39、図版29－１・２）　壁溝の重複より３時期の変遷が認められる。平面形は円形と多角形であり、復元直径は①1113壁溝が約6.0m、②1112壁溝が約9.4m、③1111壁溝が約7.8mを測る。1111壁溝を伴う竪穴住居は平面八角形を呈すると考えられる。1074土坑・排水溝が検出され、埋土に炭化物を含む。排水溝は南東方向に伸びる。

切り合い関係より①→②（古→新）の先後関係はわかるが、③との関係は不明である。

**竪穴住居39**（図40、図版27－３～５）　後述する周溝墓１の南西側周溝の下層から検出した。重複より２時期の変遷が認められる。平面形は円形であり、復元直径は①3385壁溝が約4.6m、②3398壁溝が約4.8mを測る。①は覆土が約0.2m残存し、壁直下には壁溝が巡る。②は覆土が約0.2m残存していた。

切り合い関係より①→②→方形周溝墓１（古→新）の先後関係はわかる。

**32土坑**（図42、図版31－１）　竪穴住居30の南側に位置する。直径約0.3cmを測り、内部から甕の口縁

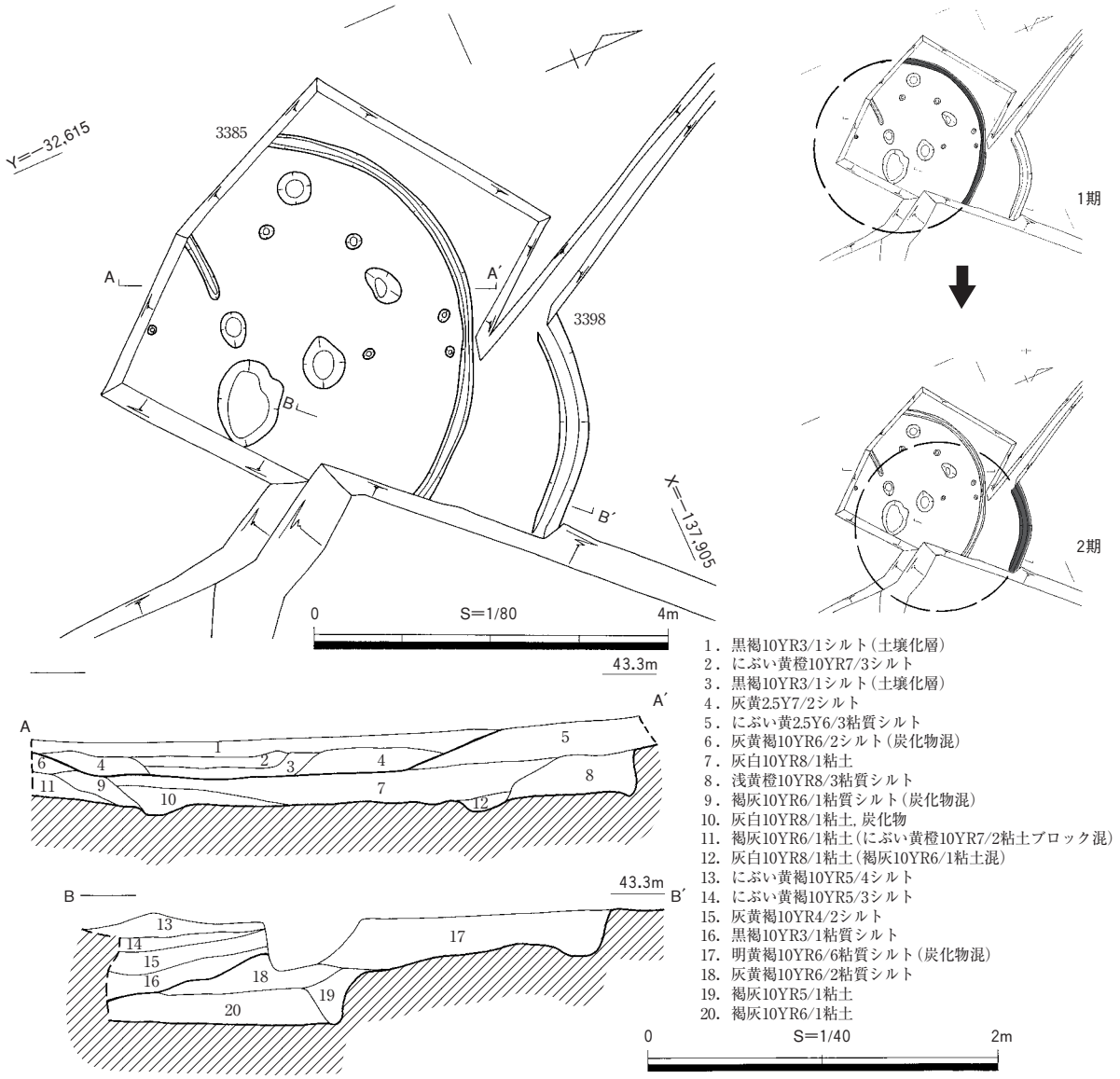



**図40　竪穴住居39平面・断面・変遷図**

を横にして壁面に接着している状態で出土した。

**42土坑**（図42、図版31－２）　竪穴住居30の北東に位置する。平面は楕円形を呈し、長さ約1.6m、幅約1.0m、深さは0.6mである。断面形はラッパ状に細くなり、底面が狭くなっている。台付鉢・壺・甕が各小口側から出土（図59－25～30）した。

**55土坑**（図42、図版31－３）　竪穴住居30の南側に位置する。直径約0.4cmを測り、32土坑と同様に内部から土器の底部が壁面に接着している状態で出土した。

**56土坑**（図42、図版31－４）　土坑32の北側に位置する。長径約0.8m、短径約0.6m、深さ約0.2mを測る。内部からは多量の土器（図59－14～24）が出土した。埋土には炭化物を含む。

**197土坑**（図11）　竪穴住居37の南西に位置しており、27谷へ流れ込む堆積部分である。図54－19～30の土器が出土している。

**388**土坑（図41、図版25－５）　竪穴住居24の上層に位置し、竪穴住居24より後出する土坑である。平面形は長方形であり、幅0.9m、長さ約2.8m以上、深さ約0.2mを測る。南半部分から土器（図51－１～７）が集中して出土した。

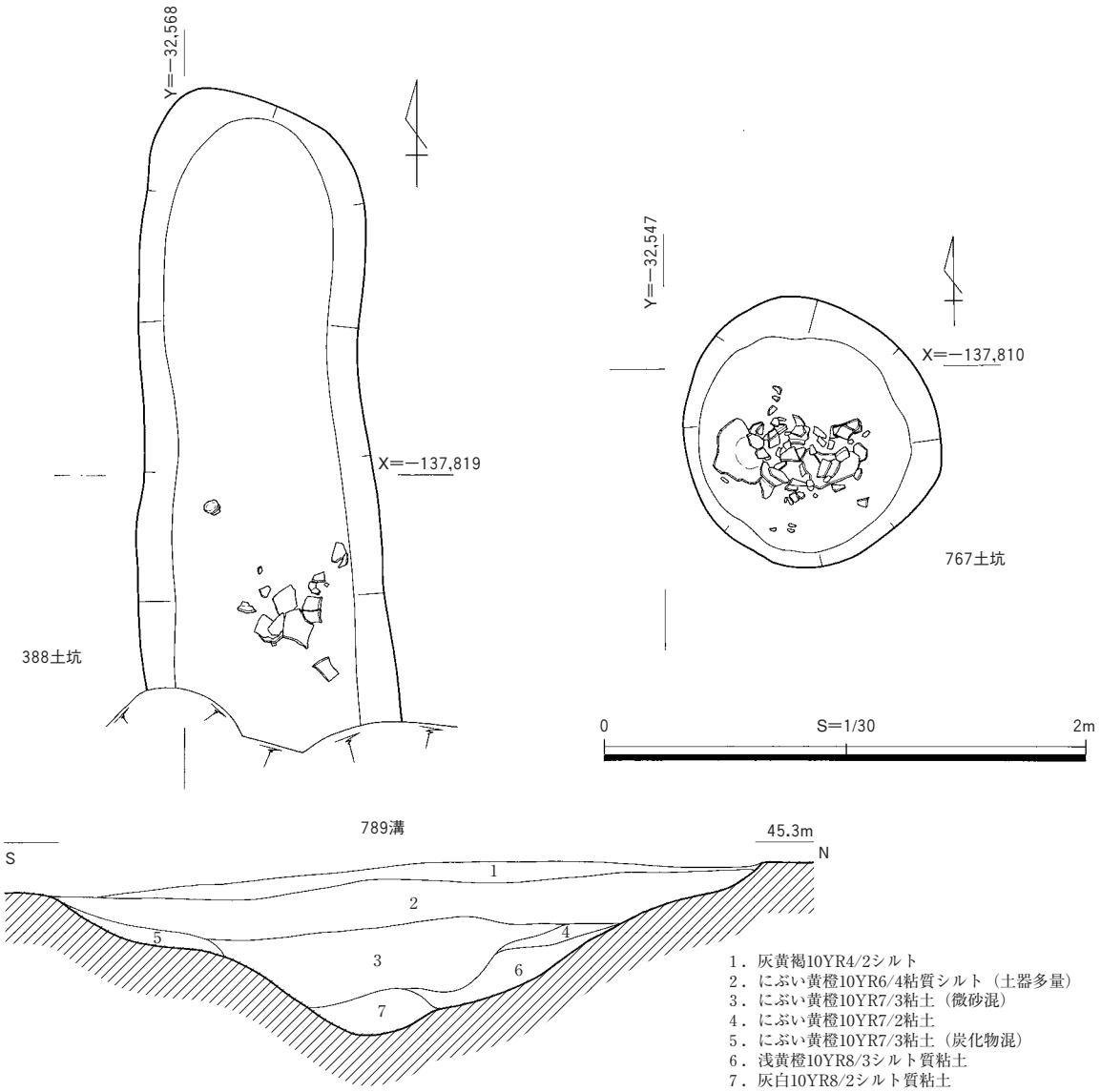



**図41　388・767土坑平面図、789溝断面図**

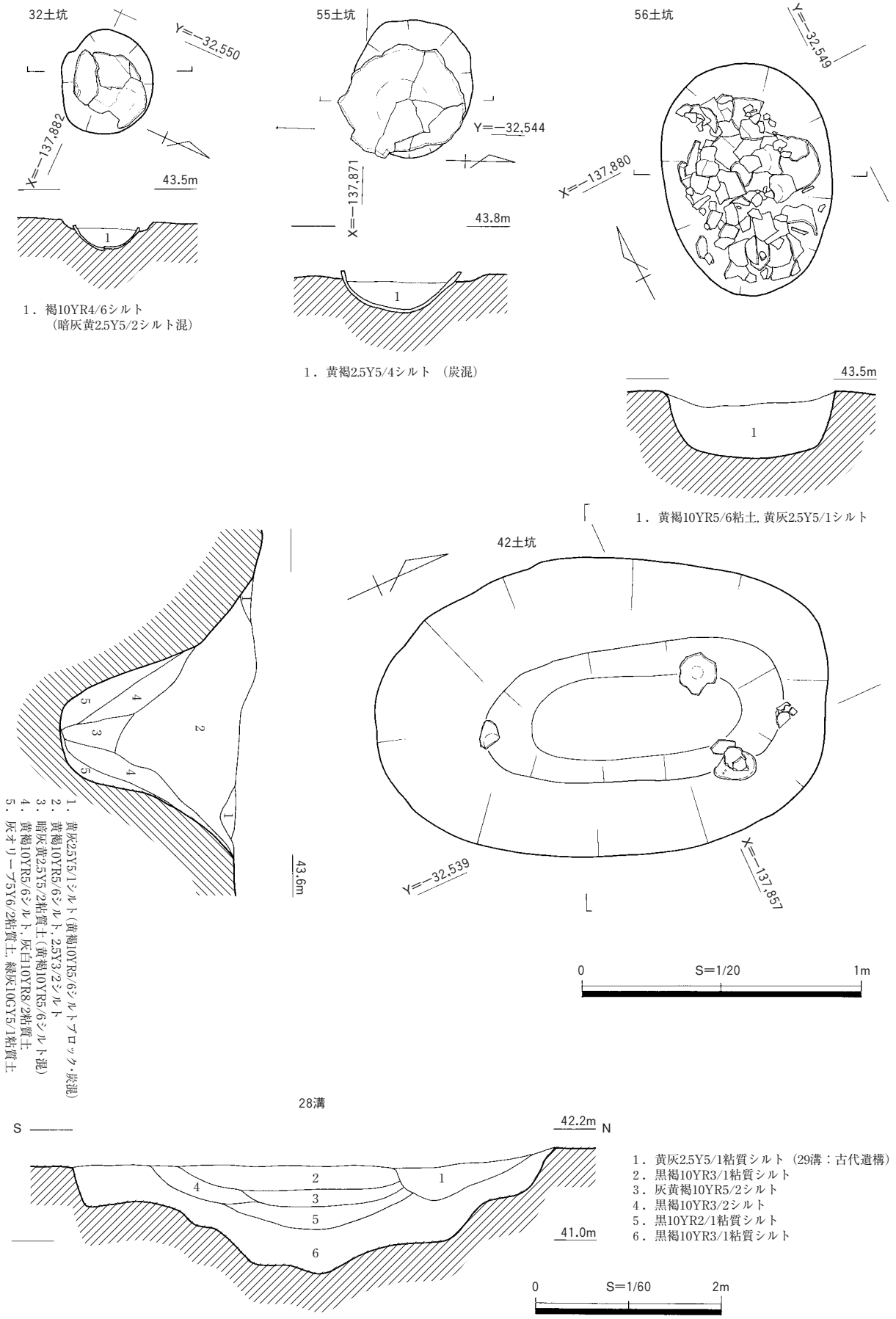



**図42　32・42・55・56土坑・28溝平面・断面図**

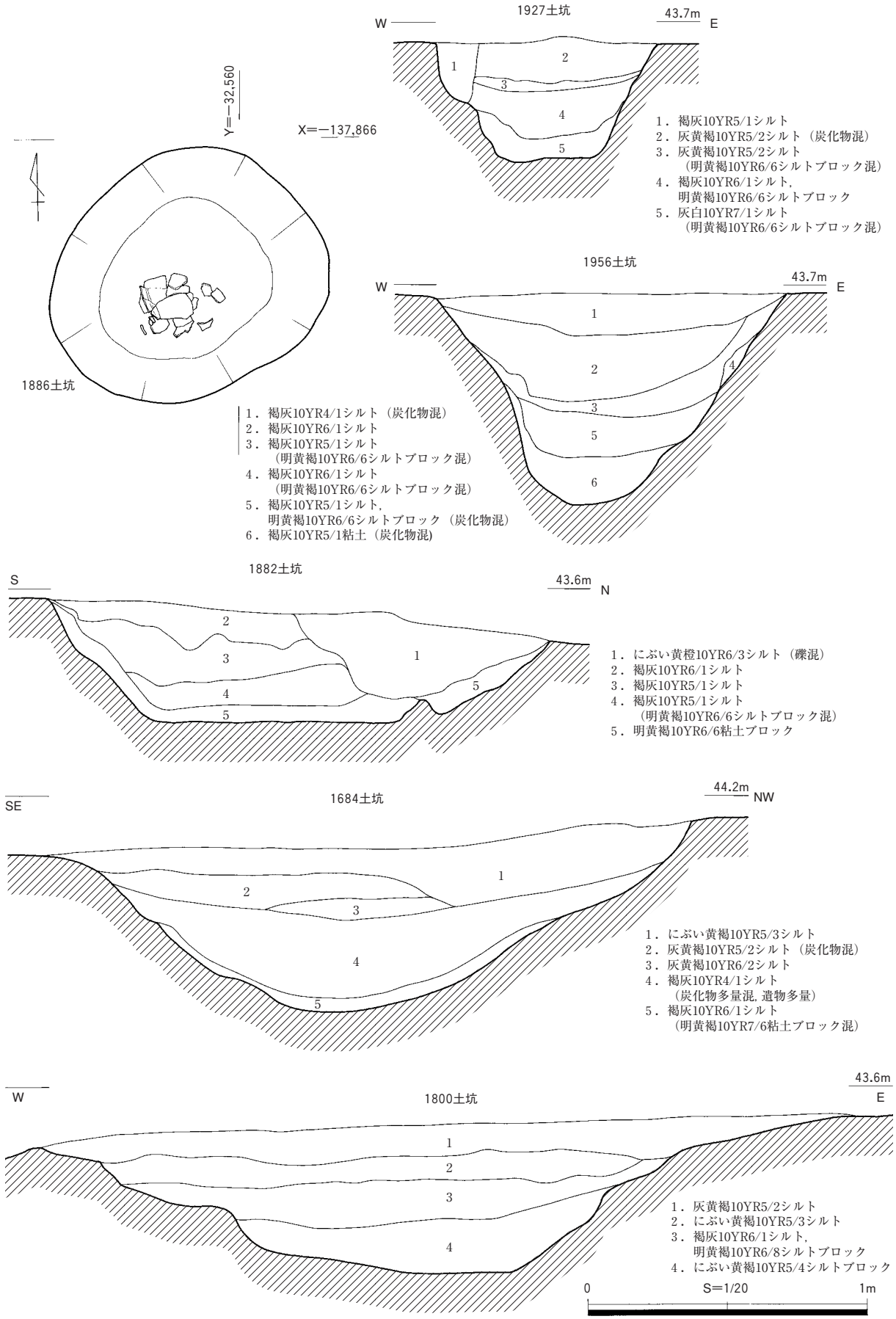



図43　1684・1800・1882・1886・1927・1956土坑平面・断面図

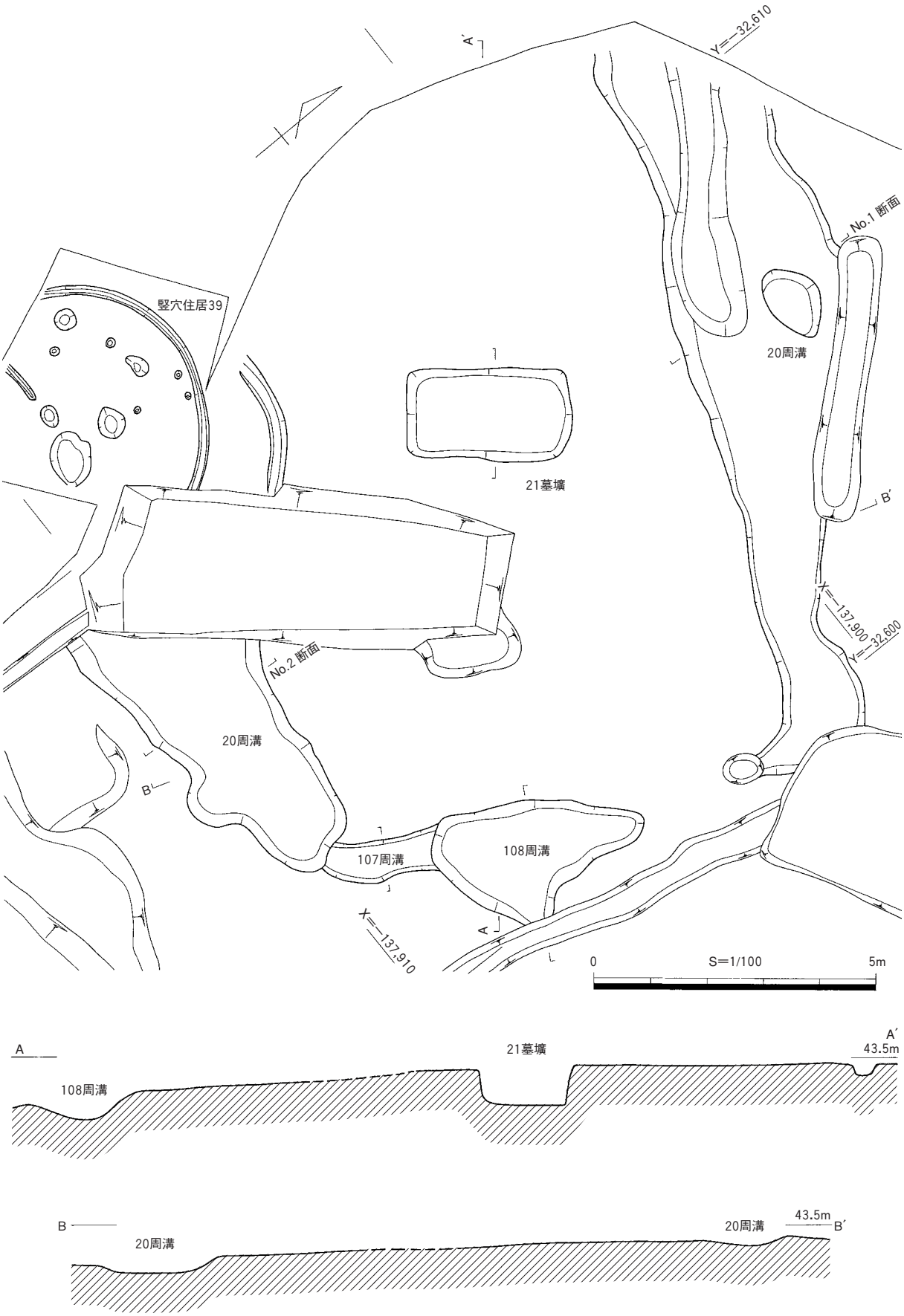



**図44　周溝墓１平面・断面図**

**767土坑**（図41、図版25－４）　竪穴住居20の北西に位置する。円形を呈し、直径約1.1m、深さ約0.1mを測る。内部から多量の土器（図51－10～18）が出土した。

**1516土坑**（図11、図版30－４）　竪穴住居35の西側に位置する。平面形は直径約1.1mの円形を呈し、井戸状に深く掘られており、深さ約0.7mを測る。図54－６～８の土器が出土している。

**1569土坑**（図11、図版30－３）　長軸約5.8m、短軸約3.1mを測るやや不定形な大型土坑である。深さ約0.6mを有し、埋土は灰褐色粘土であり、炭化物を含む。底部には褐灰色粘土と細砂が堆積しており、この層から多量の土器（図58－12～23）が出土している。

**1684土坑**（図43）　後述する古代の竪穴住居33下層に位置する土坑である。堆積土の下半部の褐灰色シルトから多量の土器（図55）と炭化物が出土した。

**1716土坑**（図11）　竪穴住居37の北側に位置する。平面形は長軸約2.8m、短軸約2.2mを測る円形を呈し、底面には直径約1.1mと約0.8mの２か所の円形が検出された。深さ約0.6mを測る。図56－１～11の土器が出土している。

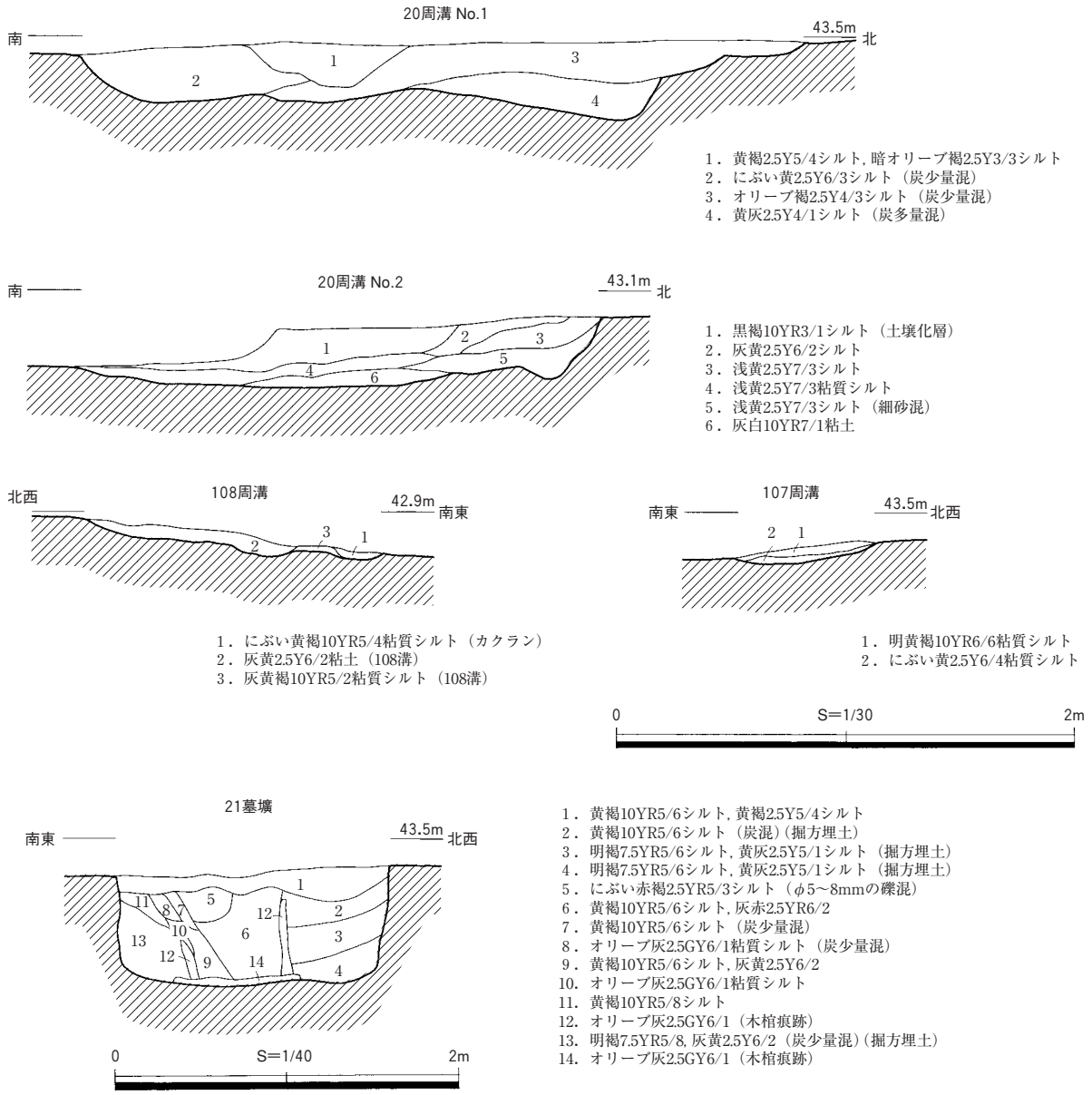



**図45　20・107・108周溝・21墓壙断面図**

**1800土坑**（図43）　竪穴住居36の北側に位置する。直径約2.8mを測り、深さ約0.2mの位置で、さらに直径約1.3mの窪みを有する。下半部はシルトがブロック状に堆積していた。図57－12～23の土器が出土している。

**1882土坑**（図43）　1800土坑の北側に接し、長軸約2.9m、短軸約1.8mを測る。底部は平坦面を成す。

**1886土坑**（図43、図版30－２）　1800土坑の東側に位置し、直径約0.9m、深さ約0.2mを測る。土坑のほぼ中央から図57－24の土器がつぶれた状態で出土した。

**1927土坑**（図43）　竪穴住居36の北東に位置する。長さ約3.8m、幅約0.8mを測る不定形の土坑である。上層には炭化物を含み、下層はシルトブロックが見られる。図57－１～11の遺物が出土している。

**1956土坑**（図43）　竪穴住居36の北東に位置する。直径約1.3m、深さ0.7mを測り、底面は小さくすぼまる。下半部は褐灰色粘土に炭化物を含む。図58－12～23の土器が出土している。

**2330土坑**（図13、図版19－４）　竪穴住居12の東側の谷へ下る肩部に位置する。平面円形を呈し、直径約1.8m、深さ約0.8mを測る。図47－18～21の土器が出土している。

**27谷**（図11、図版34－１・２・55－１・５）　竪穴住居36・37の南側に位置し、南北方向に伸びる狭小な谷筋である。竪穴住居36・37付近は平坦面であり、南方向に深くなる。東西方向約30m幅は、なだらかな斜面地となり、谷筋への堆積層を確認した（図８）。

**28溝**（図42、図版34－１・３）　27谷の東側で検出した。幅2.0～4.0m、深さ約1.2mを測り、断面はV字形を呈する。西側は27溝の谷筋へ南西方向に落ち込んで行く。東側は調査区外へ伸びるが、地形に沿った方向には伸びておらず、この谷筋の東側にあたる尾根を区画する溝と考えられる。

**182・202溝**（図11、図版34）　竪穴住居37の南西側に位置しており、27谷へ向かう溝である。図54－12～17の土器が出土している。

**789溝**（図41、図版25－３・26）　竪穴住居24の東側、東西方向に約25.0m伸びる。東側は後世の削平により途切れているが、西端は竪穴住居24手前で終わっている。幅1.4～2.5m、深さ約0.6mを測り、断面は途中段差を有するV字形である。この途中段差から下層部分は、固く締まった地山に似たにぶい黄橙色の微砂混じり粘土の埋土であり、溝が掘削されたのち、この段差まで埋められたと考えられる。通路としての機能も兼ね備えたものに変化したことも考えられる。上層のにぶい黄橙色粘質シルトからは土器（図52）が多量に出土した。

**1200ピット**（図24、図版19－３）　竪穴住居11と竪穴住居13の間に位置する。直径約0.1m、深さ約0.1mを測り、小形のヒスイ製勾玉（図67－９）が出土した。

**周溝墓１**（図44・45、図版32・33）　調査地西端で１基のみ検出した。約９m×13m以上の長方形を呈し、その中央に墓壙を配置する。盛土は残存していない。周溝は幅1.0～3.0m、深さ0.1～0.4mを測る。北東側の20周溝からは多量の土器が出土した。土器は散乱しており、その大半は破片である。他の周溝から遺物はほとんど出土していない。南東側の108周溝は両側の周溝とは途切れているが、西側は107周溝があり、埋め戻しをしていることがわかる。21墓壙は平面約2.9×1.5mの長方形を呈し、北東－南西方向を長軸としており、周溝の向きと合致する。深さ約0.6mを測り、壁面は垂直に掘り込まれている。墓壙内から木棺痕跡を認めることができ、底板は短辺約0.7m、長辺推定約2.2mを測り、北西側の側板は高さ約0.5mを測る。南東側の測板は外側に倒れている。小口板の状況は不明である。墓壙・木棺内から遺物は出土していない。周溝から出土した遺物（図61・62）から中期後葉に位置づけられる。

２．遺物

堆積土および遺構埋土から土器・石製品が出土した。但し、基本層序で記述したように、調査地には遺物包含層が後世に削平を受け、ほとんど残存しておらず、以下の報告では、遺構埋土からの出土遺物が中心となる。

弥生時代遺物の編年上の位置付けに関しては濱田延充1993「生駒西麓第Ⅲ・Ⅳ様式の編年」『弥生文化博物館研究報告　第２集』弥生文化博物館の成果を基礎とし、あわせて秋山浩三2004『平成11年度史跡池上曽根遺跡整備事業遺跡調査完了報告』（財）大阪府文化財調査研究センターが提示した区分（図表14の中期中葉、中期後葉）の表記を使用した。

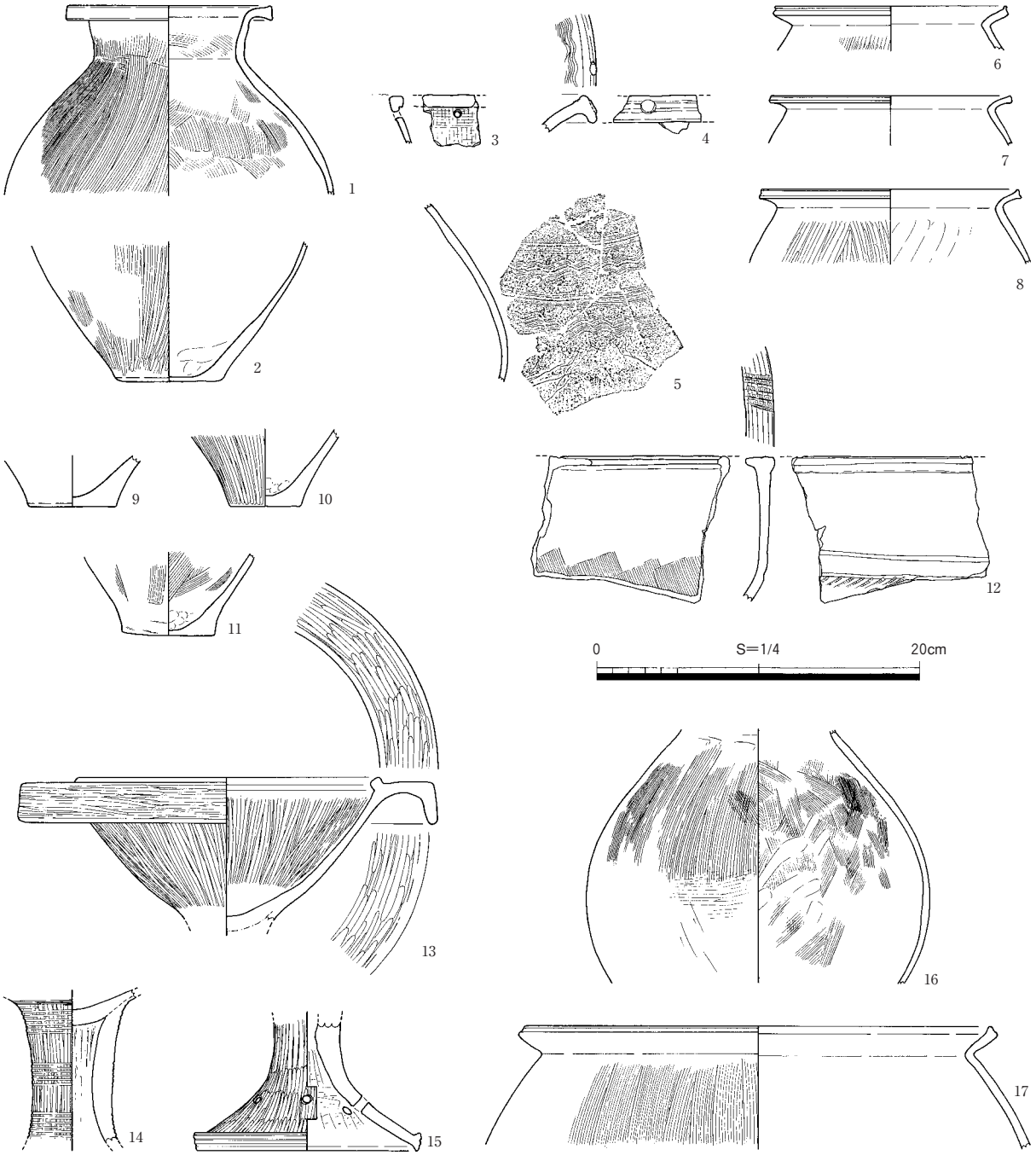



**図46　竪穴住居１出土遺物**

土器

図46（図版57－１～７）は竪穴住居１の出土遺物である。３は無頸壺であり、段状口縁を持ち、外面簾状文を施す。４は広口壺であり、口縁端に凹線文と円形浮文を施す。12の大形鉢の端面は内側に広く肥厚させ、凹線文及び櫛描文を施す。13の高杯は水平口縁をもち、内面突帯は口縁部より高い。内外面共に全面ミガキ調整を施す。竪穴住居１の出土遺物は濱田編年Ⅲ様式新段階・Ⅳ様式古段階にあたる。

図47－１～10は1055落込の出土遺物である。２の甕の口縁はあまり屈曲せず、端部は丸くおさめる。11の高杯は水平口縁をもち、内面突帯は口縁部より低い。口縁端面に凹線を施す。これらは濱田編年Ⅲ様式新段階・Ⅳ様式古段階にあたるが、やや古い様相の土器もみられる。

図48－３（図版58－11）の壺外面には幅の広い簾状文が施されている。

図49は７トレンチで検出された大型竪穴住居群からの出土遺物である。

１～10（図版58－１～９）は竪穴住居９から出土したものである。２は口縁を丸くおさめている。７は台形土器であり、上面・体部外面共にミガキ調整されている。竪穴住居９出土遺物は主に濱田編年Ⅲ様式中段階を示すが10の脚部のように凹線文がみられ、やや新しい要素の遺物も含まれている。

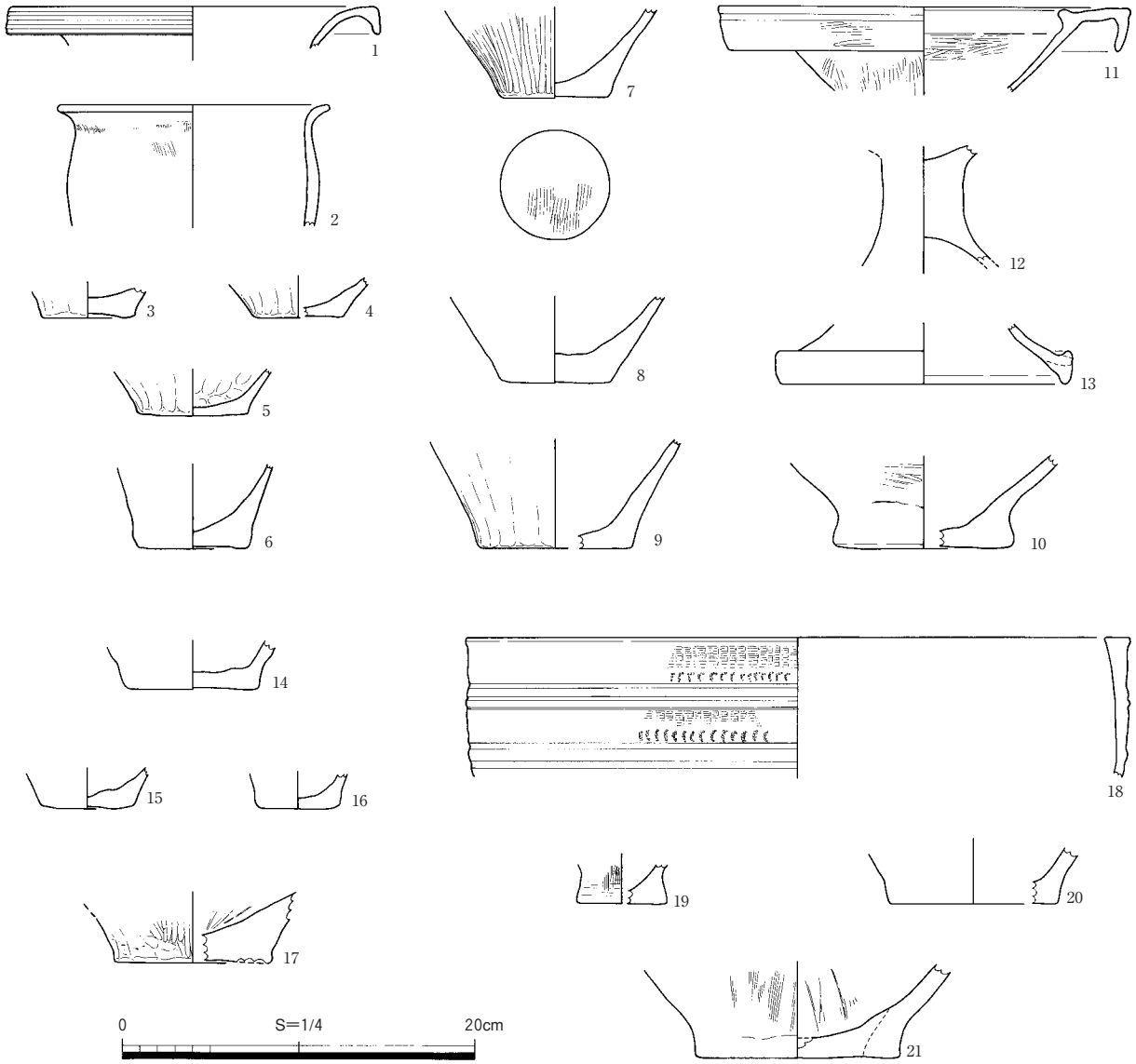



**図47　573・2330土坑、1055落込、1321・1383・1806ピット出土遺物**

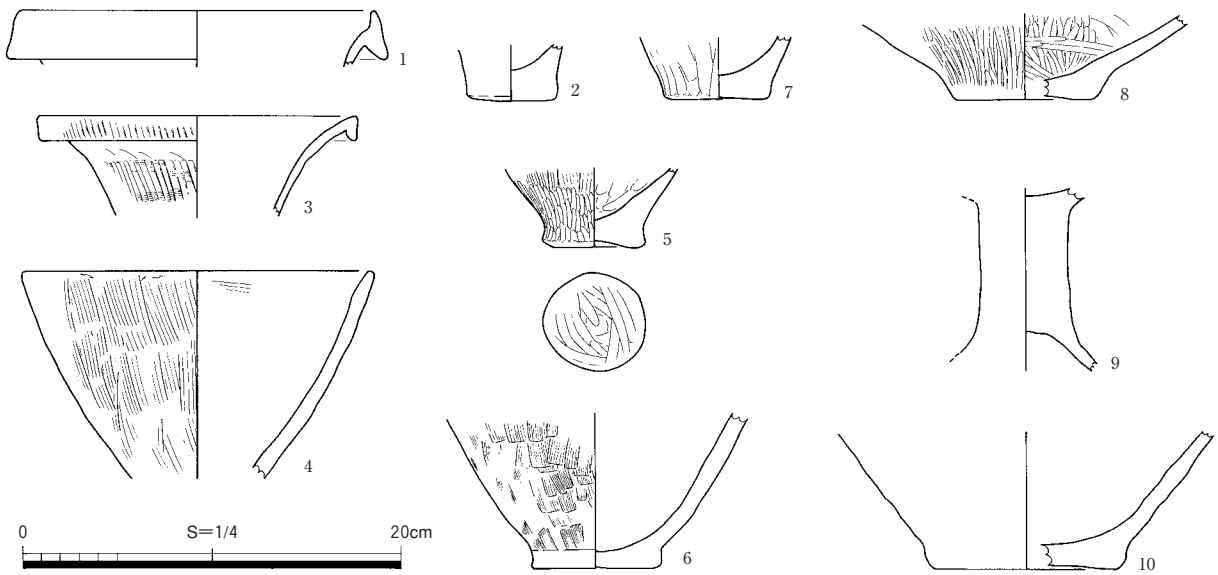



**図48　竪穴住居３・４・５・７、2878・3200土坑、3318ピット出土遺物**

14～28（図版61－19・20）は竪穴住居11から出土したものである。14の広口壺は磨耗が著しく文様等は不明である。15の甕口縁部はやや長く伸びた形態である。16の甕口縁端部は内方へつまみ上げている。竪穴住居11出土遺物は、おおよそ濱田編年Ⅲ様式中段階にあたる。

29～31（図版61－15・16）は竪穴住居14の出土遺物である。29は段状口縁の鉢である。30の広口壺は垂下した口縁に櫛描簾状文を施す。竪穴住居14の出土遺物は濱田編年Ⅲ様式中段階から新段階にあたる。

図50は４トレンチで検出された大型竪穴住居群からの出土遺物である。

９～13（図版59－１・２）は竪穴住居23の出土遺物である。12の甕は外面に幅広のミガキ調整を施し、内面は工具によるナデ調整を行う。13の甕口縁は屈曲し、口縁下端部に刻目を施す。竪穴住居23出土遺物は濱田編年Ⅲ様式古段階から後期末まで含まれる可能性がある。

図51－１～７（図版59－３～５）は388土坑の出土遺物である。１の高杯には凹線文が施されている。388土坑の出土土器は濱田編年Ⅳ様式古段階から新段階にあたる。

10～18（図版59－６・７・60－１～５）は767土坑の出土遺物である。12は有段口縁壺であり、凹線文、押捺突帯を有する。13の壺は胴部最大径が下半に位置する。14～16にも凹線文が施されている。凹線文を施すものが多くみられ、濱田編年Ⅳ様式古段階にあたる。

図52（図版60－６～９）は789溝の出土遺物である。濱田編年Ⅲ様式古段階から新段階にあたる。

図53は５トレンチで検出された竪穴住居の出土遺物である。

４～９（図版61－11～13・62－５）は竪穴住居36の出土遺物である。５・６は鉢であり、段状口縁を有し、外面は櫛描簾状文、内面はミガキ調整を施す。６の簾状文は丁寧に施されている。９の竹管文は貫通していない。竪穴住居36出土遺物は濱田編年Ⅲ様式新段階にあたる。

10～20（図版61－１～９）は竪穴住居35の出土遺物である。10の甕口縁は屈曲し、丸くおさめる。11の甕の口縁は短く、丸くおさめる。18・19の脚部には穿孔がみられる。竪穴住居35出土遺物は濱田編年Ⅳ様式古段階から新段階にあたる。

図54－１～５（図版62－６）は1512土坑の出土遺物である。１の壺のハケメは粗く、櫛描直線文は粗雑に施文されている。これらは濱田編年Ⅲ様式中段階にあたる。

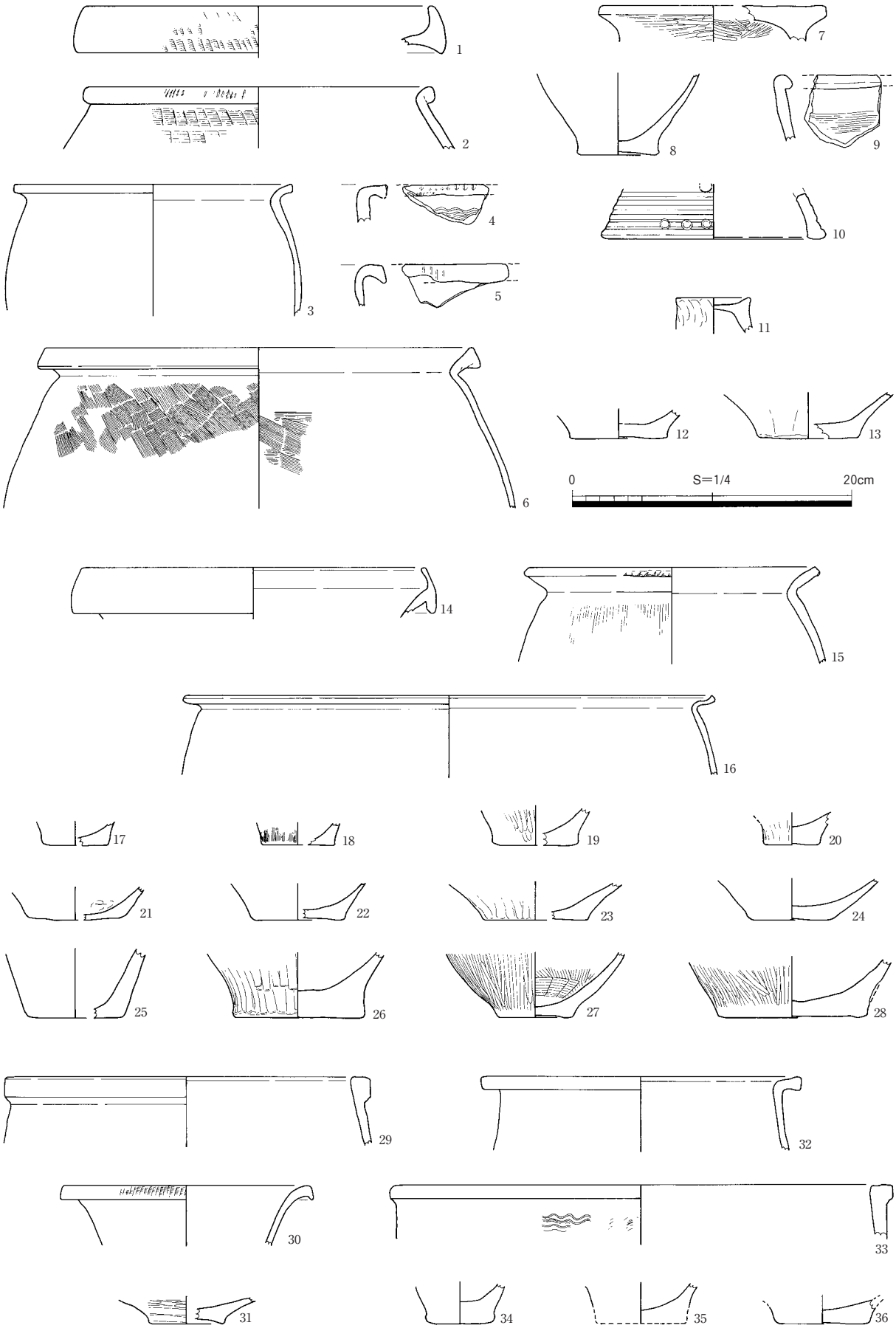



図49　竪穴住居９・10・11・12・13・14出土遺物

図55（図版63－４～９）は1684土坑の出土遺物である。３・４は受口をもつ壺である。５は有段口縁壺である。６の頸部には押捺突帯を有する。濱田編年Ⅲ様式新段階にあたる。

図57－１～11（図版64－２～６）は1927土坑の出土遺物であり、濱田編年Ⅲ様式新段階にあたる。但し、７・８の高杯脚部は中空になっておらず、古い様相を示す土器も含まれている。

12～23（図版64－１）は1800土坑の出土遺物であり、濱田編年Ⅲ様式古段階から中段階にあたる。15の高杯脚部の器壁は厚みがある。

図58－１～６（図版64－７・65－１）は1956土坑の出土遺物であり、濱田編年Ⅲ様式古段階から中段階にあたる。４の把手付鉢の口縁は直線的に伸びている。

13～23（図版65－４～７）は1569土坑の出土遺物であり、濱田編年Ⅳ様式古段階にあたる。13の口縁端面には刺突文を施す。15は器台であり、太い凹線文が巡る。16は細頸壺の口縁部であり、櫛描波状文の下方に４条の凹線文が巡る。

図59－１・２（図版66－１）は竪穴住居39の出土遺物である。２の壺底部の器壁は薄い。濱田編年Ⅲ様式古段階にあたる。後述する周溝墓１下層の遺構であり、層位的な先後関係が明らかな資料である。

３～９（図版66－２・３）は竪穴住居18の出土遺物であり、濱田編年Ⅲ様式古段階から中段階にあたる。

11～24（図版66－５・６・67－１～６）は56土坑の出土遺物であり、濱田編年Ⅲ様式新段階にあたる。16は細頸壺の口縁であり、あまりふくらみを持たず、伸びる。

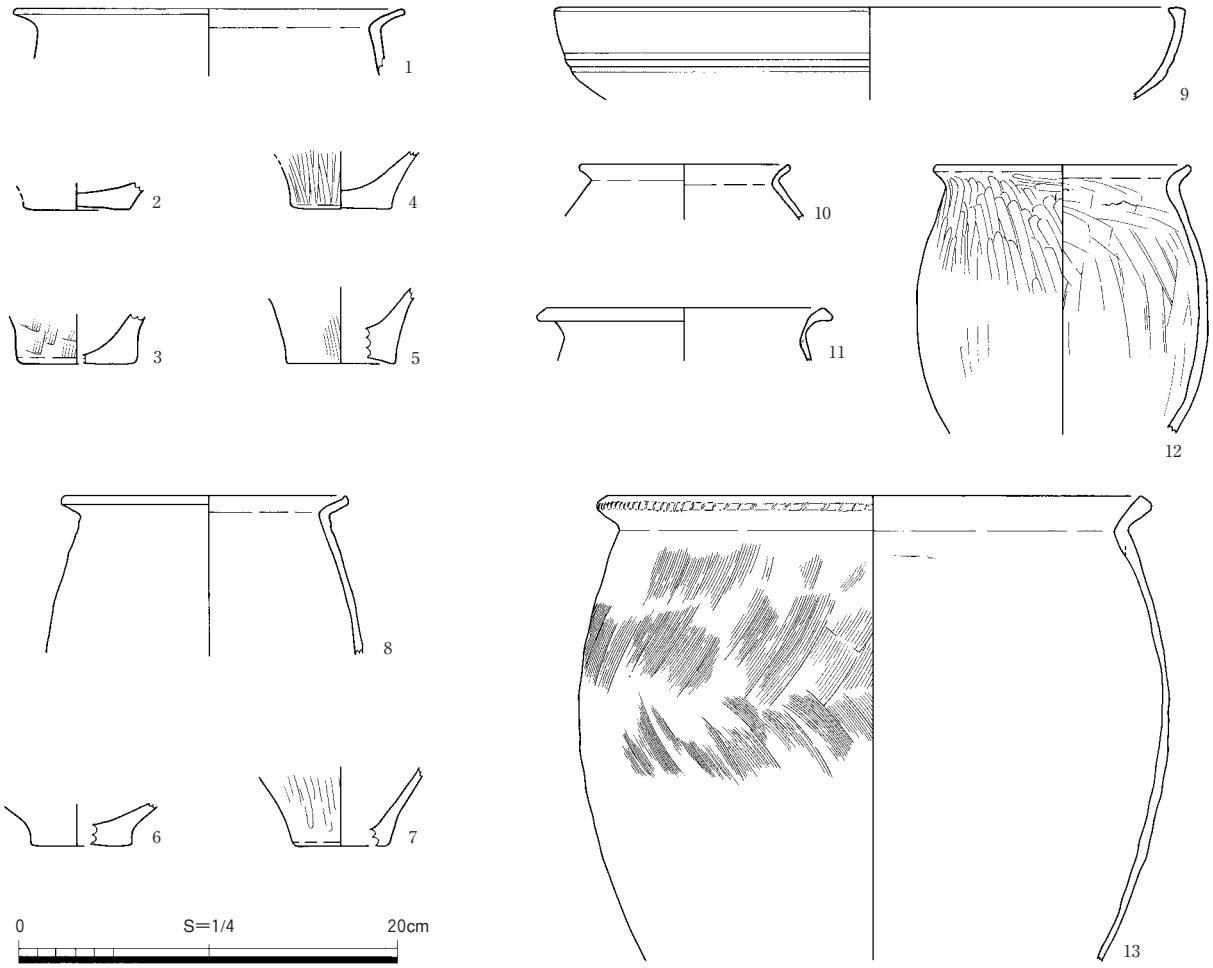



**図50　竪穴住居22・23・24出土遺物**

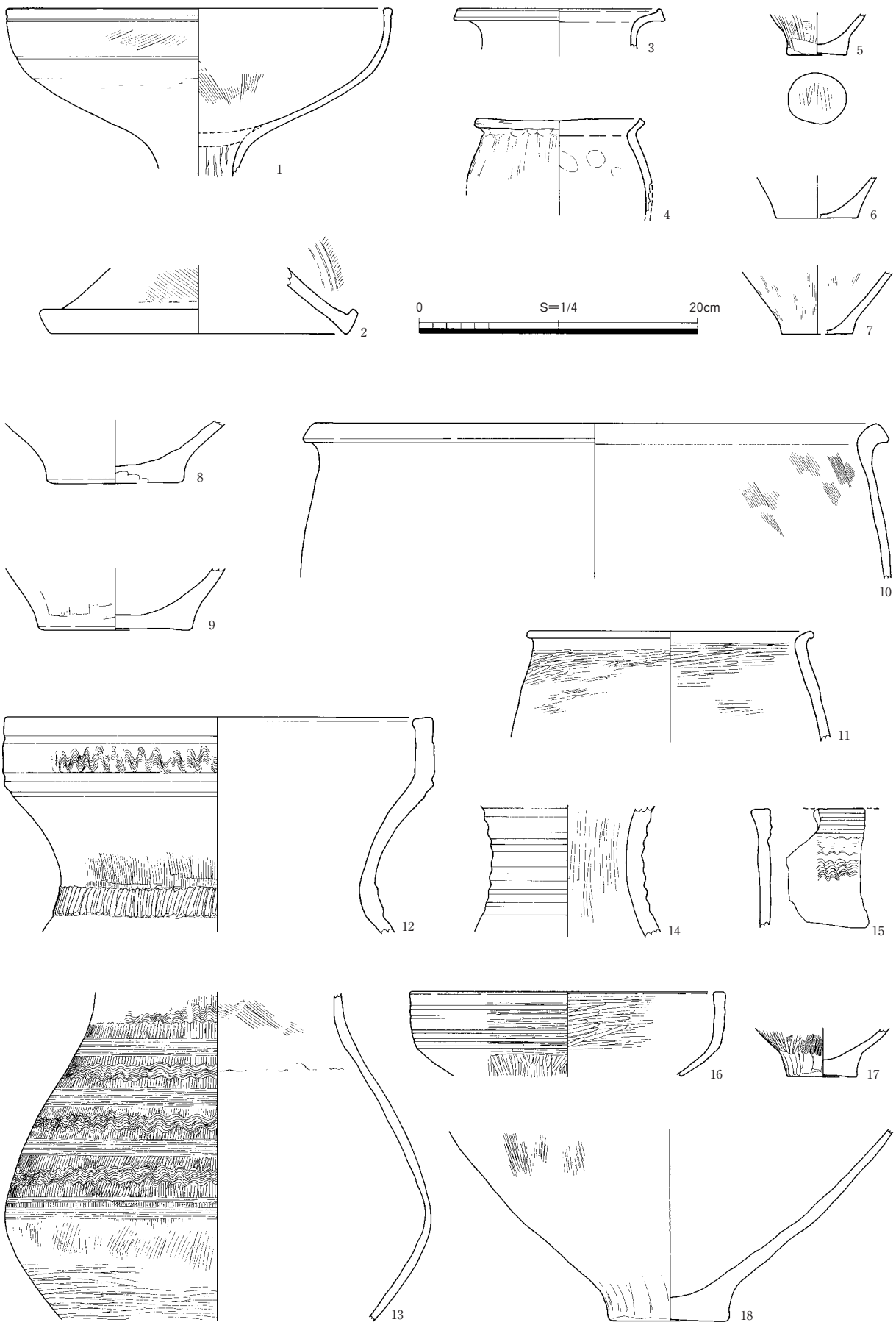



図51　223・388・767土坑、260ピット出土遺物

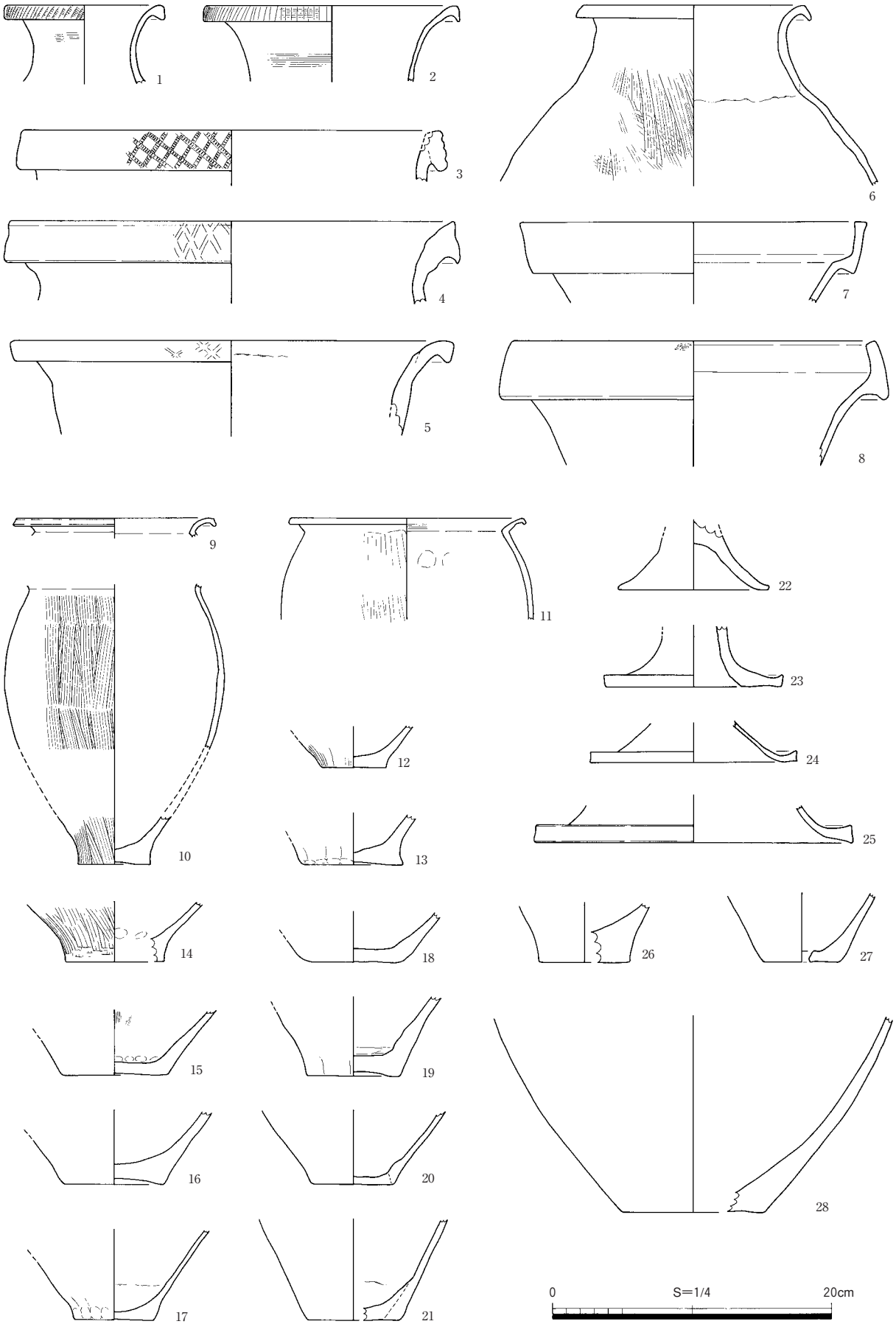



**図52　789溝出土遺物**

図61・62（図版68）は周溝墓１の周溝から出土した遺物である。９の広口壺は口縁が垂下し、端面を有する。櫛描簾状文を施すが、やや粗雑な施文である。10の脚部はなだらかに外方に伸びており、柱状にはなっていない。11の甕口縁はあまり屈曲していない。13の甕口縁は立ち上がり気味である。18の大形甕の口縁はまだ、それほど垂下していない。これらは濱田編年Ⅲ様式新段階にあたる。

図63（図版66－８）は包含層出土遺物である。13・14は頸部に押捺突帯文を有する壺である。14は縦方向に紐状の突帯を等間隔に付着させている。19は脚台付鉢である。体部から口縁部にかけて、あまり屈曲することなく、丸く流れる。外面の文様には櫛描の扇形文を施す。これらは濱田編年Ⅲ様式中段階にあたる。

石製品

遺構埋土・包含層から石鏃、中型尖頭器、大型尖頭器、石錐、石斧、磨製石剣、石庖丁、投弾、敲石、

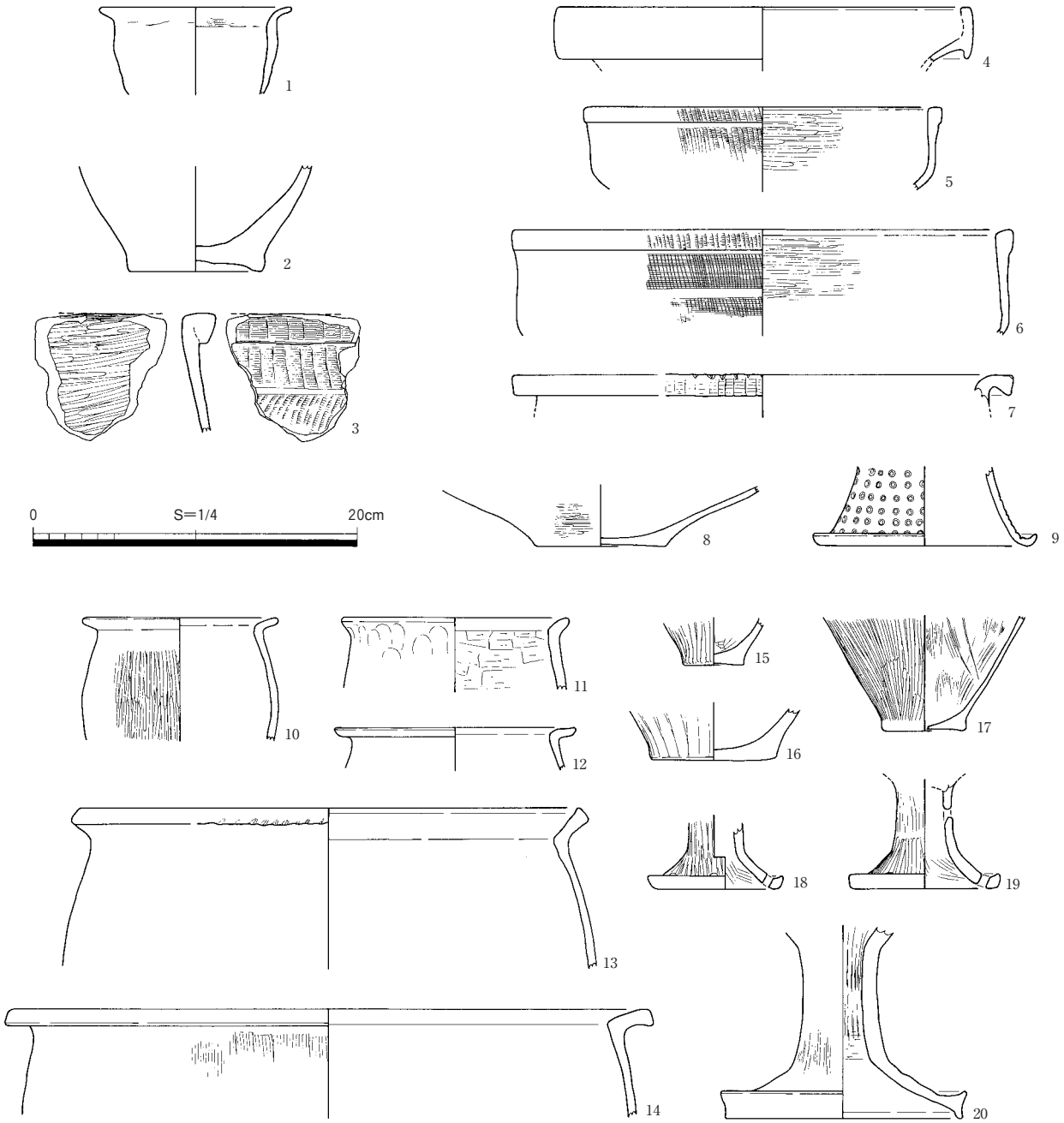



**図53　竪穴住居35・36・37・38出土遺物**

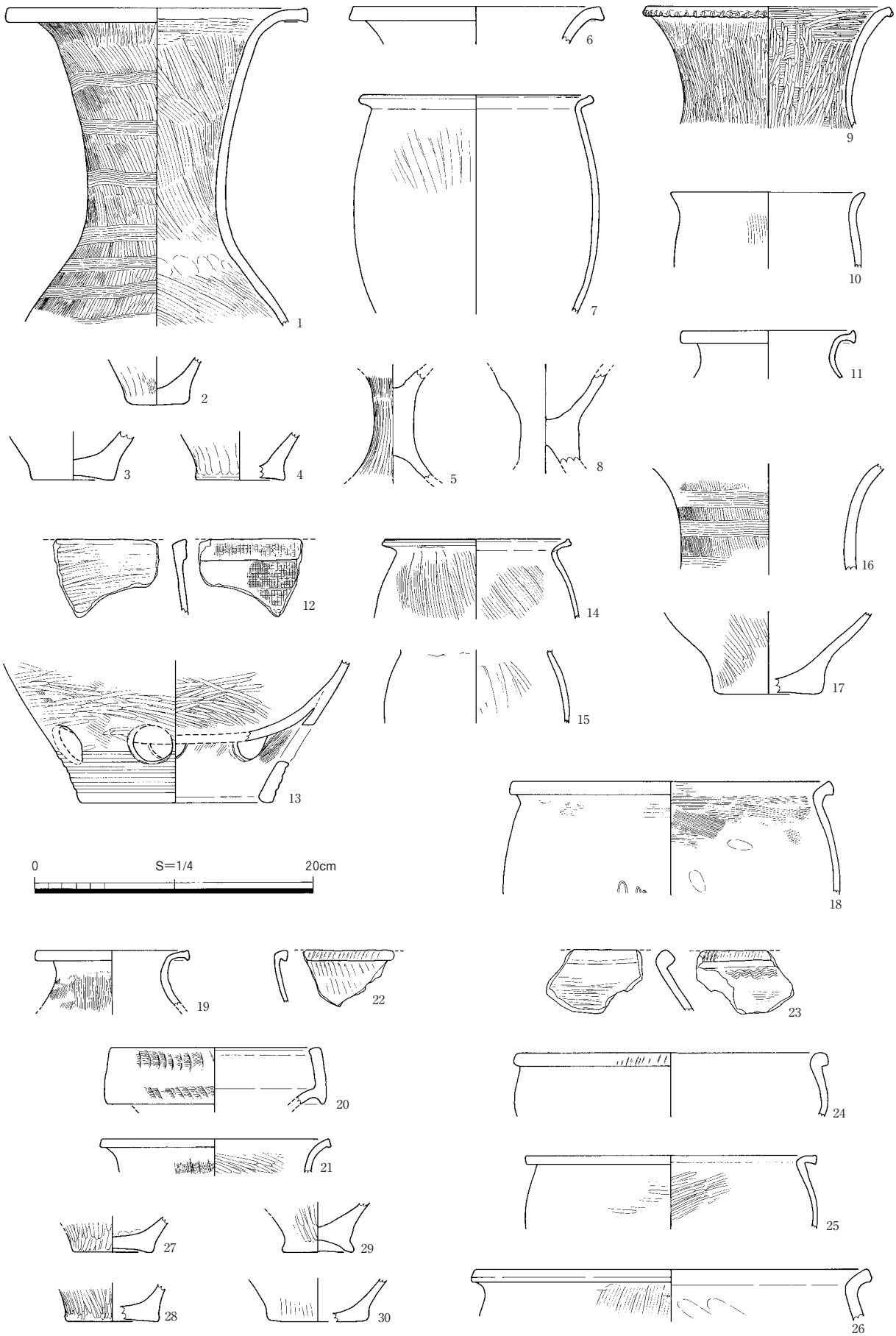



図54　182・202溝、197・1512・1516・1721土坑、1474・1483・1494ピット出土遺物

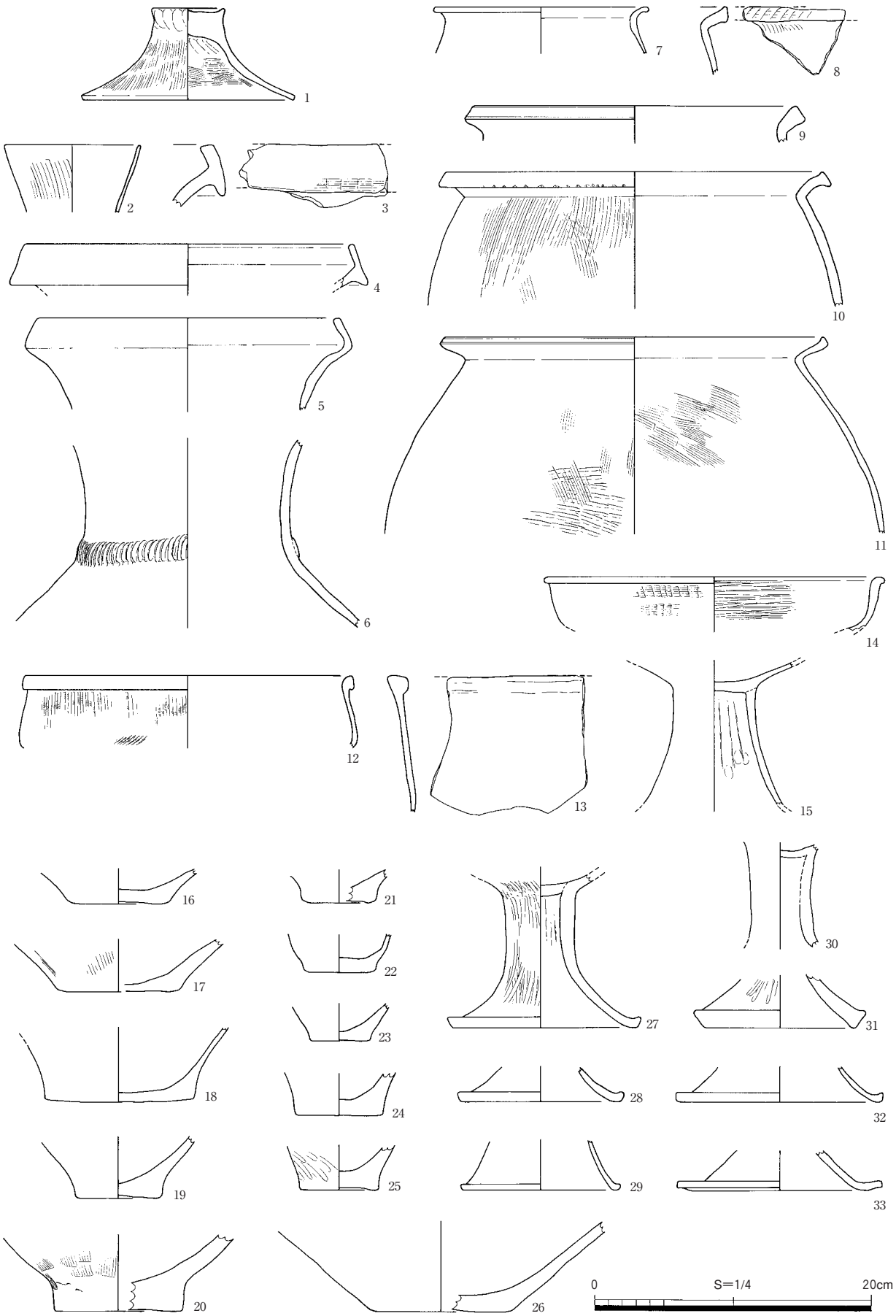



図55　1684土坑出土遺物

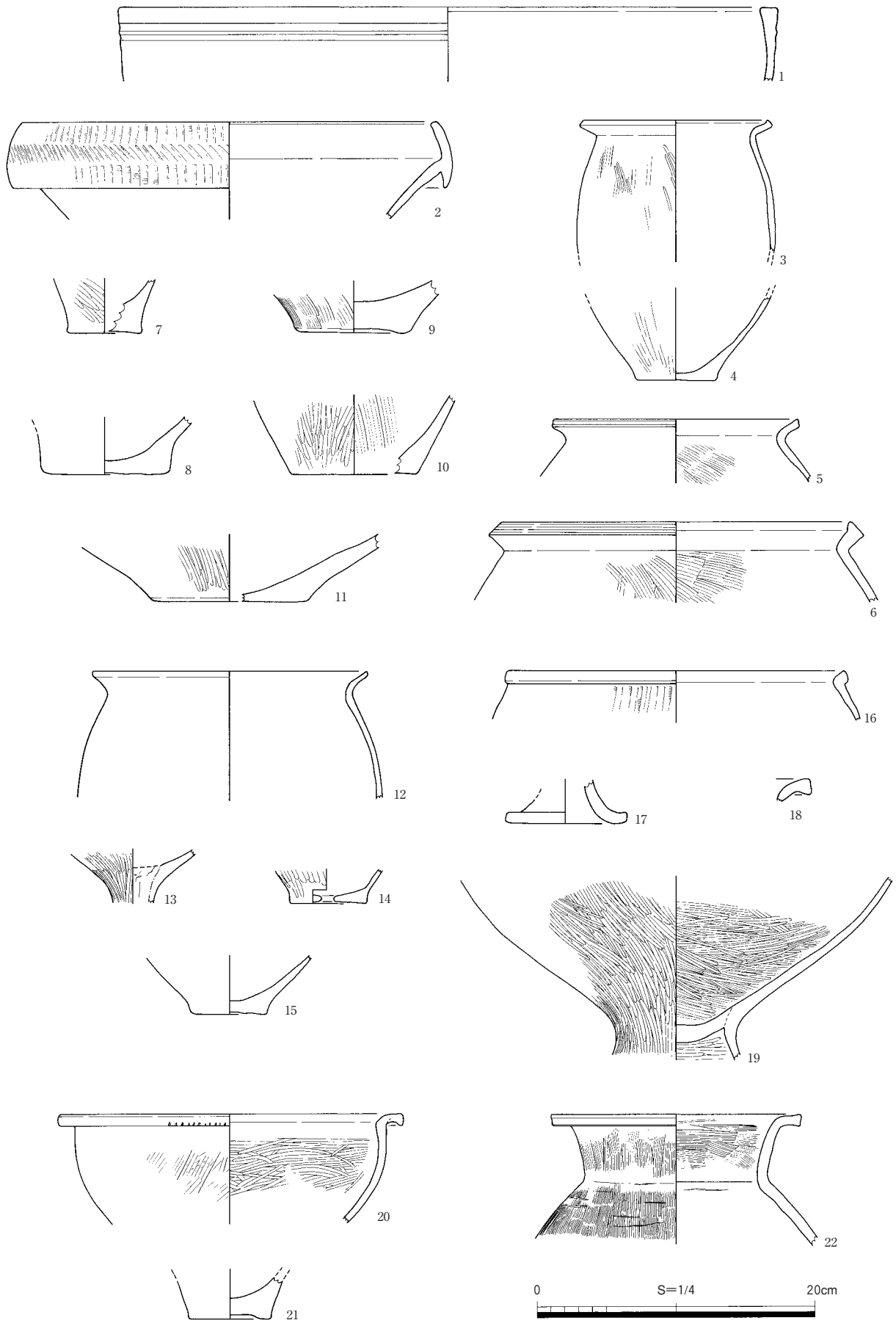



図56　1708・1714・1715・1716・1756・1925土坑、1749ピット、1751溝出土遺物

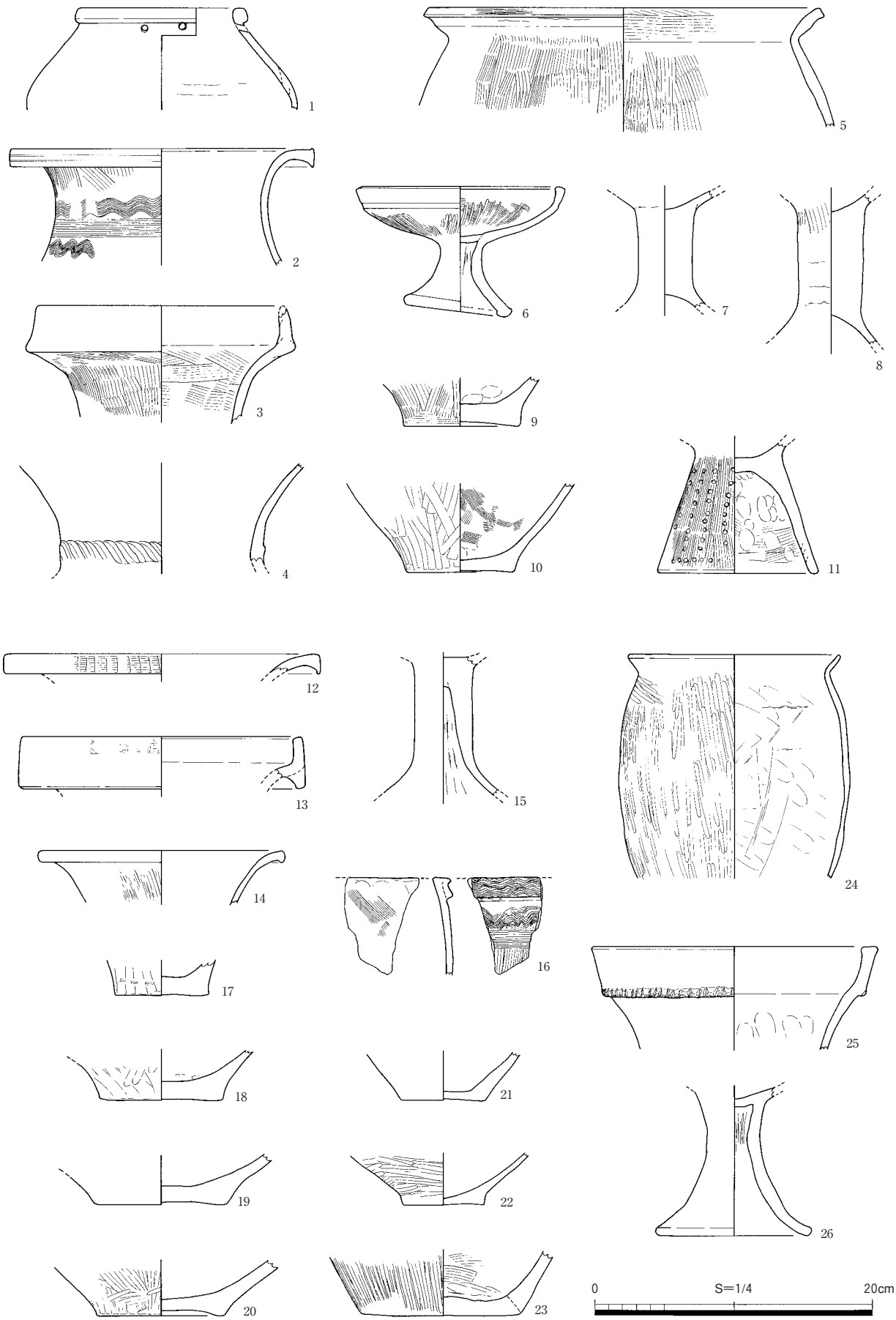



図57　1800・1886・1927・1992土坑出土遺物

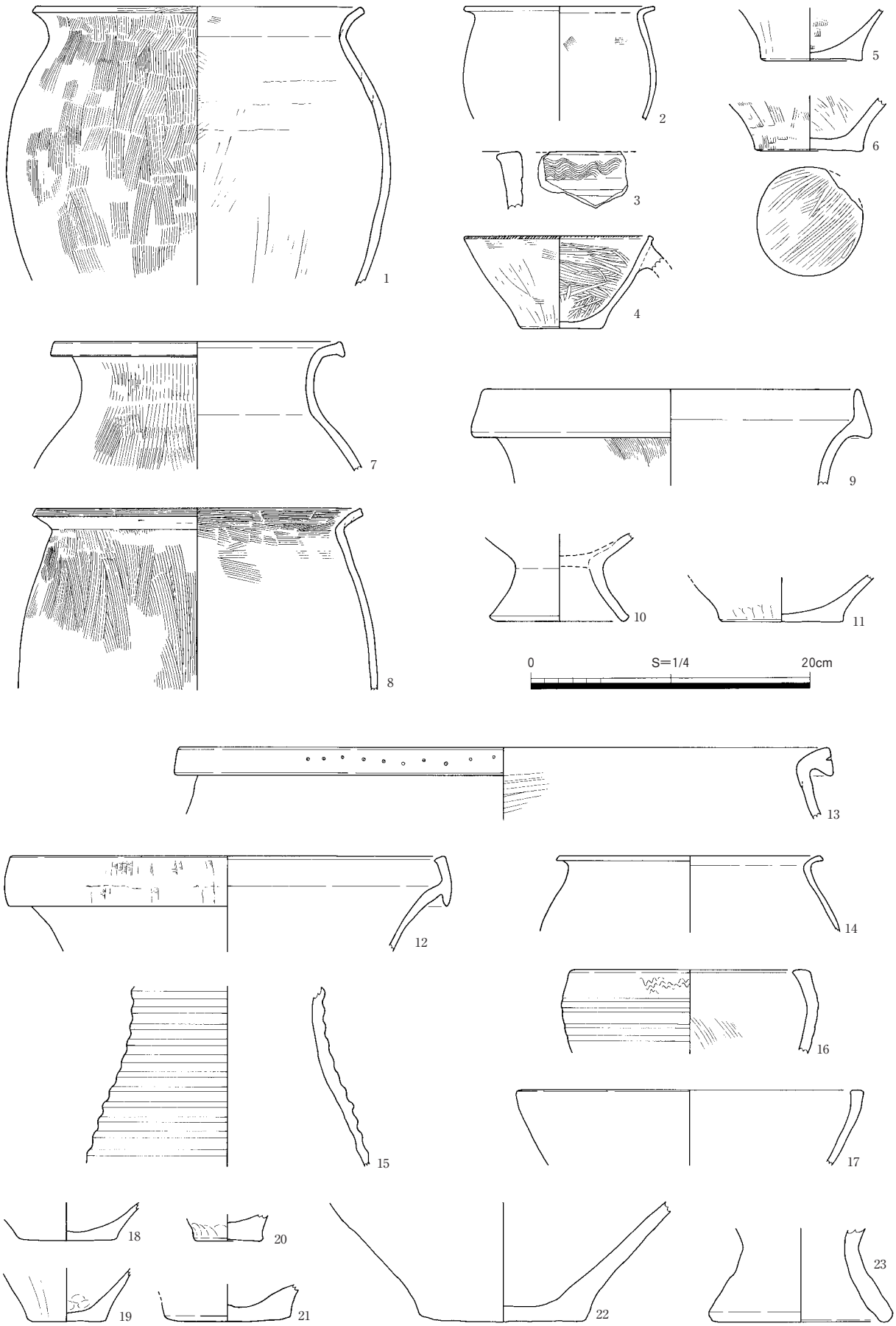



図58　1569・1956・1957・1991土坑、1922溝、2090ピット出土遺物

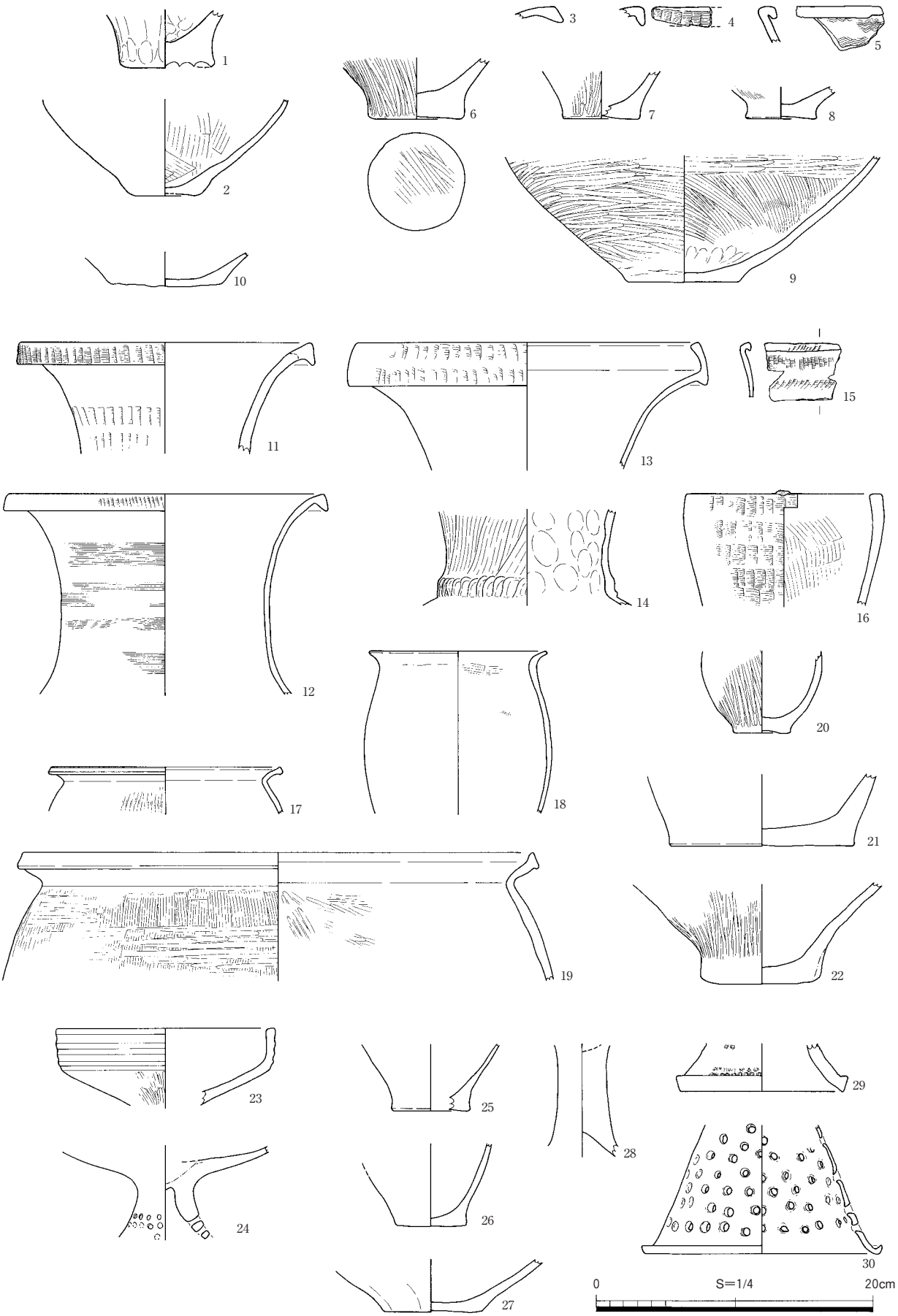



図59　竪穴住居18・39、42・55・56土坑出土遺物

砥石、スクレイパーが出土した。

石製品の記載にあたっては、秋山浩三2004『平成11年度史跡池上曽根遺跡整備事業遺跡調査完了報告』（財）大阪府文化財調査研究センターが提示した呼称名称を使用した。

**磨製石剣**　竪穴住居13の覆土（図67－６、図版70－６）と竪穴住居24覆土（図67－７、図版70－７）よりそれぞれ1点出土した。

図67－６は粘板岩製で、縁辺素材を使用している。長さ15.0㎝、幅2.8㎝、厚さ1.0㎝を測る。

基端部は直角に断ち落としたように面を作り出しており、基部両側縁に長さ7.2㎝、幅0.15㎝を測る研磨面がある。これは柄を装着する部分と考えられる。基部には斜め方向の研磨痕が認められる。中央付近で研ぐ角度を変え、明瞭な鎬を作り出している。刃部の研磨痕は不定方向で、断面は杏仁形を呈している。鉄剣形の特徴とは若干異なるが、茎があることから木葉形ではないと考えられる。基部がやや屈曲していることから、転用品あるいは再加工品である可能性が高い。

図67－７は粘板岩製で、覆土からほぼ完存状態で出土した。長さ14.5㎝、幅2.7㎝、厚さ0.6㎝を測る。基部両側縁に長さ6.0㎝、幅0.2㎝を測る研磨面があり、石器使用時に柄を装着する部分と考えられる。剣身には、斜め、あるいは縦方向の研磨痕が認められ、明瞭な鎬を作り出している。また、断面形状は菱形を呈していることから、鉄剣形である。

**磨製石鏃**　竪穴住居24から図67－８（図版70－８）の磨製石鏃が出土した。長さ5.6㎝、厚さ0.2㎝を測る。薄く剥離した粘板岩を利用し、刃部を付けている。

**勾玉**　竪穴住居11・13・14間のピット群のうち1200ピットから出土した。最大長1.0㎝、幅0.7㎝、厚さ0.3～0.5㎝を測る。白濁色の地に透明感のある薄い緑が入り込むもので、糸魚川産のヒスイと考えられる。半玦形を呈し、頭・尾端部には面を持ち、背面にはやや稜を残す。側面上部に両面穿孔があり孔断面は漏斗状である。これらの特徴を持つ勾玉は北陸地方で多く生産されている。

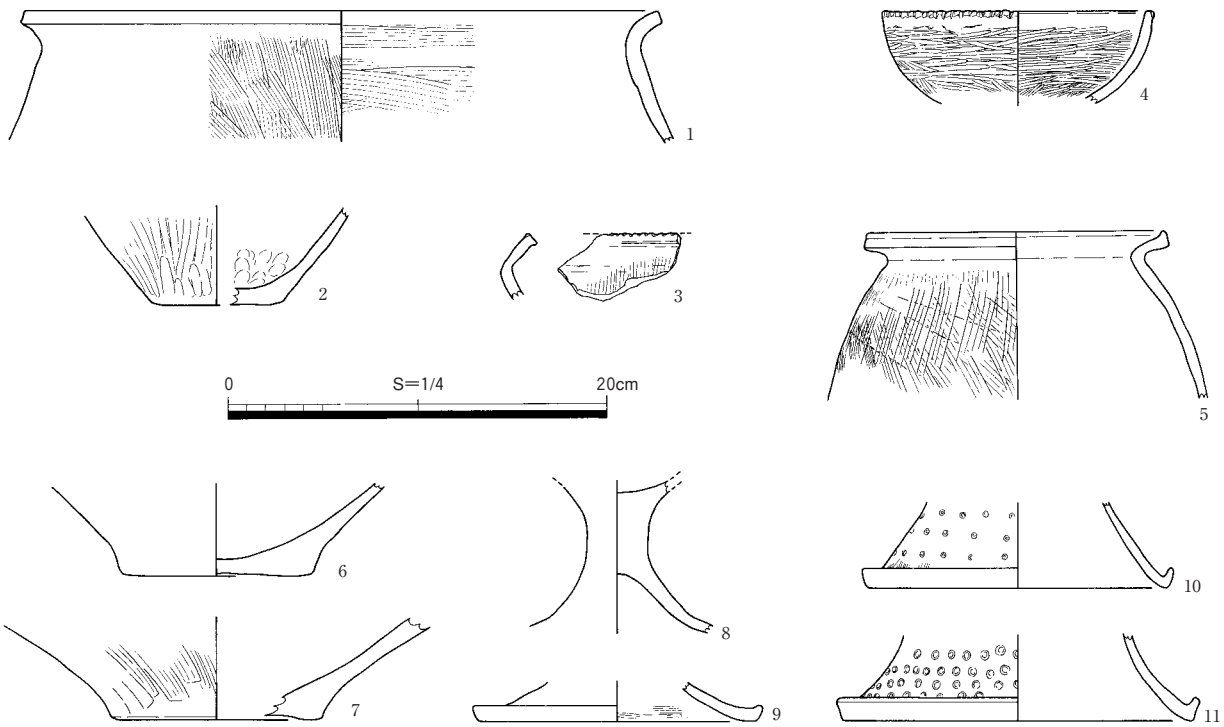



**図60　27谷、28溝、103・105・215土坑出土遺物**

**石斧**　図68－１（図版71－１）は柱状片刃石斧である。風化のためか、表面は砂岩状に肌が粗い状態になっている。図68－３（図版71－３）は磨製柱状片刃石斧である。全面丁寧な研磨を行うが、各面ごく一部に自然面を有する。図68－４・５（図版71－４・５）は石庖丁を再加工し、扁平片刃石斧をつくり出している。

**石庖丁**　出土した石庖丁は合計５点を数える（図67－１～５）。５（図版70－５）は粘板岩であり、成形のみで磨いておらず、未成品である。

**砥石**　図69－３～５が出土している。４（図版71－８）には２か所、丸い凹部がある。

**焼土塊**　表１の一覧のように焼土塊は４・５・７・８トレンチから出土している（図版58－10）。表面の一部に人為的な面状を観察できる個体もあるが、その性格は不明である。

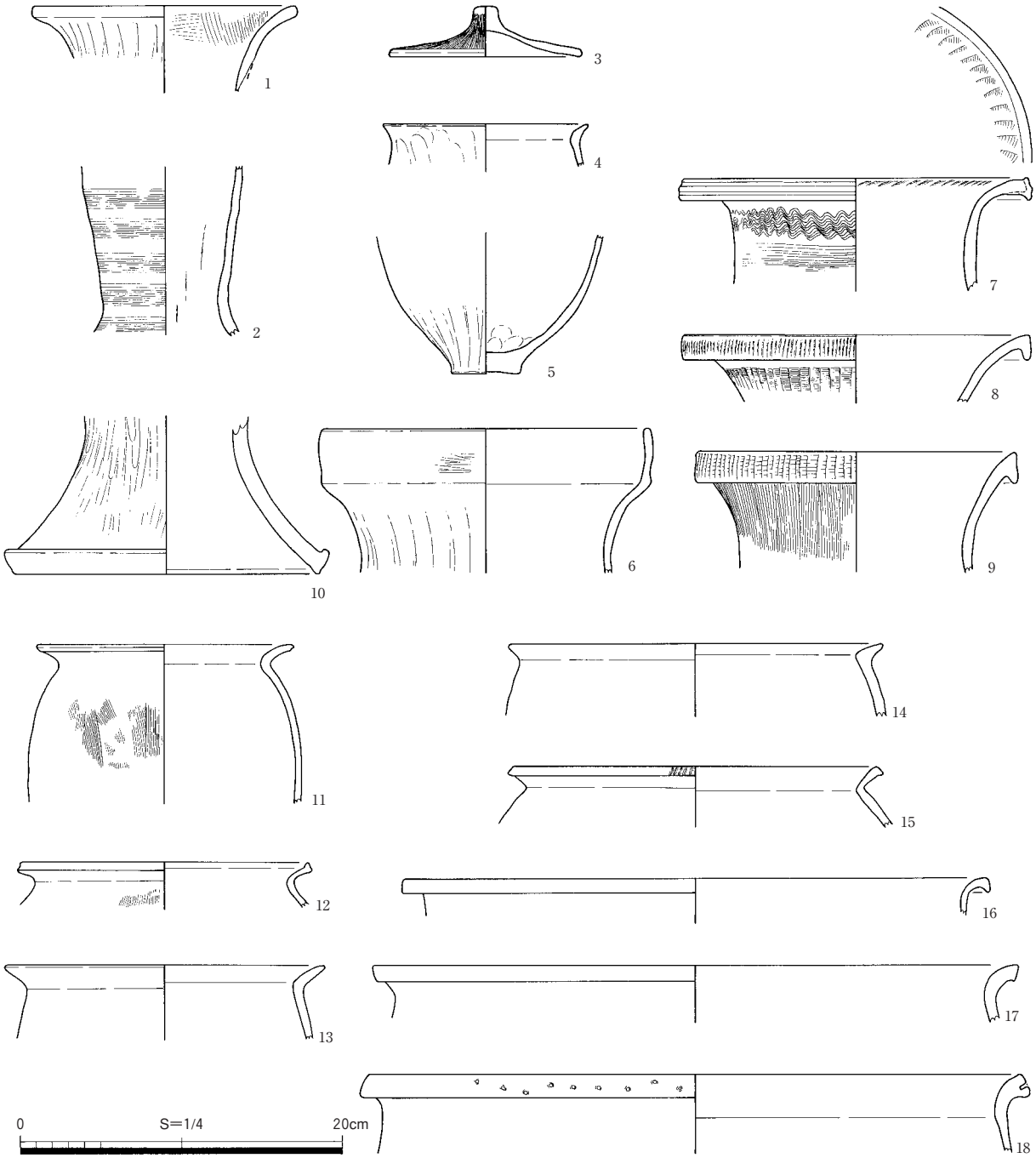



**図61　周溝墓１出土遺物**

表１　焼土塊出土遺構一覧

| 遺構名 | ﾄﾚﾝﾁ | 地区名 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 竪穴住居９(1420ピット) | 7 | 6M-3j | |
| 竪穴住居10(713ピット) | 7 | 6M-3j | |
| 竪穴住居10(703ピット) | 7 | 6M-3j | |
| 竪穴住居10(697ピット) | 7 | 6M-3j | |
| 竪穴住居10(681ピット) | 7 | 6M-3j | |
| 竪穴住居24(528ピット) | 4 | 6N-8c | |
| 竪穴住居36(1760溝) | 5 | 6N-7g | |
| 竪穴住居37(2179ピット) | 5 | 6N-7h | |
| 1714土坑 | 5 | 6N-8g | 竪穴住居35南東側 |
| 2878土坑 | 8 | 5M-8e | 竪穴住居５・６間 |
| 2090ピット | 5 | 6N-6f | 竪穴住居28北西側 |
| 792ピット | 4 | 6N-5c | 竪穴住居26北西側 |
| 249ピット | 4 | 6N-6b | 竪穴住居24東側 |

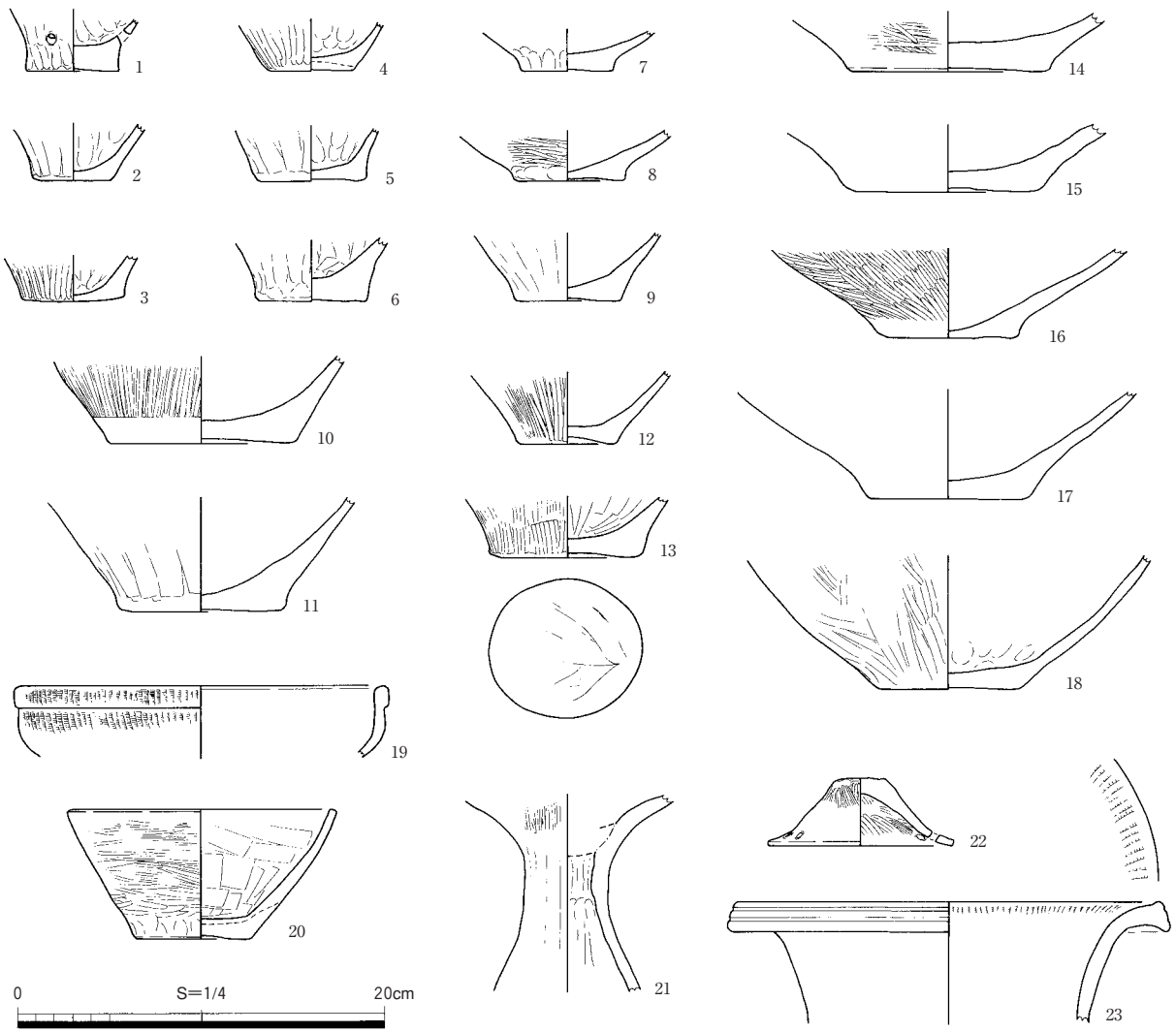



図62　周溝墓１出土遺物

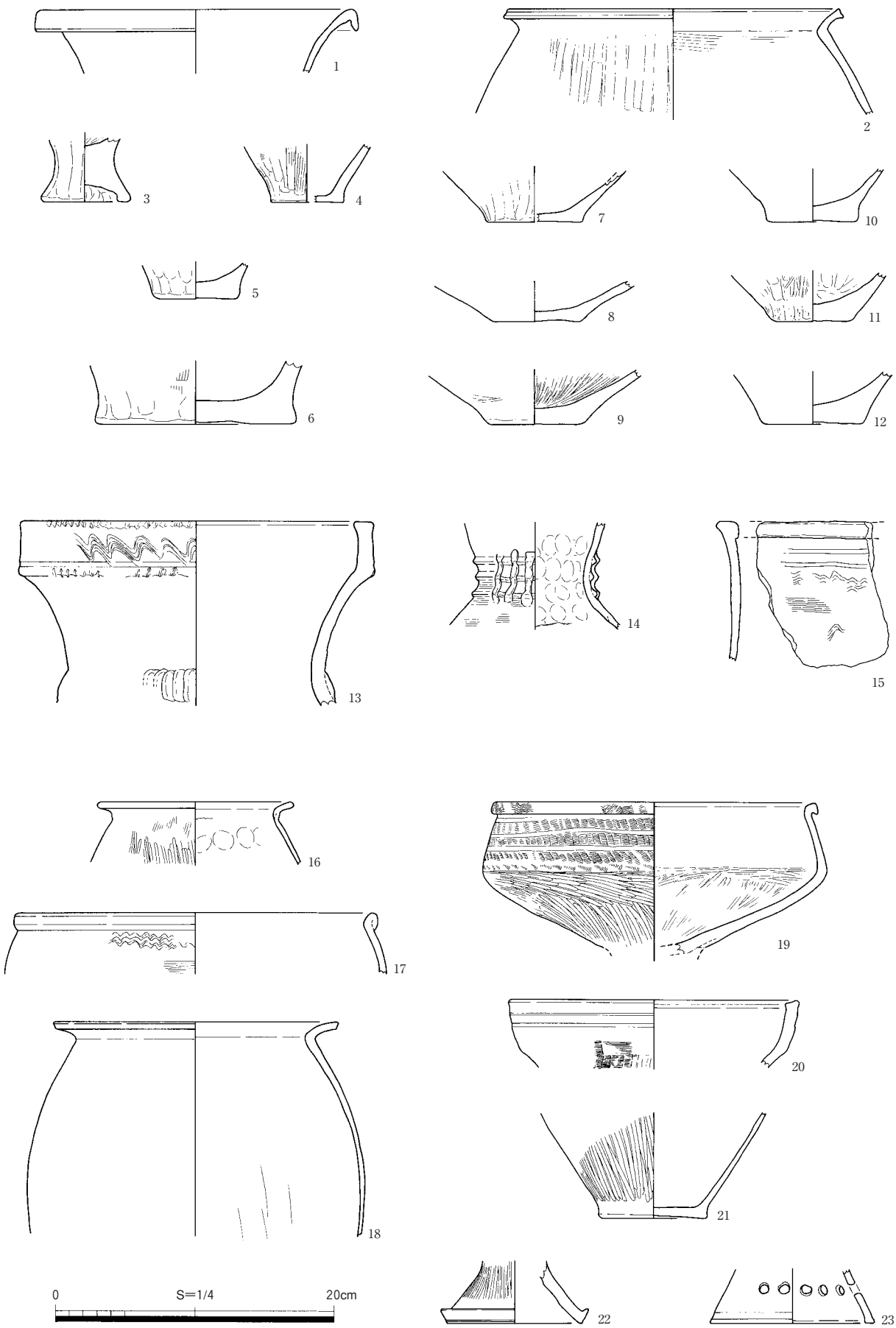



**図63　谷部第１・第２層、包含層出土遺物**

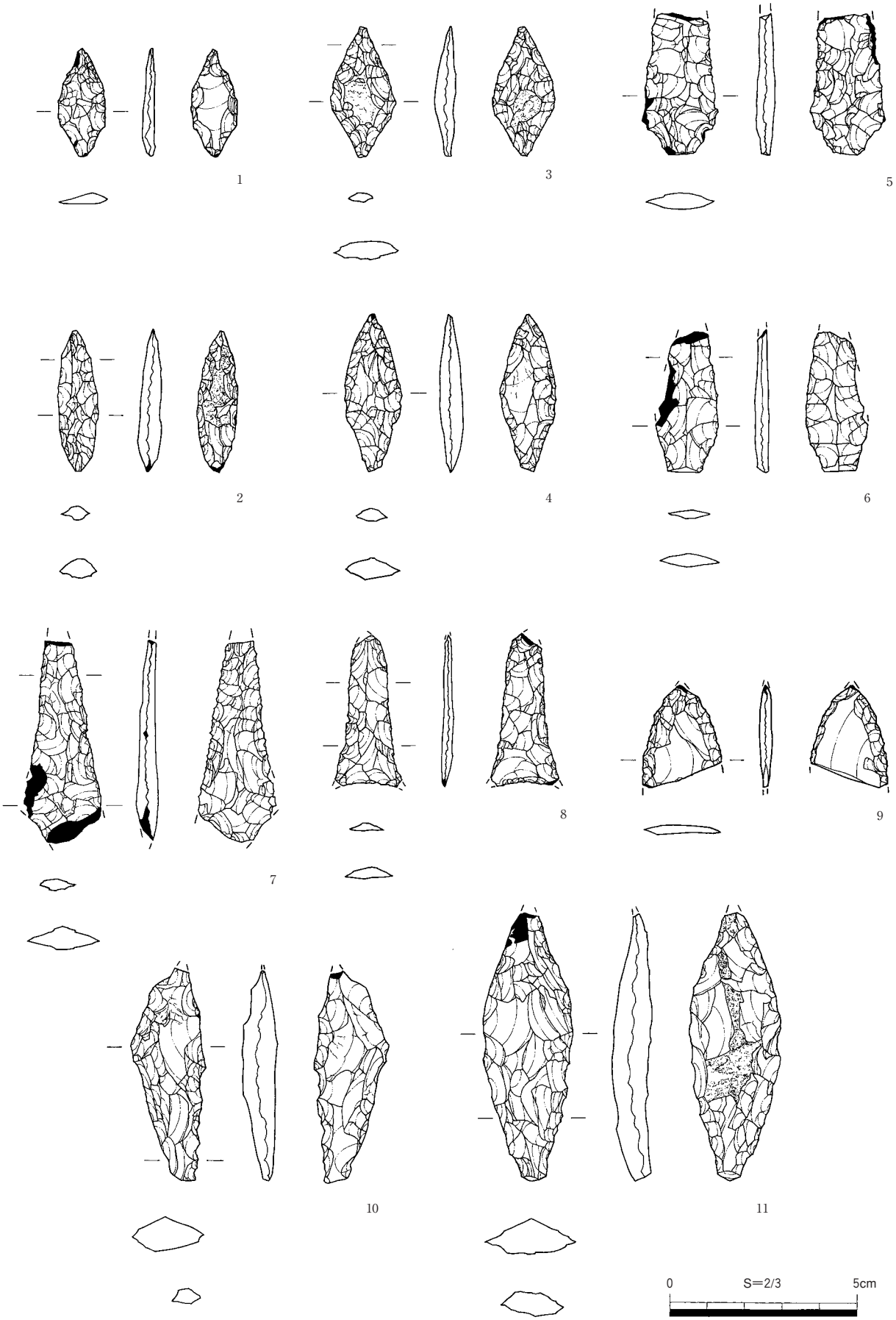



図64　石器（竪穴住居３・４・10・12・13・14、444土坑、包含層）

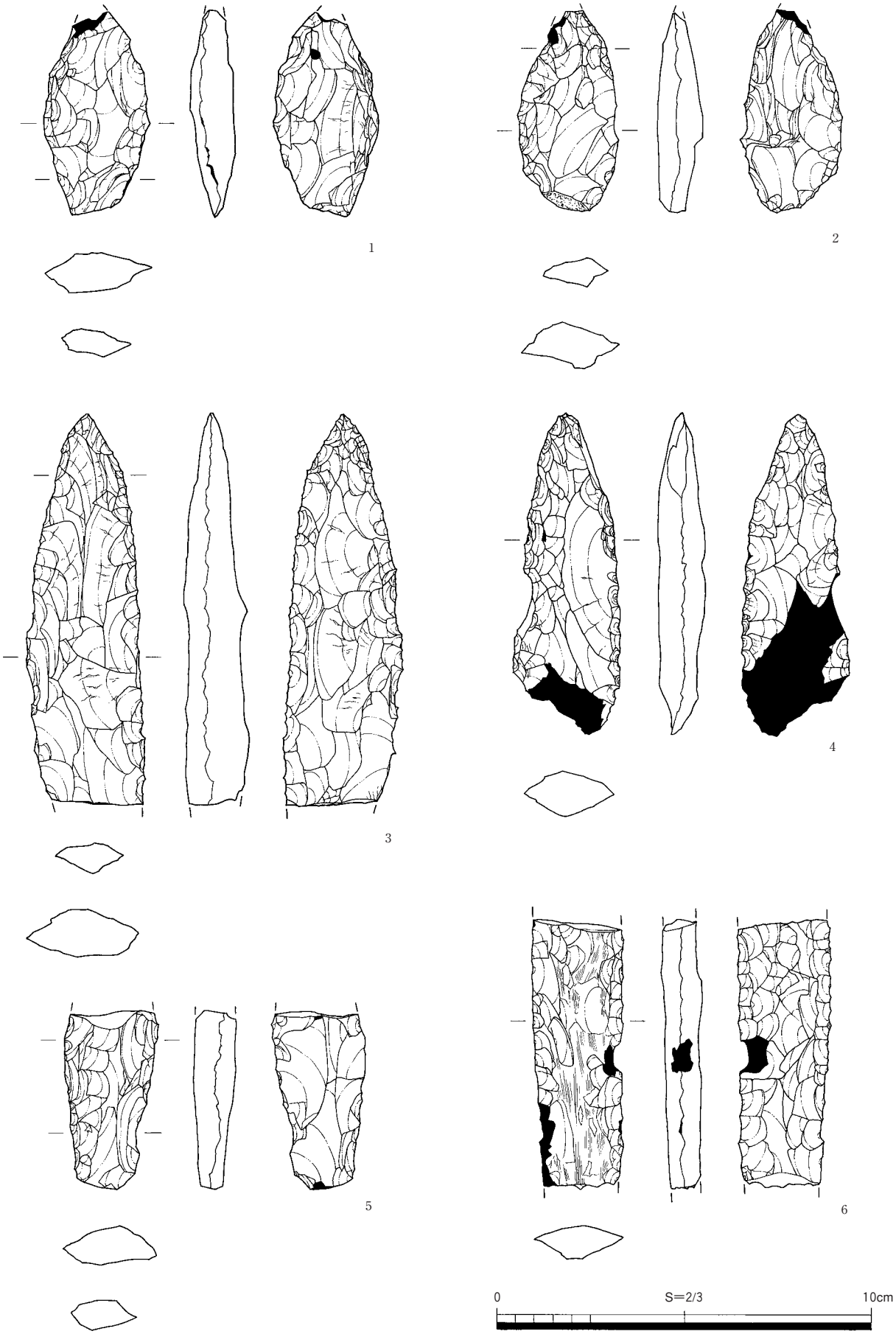



図65　石器（竪穴住居11・13・24、789溝、1384ピット、谷部第１層）

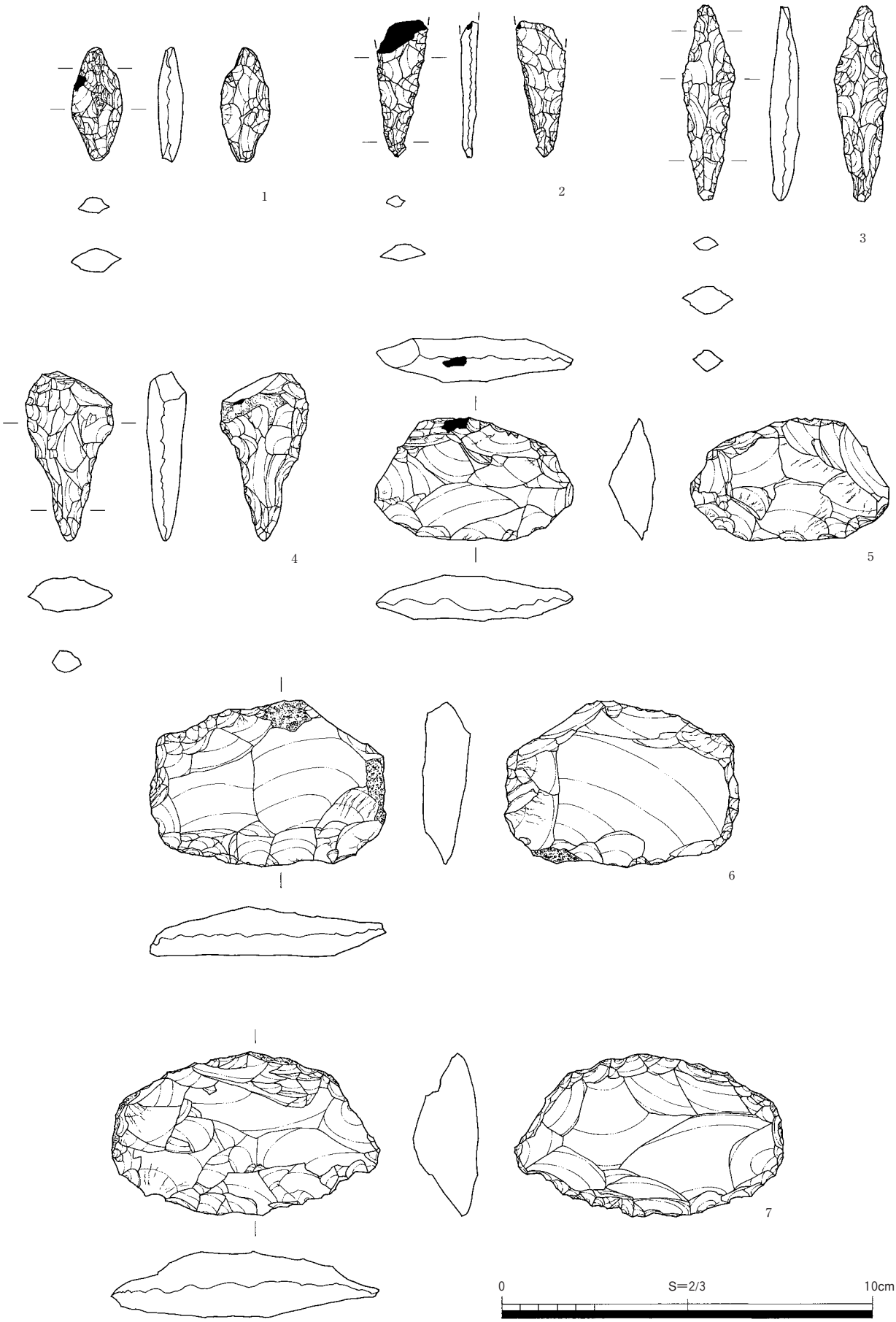



図66　石器（竪穴住居5・13・29、789溝、875ピット）

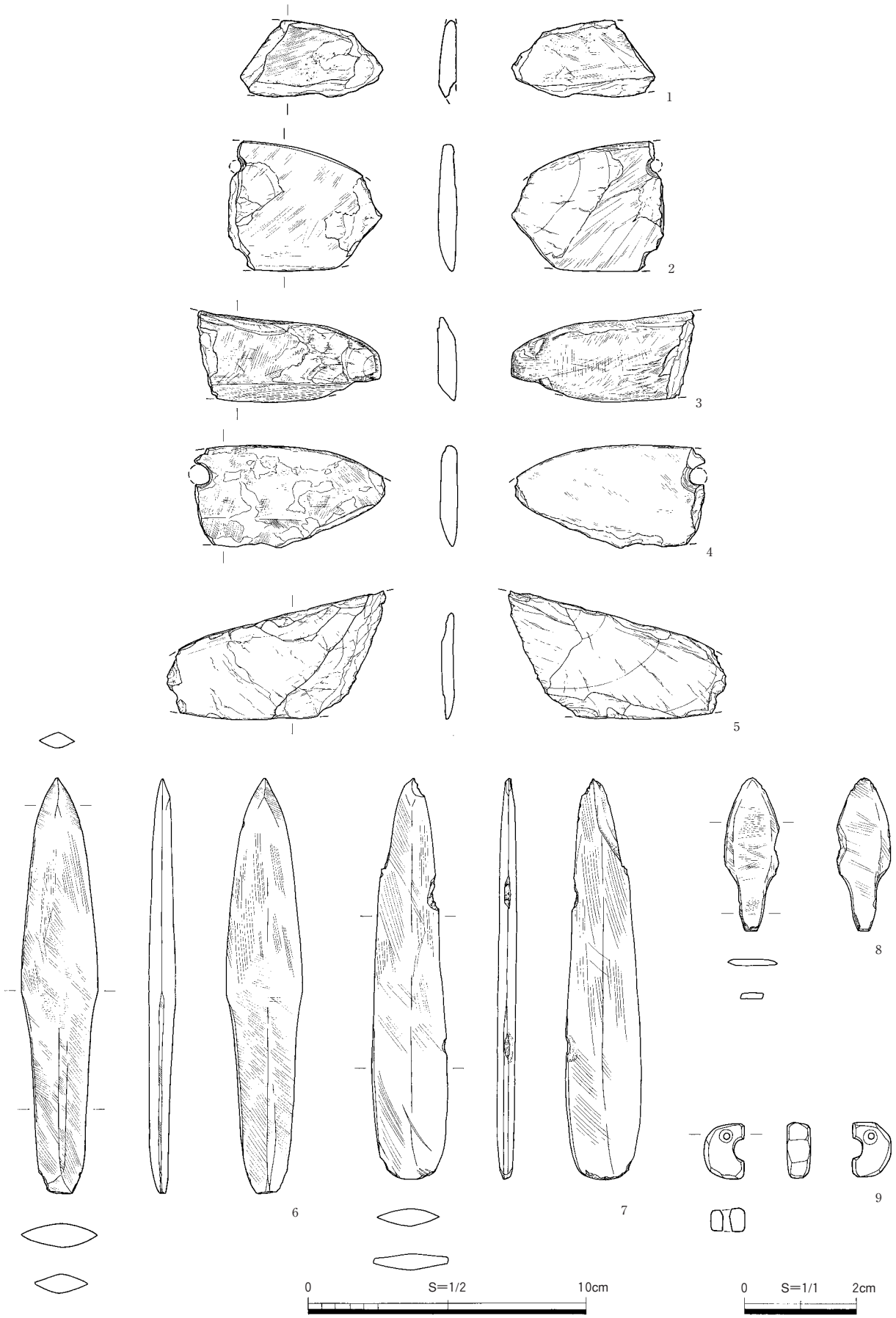



図67　石器（竪穴住居13・24・29・30、197・1569土坑、1200ピット）

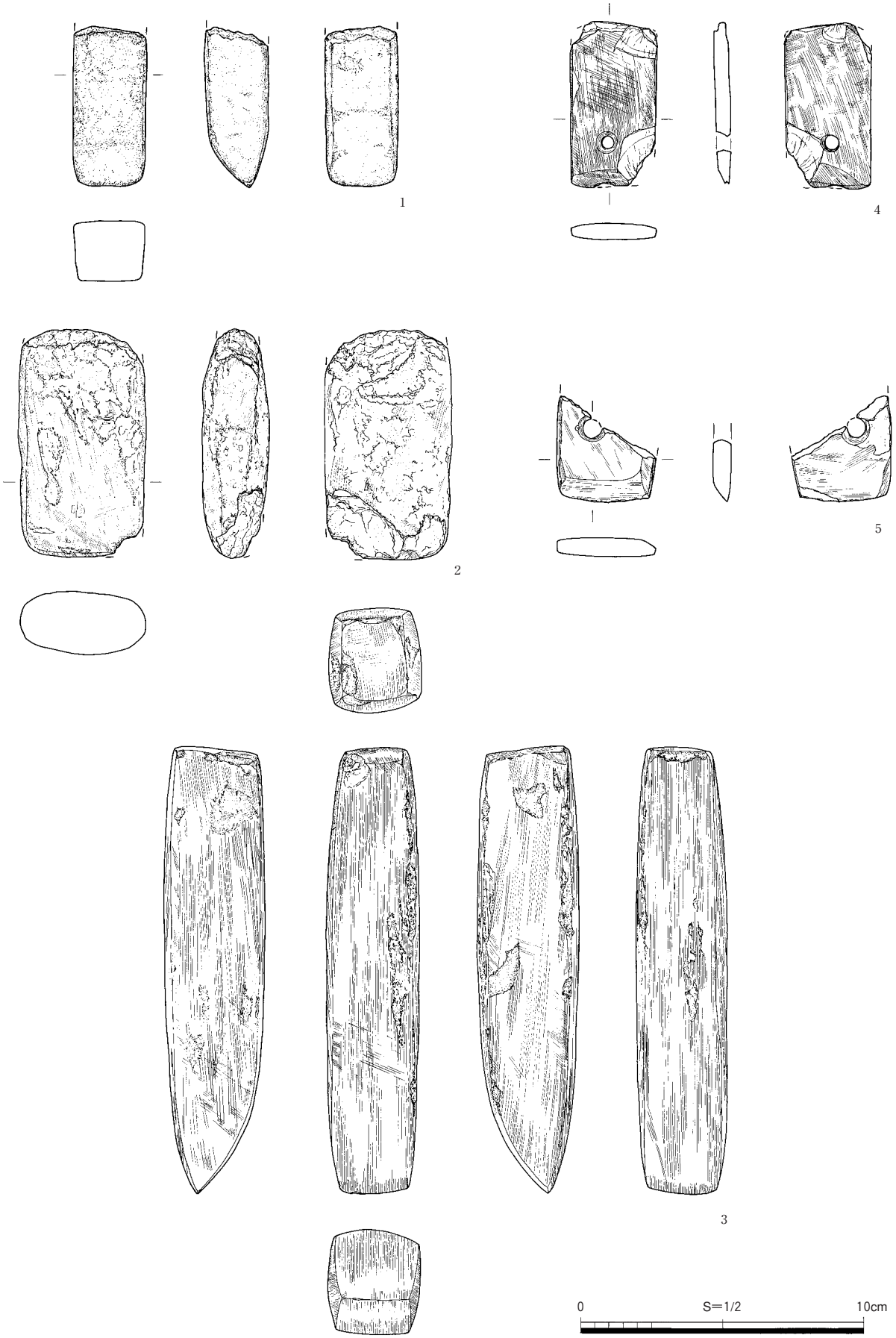



図68　石器（竪穴住居10・11・12、182溝、包含層）

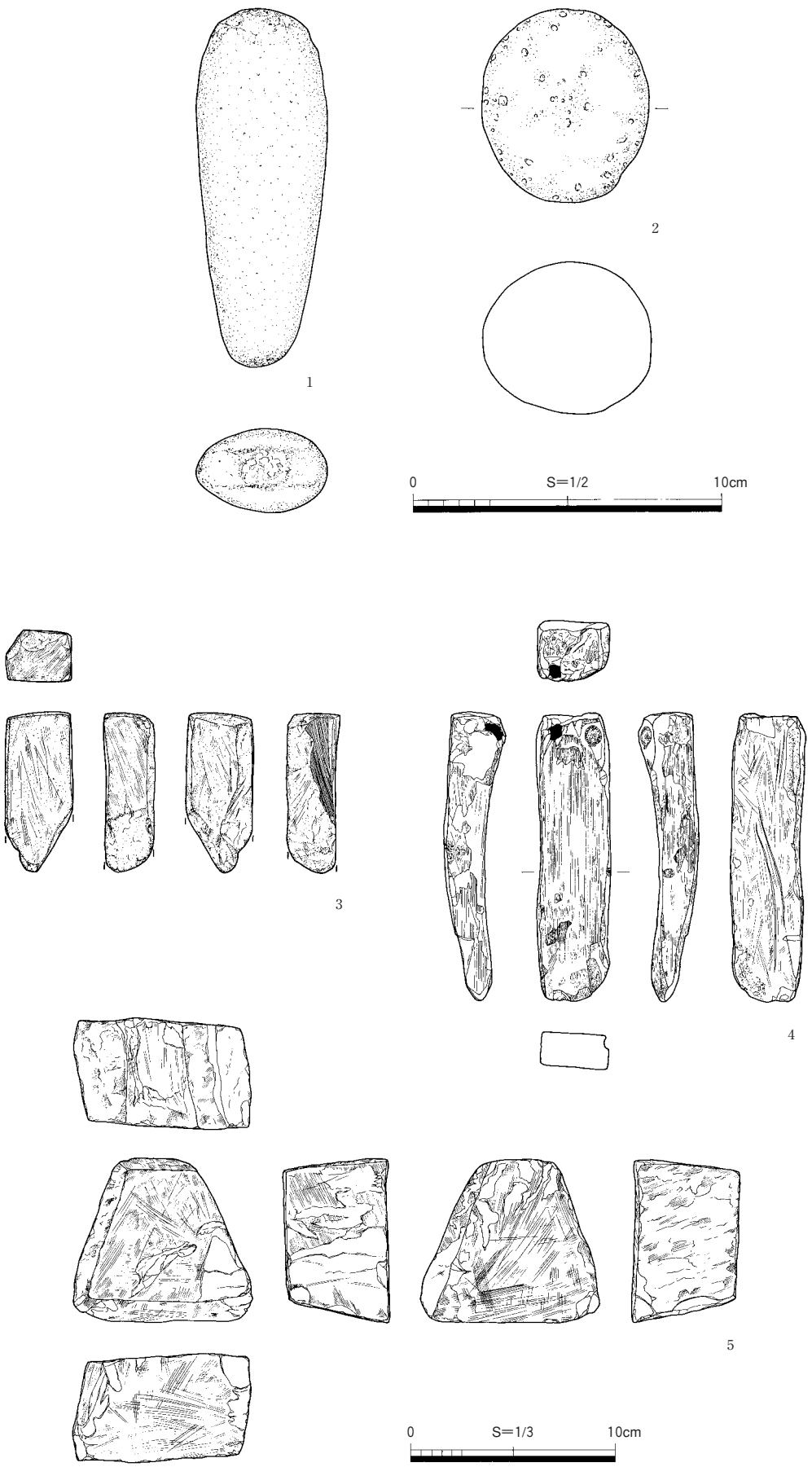



図69　石器（竪穴住居５・12、周溝墓１、411ピット、包含層）

## 第３節　古墳時代中期の遺構・遺物

３トレンチから古墳時代中期の方墳11基、円墳１基の他、土壙墓２基を検出した。３トレンチの北東側には2001年度調査地が位置し、13基の古墳が検出されており、合計25基を数える。古墳の立地は尾根頂部にあたり、標高T.P.46～47ｍを測り、南西方向へ緩やかに低く尾根の先端へ向かう。トレンチの北西端には谷の斜面が検出され、古墳が一部斜面部分にまで分布していることがわかる。

また、今回検出した古墳はいずれも墳丘盛土は検出されず、いわゆる地山面で周溝を検出した。墳丘部に存在していたと思われる埋葬施設も削平が著しく確認できなかった。

古墳の遺構番号は2001年度調査を踏襲し、14号墳からの連番を与えた。

１．遺構

**14号墳**（図71、図版36－２・37－１・３）　３トレンチ南西部で検出した方墳であり、北東辺と南西辺の一部の周溝が検出された。北西側では尾根斜面が検出されており、尾根頂部との地形変換点際に立地していることがわかる。墳丘規模は北東－南西軸約7.5m、北西－南東軸約7.3mを測る。周溝の断面形態はなだらかな椀状を呈し、残存幅0.6～1.1m、深さ約0.2mを測る。周溝堆積土の中央部には暗灰黄色シルトの土壌化層を観察することができる。

周溝から遺物は出土していない。

**15号墳**（図71、図版36－２・37－２・４）　14号墳の南東側に沿って検出した円墳である。東側の約３分の１が検出され、それ以外は調査区外に拡がる。復元直径は約10mである。周溝の断面形態は底部に平坦面を有するなだらかな椀状を呈し、残存幅約1.0m、深さ0.1～0.2mを測る。周溝堆積土は墳丘内側に墳丘盛土崩落土と考えられる黄褐色シルトが堆積し、その後に黄灰色シルトの土壌化層を観察することができる。また、周溝南東側で検出された斜面は自然地形に伴うものではない。

周溝から遺物は出土していない。

**16号墳**（図71、図版36－２・38－２・39－１）　３トレンチ南西部の南壁際で検出した方墳であり、15号墳と17号墳に挟まれている。北辺と北東隅を検出した。大半が調査区外に伸びるが、周溝の検出長は約5.７ｍを測り、墳丘規模は一辺約4.8mを推測できる。残存周溝幅は約0.5m、深さ0.1mを測る。また、周溝北西側で検出された斜面は自然地形に伴うものではない。

周溝から遺物は出土していない。

**17号墳**（図72～74、図版36・38－１・３・39－２～４・40・41－１・２）　16号墳の北東側で検出した方墳である。北西側の約３分の２を検出し、南東側は調査区外に拡がる。墳丘規模は北東－南西軸約10.0mを測る。周溝の断面形態はなだらかな椀状を呈し、残存幅0.8～1.5m、深さは0.2～0.4mを測る。周溝堆積土の中央には土壌化層を観察することができる。

遺物は、周溝全域から円筒埴輪、朝顔形埴輪が多量に出土した（図81・82)。これらの埴輪はいずれも細片の状態で出土しており、朝顔形埴輪は特に北東辺周溝の外側斜面で集中して出土し、また、須恵器の甕１点・高坏３点が出土した。

埴輪が出土したのは今回の調査区で唯一この17号墳からのみである。

**18号墳**（図72・75、図版36・38－１・42－２～５）　17号墳の北西側でほぼ並行して位置する方墳である。墳丘盛土は削平されていたが、周溝は全周検出した。墳丘規模は北西－南東軸約９.6m、北東－南西軸約9.0mを測り、周溝断面形態はなだらかな椀状を呈し、残存幅0.7～1.6m、深さ0.1～0.2mを測る。

周溝堆積土の中央には土壌化層を観察することができる。

遺物は、周溝南隅で須恵器甕片が出土した（図82）。

**19号墳**（図75・76、図版36－１・41－３・４・42－１）　３トレンチ中央部の南側で検出した方墳である。北西側の約２分の１を検出し、南東側は調査区外に拡がる。墳丘規模は北東－南西軸約13.5mを測る。今回の調査では最も大型の古墳である。周溝断面形態はなだらかな椀状を呈し、残存幅1.3～2.0m、深さ0.1～0.6mを測る。北東辺の周溝残存状況は良好である。周溝堆積土は下層に墳丘盛土崩落土と考えられるにぶい黄色のシルトブロックがあり、その上層に土壌化層を観察することができる。

遺物は北東辺周溝から須恵器甑頸部、北東辺周溝から須恵器甑体部と須恵器把手付き椀が出土した（図82）。北東辺周溝から円筒埴輪が出土しているが、小片１片のみである。

**20号墳**（図76・77、図版36－１・42－１・43）　19号墳の北西側でほぼ並行して位置する方墳である。北東辺周溝の北隅と南隅部分は途切れているが、全平面形態を確認することができた。墳丘規模は北西－南東軸約9.5m、北東－南西軸約9.0mを測る。周溝断面形態は椀状を呈し、残存幅0.6～2.0m、深さ0.1～0.4mを測る。周溝堆積土は下層に墳丘盛土崩落土と考えられる黄褐色やオリーブ褐色のシルトブロックがあり、その上層に土壌化層を観察することができる。

遺物は北西辺周溝の北寄りで須恵器短頸壺片がまとまって出土した（図82）。南東辺周溝北寄りでも須恵器坏身片が出土した。

**21号墳**（図78・79、図版44－１・３）　後述する22号墳の南東側で検出した方墳である。削平が著しく、西側と南側の周溝の一部が検出されたのみである。推定墳丘規模は一辺９m前後と考えられる。周溝断面は、なだらかに立ち上がる形態であり、残存幅1.0～1.3m、深さ0.1～0.2mを測る。周溝堆積土は下層に墳丘盛土崩落土と考えられるにぶい黄色シルトブロックがあり、その上層に土壌化層を観察することができる。

22号墳の周溝との重複関係から21号墳が古く、22号墳が新しいことがわかる。

**22号墳**（図78～80、図版35－２・44・46－２）　21号墳の北西側に接して検出した方墳である。墳丘規模は北東－南西軸約9.8m、北西－南東軸約10.8mを測る。また、北西辺周溝の中央には幅約0.7m、長さ約1.8mの溝が南西方向に付随している。周溝断面形態は椀状を呈し、残存幅0.8～2.7m、深さ0.2～0.7mを測る。北西隅部分は23号墳と共有するため、周溝底部に段差がみられる。周溝堆積土は下層に墳丘盛土崩落土と考えられる黄褐色からにぶい黄色のシルトブロックがあり、その上層に土壌化層を観察することができる。南東辺・北西辺・北隅は21・23・24号墳の周溝と共有しており、周溝の堆積状況の観察から22号墳は23号墳より古く、21号墳と24号墳より新しいことがわかった。

遺物は須恵器坏身、坏蓋、把手付き椀、甕片が出土している（図82）。

**23号墳**（図78～80、図版35－２・44－１・５・45－３～５）　22号墳と北西側で隣接した方墳である。南西側周溝が22号墳の北西側周溝と共有しており、谷の傾斜面に位置する。検出したのは南東半部の約1/2で、北西半部は調査区外へ伸びる。墳丘規模は北東－南西軸約6.5mを測り、周溝断面形態はなだらかに立ち上がり、残存幅0.8～2.0m、深さ0.2～0.4mを測る。周溝堆積土は下層に墳丘盛土崩落土と考えられる明黄褐色シルトブロックがあり、その上層に土壌化層を観察することができる。周溝の堆積状況から22号墳より新しいことがわかる。

遺物は22号墳と共有した周溝から須恵器坏身が出土している（図82）。

**24号墳**（図78・80、図版35－２・44－１・45－１・２・46－２）　22号墳の北隅で隣接して検出した

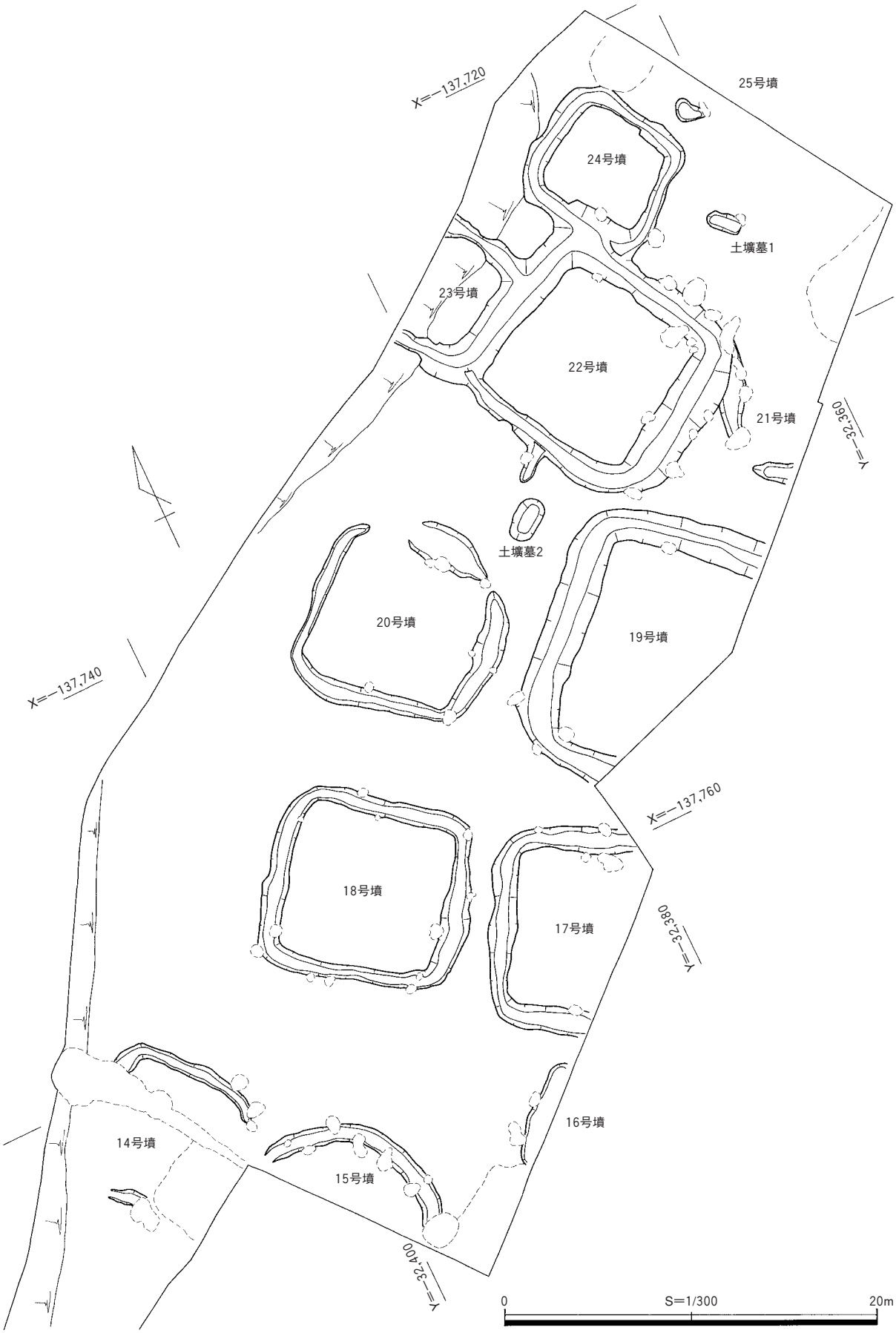



**図70　古墳群遺構配置図**

**図71　14・15・16号墳平面・断面図**

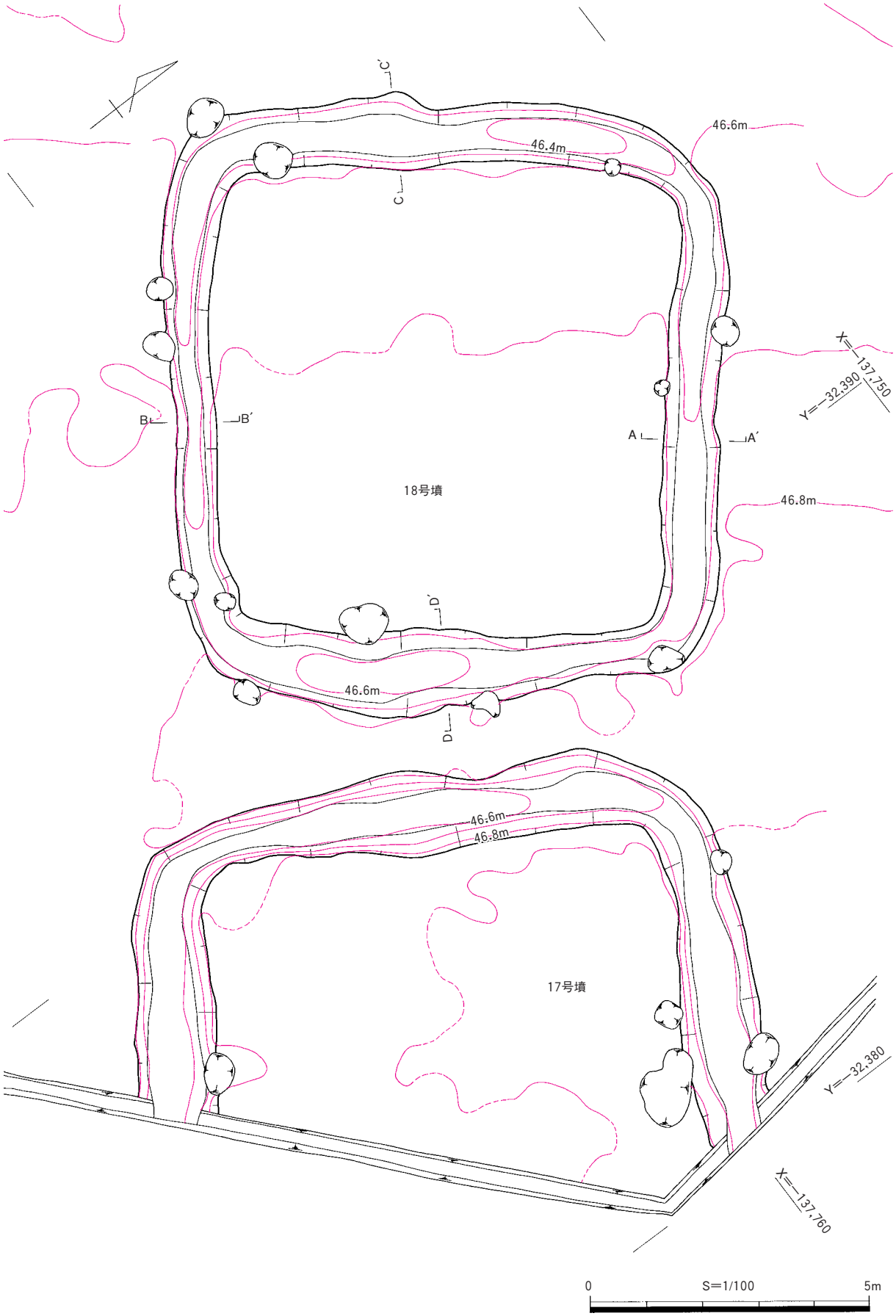



図72　17・18号墳平面図

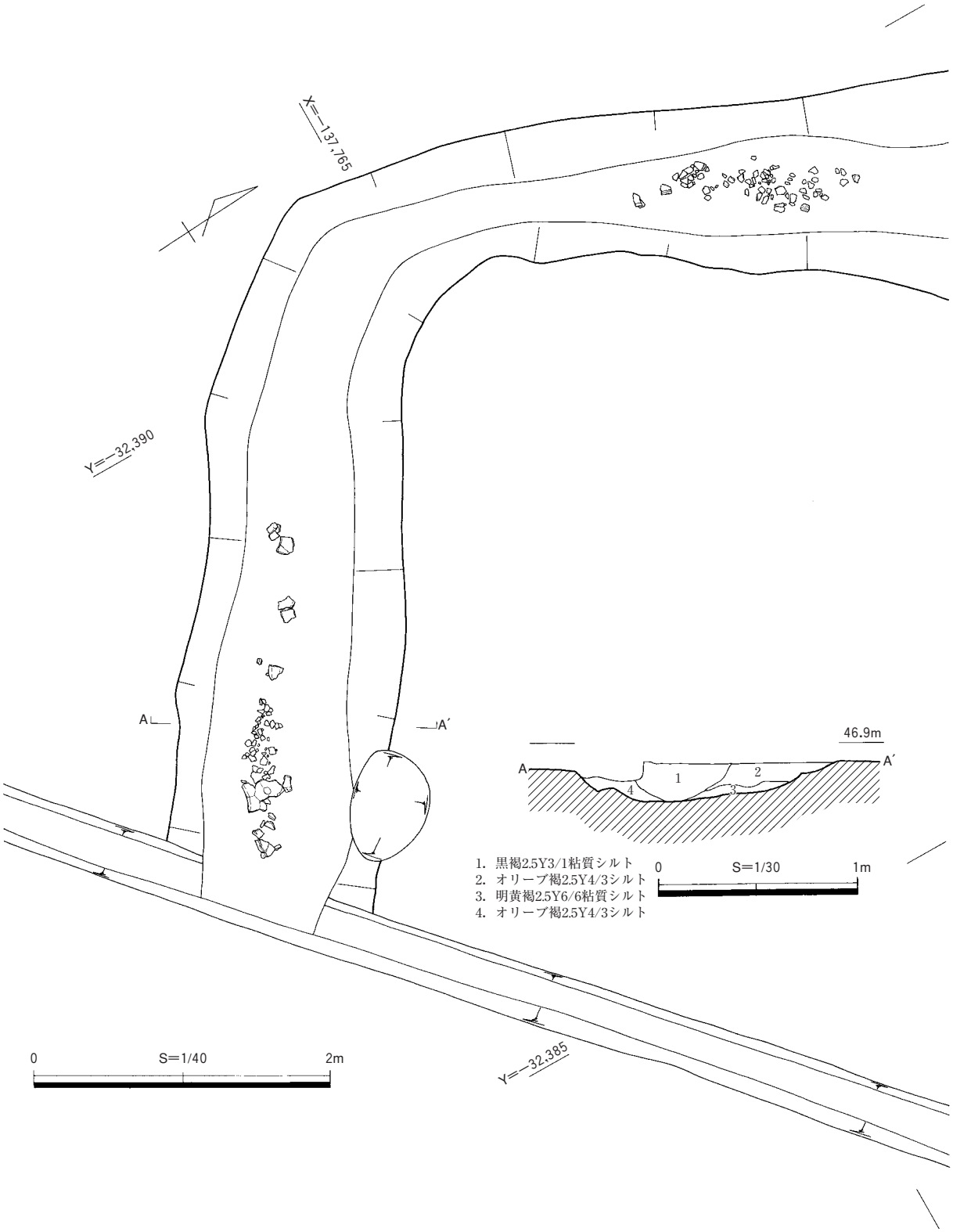



**図73　17号墳平面・断面・遺物出土状況図（1）**

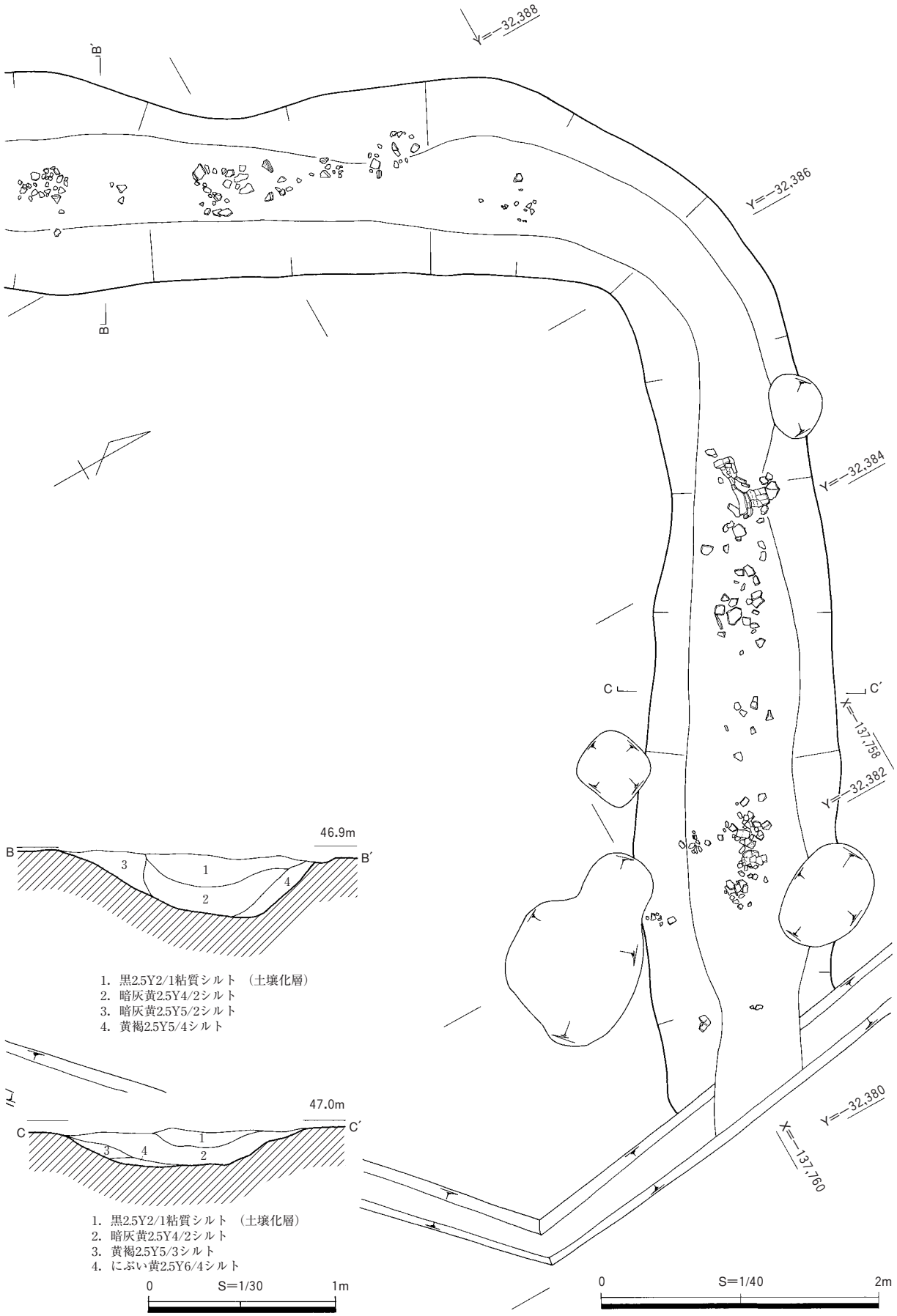



**図74　17号墳平面・断面・遺物出土状況図（２）**

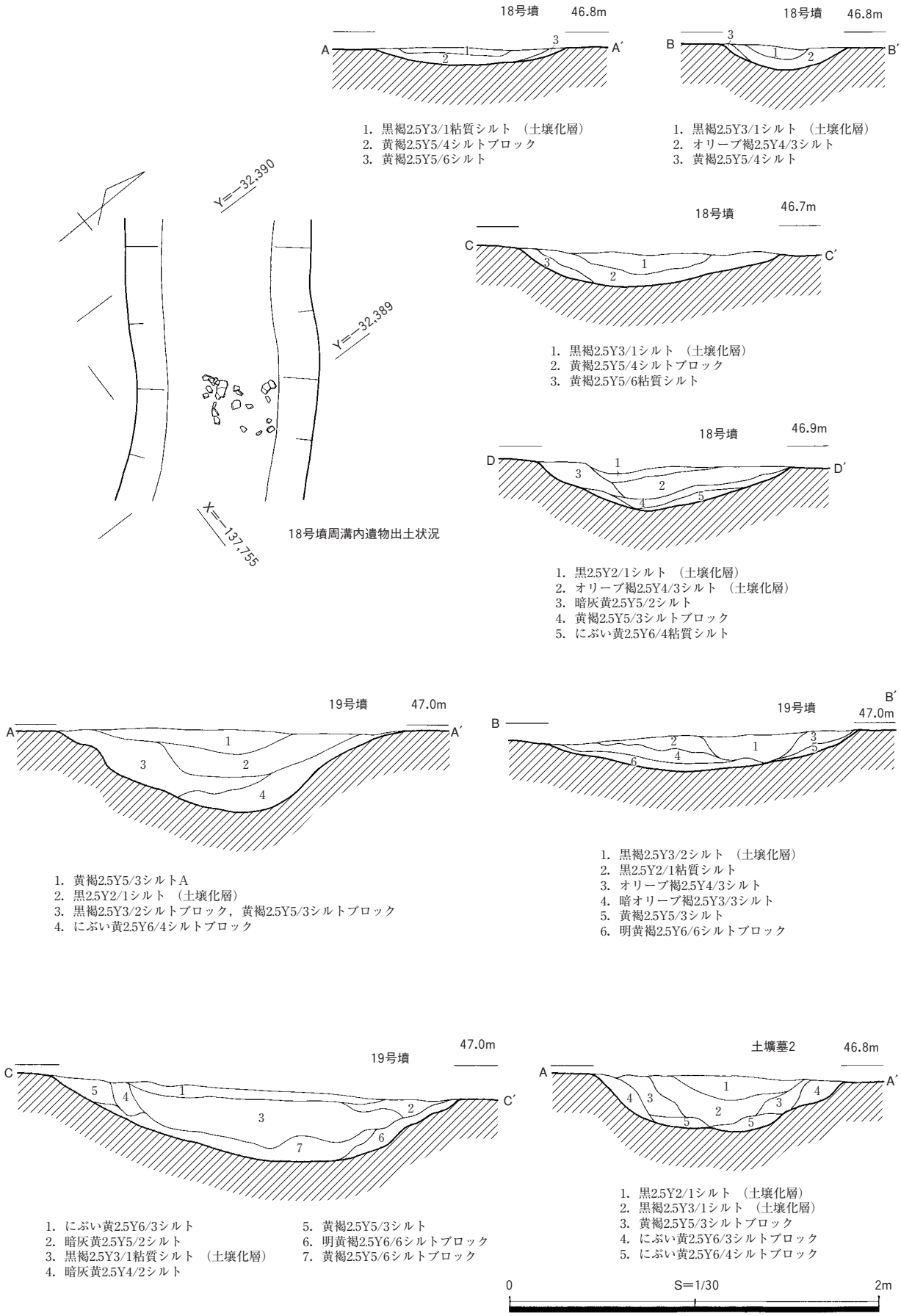



**図75　18号墳断面・遺物出土状況図、土壙墓２・19号墳断面図**

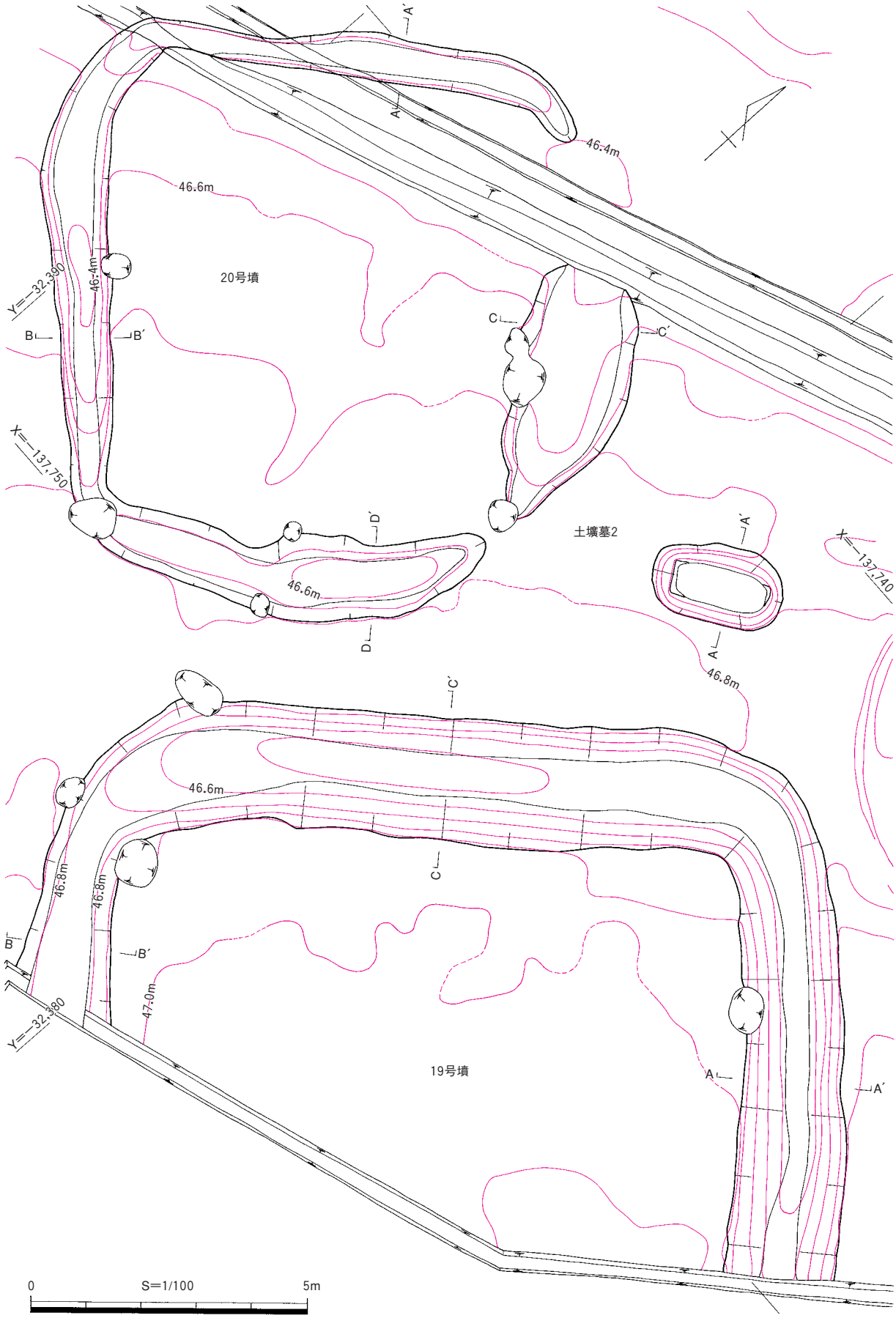



図76　土壙墓２・19・20号墳平面図

方墳である。南西辺が22号墳の北隅と共有する。墳丘規模は北東－南西軸約6.3m、北西－南東軸約6.5mを測る。周溝断面形態は椀状を呈し、残存幅0.6～1.3m、深さ0.1～0.3mを測る。南西端部分は22号墳と共有するため、周溝底部に段差が存在する。周溝堆積土は下層に墳丘盛土崩落土と考えられる黄褐色からにぶい黄色シルトブロックがあり、その上層に土壌化層を観察することができる。

遺物は、北東辺の南寄りで須恵器甕口縁破片、他、甕破片が出土した（図82）。

**25号墳**（図78・80、図版46－１）　24号墳の東側、３トレンチ東壁沿いで検出した。方墳の南西隅と考えられる。大部分は東側の調査区外に伸びるが、１辺５m前後の規模の方墳を推定することができる。周溝残存幅約0.8m、深さ約0.1mを測る。

これらの古墳以外に土壙墓と考えられる遺構を２基検出した。

**土壙墓１**（図78）　22号墳の東側に位置している。平面は長方形を呈し、長辺約1.8m、短辺0.9m、深さ約0.2mを測る。底部は平坦面を有している。

**土壙墓２**（図76、図版36－１・46－３～４）　19・20・22号墳に囲まれた位置で検出した。平面は長方形を呈し、長辺約2.4m、短辺約1.3m、深さ約0.3mを測る。底部は平坦面を有しており、小口部分には角の立った痕跡がみられた。

これら２基はいずれも遺物、骨の出土を見ないが、形状から墓壙の可能性が推測される。

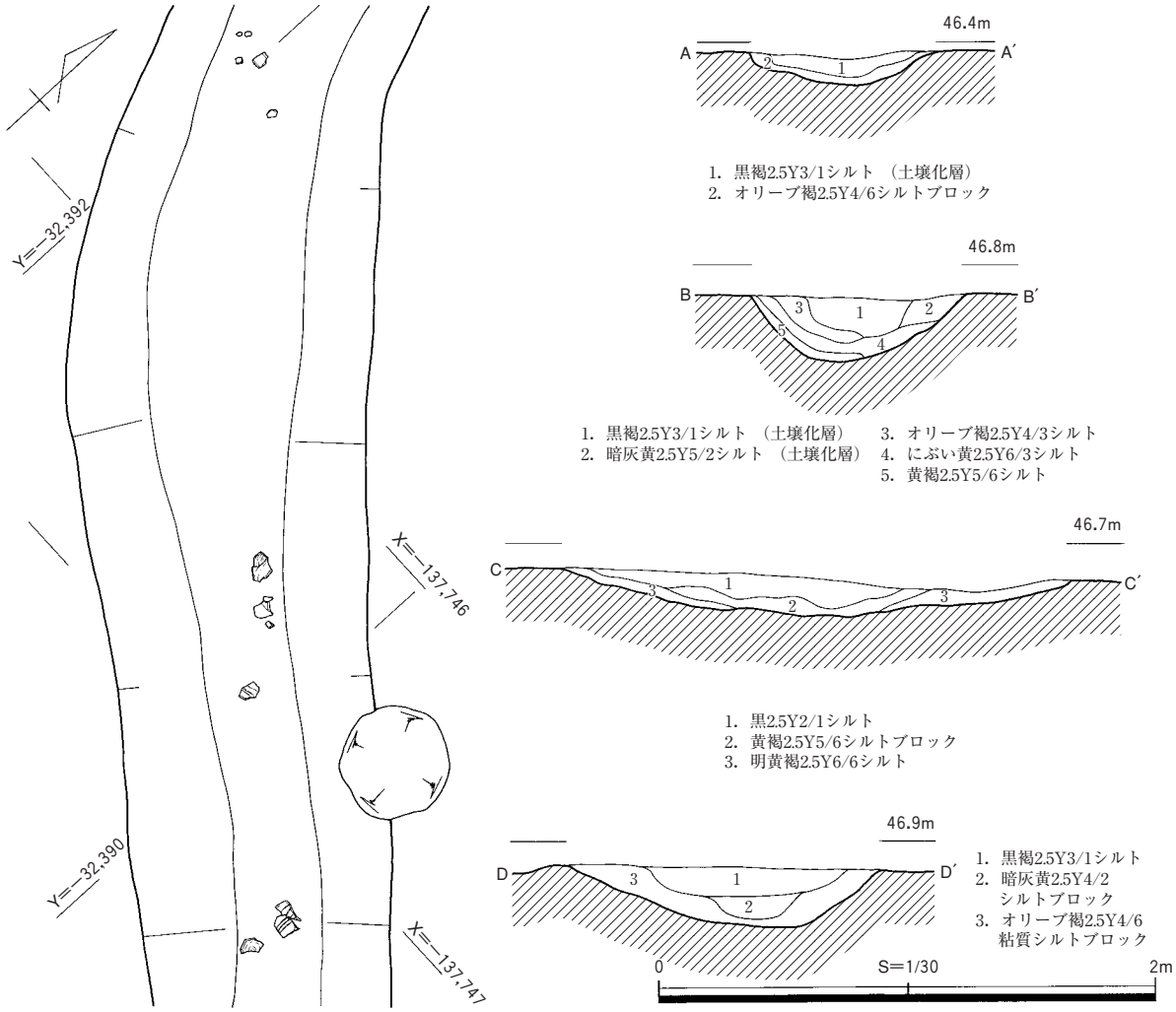



**図77　20号墳断面・遺物出土状況図**

図 78　土壙墓 1 ・ 21 ・ 22 ・ 23 ・ 24 ・ 25 号墳平面図

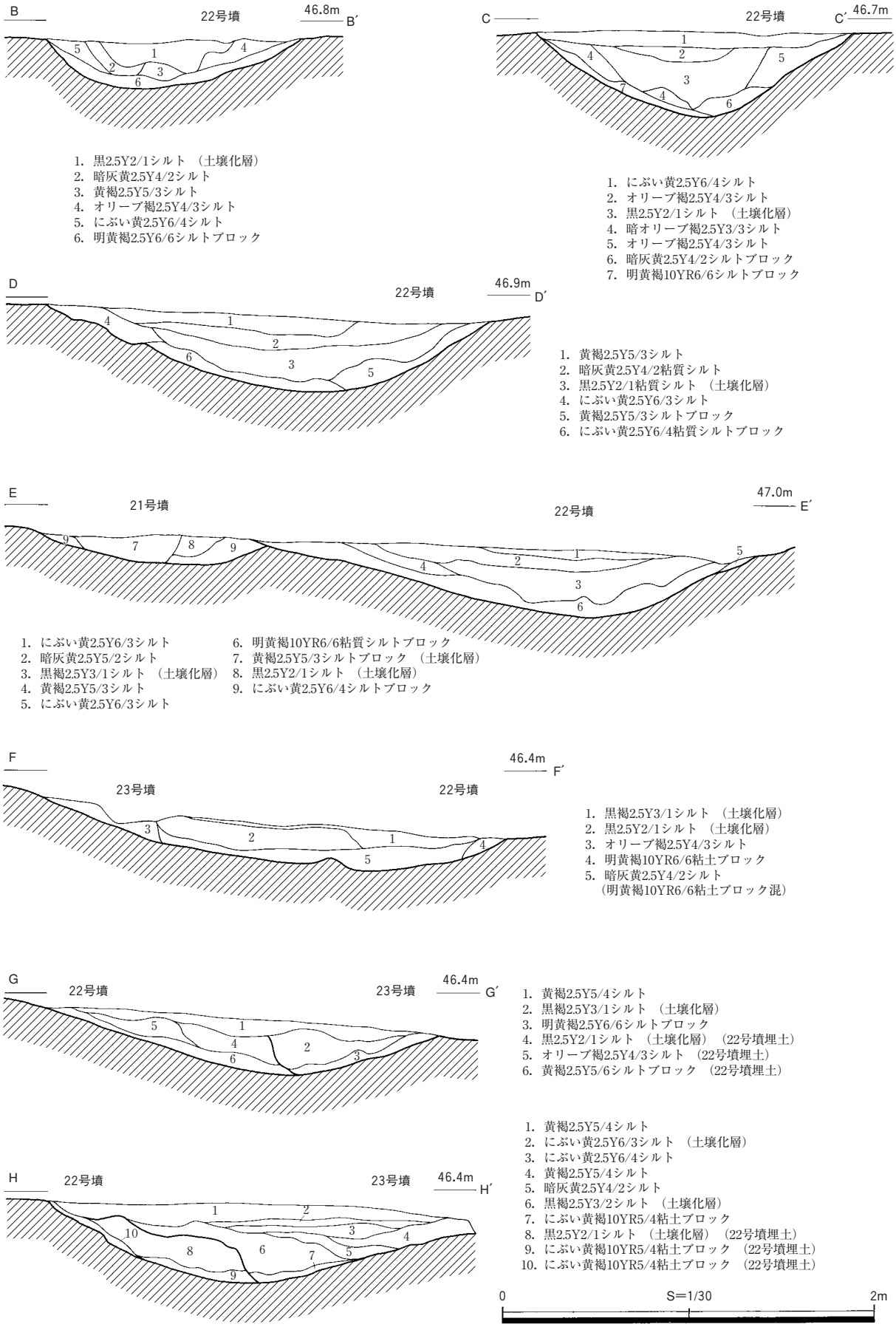



**図79　21・22・23号墳断面図**

２．遺物

17・18・19・20・22・24号墳から遺物が出土した（図81・82、図版72～75）。

17号墳からは多量の埴輪と須恵器が出土した。図81（図版72－１～６・73－１）は円筒埴輪、図82－１～７（図版73－２～５・74－１）は朝顔形埴輪である。

円筒埴輪は口縁直径25～30cm、底径約19cmを測る。図81－３は唯一高さが復元できたもので約38cmを測り、突帯を３条巡らす。体部は各段ごとに波打っている。突帯の接合作業の過程において生じたものと考えられる。突帯間隔は図81－２・３・８・９では9.2～9.8cmを測り、４は6.3cmを測る。外面調整は、突帯間を一気に１周するヨコハケ調整をおこなっているもの（図81－５～８）、連続的なヨコハケ（板状工具による板ナデ）を器壁上で止めながら施したように見えるもの（図81－３・９、82－７）がある。81－５、82－７はヨコハケ調整前の１次調整としてタテハケが部分的に観察することができた。内面は調整が粗く、ヨコハケ・板ナデ調整を行うが、突帯の裏面に対応する内面には指圧痕が残存する。また、

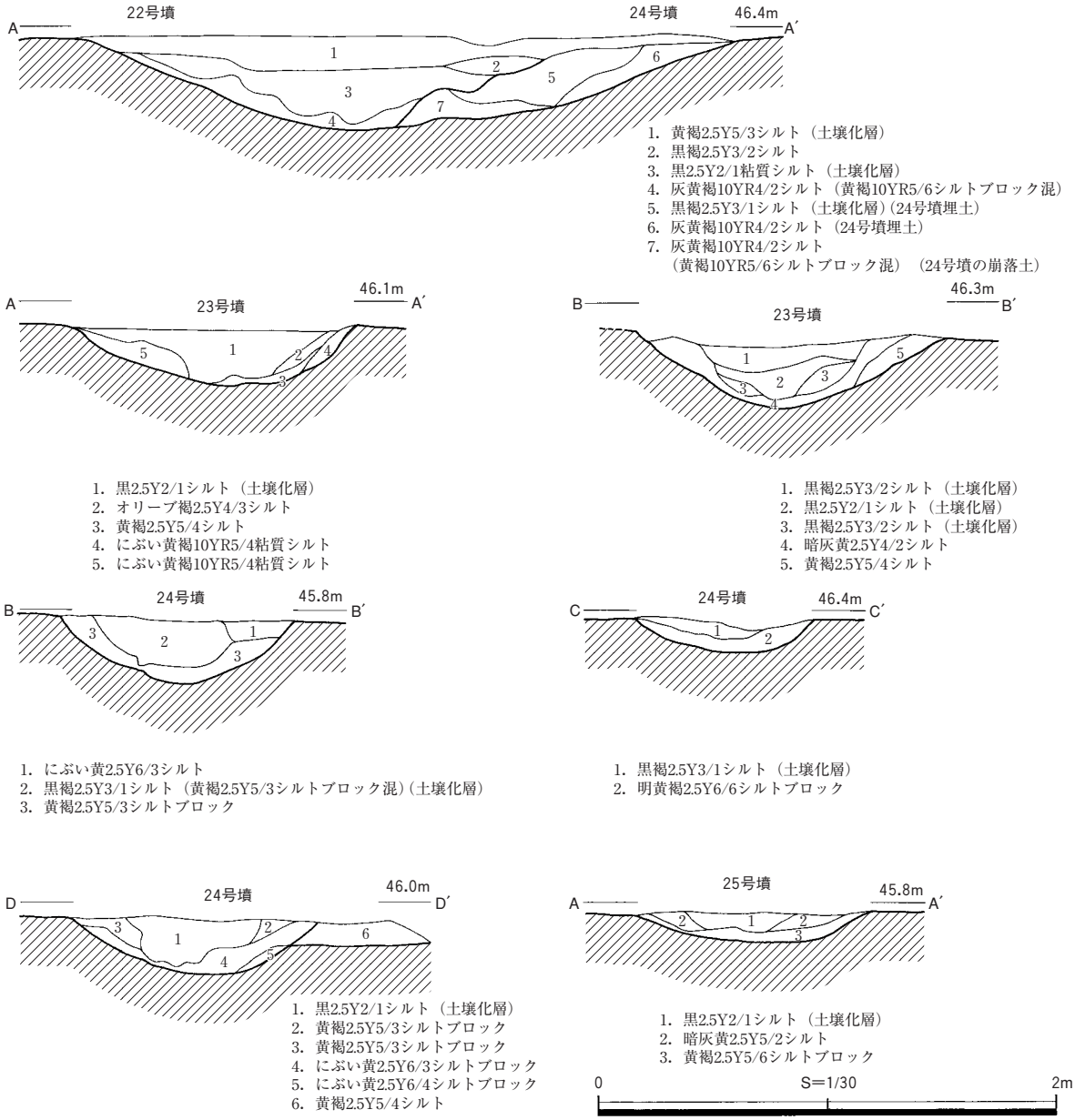



**図80　22・23・24・25号墳断面図**

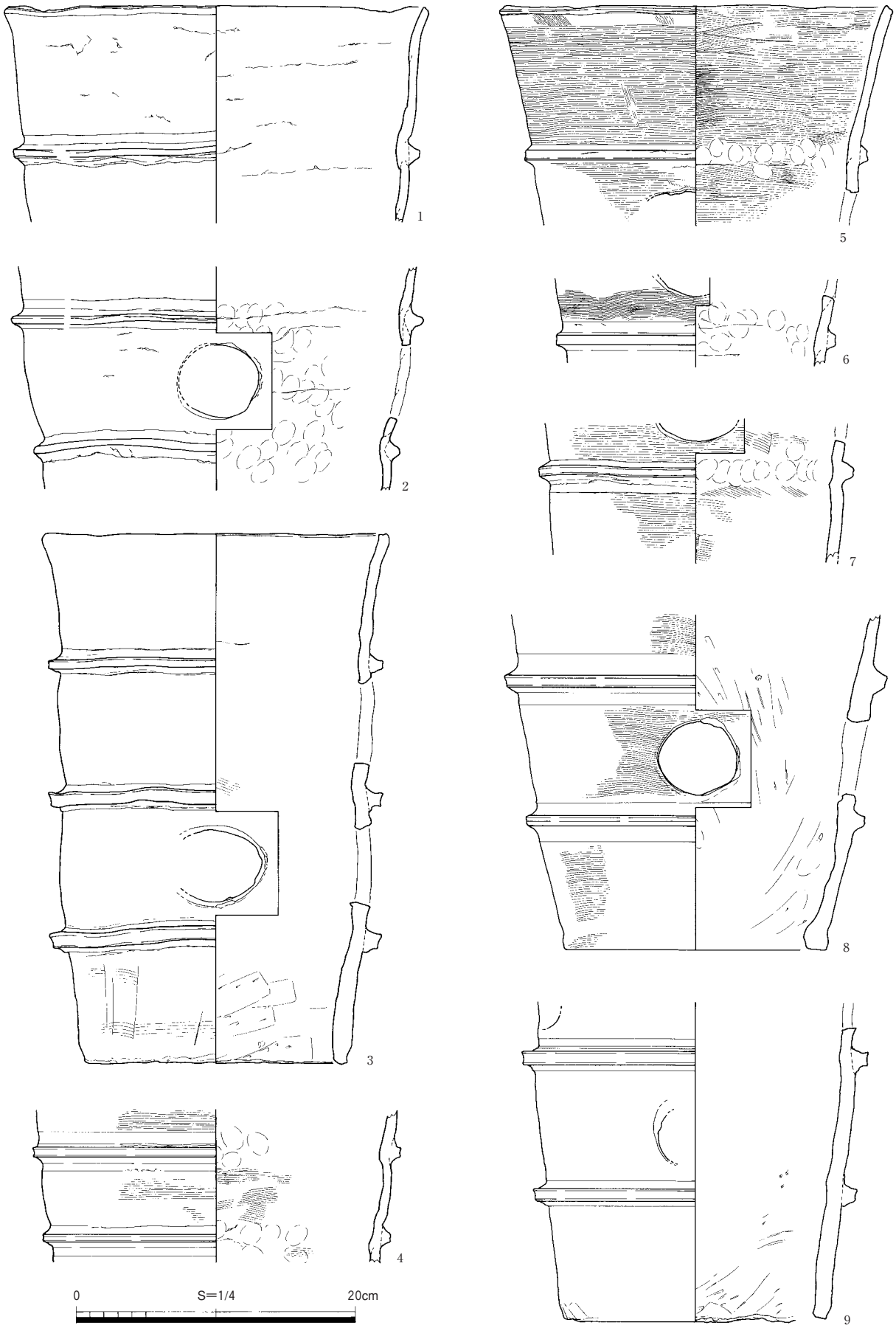



**図81　17号墳出土遺物**

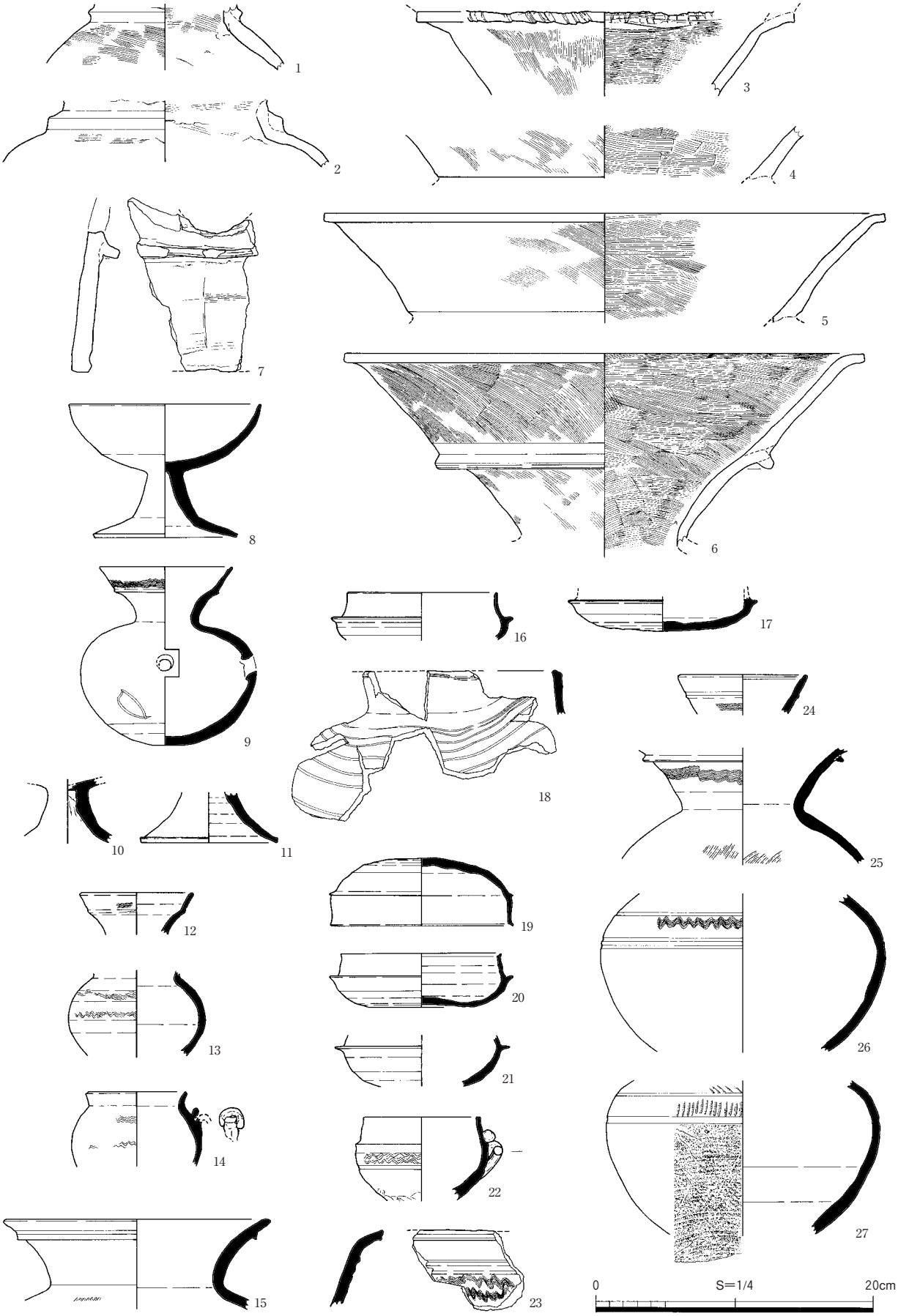



図82　17・18・19・20・22・23・24号墳出土遺物

粘土紐の接合痕もみることができる（図81－１～３・５・６）。基部内面には斜め方向のケズリをおこなうものがある（図81－３・８・９）。突帯はヨコナデにより接着するがタガの下面の接着は良好ではなく、体部とに隙間が見られるものがある（図81－１～３）。また、タガは一直線にならず、やや蛇行するものが目につく。スカシ孔は円形である。焼成は硬質のもの（図81－１・２・９）と軟質のもの（図81－３～８）がある。

図82－１・２は朝顔形埴輪の壺部の肩である。２のくびれ部には朝顔への接合部が剥離面として観察できる。図82－３～６は朝顔形の花状部である。これらには各段の接合面を観察することができる。３は中段のタガ部分であり、端部及び内面の接合面に刻み目を入れている。４・５の下端部は３の上部にあたる部位であり、３でみられる刻み目がリプリントされた状態を観察することができる。６は中段部の接合面及びタガ接合部を観察することができる。

17号墳からは８～11（図版74－２・３）の須恵器が出土している。８の無蓋高坏は脚部裾部に凸帯を有さず、大きく「ハの字」に開く形状である。９の瓿体部下半には丸くヘラ記号が施されている。10・11は高坏脚部である。

12～14（図版74－５・６）は19号墳出土の須恵器である。14は把手付椀であり、把手は欠損しているが上端部に逆Ｕ字状の装飾が付属する。

15（図版74－４）は18号墳出土の壺口縁である。口縁直下に1条の凸帯が巡る。

16～18（図版74－７・８）は20号墳出土の須恵器である。18は直口壺であり、焼け歪みが著しいが球形と考えられる。体部には螺旋状の沈線が巡る。

19～23（図版75－１～３）は22号墳出土の須恵器である。19・20の坏身・坏蓋は2002年度の確認調査時出土したものを再録した。21は22号墳と23号墳の共有する周溝から出土した坏身である。22の把手付椀の外面底部は不定方向にケズリを施す。

24～27（図版75－４）は24号墳出土の須恵器である。24・26・27は大型の瓿であり、27の底部外面には格子叩きの痕跡がある。24・27は同一個体の可能性が高い。

以上のように３トレンチでは、方墳11基、円墳１基、合計12基の古墳が検出され、土壙墓２基も検出された。個々の古墳の分布をみると14・15号墳、17・18号墳、19・20号墳、22・23・24号墳の２基或いは３基が並列した配置をしており、より密接な関係をうかがうことができる。

また、これらの古墳群の時期は、17・18・19・20・22・24号墳から出土した遺物から、5世紀前葉から中葉の時期を考えたい。

## 第４節　古墳時代後期の遺構・遺物

４～８トレンチにおいて古墳時代後期に属する遺構を検出した。竪穴住居２棟、掘立柱建物１棟、柱列、土壙墓５基を検出した。土壙墓は８トレンチにおいて集中して検出されたが、他の遺構はまばらな分布状況である。

１．遺構

**竪穴住居15**（図84、図版48－３）　７トレンチの弥生時代竪穴住居12と重複して検出した。平面方形を呈し、南北約4.6m、東西約4.2mを測る。周囲には壁溝が巡り、幅0.1～0.2m、深さ約0.1mを測る。また、南側辺中央から南側の外部に向かって、いわゆる排水溝が伸びている。ピットは４基検出され、四方に

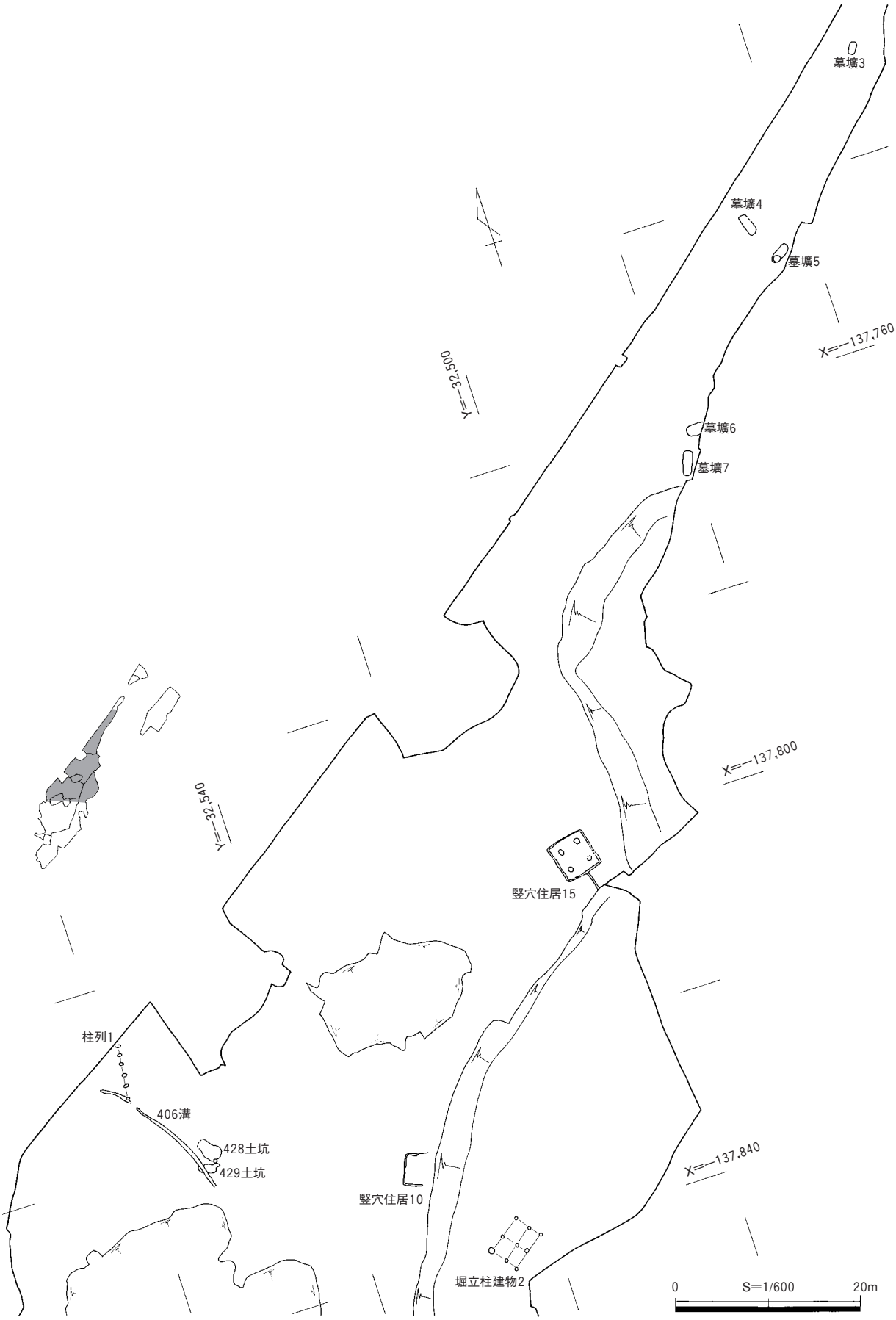
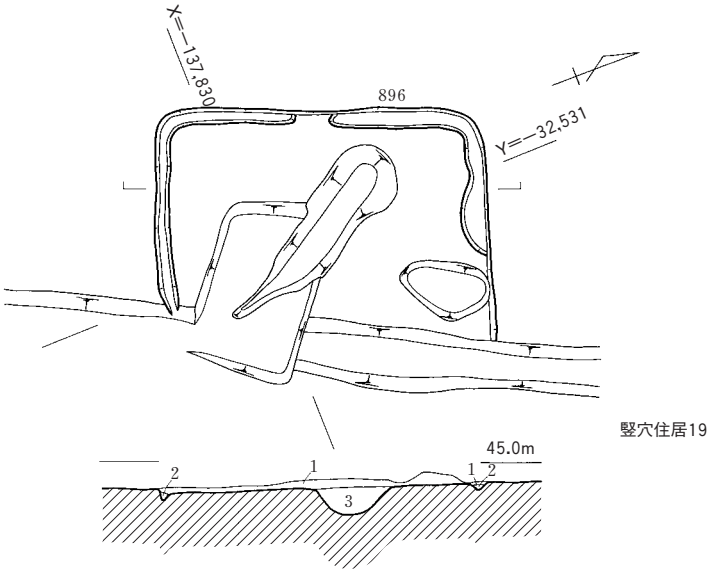
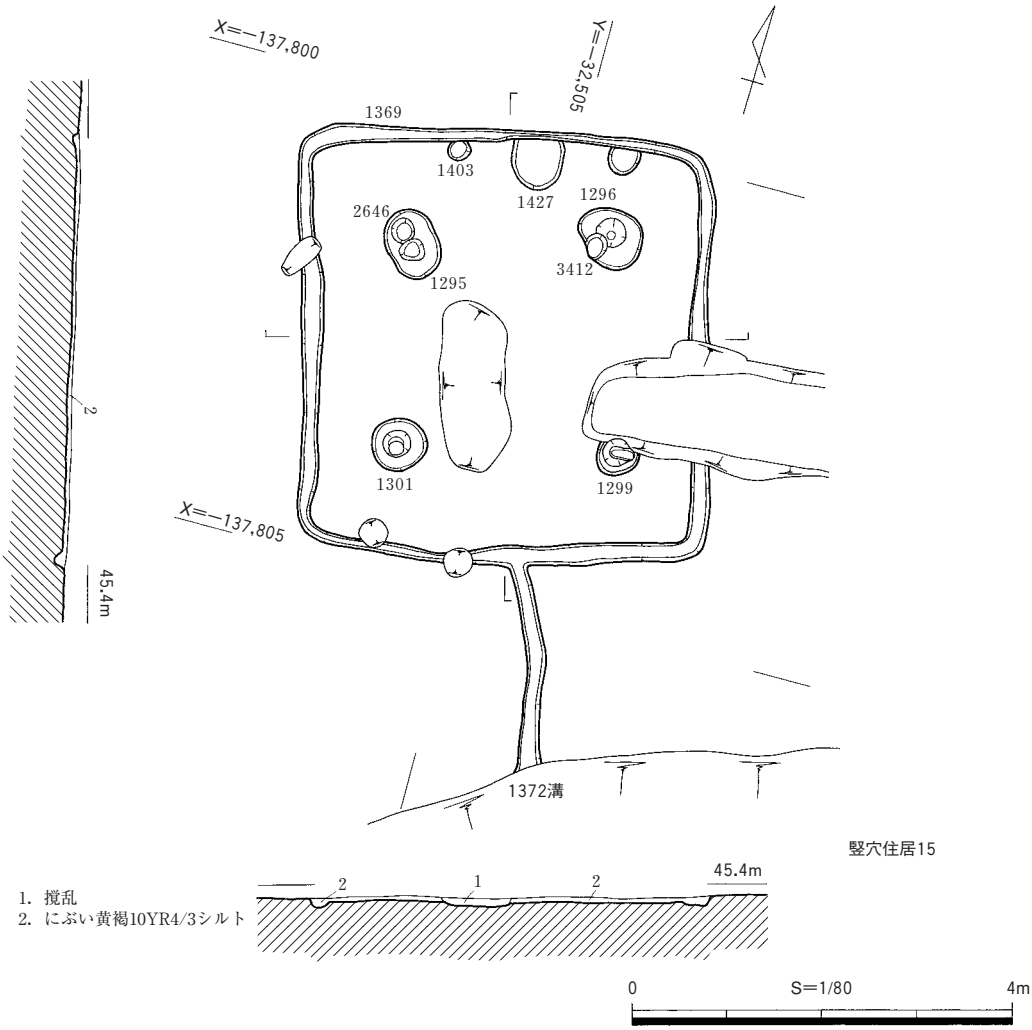



**図83　古墳時代遺構配置図**




1. 褐10YR4/4極細粒砂 （炭化物・礫混）
2. にぶい黄褐10YR5/4極細粒砂 （地山ブロック混）
3. にぶい黄褐10YR4/3シルト （地山ブロック・礫混）




1. 撹乱
2. にぶい黄褐10YR4/3シルト

**図84　竪穴住居15・19平面・断面図**

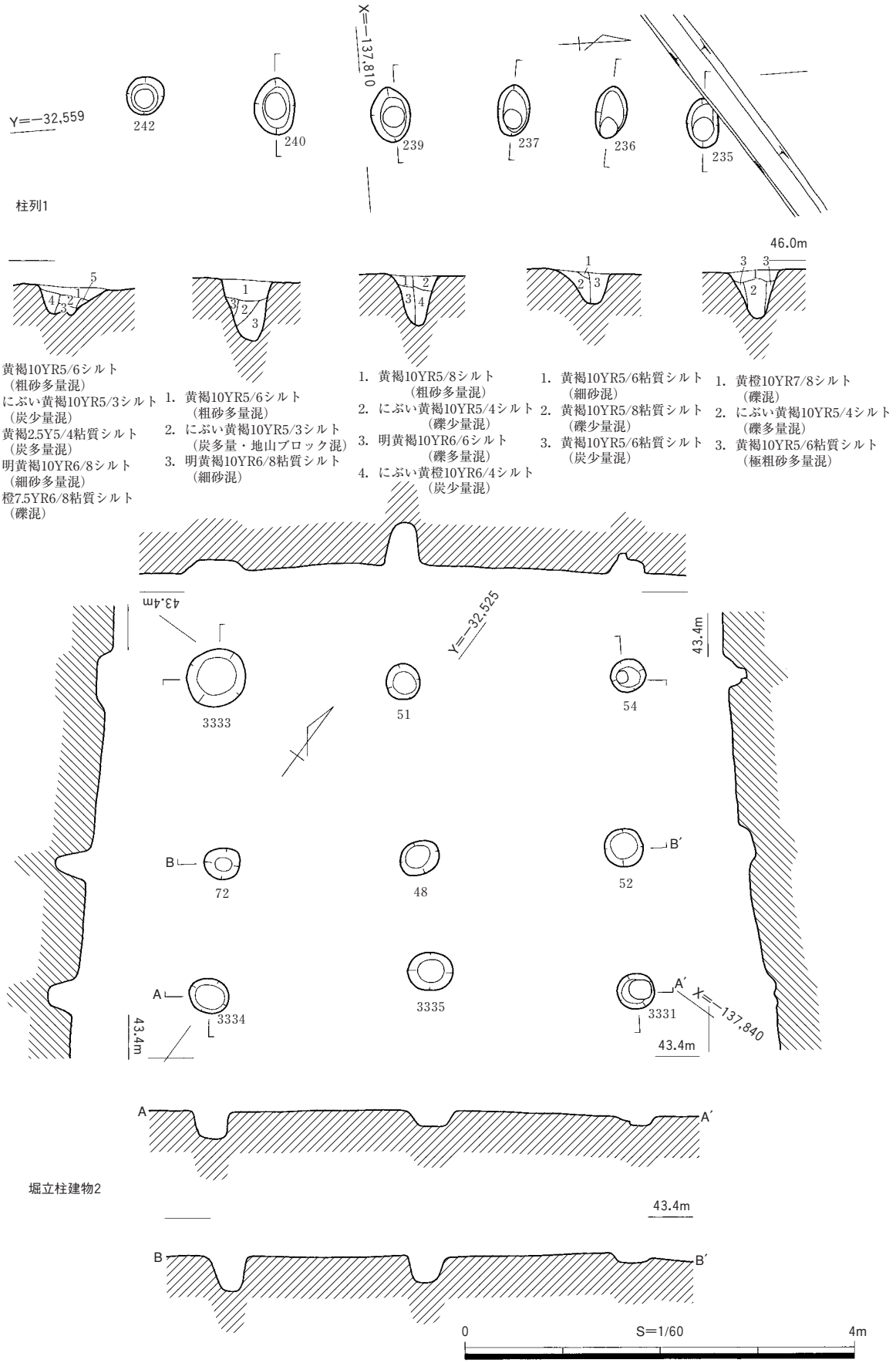



**図85　柱列１・掘立柱建物２平面・断面図**

配置される。柱間約2.2mを測る。中央には直径約0.2mのピットも検出された。また、北側壁溝に接して1403・1427ピットからは須恵器坏身、蓋（図88－16・17）が出土している。

**竪穴住居19**（図84、図版49－３・４）　４トレンチ中央から検出した。平面は方形を呈し、東半部は削平を受けている。規模は、北東－南西軸約3.5m、北西－南東軸残存長約2.4m、深さ約0.1mを測る。竪穴には壁溝が巡るが、北西側壁溝は中央部で途切れており、全周しない。壁溝は幅0.2～0.3m、深さ約0.1mを測る。竪穴住居内からはいくつかの土坑を検出したが、この竪穴住居に伴うものではなく柱穴も不明である。

**柱列１**（図85）　４トレンチ北端から検出した。南北方向へ伸びる５間分の柱列である。ピットの平面形は東西方向にやや楕円形を呈しており、長軸約0.5m、短軸0.3～0.4m、深さ0.3～0.8mを測る。いずれも柱痕を検出した。柱間は1.0～1.3mである。

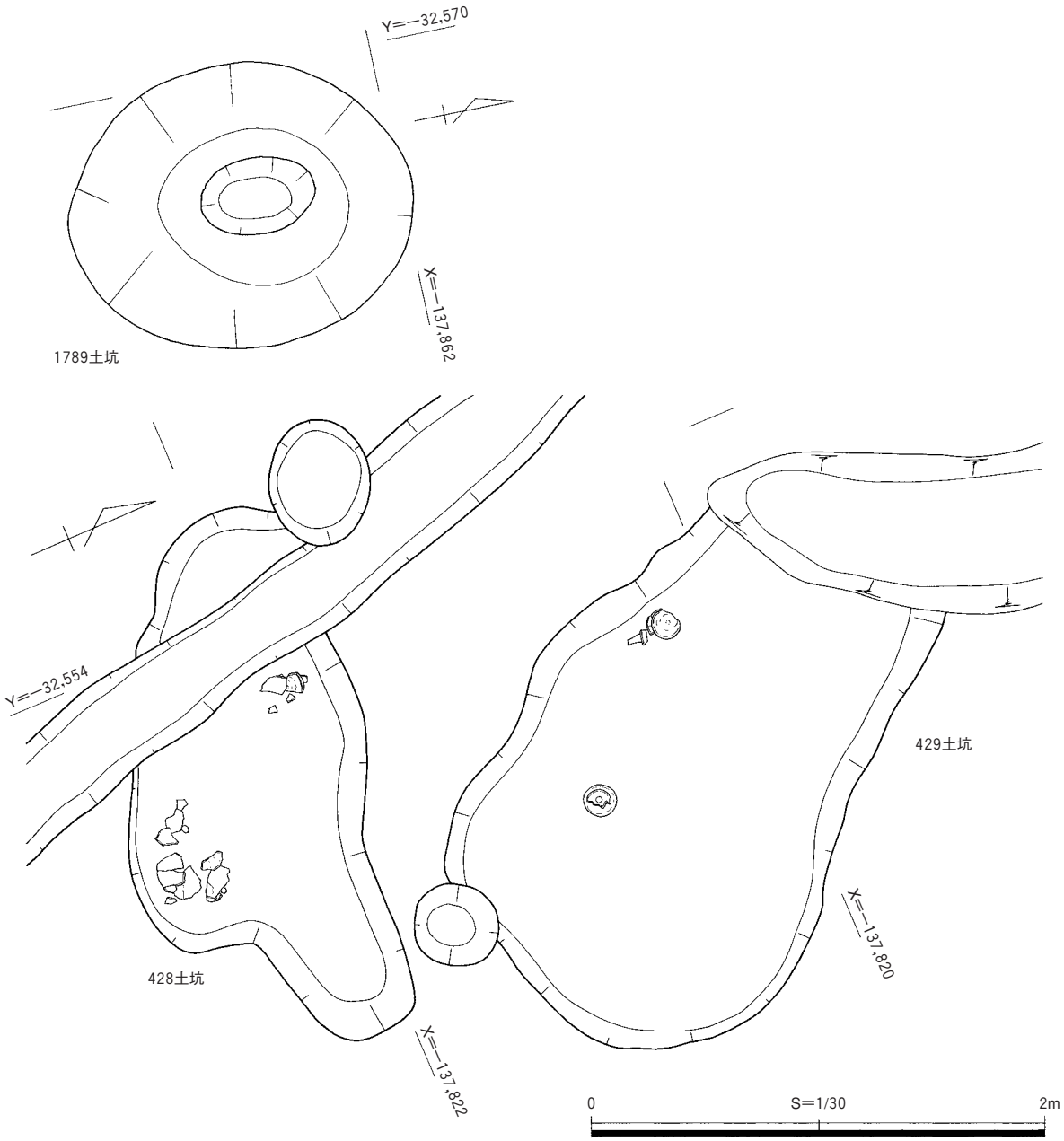



**図86　428・429・1789土坑平面図**

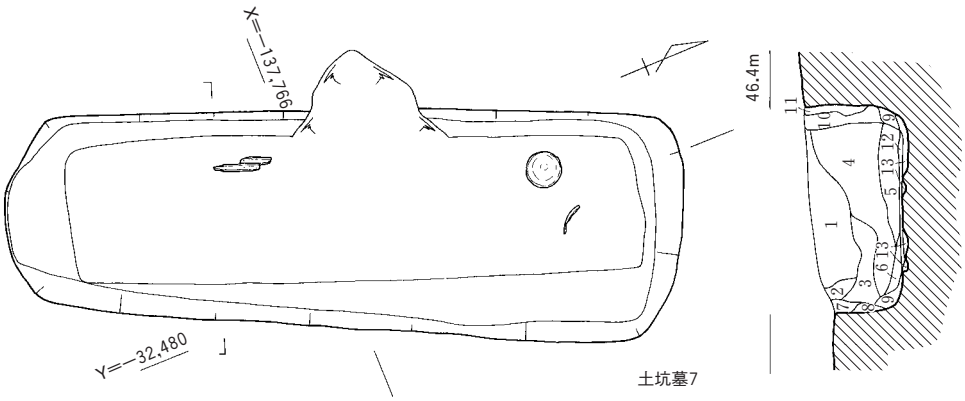
**掘立柱建物２**（図85）　６トレンチの南東への斜面に立地する。桁行２間（約4.4m）、梁間２間（約3.2m）の総柱建物である。主軸方向は座標北に対し約30度東へ振れる。柱間間隔は桁行が２.0～2.2m、梁間が1.4～1.9mを測る。柱穴の平面は円形を呈し、直径約0.3～0.5m、深さ0.3～0.4mを測る。埋土は黄灰色から黒褐色シルトである。

本調査で検出した掘立柱建物は後述するようにそのほとんどが古代に属するものであるが、掘立柱建物２は柱穴の規模が小さく、平面円形である。古代の柱穴とは形状が異なり、古代に属すると考えるより古墳時代後期に属する遺構の可能性が大きいと考えられる。

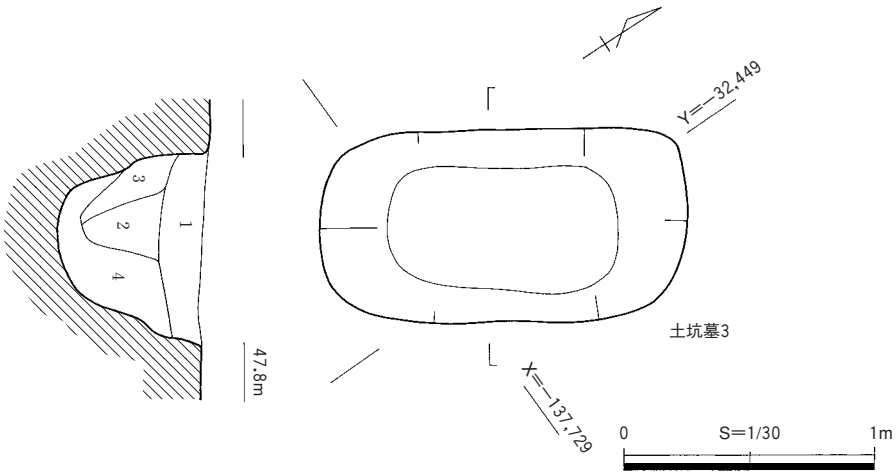
柱列１の南側において古墳時代後期の遺物を出土した土坑を２基検出した。

**428土坑**（図86）　平面形は不定形で、長軸約2.4m、短軸約1.0m、深さ0.1mを測る。埋土は炭化物の混じったにぶい黄褐色シルトである。須恵器坏身・坏蓋（図88－１・２）、土師器壺片が出土した。

**429土坑**（図86）　428土坑の北側に並行して検出した。平面形は長方形を呈し、残存長軸約2.2m、短軸約1.5m、深さ0.1mを測る。埋土は炭化物の混じったにぶい黄褐色シルトである。須恵器高坏・蓋（図88 －３・４）、土師器高坏片が出土した。




1. にぶい黄褐10YR4/3シルト
2. にぶい黄褐10YR5/4シルト
3. 明黄褐10YR6/6シルト（炭少量混）
4. にぶい黄褐10YR5/3シルト（炭少量混）
5. にぶい黄橙10YR6/4粘質土
6. にぶい黄2.5Y6/4粘質土
7. 明黄褐10YR6/8粘土
8. にぶい黄橙10YR6/4粘土
9. にぶい黄橙10YR7/2粘土
10. にぶい黄褐10YR5/4，明黄褐10YR6/6粘質土
11. 明黄褐10YR6/8粘土
12. 黄褐2.5Y5/4粘質土
13. にぶい黄橙10YR6/4シルト（地山ブロック多量混）




1. 黒褐10YR3/2粘土（明黄褐10YR6/6粘土ブロック混）
2. 灰黄褐10YR4/2粘土（明黄褐10YR6/6粘土ブロック混）
3. にぶい黄褐10YR5/4粘質シルト
4. にぶい黄褐10YR5/4粘質シルト（粗砂混）

**図87　土壙墓３・７平面・断面図**

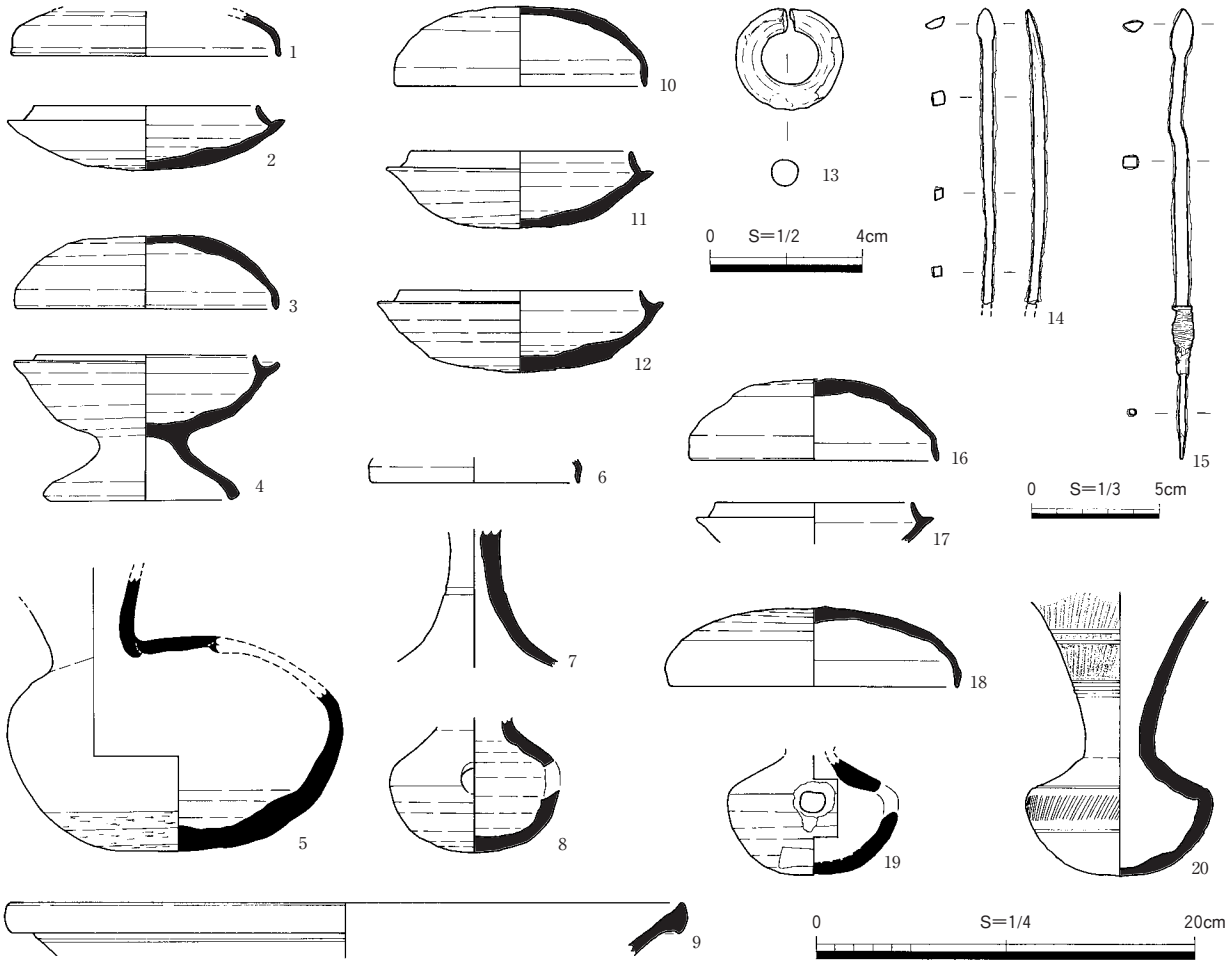



**図88　周溝墓１、土壙墓７、竪穴住居15、27谷、428・429・1789土坑出土遺物**

**1789土坑**（図86）　５トレンチ中央で検出した。長軸約1.5m、短軸約1.2mの長楕円を呈し、深さ約0.6mを測る。埋土は褐灰色シルトである。須恵器坏蓋、高坏、甕、平瓶、甑が出土している。

８トレンチにおいて土壙墓５基を検出した（図83）。遺物が出土したのは土壙墓７のみであるが、土壙の様相から他のものも墓と想定することができる。

**土壙墓３**（図87、図版47－６）　８トレンチ北端で検出した。平面長方形を呈し、長軸約1.4m、短軸約0.8m、深さ0.6mを測る。遺物は出土していない。

**土壙墓４**　平面長方形を呈し、長軸約2.3m、短軸約1.0m、深さ約0.3mを測る。

**土壙墓５**　土壙墓４の南側斜面際で検出した。平面長方形を呈するが、小口部分は丸みを持つ。長軸約2.4m、短軸約1.1m、深さ約0.3mを測る。

**土壙墓６**（図版47－５）　平面長方形を呈し、長軸約2.0m以上、短軸約1.0m、深さ0.4mを測る。

**土壙墓７**（図87、図版47－１～４）　８トレンチ南半の谷への斜面際、土壙墓６の西側で検出した。平面長方形を呈し、長軸約2.7m、短軸約0.9m、深さ0.4mを測る。墓壙壁面は垂直に掘られており、土壙底面には長軸約2.3m、短軸約0.6mの窪みがあり、また、埋土の断面より木棺の底部・側面の痕跡と考えられる土層が観察できた。

遺物は、土壙北側で須恵器坏身・坏蓋、銀膜貼りの耳環、南側で鉄鏃が2点出土した（図版75－５・６・10～12。）鉄鏃2点は中央西側に土壙の軸に合わせ並行して出土した。

骨は出土しなかったが、以上のような状況から墓と考えられる。

２．遺物（図88）

各遺構の他、６トレンチの谷地形の埋土から遺物が出土している。

図88－１・２は428土坑出土の須恵器坏身、坏蓋である。２は器高が3.5㎝を測り、低い。３・４（図版75－８・９）は429土坑出土の須恵器高坏、蓋であり、ほぼ完形に近い。１～４は7世紀前葉に属すると考えられる。

５～９は５トレンチの1789土坑出土の須恵器である。

10～15（図版75－５・６・10～12）は土壙墓７出土遺物である。10～12は須恵器坏身、坏蓋である。６世紀後半に属すると考えられる。13は銅芯の銀膜貼りの耳環である。蛍光Ｘ線分析により金成分も認められ、銀膜に鍍金の可能性もあるが、実体顕微鏡での観察では確認できなかった。14・15は鉄鏃である。いずれも鏃身部が小型で頸部が長く伸びた鏃である。鏃身は片丸造りであり、鏃身関部はなだらかに頸部と連なる。15は頸部と茎部間の関部は円形輪の形態であり、茎部には有機質が残存しており、紐状のもので固定していたことがわかる。14の茎部は欠損している。

古墳時代後期の遺物は６トレンチ西半の谷からも出土している（図88－18・20）。

19は弥生時代の周溝墓から出土した須恵器瑳である。周溝が埋没する過程で混入したものと考えられる。体部穿孔部の磨耗が著しい。

## 第５節　古代の遺構・遺物

１．遺構

４～７トレンチにおいて古代の遺構を検出した。尾根上の平坦部に広がっており、竪穴住居、掘立柱建物、柱列、井戸等を検出した。掘立柱建物の復元に至らなかった柱穴も無数検出した。これらの遺構は出土遺物から７世紀代を中心として８世紀まで含まれると考えられる。

竪穴住居は前述した古墳時代後期に属するものと類似しているが、出土遺物の他、竪穴住居の規模・形状から古代に属する遺構と考えられる。

**竪穴住居16**（図90、図版48－４）　弥生時代の竪穴住居11の上層で検出した。上面は大きく削平を受け、壁溝だけが遺存し、住居に伴う堆積土は残存していない。平面形は方形を呈し、規模は、長軸約3.2m、短軸約2.9mを測る。壁溝は幅0.1～0.2m、深さ約0.1mを測る。この竪穴住居に伴う柱穴は不明瞭である。

**竪穴住居25**（図90、図版48－２）　弥生時代の竪穴住居24の上層で検出した。上面は削平を受け、壁溝だけが遺存し、住居に伴う堆積土は残存していない。平面形は方形を呈し、長軸約4.2m、短軸約3.6mを測る。壁溝は幅0.1～0.2m、深さは約0.1mを測る。主柱穴は４基が方形に配置され、直径0.2～0.3m、深さ0.2～0.3mを測る。

**竪穴住居32**（図91、図版48－１）　後述する竪穴住居33と隣接している。上面は削平を受け、壁溝だけが遺存するが北西側は検出されなかった。住居に伴う堆積土は残存していない。平面形は方形を呈し、一辺約5.0mを測る。壁溝は幅約0.2m、深さ約0.1mを測る。主柱穴は4基が方形に配置され、直径0.4～0.6m、深さ0.2～0.3mを測る。

**竪穴住居33**（図92、図版49－１・２・54－５・６）　平面形は方形を呈し、一辺約4.7mを測る。壁直下には壁溝が巡るが、南西隅は途切れている。幅0.2～0.3m、深さ約0.1mを測る。また、北辺中央の壁溝内には土師器甕片を覆いとした暗渠状の施設を検出した。土師器甕の口縁を暗渠の両側と中央内側に

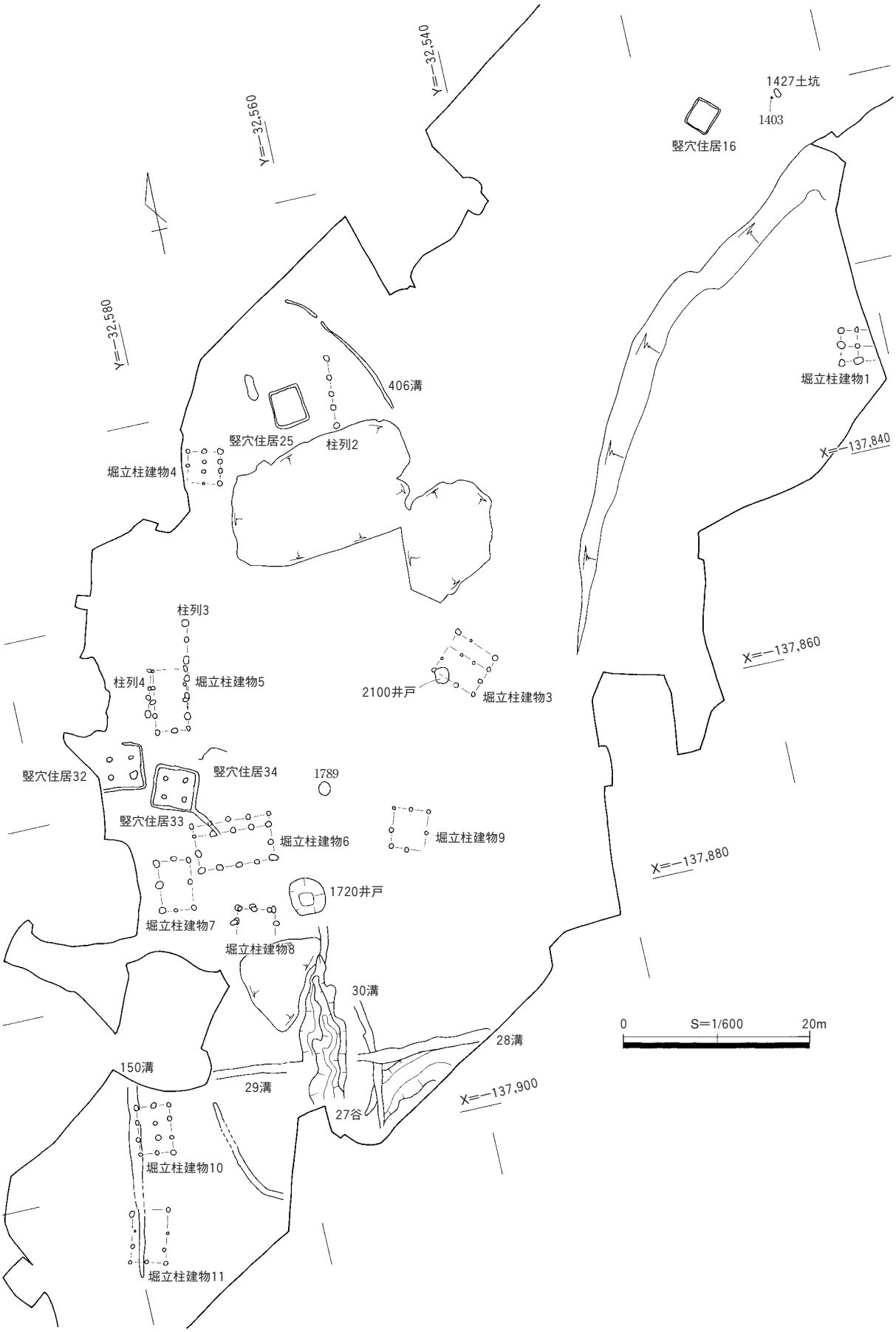
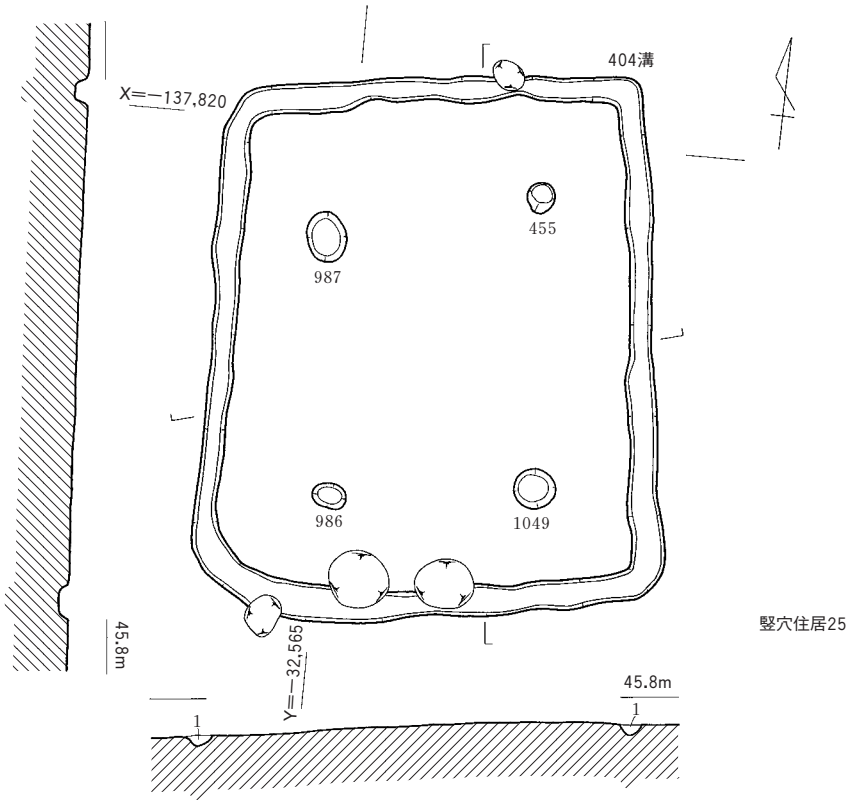
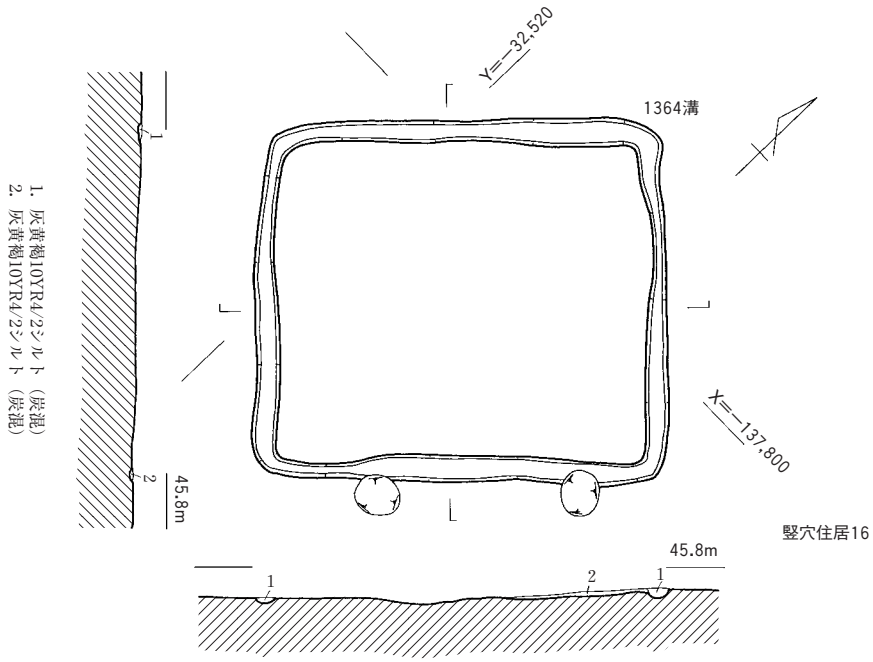

Y=−32,540
Y=−32,560
Y=−32,580
1427土坑
1403
竪穴住居16
406溝
竪穴住居25
柱列2
堀立柱建物4
堀立柱建物1
X=−137,840
柱列3
柱列4
堀立柱建物5
2100井戸
堀立柱建物3
X=−137,860
竪穴住居32
竪穴住居34
1789
竪穴住居33
堀立柱建物6
堀立柱建物9
X=−137,880
1720井戸
堀立柱建物7
堀立柱建物8
30溝
28溝
0
S=1/600
20m
150溝
29溝
27谷
X=−137,900
堀立柱建物10
堀立柱建物11

**図89　古代遺構配置図**




1. 灰黄褐10YR5/2シルト（炭混）　　1. 灰黄褐10YR5/2シルト




1. 灰黄褐10YR4/2シルト（炭混）
2. 灰黄褐10YR4/2シルト（炭混）

1. 灰黄褐10YR4/2シルト（炭混）　　1. 灰黄褐10YR4/2シルト（炭混）
2. 黄褐10YR5/6微砂

0　S=1/60　4m

**図90　竪穴住居16・25平面・断面図**

置き、胴部の破片を被せている。竪穴住居内覆土はにぶい黄褐色シルトであり、それを除去し、床面から４基の主柱穴を検出した。直径0.4～0.6m、深さ0.2～0.4mを測り、いずれからも直径約0.2mの柱痕を確認することができた。

住居南東隅からは壁溝と連続して1504排水溝が南東方向に伸びる。1504排水溝は後述する掘立柱建物６の1624ピットと重複しており、竪穴住居33のほうが掘立柱建物６より後出することが確認できた。

須恵器坏身・坏蓋、土師器椀・甕が出土している。

**竪穴住居34**　竪穴住居33東側の下層に位置する。北隅のみ検出されており、深さ約0.1mを測る。壁溝は検出されていない。

**掘立柱建物１**（図93）　２間以上×２間の総柱建物である。東西3.6m以上、 南北約4.4mの規模を有し、柱間間隔は1.6～1.8mを測る。柱穴の平面形は隅丸方形ないし楕円形を呈し、規模は1辺或いは径0.5～0.9m、深さ0.2～0.8mを測る。88ピットのみ柱痕を確認した。

**掘立柱建物３**（図94、図版51－２・54－４）　３間×２間の建物の北東側に庇１間を付属する。約4.9m×4.9mの規模を有し、柱間間隔は1.5m～2.0mを測る。柱穴平面形は隅丸方形ないし楕円形を呈し、規模は一辺或いは径0.4～0.8m、深さ0.1～0.3mを測る。2111・2119ピットからは柱痕を確認した。

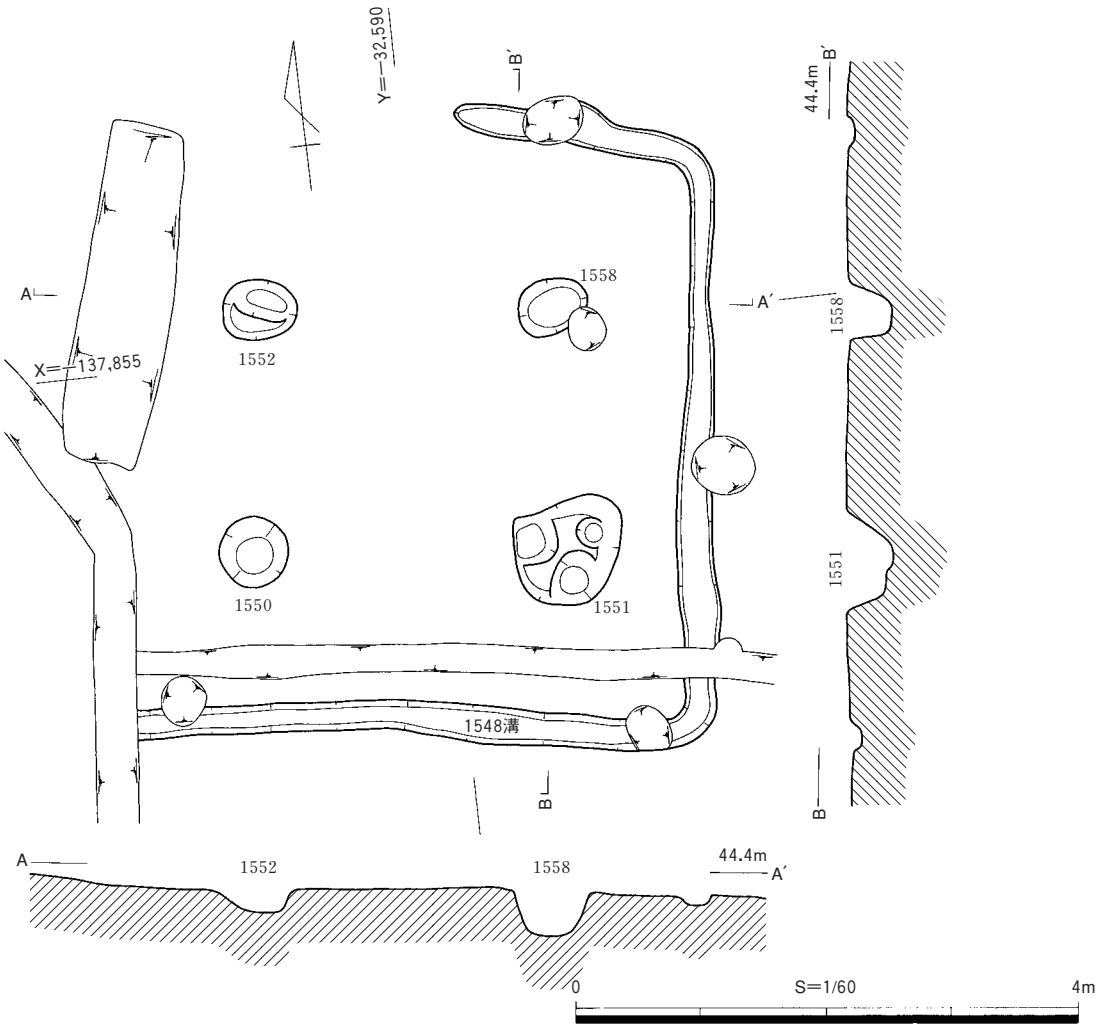



**図91　竪穴住居32平面・断面図**

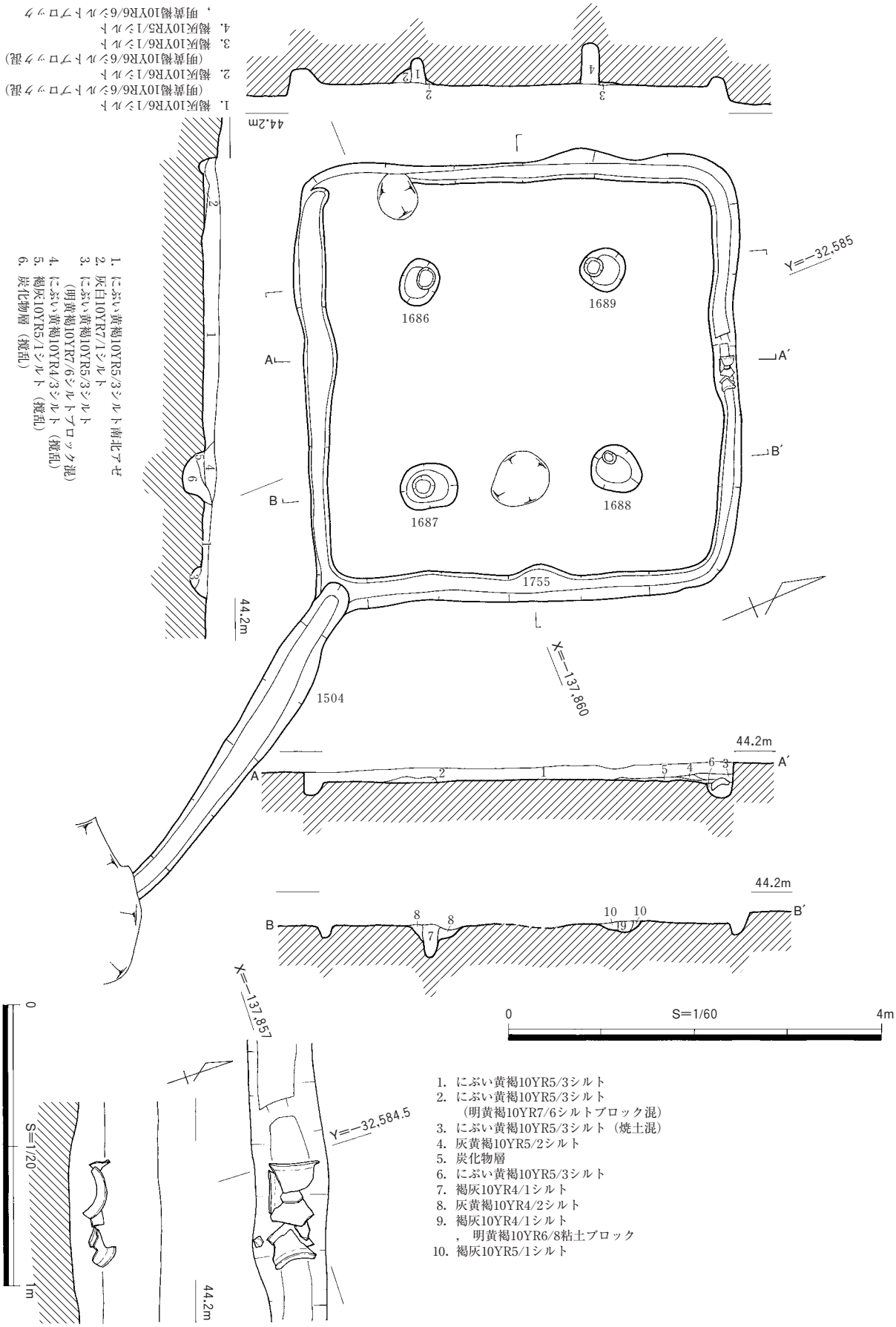



**図92　竪穴住居33平面・断面・遺物出土状況図**

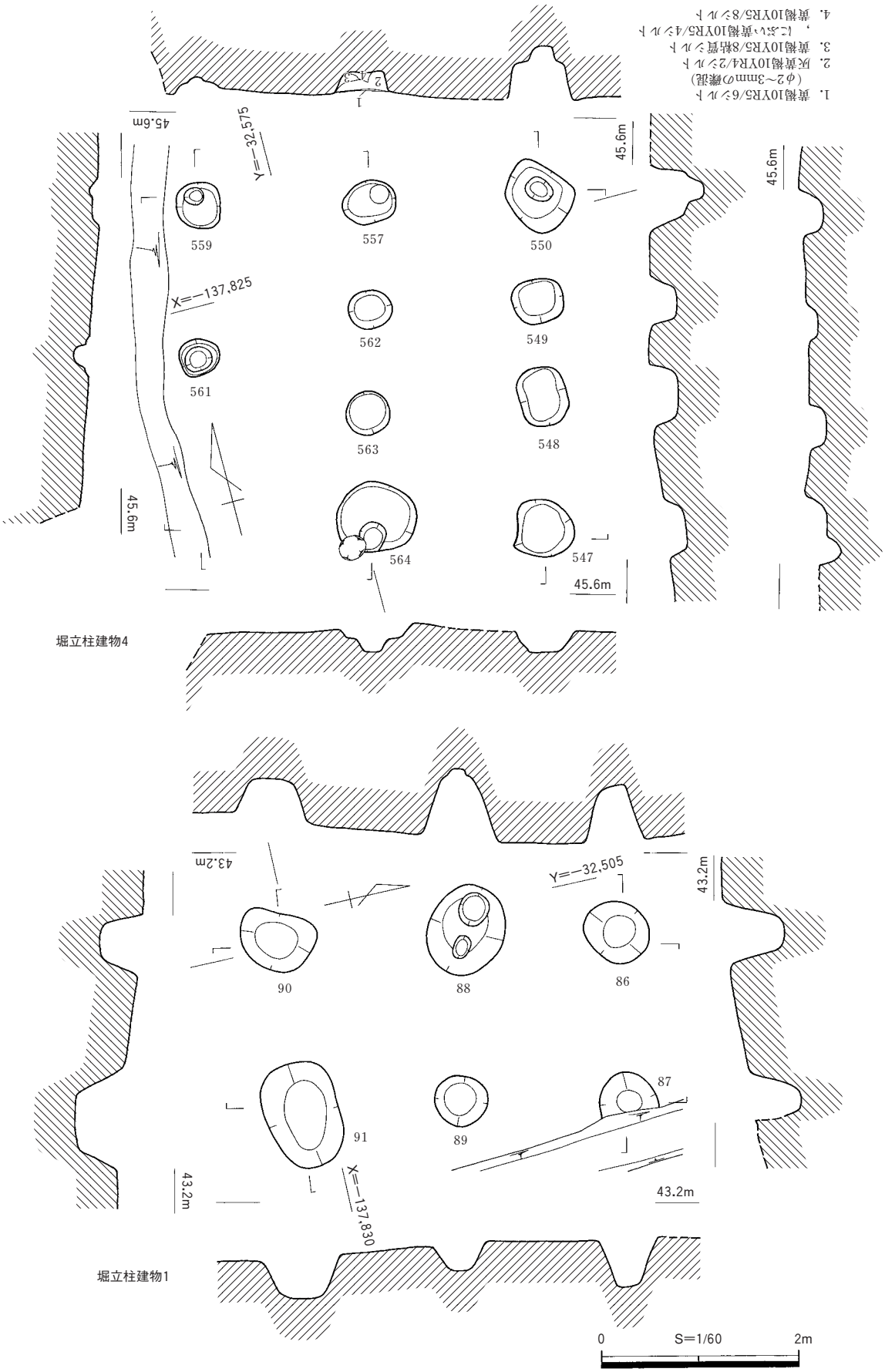



図93　掘立柱建物１・４平面・断面図

2115・2116のピットは径約0.3mを測り、他より規模が小さい。

**掘立柱建物４**（図93、図版51－３）　３間×２間の総柱建物である。約3.6m×3.6mの規模を有し、柱間間隔は1.0～1.8mを測る。柱穴平面形は隅丸方形を呈し、規模は一辺0.4～0.8m、深さ0.1～0.5mを測る。550・557・559・561・564ピットからは柱痕を確認した。

**掘立柱建物５**（図95、図版50－１・52－３）　４間×２間の建物である。約6.6m×3.5mの規模を有し、柱間間隔は1.4～1.8mを測る。北柱筋の中央柱は検出されていない。柱穴平面形は隅丸方形或いは円形を呈し、規模は一辺0.2～0.8m、深さ0.1～0.3mを測り、多様な大きさである。北柱列中央柱穴は検出されていない。1608・1609ピットからは柱痕を確認した。

**掘立柱建物６**（図96、図版50・52－１・54－１～３）　４間×２間の建物の北側に庇１間が付属する。

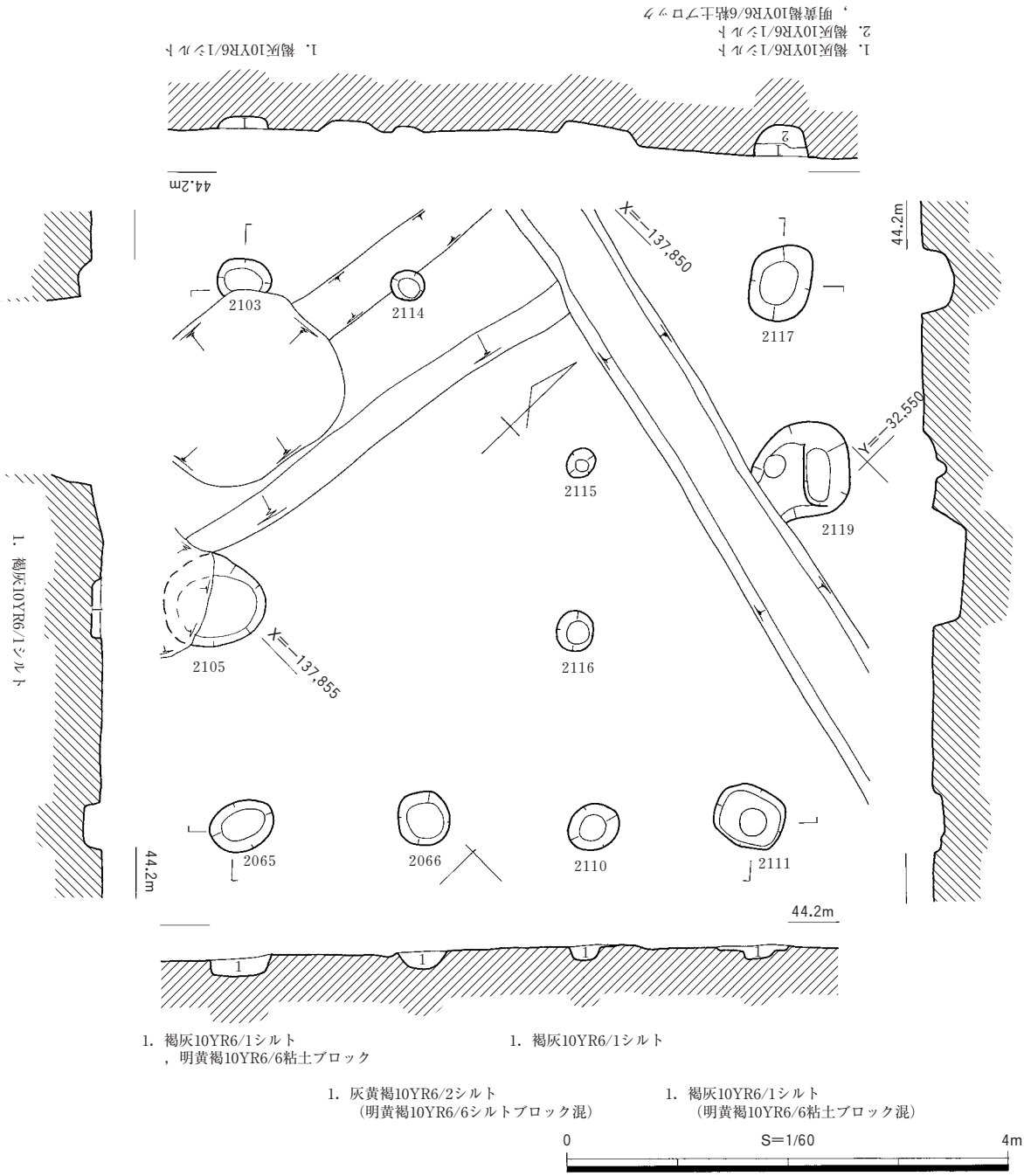



**図94　掘立柱建物３平面・断面図**

約8.2m×4.8mの規模を有し、柱間間隔は1.8〜2.0mを測るが、庇部分は約1.2mを測る。柱穴平面形は隅丸長方形を呈し、一辺0.5〜1.0m、深さ約0.5mを測る。庇部分の柱穴は直径約0.2〜0.3mを測る円形であり、母屋の柱穴より規模は小さい。1621〜1625・1627・1630・1632ピットからは柱痕を確認した。

**掘立柱建物７**（図97、図版50・53－１）　２間×２間の建物である。約5.3m×3.6mの規模を有し、柱間間隔は1.6〜3.0mを測り、桁行方向が広い柱間を持つ。柱穴平面形は隅丸長方形を呈し、一辺0.4〜0.8m、深さ0.3〜0.5mを測る。南辺中央柱穴の1454ピットのみ直径約0.3mを測り、規模が小さく浅い。1457・1458・1459ピットからは柱痕を確認した。

**掘立柱建物８**（図98、図版50・52－２）　２間×１間以上の建物である。南方向は大きく削平を受けて

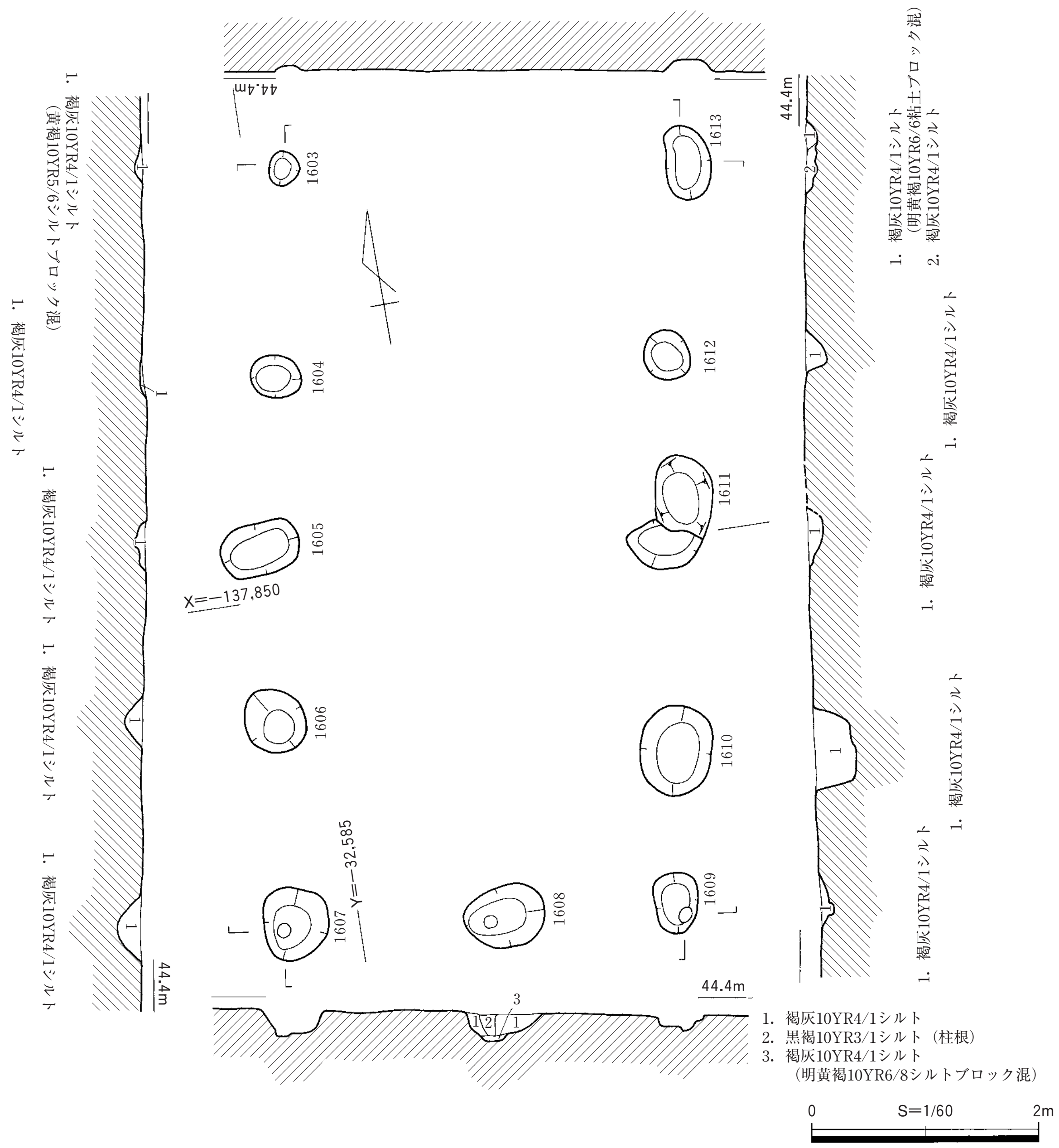
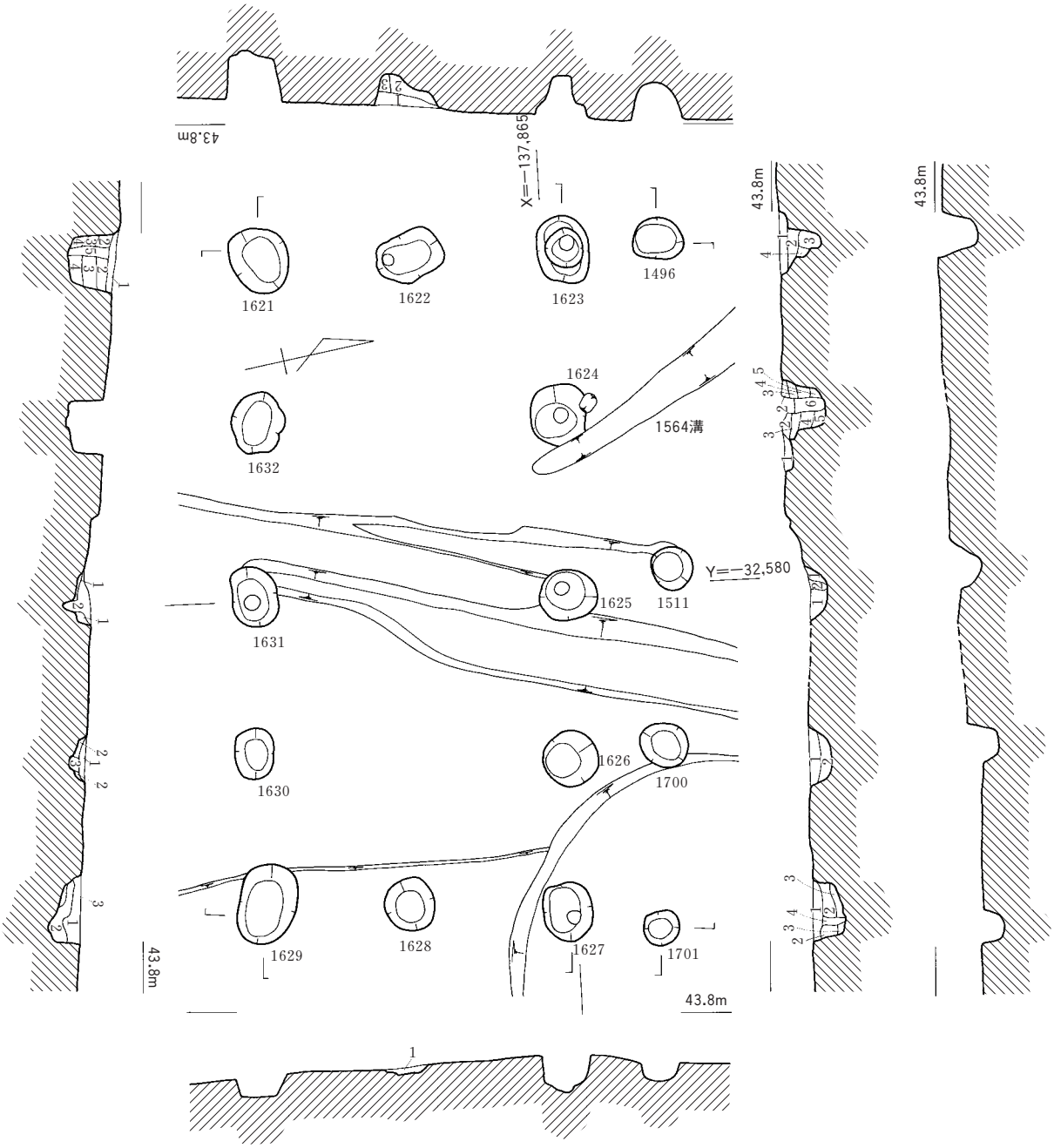



図95　掘立柱建物５平面・断面図




1621：1. 灰黄褐10YR4/2シルト
（明黄褐10YR6/8シルトブロック混）
2. 褐灰10YR4/1シルト
，明黄褐10YR6/8シルトブロック
3. 褐灰10YR4/1シルト
（明黄褐10YR6/8シルトブロック多し）
4. 褐灰10YR4/1シルト
，明黄褐10YR6/8シルトブロック
5. 柱根

1622：1. 褐灰10YR4/1シルト
2. 褐灰10YR4/1シルト
（明黄褐10YR6/6シルトブロック混）
3. 柱根

1623：1. 褐灰10YR5/1シルト
2. 灰黄褐10YR4/2シルト
3. 褐灰10YR4/1シルト
4. 褐灰10YR4/1シルト
（明黄褐10YR6/6シルトブロック混）

1624：1. 褐灰10YR6/1シルト （1564溝）
2. 明黄褐10YR6/6シルト
3. 灰黄褐10YR5/2シルト
4. 灰黄褐10YR4/2シルト
（明黄褐10YR6/6シルトブロック混）
5. 褐灰10YR5/1シルト
6. 灰黄褐10YR4/2シルト

1625：1. 褐灰10YR5/1シルト
（明黄褐10YR6/6シルトブロック混）
2. 柱根

1626：1. 褐灰10YR5/1シルト
2. 褐灰10YR5/1シルト
（明黄褐10YR6/6シルトブロック混）

0 S=1/80 5m

1627：1. 褐灰10YR5/1シルト
，明黄褐10YR6/6シルトブロック
2. 褐灰10YR5/1シルト
3. 褐灰10YR5/1シルト
（明黄褐10YR6/6シルトブロック混）
4. 褐灰10YR4/1シルト

1628：1. 褐灰10YR5/1シルト

1629：1. 褐灰10YR6/1シルト
（明黄褐10YR6/6シルトブロック）
2. 褐灰10YR5/1シルト
3. 明黄褐10YR6/6シルトブロック

1630：1. 褐灰10YR5/1シルト
2. 明黄褐10YR6/6シルトブロック
3. 褐灰10YR6/1シルト

1631：1. 褐灰10YR6/1シルト
（明黄褐10YR6/6シルトブロック混）
2. 褐灰10YR5/1シルト

**図96　掘立柱建物６平面・断面図**

いた。約4.0m×1.5m以上の規模を有し、柱間間隔は1.4～1.7mを測る。柱穴平面形は隅丸方形を呈し、一辺0.5～0.7m、深さ0.2～0.4mを測る。

それぞれの柱穴は重複しており、同一箇所で同一規模の建物が存在していたことがわかる。1727・1728・1729・1741ピットより1724・1725・1726・1740ピットが先行する。1729ピットからは柱痕を確認した。

**掘立柱建物９**（図99、図版51－１）２間×２間の建物である。約4.2m×3.7mの規模を有し、柱間間隔は1.8～2.3mを測る。柱穴平面形は円形を呈し、径0.3～0.5m、深さ0.2～0.3mを測る。南東隅の柱穴は攪乱のため、検出されていない。

**掘立柱建物10**（図100、図版53－２・３）　３間×２間の総柱建物である。約5.1m×3.5mの規模を有し、

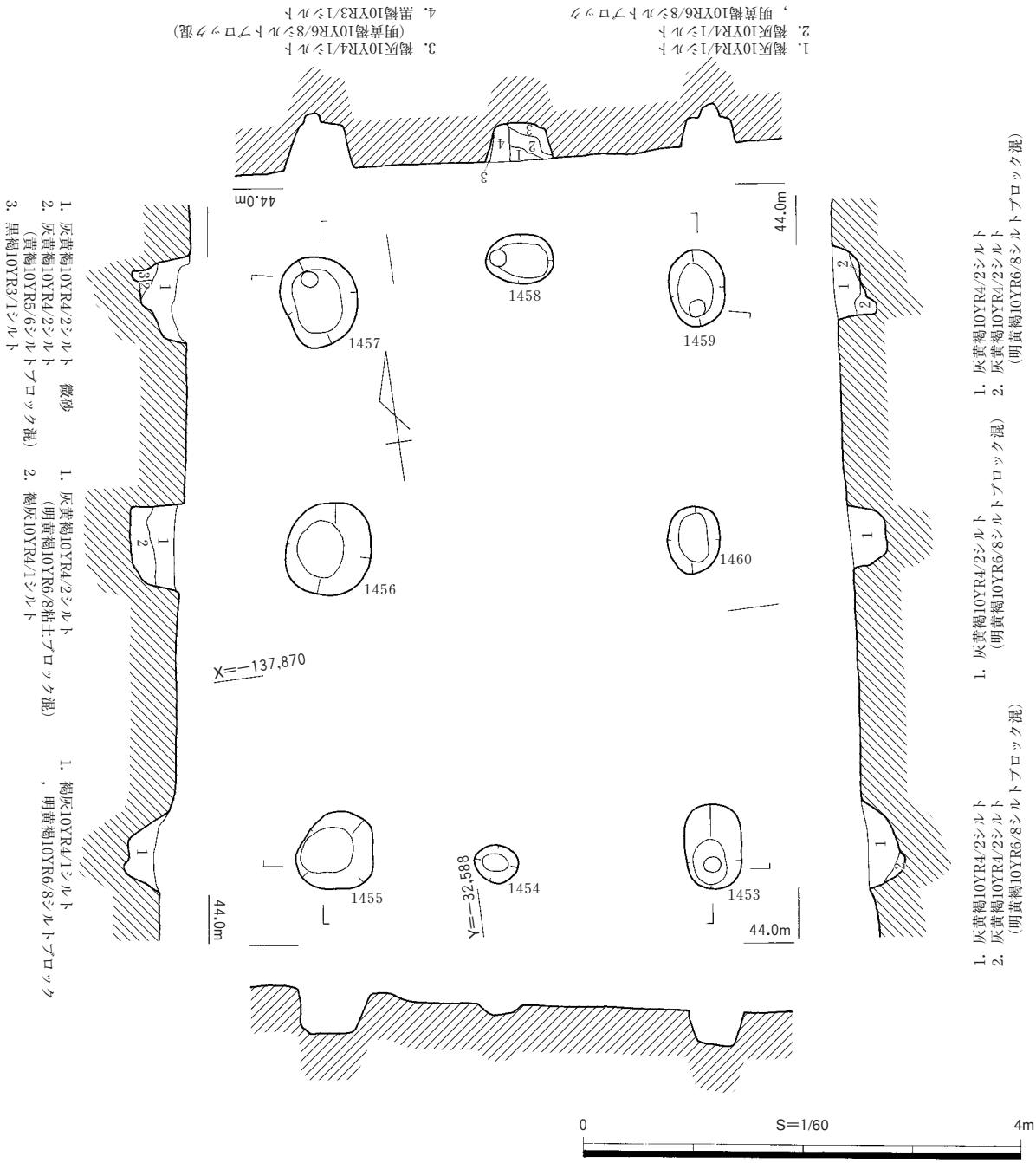



**図97　掘立柱建物７平面・断面図**

柱間間隔は1.5～2.0mを測る。柱穴平面形は隅丸方形或いは円形を呈し、一辺或いは径0.4～0.7m、深さ0.2～0.3mを測る。北辺中央柱穴の192ピットと南辺中央柱穴の152ピットは他より浅い。188・189・191・206ピットからは柱痕を確認した。

**掘立柱建物11**（図101）　前述した掘立柱建物10の南側に並行した配置をとる。3間×2間の建物である。約5.7m×3.8mの規模を有し、柱間間隔は1.7～2.5mを測る。柱穴平面形は隅丸方形或いは円形を呈し、一辺或いは径0.3～0.7m、深さ0.1～0.2mを測る。

**柱列2**（図102、図版51－4）　南北4間の掘立柱の列である。延長約7.4mの規模を有し、柱間間隔は1.4～2.2mを測る。南側は遺構面が削平を受けているため、4間以上の存在も考えられる。柱穴平面形は隅丸方形で、一辺約0.6m、深さ約0.1～0.6mを測る。

**柱列3**（図102、図版52－3）　掘立柱建物5の東辺と並行、重複して検出された南北5間の掘立柱の列である。掘立柱建物5より柱列3が後出する。延長約10.0mの規模を有し、柱間間隔は1.8～2.2mを測る。柱穴平面形は隅丸方形で、一辺約0.5～0.8m、深さ約0.1～0.4mを測る。

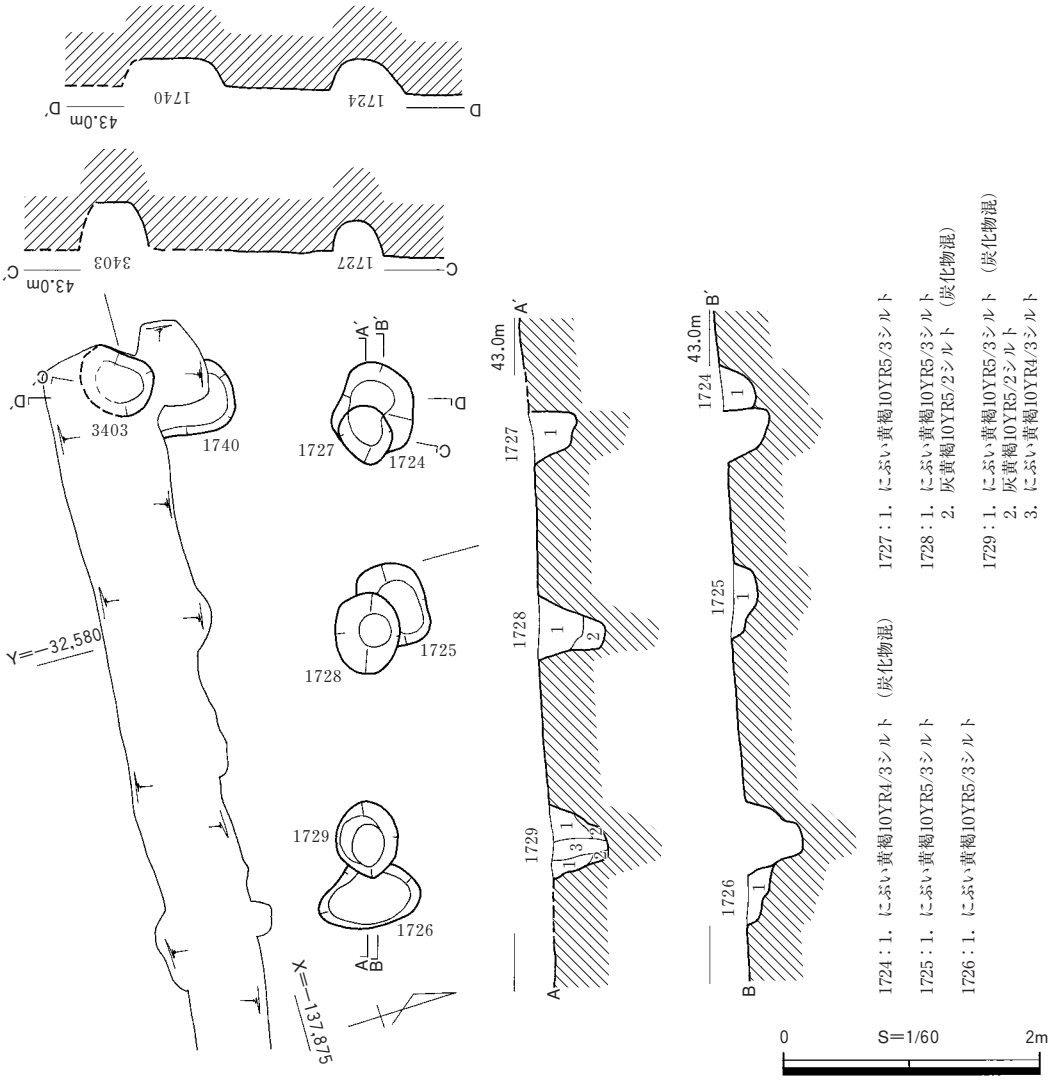



**図98　掘立柱建物8平面・断面図**

**柱列４**（図102、図版52－３）　掘立柱建物５の西辺と重複して検出された南北３間の掘立柱の列である。掘立柱建物５より柱列４が先行する。延長約4.8mの規模を有し、柱間間隔は1.1～1.9mを測る。柱穴平面形は隅丸方形或いは円形で、一辺或いは径約0.4～0.8m、深さ約0.１～0.3mを測る。

**1720井戸**（図103、図版54－７）　掘立柱建物８の東側で検出された。南側に27谷とした谷筋があたる立地である。平面形は隅丸方形を呈し、一辺約3.8mを測る。断面形態は途中に稜を有して垂直に掘削されており、その底部は一辺約2.1mを測る方形を呈する。井戸枠等の施設はなく、深さ約3.5mまで確認したが、底部を確認することはできなかった。

土師器坏・甕・鍋、須恵器坏・平瓶が出土している。

**2100井戸**（図103、図版54－８）掘立柱建物３と重複しており、掘立柱建物３より2100井戸が後出する。平面形は隅丸方形を呈し、1.8×1.5mを測る。井戸枠等の施設はなく、深さ約４mまで確認したが、底部を確認することはできなかった。

土師器小型壺・甕、須恵器壺・甕の他、くり抜き一木造りの木製桶が出土している。

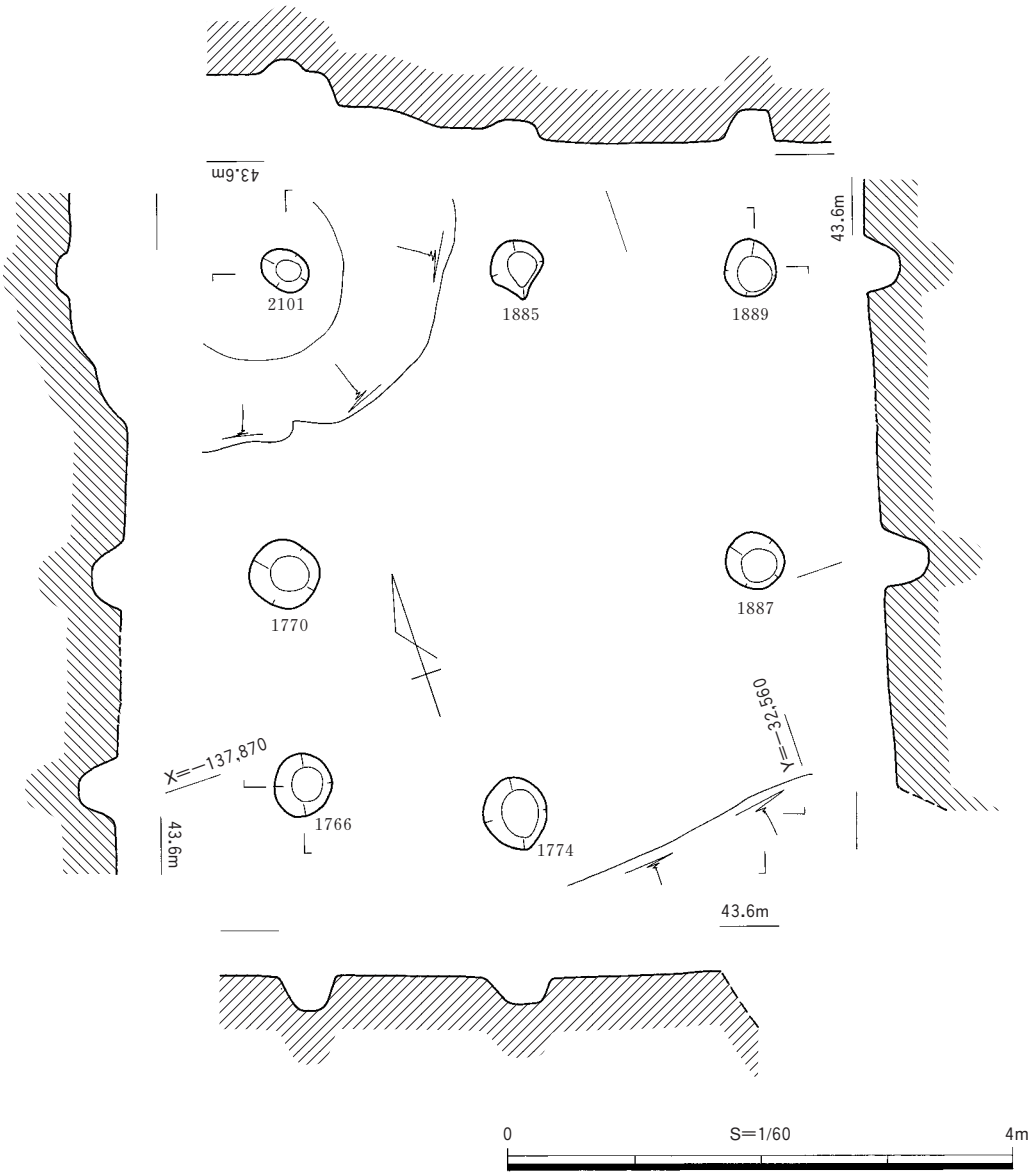



**図99　掘立柱建物９平面・断面図**

6トレンチ西半中央に狭小な谷筋である27谷をはさんで東西両側から24・30溝を検出し、また、27谷を横断して29溝を検出した。27谷の谷筋の東西両斜面には褐灰色微砂の堆積層があり、それをベース層としてこれらの遺構は掘削されている。

**24・30溝**（図版55－１～３）　27谷をはさんで、東側に30溝、西側に24溝を検出した。南北方向に伸びる溝であり、やや谷筋側に向かって湾曲している。24溝は幅約0.6m、深さ0.3～0.5mを測る。30溝は幅0.5～0.9m、深さ約0.2mを測る。27谷の谷筋を両側から区画している溝と考えられる。

**29溝**（図版55－１）　27谷をまたがり、東西方向にまっすぐ伸びる溝である。27谷で途切れているが、同時存在した一連の溝と考えられる。幅0.9～1.5m、深さ約0.2mを測る。5・6トレンチで検出した掘立柱建物の軸と同一方向を指向している。

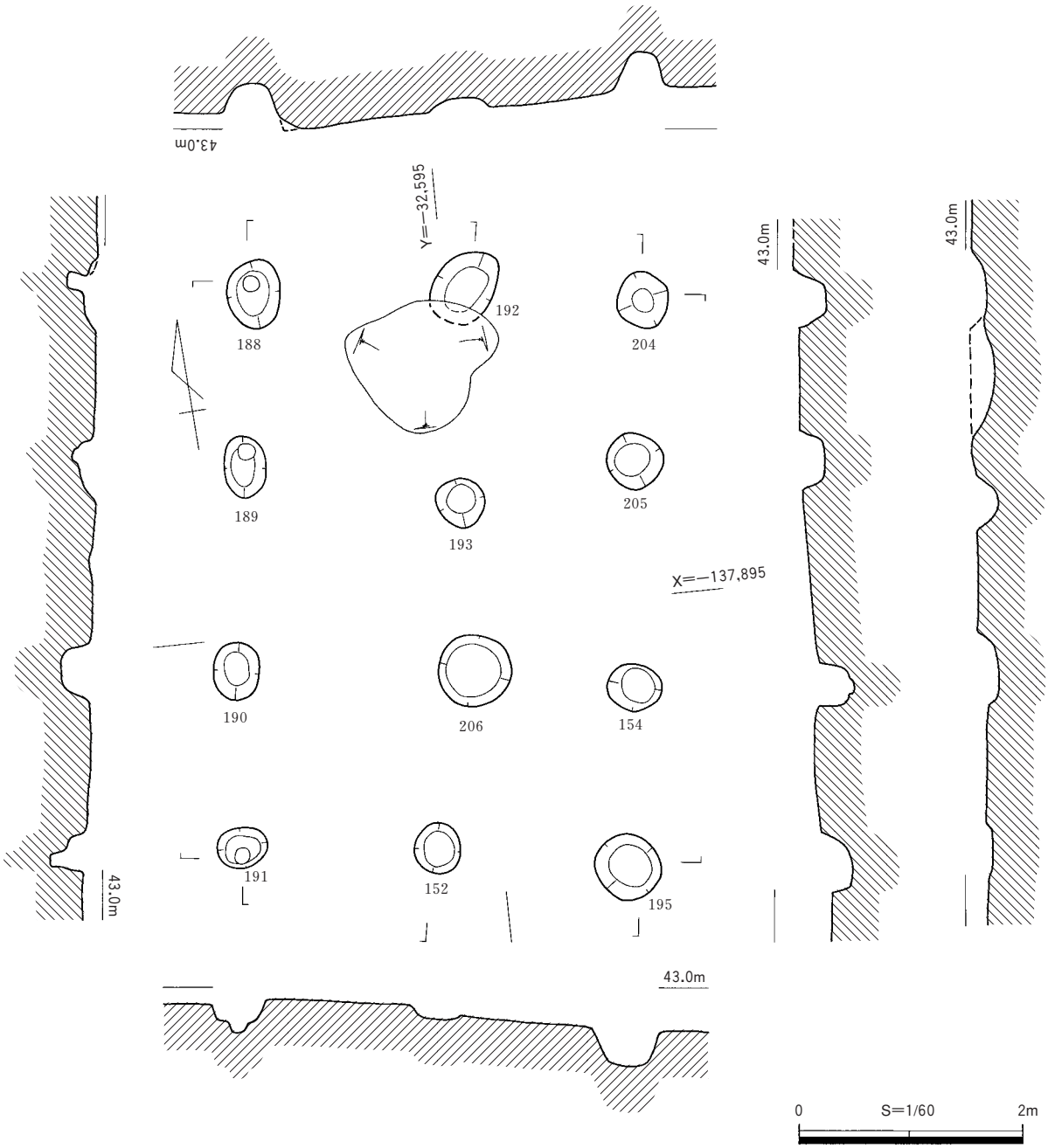



**図100　掘立柱建物10平面・断面図**

前述した24・30溝より後出する。また、27谷の東側部分では弥生時代の28溝の肩を利用していることがわかる。

**150溝**　27谷の西側に位置し、南北方向に約20m伸びる。前述した29溝と直角をなしており、同時存在していたことが考えられる。150溝は掘立柱建物10・11より後出する。

**406溝**　竪穴住居25の東側において北西－南方向で検出した。やや西側に弧を描く。幅約0.4m、深さ約0.1mを測る。

**35土壙**　先述した弥生時代の竪穴住居18の上層において検出した遺構である。土師器甕（図版76－４）を使用しており、その内面から焼骨（図版76－３）を検出した。土器上面はかなり削平を受けているものと考えられる。

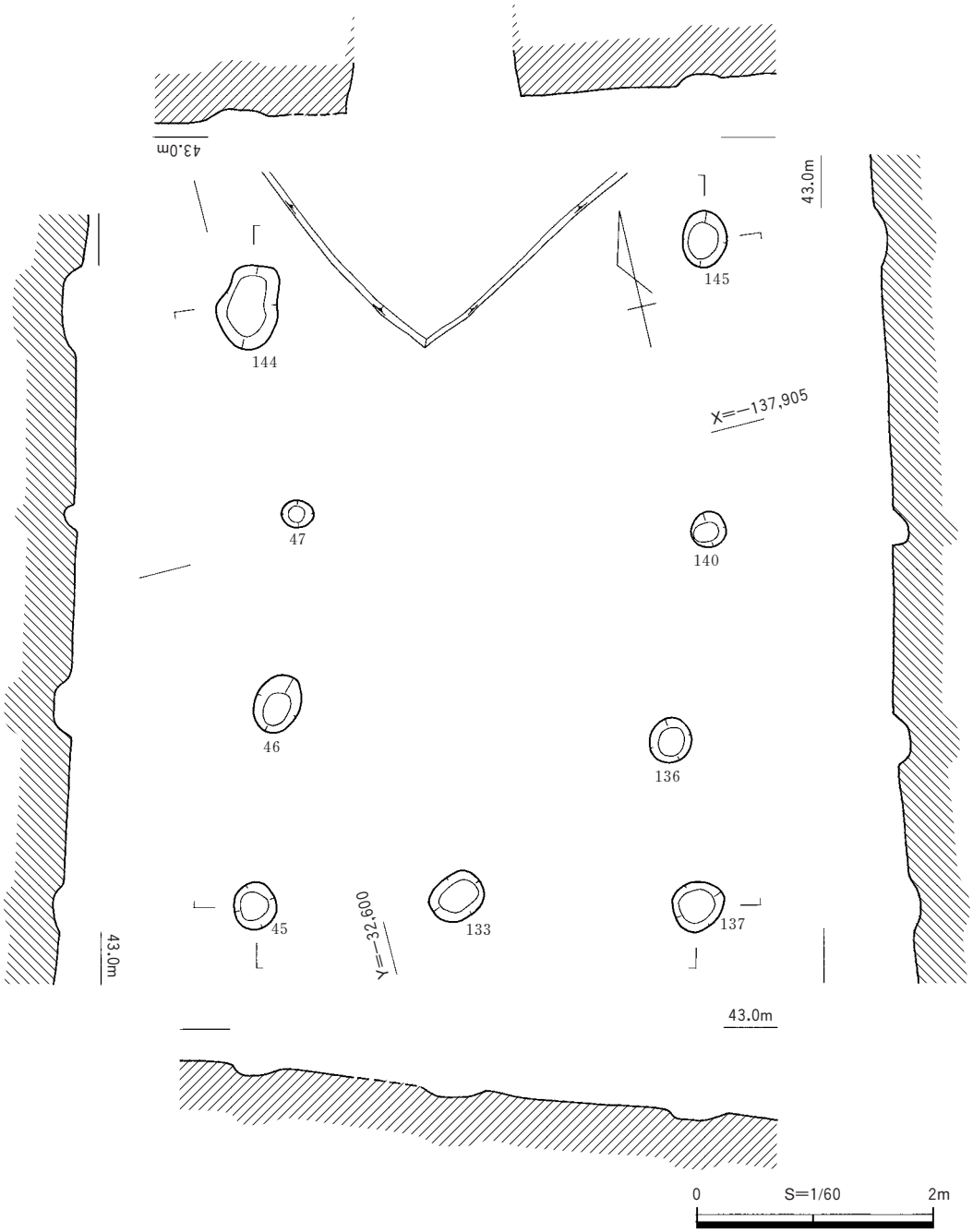



**図101　掘立柱建物11平面・断面図**

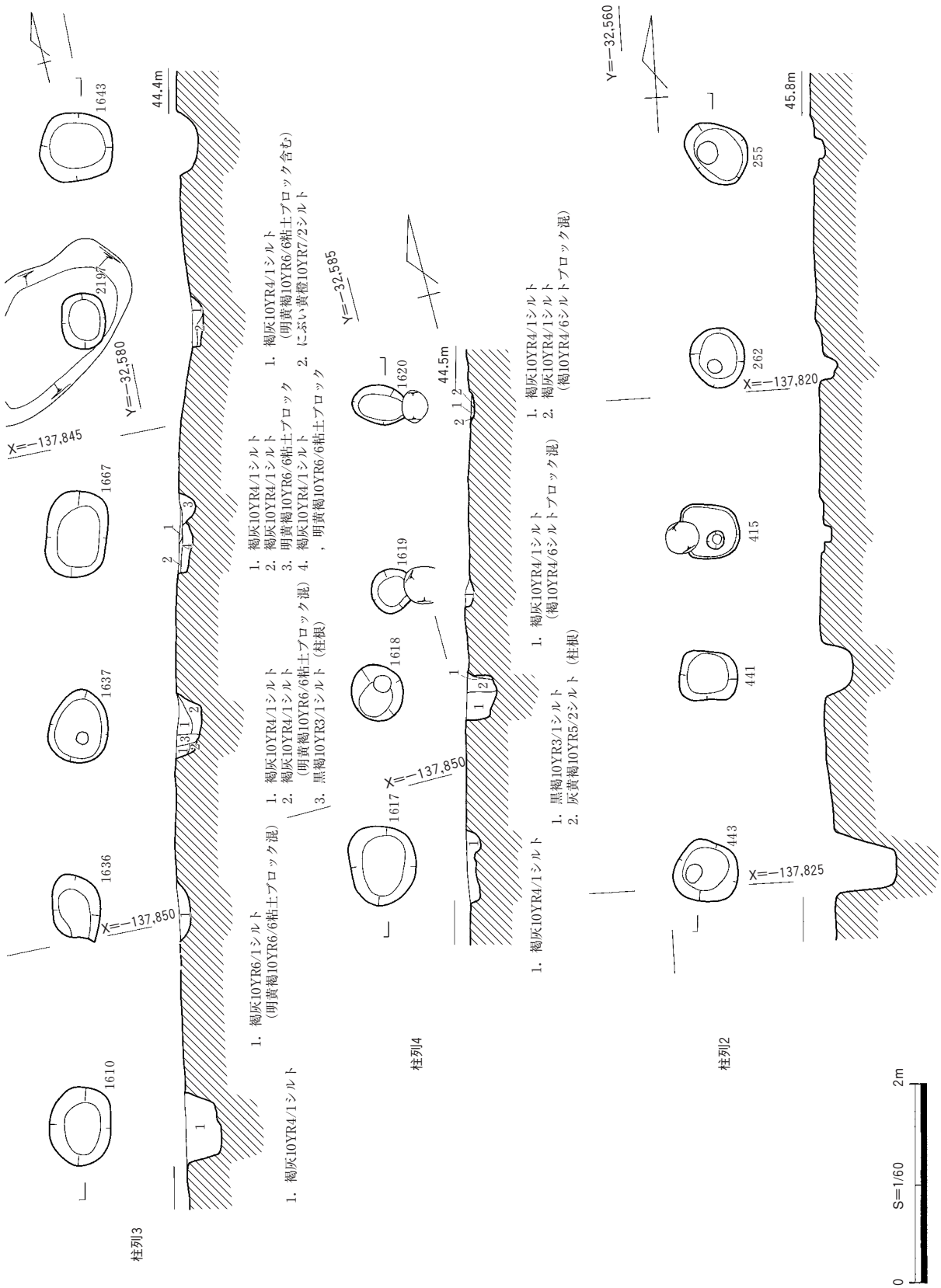



図102　柱列２・３・４平面・断面図

２．遺物（図104～106）

図104－１は掘立柱建物７出土の須恵器坏蓋である。７世紀中葉に属する。

２～７（図版76－１・２）は竪穴住居33出土遺物である。２は身の可能性もある。７世紀中葉に属すると考えられる。６は1755壁溝内の暗渠に使用されていたものである。

９～13（図版76－５・６）は1720井戸出土遺物である。８世紀前半に属すると考えられる。12は焼成が良好であり、調整が良好に観察することができる。13は口縁が大きく開いた土師器鍋である。外面のハケメ調整は上半が粗く、下半が細かく、異なったものを使用している。

14～19は2100井戸出土遺物である。８世紀前半に属すると考えられる。19の木製桶は、くり抜きの一木造りである。側面には一辺約６㎝の穿孔部があり、別材にて外側から蓋をしている。

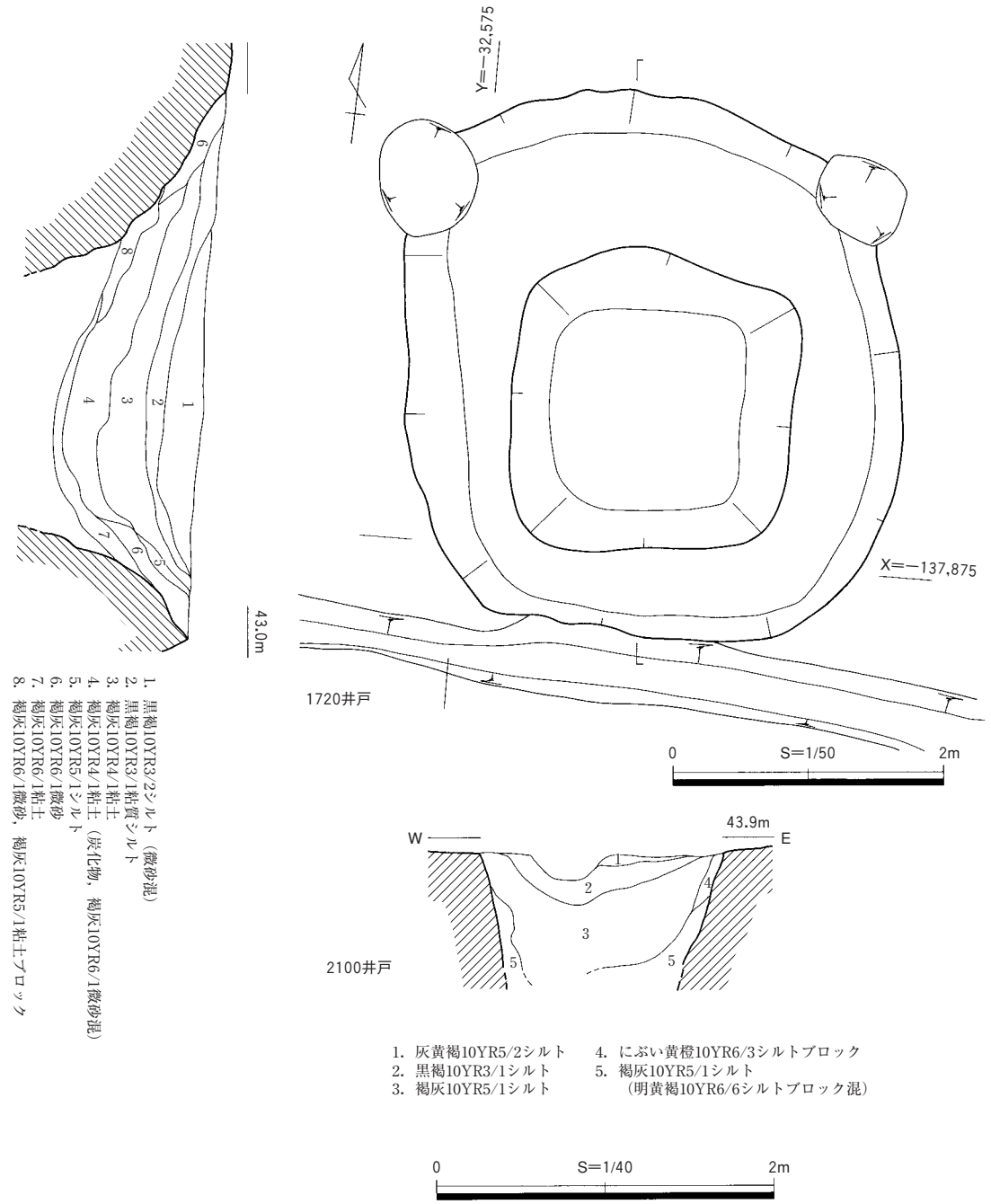



**図103　1720井戸平面・断面図、2100井戸断面図**

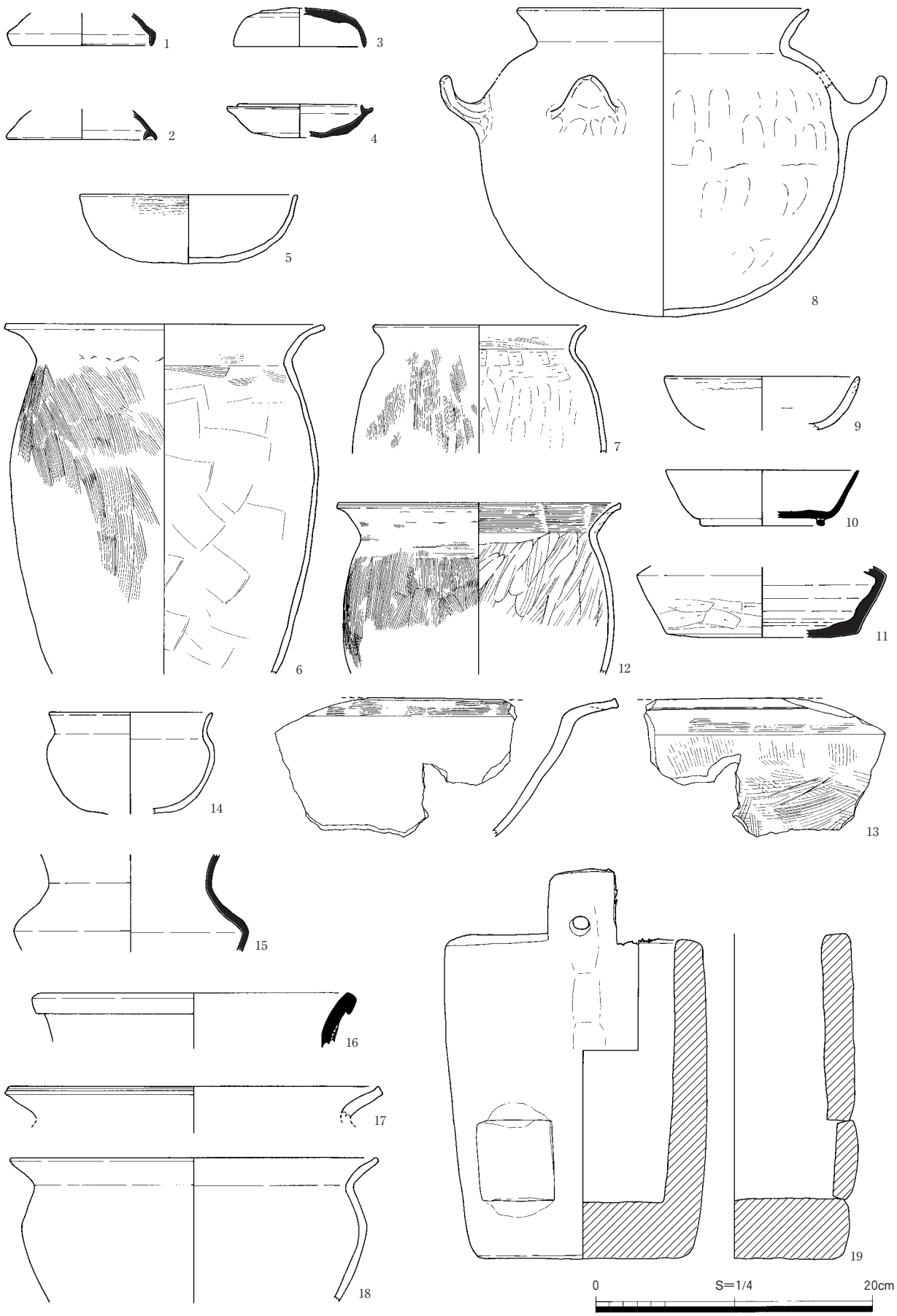



図104　掘立柱建物７、竪穴住居33・34、1720・2100井戸出土遺物

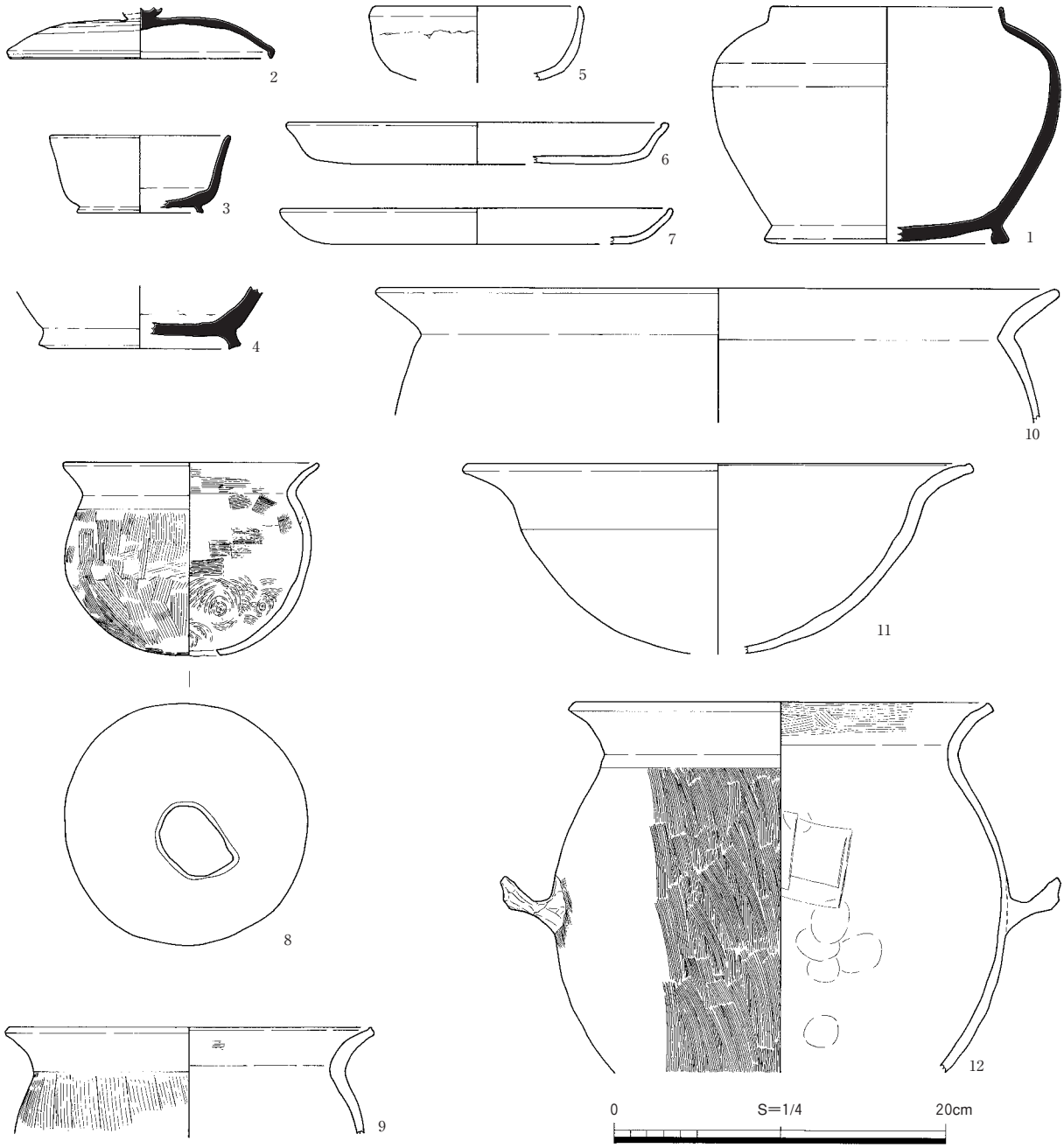



**図105　24・26・28溝出土遺物**

図105－１（図版76－７）は１トレンチの26溝から出土した須恵器短頸壺である。８世紀に属すると考えられる。26溝はこの土器が示す時期の遺構ではないが、溝掘削時にこの遺物の伴う遺構を破壊したと想定できる。骨蔵器の可能性が考えられる。

２～11（図版76－８）は28溝からの出土遺物である。28溝は弥生時代の遺構であるが、埋没する過程において７・８世紀の遺物が出土している。８の土師器甕の底部には焼成後の穿孔が見られる。

図106は27谷及びその上層の堆積層から出土した遺物である。下層からは弥生時代の遺物も出土しているが、７～８世紀の遺物が主流であり、埋没過程での出土遺物である。

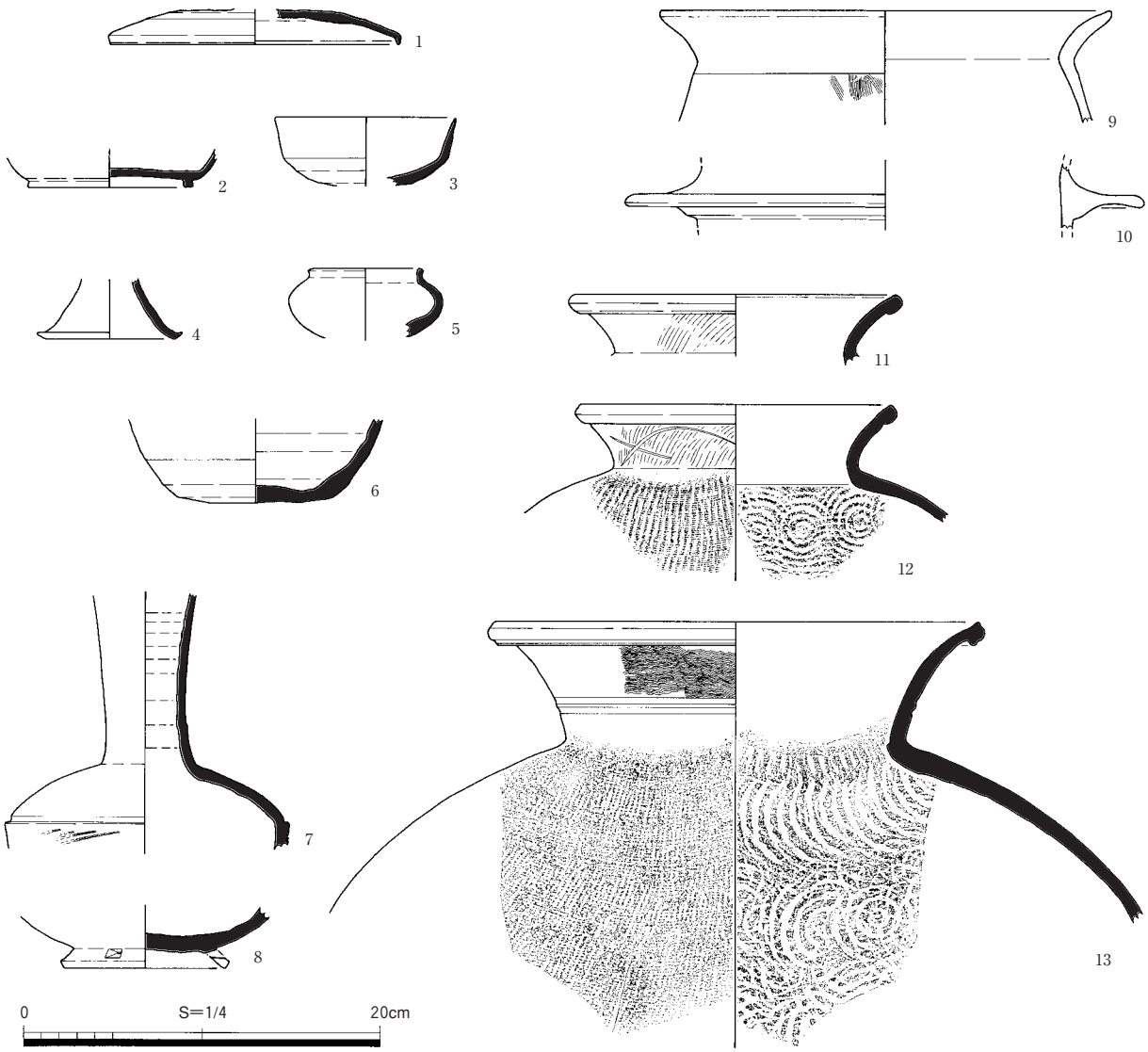



**図106　27谷、谷部第１層出土遺物**

## 第６節　中世以降の遺構・遺物

１・８トレンチにおいて南北方向に伸びる溝を検出した。

１・２トレンチの立地は尾根上に位置しているが、南側と北側をそれぞれ谷に挟まれているため最も狭くなっている。１トレンチ北隅では北方向へ下る傾斜面が一部検出された。

**26溝**（図107、図版56－２～４）１トレンチで検出した南北方向に伸びる溝である。幅約5.0m、深さ約1.6mを測り、断面形は東側斜面途中に段差を有したV字を呈する。また、埋土堆積状況の観察から複数の土壌化層が確認でき、このことから５時期にかけての変遷が認められる。この遺構に伴う遺物は出土していないが、埋土の状況から中世以降の時期が考えられる。当初、26溝は南側に位置する３トレンチで古墳群を検出していたため、古墳の周溝と考えられていたが、埋土の状況からその可能性は低いと考える。

**3208溝**（図107）８トレンチ北端で検出した南北方向の溝である。幅約1.7m、深さ約0.5mを測る。底部中央に幅約0.5m、深さ0.2mの窪みが見られ、南側の谷部に向かって拡がっている。出土遺物はないが、埋土の状況から26溝と同様、中世以降の遺構と考えられる。

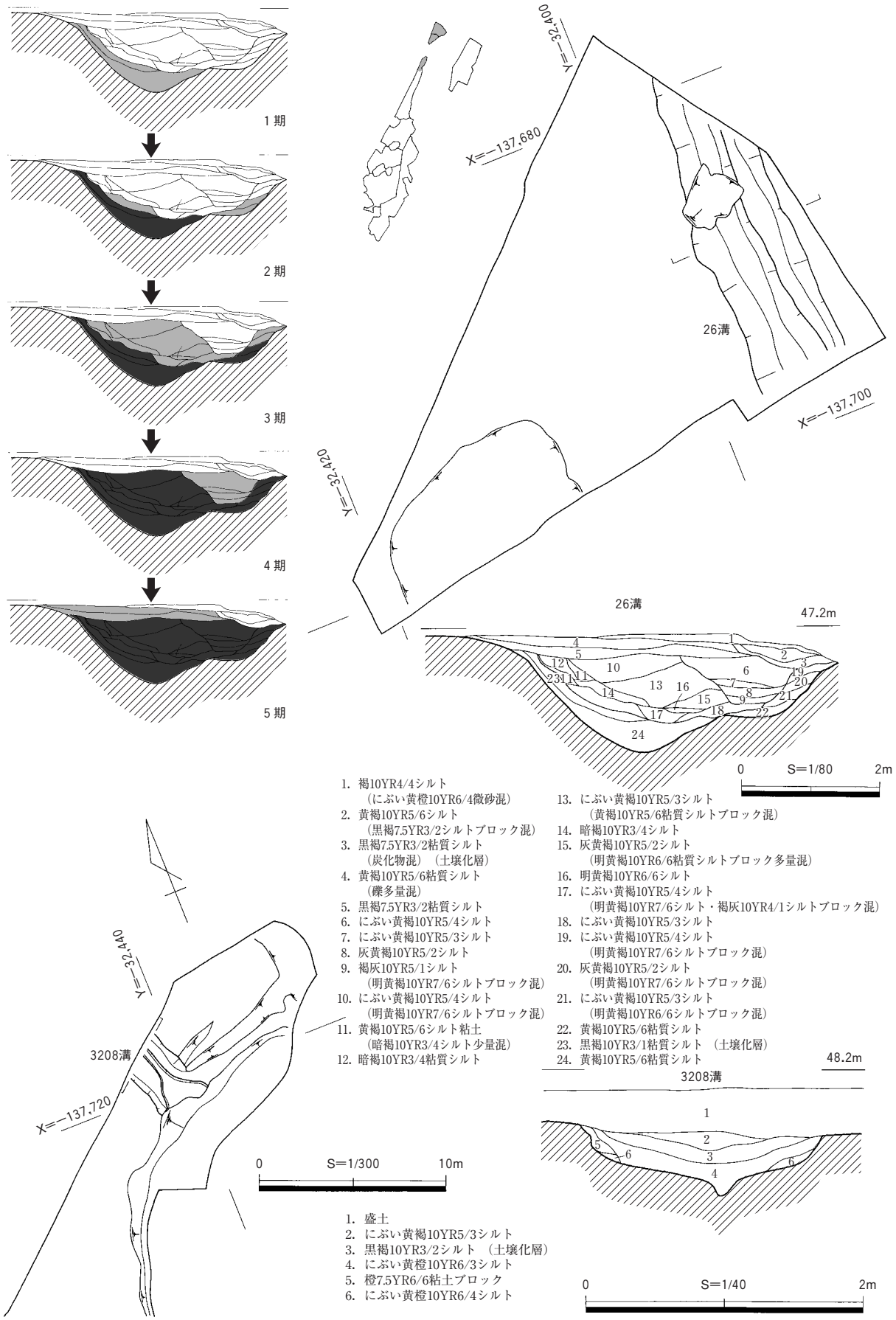



**図107　26・3208溝平面・断面図**

# 第５章　基礎分析・総括

## 第１節　弥生時代の様相

太秦遺跡は今回の調査以前から弥生時代中期の遺跡として知られており、遺跡の範囲は広く（図２）、採集遺物から中期はじめから後期に至る高地性集落であることで注目されていた。今回の調査地は遺跡の中の南端にあたり、段丘端に位置する。

１．出土遺物

遺跡は段丘上に位置するため、遺物包含層は浅く、後世の削平も加わり、そのほとんどは皆無に等しかった。よって、出土遺物量は調査面積に比して、少量であり、遺構埋土からの出土が中心となる。

土器は第４章の調査成果で記述したように、中期中葉を含みながら中期後半を中心とし、中期末の土器はほとんど含んでいないことが明らかになった。北河内地域における弥生時代中期の良好な土器資料として提示することができる。

出土土器の胎土は肉眼観察により、選別することができる。生駒山西麓産土器は暗褐色系の俗に「チョコレート色」とも表現されるものである。生駒山西麓産土器に関しては多くの研究成果がある（三好孝一1987、若林邦彦1992・1993、秋山他2004－2）。

太秦遺跡では「チョコレート色」の他に「ベージュ系」、「白色系」、「赤色系」のものを観察することができた。色調に関しても東大阪市の瓜生堂遺跡において、製作地を反映しているものなのか、土器装飾としての色調なのか、検討がなされている（長友朋子・秋山浩三2004）。

今回の調査で出土した土器の胎土別比率は、生駒山西麓産土器が9.2%、「ベージュ系」38.8%、「白色系」15.9%、「赤色系」12.7%、他不明23.4%である。ここでは、今後の検討課題として報告書掲載遺物一覧に提示しておきたい。

磨製石剣が竪穴住居から２点出土した。表２－１・２は大阪府下出土の磨製石剣一覧であるが、住居跡からの出土が少ないのがわかる。

２．竪穴住居

検出された竪穴住居の特徴として以下をあげることができる。

①直径８～10mを測る大形の竪穴住居が密集して検出された。

②大形竪穴住居は同一箇所での建て替え、もしくは増改築を繰り返している。

③竪穴住居の中央には炉があり、そこから住居外へ排水溝が伸びる。いずれも低地方向に向かう。

このような特徴をもつが、検出された竪穴住居は大形のみではなく、直径５～６ｍを測る標準的な規模のものも検出されており、それらは②のような特徴は表していない。

３．集落構造

遺物の検討により、今回検出された集落は中期中葉を含みながらも中期後半を主体としていたことが明らかになった。

住居跡は丘陵上の平坦面に広がっていたと考えられる。また、谷２・３（図109）に挟まれた南へ伸びる平坦面は、その先端が28溝により切断されている。

竪穴住居は近接し、かつ、同一箇所での建て替え、拡張を繰り返していることがわかった。また、検

出された住居跡が同一時期にすべてが存在していたとは立地をみてもわかる。

限られた調査範囲の中で、集落全域を検出したわけではないが、グルーピング及びその中での状況を検討したい。

住居跡の分布状況には疎密があり、また、谷地形・溝により、そのグルーピングの手がかりとなるものがある。以下、Ａ～Ｇ群を設定した（図108）。

Ａ群：竪穴住居２～８が属する。細長い調査区であるが、南側には谷地形があり、北側の未調査部分に拡がると考えられる。竪穴住居３は４時期、竪穴住居４は４時期、竪穴住居５は５時期の変遷があり、竪穴住居３・４、竪穴住居７・８それぞれには重複関係が認められ、同一時期には存在していなかったと考えられる。竪穴住居４－５・６期と竪穴住居５－１～４期も同一時期にはなかった。このように考えると８棟検出の中で同一時期に存在していたのは、その半分の４棟程度であったと考えられる。排水溝がいずれも南側の谷に向かっている。

Ｂ群：竪穴住居９～14が属する。最も集中して検出された地点であり、南側は東西方向に伸びる789溝によって区画されている。東側は削平を受けているが、本来竪穴住居13・14の南側まで伸びていたと考えられる。789溝は溝の下部がよくしまった土壌により埋められており、道の機能を有していたことが考えられる。竪穴住居は同一箇所での建て替え、拡張を繰り返しており、それぞれの場所を侵さない関係を強く見ることができる。

これらはすべてが同時期に存在していたとは考えにくく、遺構の状況から以下の関係が想定できる。竪穴住居９は排水溝が南東に伸びており、竪穴住居11の４～７期とは同時存在していない。竪穴住居10は南東方向に排水溝が伸びており、竪穴住居11の３～８期との同時存在は考えられない。竪穴住居11は上記竪穴住居９・10の関係の他には竪穴住居14とは同時存在していないと考えられる。排水溝が竪穴住居14に向かって伸びているからである。竪穴住居12の1期は竪穴住居11の４～７期と近接しており、同時存在していないだろう。１・２期の排水溝は竪穴住居13に向かって伸びており、同時期ではないであろう。

このようにみていくと、４棟程度が同時期に存在していたことが考えられる。

Ｃ群：後述するＤ群との隙間をＣ群とした。竪穴住居20・21の規模は標準的な直径４ｍ前後を有し、重複なく単独で存在する。

Ｄ群：竪穴住居22～24が属する。東側には789溝があり、竪穴住居24がその正面に位置する。これらは同一箇所での建て替え、拡張を繰り返している。竪穴住居22と23は同時期に存在しておらず、竪穴住居24の５・６期は竪穴住居22とは同時期に存在していない。

Ｅ群：789溝の南側、28溝の北側、27谷の東側をＥ群とした。28溝は地形にさからって伸びており、丘陵先端を切断している溝である。竪穴住居17・18・26～31・35～37が属する。重複関係があるものは２時期程度であり、ほとんどは単独で存在する。規模も標準的な大きさである。

Ｆ群：27谷の西側、さらに西側の大尾遺跡とわける谷との間をＦ群とした。竪穴住居38・39が属し、平成17年度調査によりさらに３棟の竪穴住居が確認されている。重複関係があるものは２時期程度であり、ほとんどは単独で存在する。

竪穴住居39は周溝墓の下層で検出され、その先後関係が明らかである。

Ｇ群：３トレンチの竪穴住居１をＧ群とした。前述のＡ～Ｆ群から谷地形をはさんで南東側に位置する。１棟単独で検出した。周辺から弥生時代の遺構は全く検出されず、平面形状も長方形であり、他の

## 表２　大阪府出土磨製・打製石剣一覧（１）

| 遺跡名 | 所在地 | 時期 | 遺構 | 種類 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大里 | 豊能郡能勢町大里 | 不明 | | | 大阪府教育委員会『大里遺跡発掘調査概要Ⅲ』1986 |
| 原田 | 豊能郡能勢町 | 中期後葉 | 1号墳第1主体 | 磨製石剣1 | 能勢町教育委員会『原田遺跡発掘調査報告書』1998 |
| 宮ノ前 | 池田市住吉町 | 中期 | 竪穴住居床面 | 不明 | 宮ノ前遺跡調査会『宮ノ前遺跡発掘調査概報』1970 |
| 勝部 | 豊中市勝部 | 後期後葉 | 3号木棺 | 打製石剣1 | 豊中市教育委員会『勝部遺跡』1972 |
| 勝部3次 | 〃 | 後期後葉 | 主体部 | 磨製石剣1 | 豊中市教育委員会『豊中市埋蔵文化財年報vol.3』 1995 |
| 新免 | 豊中市玉井町 | 中期中葉～後半 | 包含層 | 磨製石剣1 | 豊中市教育委員会<br>『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1986年度』1987 |
| 東奈良 | 茨木市東奈良 | 中期 | 第1号方形周溝墓南溝 | 磨製石剣1 | 東奈良調査会『東奈良発掘調査概報Ⅰ』1979 |
| | | | 方形周溝墓西溝 | 磨製石剣1 | |
| 天神山 | 高槻市天神町 | 中期 | 包含層 | ？ | 高槻市史編纂委員会『高槻市史』第6巻1973<br>免山　篤『古代学研究』11号1955 |
| 安満 | 〃　八丁畷町 | 中期後葉（Ⅳ） | 包含層 | ？ | 高槻市史編纂委員会『高槻市史』第6巻1973<br>高槻市史編纂委員会『高槻市史』第1巻1977 |
| 宮田 | | 中期？ | 土壙墓 | | |
| 田口山 | 枚方市田口 | 中期後葉（Ⅳ） | 包含層 | 磨製石剣2 | 枚方市教育委員会『枚方市文化財調査報告』第２集1970 |
| 招提中町 | 〃招提中町 | 前期末～中期中葉 | 土壙墓 | 打製石剣1 | 大阪府教育委員会<br>『招提中町遺跡』大阪府埋蔵文化財報告2001-1　2002 |
| 星ヶ丘西 | 〃　星ヶ丘 | 中期？ | 木棺 | 打製石剣1 | |
| 交北城ノ山 | 〃　交北 | Ⅱ～Ⅲ | ？ | ？ | （財）枚方市文化財研究調査会『枚方市文化財年報Ⅲ』1982 |
| 高宮八丁 | 寝屋川市初町 | 前期前～後葉（Ⅰ・Ⅱ） | 溝 | 打製石剣2 | 寝屋川市教育委員会『高宮八丁遺跡』1987 |
| | | | 包含層 | 打製石剣6<br>磨製石剣8 | |
| 太秦 | 〃　太秦 | 中期後葉 | 包含層 | | 寝屋川市教育委員会『寝屋川市文化財図録Ⅰ』1984 |
| 雁屋 | 四条畷市 | | | | |
| 八雲 | 守口市 | | | | |
| 森小路 | 大阪市旭区 | 中期前～後葉 | 包含層 | 磨製石剣1 | （財）大阪市文化財協会<br>『大阪市旭区　森小路遺跡発掘調査報告Ⅰ』2001　（88ー33次調査） |
| | | Ⅱ～Ⅲ | 土坑 | 磨製石剣1 | 大阪市教育委員会・（財）大阪市文化財協会<br>『昭和60年度　大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告』1987　（85-14次調査） |
| | | Ⅲ | 井戸 | 磨製石剣1 | 大阪市教育委員会・（財）大阪市文化財協会<br>『昭和62年度　大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告』1989　（87-13次調査） |
| | | Ⅲ～Ⅳ | 包含層 | 磨製石剣1 | 大阪市教育委員会・（財）大阪市文化財協会<br>『平成5年度　大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告』1995　（93-35次調査） |
| | | Ⅱ～Ⅳ | 包含層 | 磨製石剣1 | 大阪市教育委員会・（財）大阪市文化財協会<br>『平成6年度　大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告』1996　（94-6次調査） |
| | | ？ | ？ | 磨製石剣1 | 大阪市教育委員会・（財）大阪市文化財協会<br>『平成7年度　大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告』1997　（95-23次調査） |
| 西諸福 | 大東市 | ――― | ――― | ――― | 大東市教育委員会『西諸福遺跡発掘調査報告書』2000 |
| 中垣内 | 大東市 | 前期 | 包含層？溝？ | 磨製石剣1 | 大東市教育委員会『中垣内遺跡発掘調査報告書』1990 |
| 森ノ宮 | 大阪市中央区 | ――― | ――― | ――― | 森の宮遺跡発掘調査団『森の宮遺跡第1・2次調査報告』昭和47年（1972）<br>難波宮址顕彰会『森の宮遺跡第3・4次調査報告書』1978<br>（財）大阪市文化財協会『大阪市中央区　森の宮遺跡Ⅱ』1996 |
| 桑津 | 大阪市府東住吉区 | 中期 | 溝 | 磨製石剣1 | 大阪市教育委員会・（財）大阪市文化財協会<br>『平成4年　大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告』1993　（92ー4次調査） |
| | | 中期 | 溝 | 磨製石剣1 | （財）大阪市文化財協会<br>『大阪市東住吉区　桑津遺跡発掘調査報告』1998　（90ー14次調査） |
| 高井田 | 柏原市 | ――― | ――― | ――― | 柏原市教育委員会『高井田遺跡Ⅰ～Ⅲ』1985・1986・1998年度 |
| 鬼虎川 | 〃　弥生町 | 中期 | 溝 | 打製石剣1<br>磨製石剣1 | （財）東大阪市文化財協会『鬼虎川遺跡第33次発掘調査報告』1996 |
| | | | 溝 | 打製石剣4 | 東大阪市教育委員会<br>『鬼虎川遺跡第44次発掘調査報告』平成12年（2000） |
| 西ノ辻 | 〃　西石切町 | 中期 | 溝 | 打製石剣4 | （財）東大阪市文化財協会・東大阪市教委<br>『西ノ辻遺跡第9次発掘調査報告』1996 |
| | | | 井戸 | 打製石剣1<br>磨製石剣1 | |
| 鬼塚 | 東大阪市 | 不明 | 包含層 | 打製石剣1 | （財）東大阪市文化財協会『鬼塚遺跡第9次発掘調査報告』1997 |
| 瓜生堂 | 東大阪市瓜生堂 | 中期 | 包含層 | 磨製石剣2 | 中央南幹線内西岩田瓜生堂遺跡調査会『瓜生堂遺跡』1971 |
| | | | 土壙墓周辺 | 磨製石剣1 | 瓜生堂遺跡調査会『瓜生堂遺跡資料編』1972 |
| | | | 包含層 | 磨製石剣3 | 〃　『瓜生堂遺跡』Ⅱ1973 |
| | | | 第14号方形周溝墓溝内 | 磨製石剣1 | 〃　『瓜生堂遺跡Ⅲ』1981 |
| | | | 第1号方形周溝墓<br>1号主体部 | 磨製石剣1 | （財）東大阪市文化財協会『財団法人東大阪市文化財協会概報集』1989 |
| | | | 包含層 | 打製石剣1 | 東大阪市教育委員会『瓜生堂遺跡第46・47-1・2次発掘調査報告』2002 |
| | 東大阪市若江西新町 | 中期後葉 | 包含層 | 磨製石剣1 | （財）大阪府文化財センター『瓜生堂遺跡3』2004 |
| 瓜生堂B地区 | 東大阪市瓜生堂 | 中期後葉 | 7号墓盛土 | 各遺構より<br>磨製石剣1 | 大阪府教育委員会・大阪府文化財センター『瓜生堂』1980 |
| | | | 9号墓盛土 | | |
| | | | 土坑116 | | |
| | | | 土坑270 | | |
| | | | 河川 | | |
| 〃　C地区 | 〃 | 中期後葉 | 12号墓盛土 | 磨製石剣1 | |
| | | | 14号墓盛土 | 磨製石戈1 | |

## 表３　大阪府出土磨製・打製石剣一覧（２）

| 遺跡名 | 所在地 | 時期 | 遺構 | 種類 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 〃　D地区 | 〃 | 中期中～後葉 | 第19号方形周溝墓南溝 | 磨製石剣2 | |
| | | | 第22号方形周溝墓南西溝 | 磨製石剣1 | |
| | | | 溝 | 磨製石剣2 | |
| 巨摩廃寺 | 東大阪市若江西新町 | 中期後葉 | 第7号方形周溝墓<br>墳丘北西部 | 各遺構より<br>磨製石剣1 | 大阪府教育委員会・大阪府文化財センター『巨摩・瓜生堂』1981 |
| | | | 沼状遺構 | | |
| 若江北 | 東大阪市 | ―――― | ―――― | ―― | (財)東大阪市文化財協会『若江北遺跡』1985<br>(財)東大阪市文化財協会『瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘調査報告<br>～電気工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の報告書』1999<br>大阪府教育委員会『若江北・亀井・長原(城山)遺跡』<br>大阪府埋蔵文化財調査報告2003-3　2004 |
| 山賀(その3) | 八尾市新家町 | Ⅳ | 溝 | 磨製石剣1 | 大阪府教育委員会・大阪府文化財センター『山賀(その3)』1984 |
| 山賀(その4) | 〃 | Ⅱ | 人工河川 | 磨製石剣1 | 大阪府教育委員会・大阪府文化財センター『山賀(その4)』1983 |
| 美園B地区 | 八尾市美園町 | 前期 | 竪穴住居内柱穴 | 磨製石剣1 | 大阪府教育委員会・大阪府文化財センター『美園』1985 |
| 〃　C地区 | 〃 | 中期 | 土坑 | 磨製石剣1 | |
| 〃　D地区 | 〃 | 中期 | 溝 | 打製石剣1 | |
| 山畑 | 八尾市四条町 | Ⅲ・Ⅳ | | | 枚岡市史　第3巻　1966 |
| 加美 | 八尾市 | | | | |
| 久宝寺 | 八尾市 | | | | |
| 亀井 | 八尾市南亀井町 | Ⅱ～Ⅲ | 溝 | 打製石剣1 | 大阪府文化財センター『亀井・城山』1980 |
| | | Ⅱ～Ⅲ | 井戸 | 磨製石剣1 | 大阪府教育委員会・大阪府文化財センター『亀井』1983 |
| | | 不明 | 自然流路 | 磨製石剣1 | |
| | | 中期 | 溝 | 磨製石剣1 | 大阪府文化財センター『亀井(その2)』1986 |
| | | 中期 | 方形周溝墓 | 磨製石剣1 | |
| | | 中期 | 1号方形周溝墓<br>北西周溝内 | 磨製石剣1 | 大阪府文化財センター『城山(その1)』1986 |
| | | 中期 | 溝 | 打製石剣1 | 大阪府教育委員会『若江北・亀井・長原(城山)遺跡』<br>大阪府埋蔵文化財調査報告2003-3　2004 |
| 城山<br>(長原) | 大阪市平野区 | 中期～後期 | 溝 | 磨製石剣1 | 大阪府教育委員会・大阪府文化財センター『城山(その3)』1986 |
| 瓜破 | 大阪市平野区 | Ⅱ | 包含層 | 打製石剣2 | (財)大阪市文化財協会<br>『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告』1996年度　1999　(96-12次調査) |
| | | Ⅱ | 溝 | 打製石剣1 | (財)大阪市文化財協会<br>『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告』1997年度　1999　(97-19次調査) |
| | | Ⅰ新～Ⅳ | 溝 | 磨製石剣1 | (財)大阪市文化財協会『大阪市平野区　瓜破遺跡発掘調査報告Ⅲ』2003 |
| 水越 | 八尾市千塚 | 中期 | 包含層？自然河道？ | 磨製石剣1 | 八尾市教育委員会<br>『八尾市埋蔵文化財発掘証調査概要昭和56・57年度』1983 |
| 恩地 | 〃　恩地 | 不明 | 自然流路 | 打製石剣1 | 瓜生堂遺跡調査会『恩地遺跡Ⅰ』 1980 |
| | | | 包含層 | 磨製石剣1 | |
| 船橋 | | | | | |
| 国府 | 藤井寺市惣社 | | | | 山本好一『大阪文化史』2巻3号　1977 |
| 喜志 | 富田林市木戸山町 | 中期～後期 | 溝 | 打製石剣1<br>磨製石剣1 | 富田林市教育委員会『喜志遺跡発掘調査概要Ⅱ』1988 |
| | | 中期 | 溝 | 打製石剣1 | 富田林市教育委員会『富田林市内遺跡発掘調査報告書』1995 |
| | | | 整地層 | 打製石剣28 | |
| | | | 包含層 | 打製石剣1 | |
| | | Ⅱ～Ⅳ | 溝 | 打製石剣151 | 富田林市教育委員会『富田林市内遺跡発掘調査報告書』1997 |
| | | | 土坑 | 打製石剣5 | |
| | | | 包含層 | 打製石剣48 | |
| | | | 表採 | 打製石剣1 | |
| 中野 | 〃　若松町 | 中期 | 溝 | 磨製石剣1 | 富田林市教育委員会・中野遺跡発掘調査報告書1979<br>〃　　中野遺跡発掘調査概要Ⅴ1984 |
| 山之内 | 大阪市住吉区 | Ⅰ～Ⅱ？ | 土坑 | 打製石剣1 | (財)大阪市文化財協会<br>『大阪市住吉区　山之内遺跡発掘調査報告』1998　(81-5次調査) |
| 池上<br>(池上曽根) | 和泉市池上町 | Ⅲ～Ⅳ | 溝 | 磨製石剣5 | 第2阪和国道内遺跡調査会『池上・四ツ池』1970 |
| | | Ⅰ～Ⅳ | 溝 | 磨製石剣2 | 仮称池上小学校予定地内遺跡調査会<br>『池上遺跡ー池上小学校建設に伴う発掘調査概要』1980 |
| | | Ⅰ～Ⅱ | 落ち込み内 | 磨製石剣1 | |
| | | 不明 | 自然河川 | 打製石剣1<br>磨製石剣1 | 大阪府教育委員会<br>『池上曽根遺跡』大阪府埋蔵文化財報告書1998ー1　1999 |
| 伏尾 | 堺市伏尾 | 中期末～後期初頭 | 竪穴住居床面？<br>包含層？ | 磨製石剣1 | 大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会<br>『陶邑・伏尾遺跡ーA地区ー』1990　(Ⅲ地区) |
| 四ツ池 | 堺市浜寺船尾町 | 不明 | 溝 | 磨製石剣1 | 第2阪和国道内遺跡調査会『池上・四ツ池』1970 |
| | | 後期 | 自然河川 | 打製石剣1 | 堺市教育委員会『堺市文化財調査報告第22集』1985 |
| 栄の池 | 岸和田市小松里町 | Ⅱ～Ⅳ | 自然河川 | 磨製石剣2 | 岸和田遺跡調査会『栄の池遺跡』1979 |
| 石才南遺跡 | 貝塚市石才 | 中期 | 土坑 | 磨製石剣1 | (財)大阪府埋蔵文化財協会『石才南遺跡発掘調査報告』1988 |

竪穴住居とは異質のものである。

以上のように群を単位とし、その様相を記述した。A・B・D群は重複関係が著しいが、検出数の約半数の竪穴住居が同時期に存在していた可能性があると推定できる。C・E・F群は散在しており、同時期にどれぐらいの竪穴住居が存在していたか、不明瞭である。このA・B・D群とC・E・F群の相違は大形住居と標準規模の住居の分布と相重なるものである。

G群は谷2（図109）をはさんで単独1棟のみで存在しており、A～F群とは違った性格を考える必要がある。

出土土器からみた時期幅は狭く、また、出土量は少量であり、すべての個々の竪穴住居に時期を与え

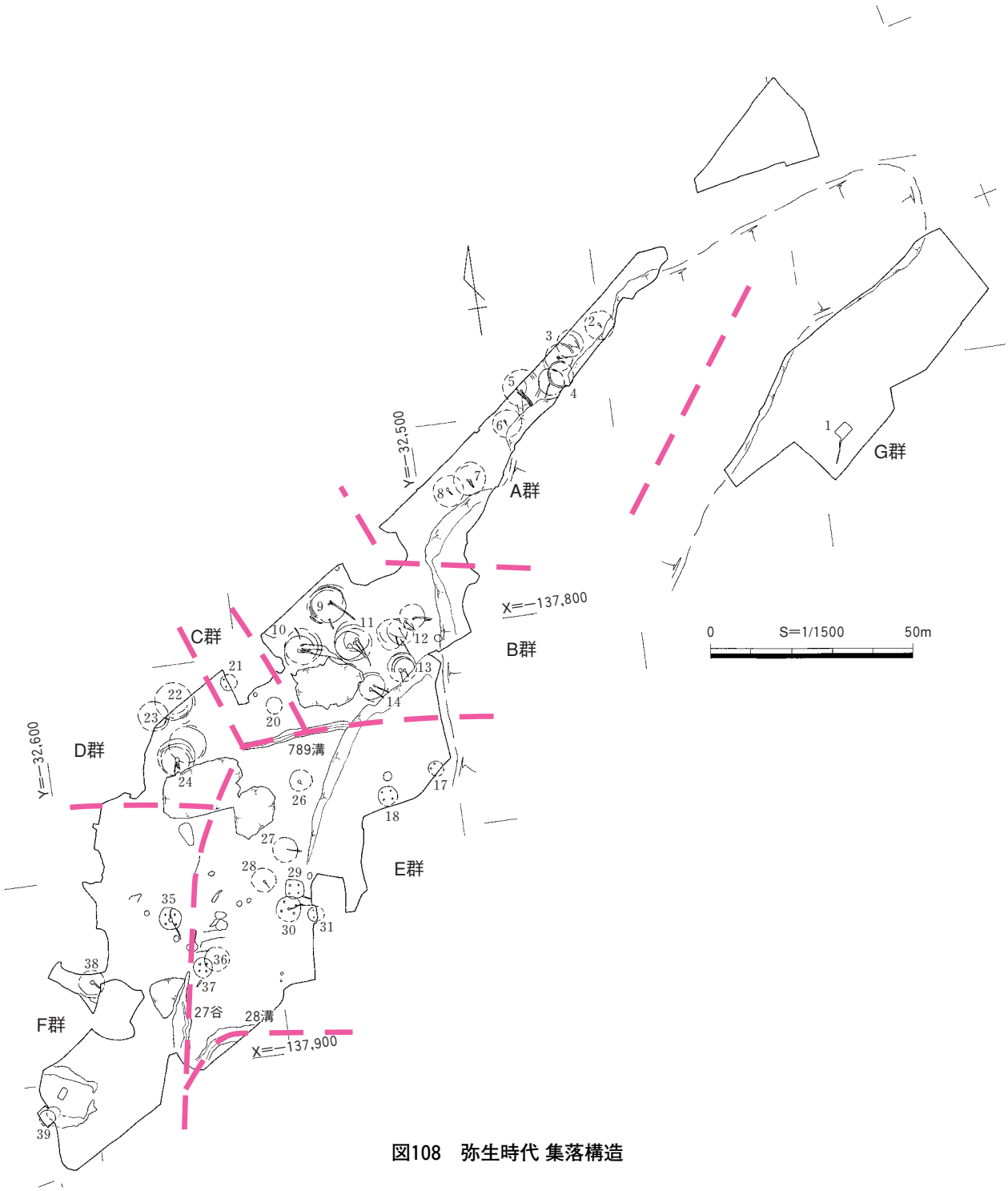



図108　弥生時代 集落構造

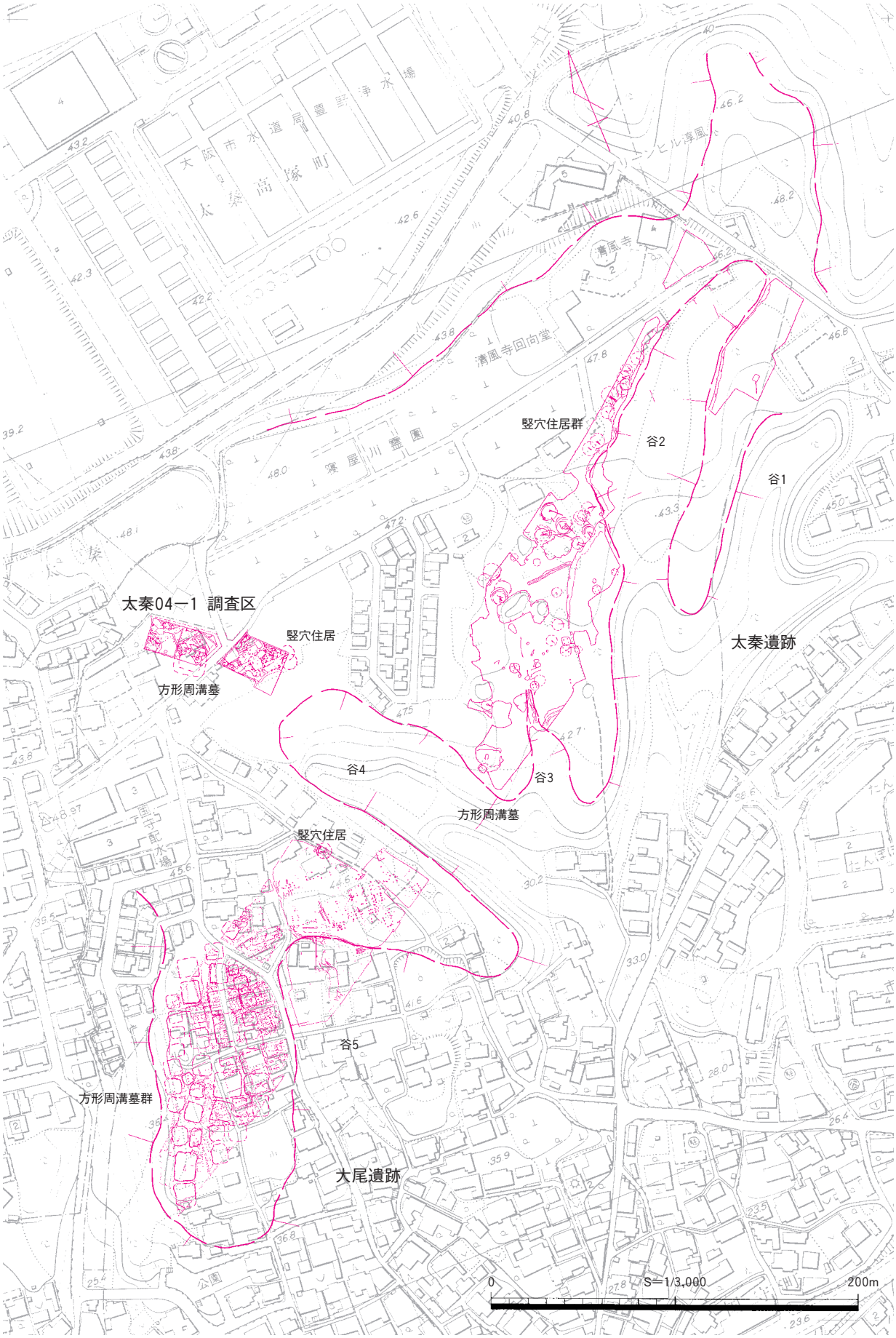



図109　弥生時代 太秦遺跡・大尾遺跡 検出遺構

ることは困難である。グループ間やグループ内の変遷を詳細に提示するまでの材料を揃えることはできなかったが、想定できる部分の変遷を述べる。

Ⅰ期（濱田編年Ⅲ様式古段階～中段階）：Ｂ～Ｆ群において竪穴住居が形成し始められる。789溝も掘削される。

Ⅱ期（濱田編年Ⅲ様式新段階）：Ａ～Ｆ群に竪穴住居が拡がる。Ｆ群では竪穴住居に変わり、周溝墓が形成される。

Ⅲ期（濱田編年Ⅳ様式古段階）：Ｇ群がＡ～Ｆ群に新たに加わる。Ｂ群が縮小傾向をたどるようである。

４．周辺遺跡との動向

調査地の西側には谷４をはさんで大尾遺跡がある（図109）。大尾遺跡は弥生時代中期後半の周溝墓が30基確認されている。太秦遺跡で検出された集落と同時期であり、谷地形を境にして集落域と墓域が形成されていたことが窺われる。しかしながら集落域とした今回の調査区西端でも周溝墓が検出され、さらに、この谷４の奥にあたる平成16年度調査区（太秦04－１）でも周溝墓が検出されている。谷４の谷地形を集落域と墓域の境界とするが、ある時期に、その境界線が不明瞭となるようである。

周辺の集落については、濱田延充2001に詳しい。この中で中期中葉に高宮八丁遺跡から丘陵上の太秦遺跡に移動したことが指摘されている。高宮八丁遺跡は太秦遺跡の約1.6㎞西側に位置し、平野部の自然堤防上に形成されている。高宮八丁遺跡は前期に始まり中期中葉に急激に衰退し、丘陵上の太秦遺跡は移住によって成立したと考えられている。こういった丘陵上への移動は自然要因だけでは考えられない現象であり、高地性集落という単語も含め、より地域を広くみて検討する必要があるだろう。

## 第２節　太秦古墳群尾支群の様相

平成13年度調査結果（以下、13年調査）では13基の古墳が明らかになり、「尾支群」と命名された。今回の平成15年度調査区（以下、15年調査）では12基検出され、この尾支群の連続として理解できよう。

１．出土遺物

須恵器

須恵器が出土したのは17・18・19・20・22・24号墳である。いずれも埋葬主体部は検出されておらず、周溝埋土から出土したものである。器種は坏身・坏蓋・高坏・瑳・把手付椀・壺・甕を見る。

17号墳出土の瑳（図82－９）体部の肩の張りがややある。20号墳出土の壺（図82－18）は、螺旋状沈線を巡らす。やや文様は粗い。22号墳出土の把手付椀（図82－22）は、小振りである。24号墳からは大形の瑳（図82－25～27）が出土している。

古墳群出土の須恵器は図82に示したように少数であるが、陶邑窯跡群の土器編年にあてれば17・18号墳はTK216～TK208型式、19・20号墳はTK73～TK216型式、22・24号墳はTK216～TK208型式に対比できると考えられる。

以上から、実年代は5世紀前葉から後葉が与えられる。

埴輪

埴輪は13年調査の8号墳と15年調査の17号墳の２基のみから出土した。

17号墳の墳丘は削平を受けており、埴輪はすべて周溝から破片の状態で出土した。円筒埴輪と朝顔形

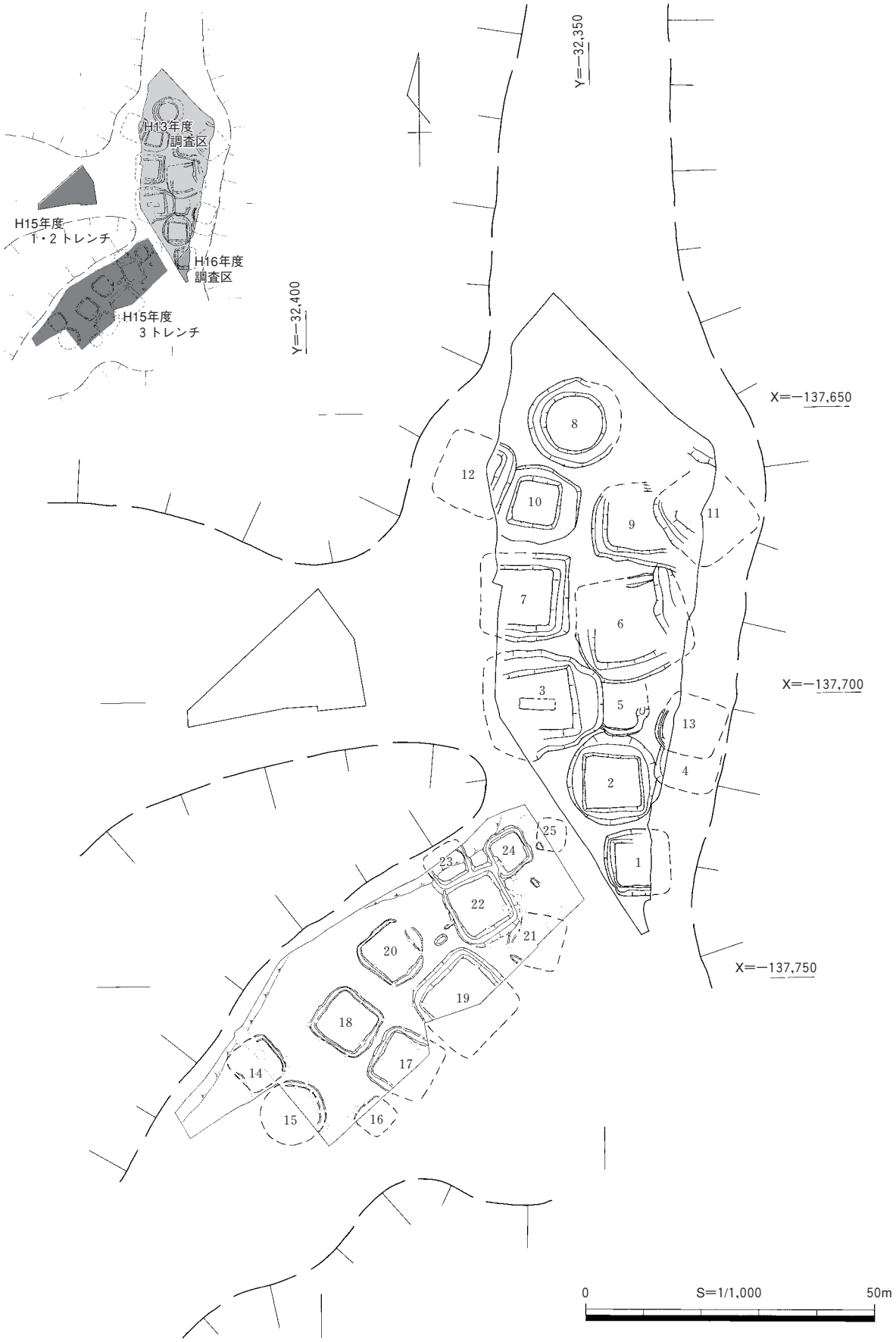



図110　太秦古墳群尾支群配置図

埴輪をみることができ、形象埴輪は出土していない。

円筒埴輪は、１類：外面を板ナデ調整するもの（図81－１～３・９・82－７）、２類：外面をハケ調整するもの（図81－４～８）の2種類に大きく分類することができる。

１類：粘土紐を積み上げ、作りあげる。内面の調整が十分ではなく、粘土紐の境が観察でき、また、断面にもその痕跡をみることができる（図81－１・２）。内面はナデ調整を行うが指圧痕が観察でき、最下段部はケズリ調整をしている。外面の１次調整は横方向に板ナデ調整を施す。図81－３、82－７には工具を器壁上で止めた際の縦方向の条線が残る。突帯は粘土紐をヨコナデにより接着するが、下端部の接着は良好ではなく、体部と隙間が見られる部分がある。また、突帯の接着により器壁が内側に押され、器壁が波打った状態になっている。突帯接着後の器壁２次調整は行われていない。焼成は堅致で良好である。

２類：粘土紐を積み上げ、作りあげる。内面は工具によるケズリを観察できるものとヨコ方向のハケメ調整のものがみられる。ハケメ調整のものには外面突帯に対応する内側部分に指圧痕が観察でき、突帯接着過程の痕跡と考えられる。外面の１次調整は縦方向にハケメ調整を行うが、後述する2次調整により、そのほとんどは観察できない。突帯は粘土紐をヨコナデにより接着する。突帯接着後に外面２次調整としてヨコハケを施す。ヨコハケは器壁上で静止せず、一気に１周するいわゆるＣ種ヨコハケと分類できるものである。焼成はやや軟質のものが含まれる。

朝顔形埴輪は２類に属する調整技法を施している。壺部、花状部の接合部には刻み目を入れ、接着度を高めている。

形態は3条4段構成であり、法量は口縁直径25～30㎝、底径約19㎝、高さが復元できたもので約38㎝を測る。突帯間隔は9.5㎝前後を測るものが大半であり、一部6.0㎝前後を測るものがある。最下段の間隔も同様である。法量に関しては1類、2類共に大きく変わるものではない。

13年調査の8号墳からも円筒埴輪が出土している。外面の1次調整がタテハケ調整であり、２次調整を行っていない。法量は口縁直径16～25㎝を測る。17号墳出土の円筒埴輪と同様な小型の埴輪に分類できるが、製作技法は異なる。

２．尾支群の群構造と造営の順序

今回の15年調査では、新たに12基の古墳が検出され、これで尾支群は合計25基となった。それぞれの古墳は周溝のみ検出され、墳丘内からは埋葬施設としての墓壙は検出されなかった。但し、周溝が巡る古墳とは別に単独での土壙墓が２基検出されている。

なお、13年調査の１号墳は調査当時、前方後円墳と考えられていたが、16年度調査結果から方墳であることが明らかになっている。

これらの古墳は先述したように小規模な谷地形にはさまれた尾根頂部平坦面に営まれている。墳丘の方向は立地する尾根方向を指向しており、１～13・21・25号墳と14～20・22～24号墳の二方向の２群にわけることができる。15年調査の21・25号墳はこれらの中間地点にあたり13年調査の１～13号墳の軸を指向している。

13年調査では、すでに報告書が刊行され、Ａ群からＦ群の合計７群のグルーピングを推定している。15年調査においても群構造を読み取ることができる。13年調査と区別するため、Ｇ群からの呼称を与えた。

15年調査はＧ群からＬ群の７群にグルーピングできると考える。Ｇ群は14・15号墳、Ｈ群は16号墳、

## 表４　尾支群古墳一覧

| 群構造 | 古墳名 | 墳形 | 平面規模（推定）m | 出土遺物 | 須恵器型式 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | 1 | 方墳 | 9.5×(9.5) | 須恵器(壺・甕・坏蓋・有蓋高坏蓋)<br>土師器(甕) | TK23 |
| | 2 | 方墳 | 10.2×10.0 | 須恵器(坏蓋・甑・器台・甕) | TK23・47 |
| B | 3 | 方墳 | 12.2×(13.0) | 須恵器(坏身・蓋・高坏・甕・台付坏・短頸壺)<br>土師器 | TK23・47 |
| | 5 | 方墳 | 6.5×? | 須恵器(壺・坏身・坏蓋・高坏脚端)<br>土師器(甕片) | TK208 |
| | 6 | 方墳 | 14.0×13.5 | 須恵器(坏身或いは蓋・無蓋高坏・高坏脚部・甕) | TK47・MT15 |
| C | 7 | 方墳 | 11.5×? | 須恵器(坏蓋・甑・椀・甕)<br>埴輪片 | |
| | 10 | 方墳 | (9.0)×8.3 | 須恵器(坏身・甑・甕) | TK47・MT15 |
| | 12 | 方墳 | (7.8)×(7.8) | 無 | |
| D | 9 | 方墳 | (12.0)×8.8 | 須恵器(坏蓋・坏身・高坏・甕) | TK23 |
| | 11 | 方墳 | (13.0)×(13.0) | 須恵器(坏身或いは蓋・器台・甕) | TK47 |
| E | 8 | 円墳 | 径10.6 | 須恵器(壺・甕)<br>円筒埴輪 | TK47・MT15 |
| F | 4 | (方墳) | ? | 須恵器(坏身) | TK47・MT15 |
| | 13 | (方墳) | (5.7)×? | 須恵器(高坏・甕) | MT15 |
| G | 14 | 方墳 | 7.5×7.3 | 無 | |
| | 15 | 円墳 | 径10.0 | 無 | |
| H | 16 | 方墳 | 4.8×4.8 | 無 | |
| I | 17 | 方墳 | 10.0×10.0 | 須恵器(甑・高坏)<br>円筒埴輪・朝顔形埴輪 | TK216・208 |
| | 18 | 方墳 | 9.6×9.0 | 須恵器(甕) | TK216・208 |
| J | 19 | 方墳 | 13.5×? | 須恵器(甑・把手付き椀)<br>円筒埴輪(小片) | TK216 |
| | 20 | 方墳 | 9.5×9.0 | 須恵器(坏身・短頸壺) | TK73・216 |
| | 土壙墓2 | | 2.4×1.3 | 無 | |
| K | 21 | 方墳 | 9.0×9.0 | 無 | |
| | 22 | 方墳 | 9.8×10.8 | 須恵器(坏身・把手付き椀・甕) | TK208 |
| | 23 | 方墳 | ?×6.5 | 無 | |
| | 24 | 方墳 | 6.3×6.5 | 須恵器(甑) | TK216・208 |
| L | 25 | 方墳 | (5.0)×(5.0) | 無 | |
| | 土壙墓1 | | 1.8×0.9 | 無 | |

図111　太秦古墳群尾支群の群構造

Ⅰ群は17・18号墳、Ｊ群は19・20号墳、Ｋ群は21・22・23・24号墳、Ｌ群は25号墳である。

Ｇ群の14号墳は方墳、15号墳は数少ない円墳である。15号墳は尾根頂部に位置するところから15号墳→14号墳（古→新）の先後関係を想定したい。

Ｈ群は16号墳のみを設定した。後述するⅠ群にグルーピングされる可能性もある。

Ⅰ群の17・18号墳は北東側の周溝を揃えて並列している。17号墳は埴輪を有し、また、尾根の立地から17号墳→18号墳（古→新）の先後関係を想定したい。

Ｊ群の19・20号墳は南西側の周溝を揃えて並列している。尾根の立地から19号墳→20号墳（古→新）の先後関係を想定したい。

Ｋ群は周溝埋土の切り合い関係の観察から24号墳→22号墳→23号墳（古→新）、21号墳→22号墳（古→新）の関係は明らかである。また、Ｋ群の特徴として22・23・24号墳の周溝が共有していることをあげることができる。周溝埋土の観察から周溝内に土壌が堆積する過程でその周溝を利用しながらも、新たに周溝の掘削が行われたことを確認することができた。22・23・24号墳は築造に時期差は存在するが、独立した墳丘と共有した周溝をもつ群集の姿をしていたことがわかる。また、21号墳と22号墳は明らかな周溝の切り合い関係があり、墳丘の方向も異なる。21号墳と22・23・24号墳の間には、また、違った関係が存在していたことも想定できるだろう。

Ｌ群は25号墳のみを設定した。墳丘の方向は１～13号墳と類似する。

土壙墓が２基検出されている。土壙墓１は22号墳の北東側、24号墳の南東側に位置し、双方の墳丘軸と同一である。土壙墓２は19・20・22号墳の間に位置し、これらの墳丘軸と同一である。いずれの土壙

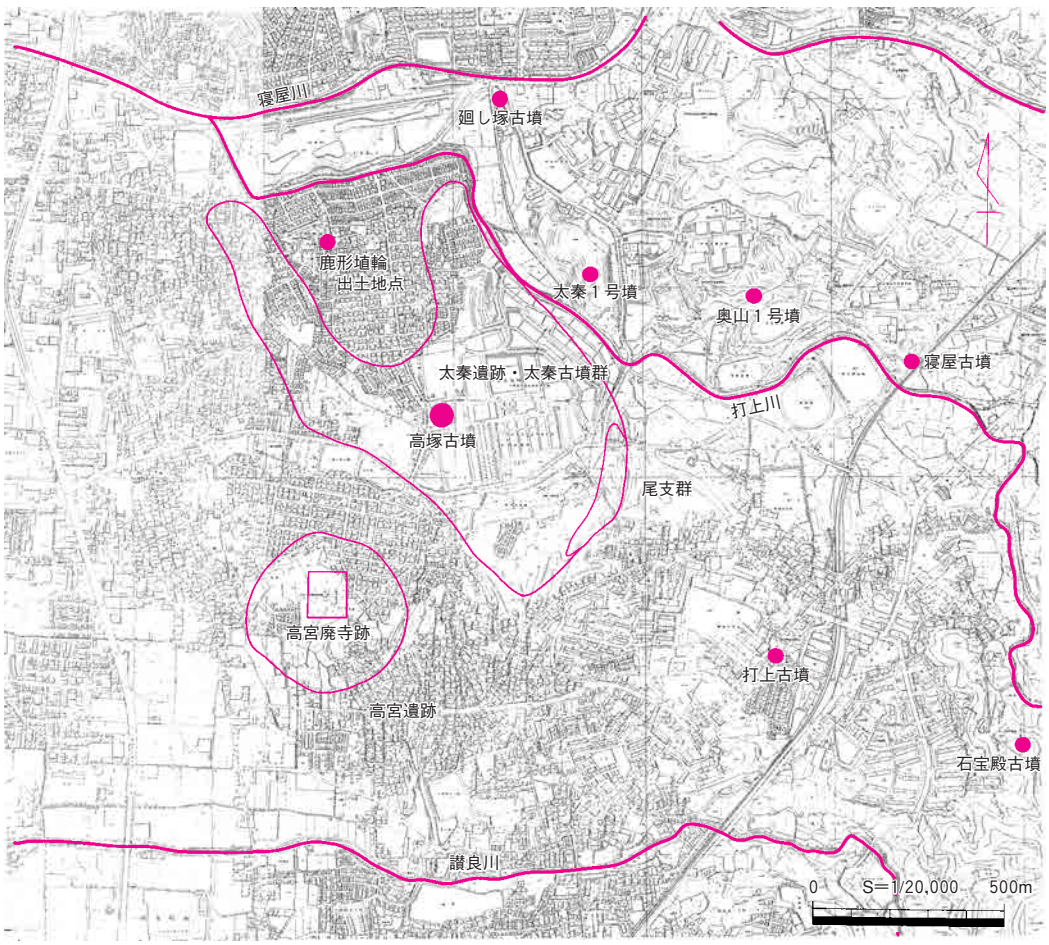



**図112　太秦古墳群と周辺の古墳**

墓も周りの古墳を意識した位置に営まれている。

以上のように、Ａ～Ｆ群に加え、Ｇ～Ｌ群を設定した。これらを前述した出土遺物から時間的な先後関係をみるとＡ～Ｆ群の１～13号墳が陶邑土器編年のTK208からMT15型式の時期幅の中でTK23・TK47型式を中心とし、Ｇ～Ｌ群の14～25号墳がTK73型式からTK208型式の時期幅の中でTK208・TK216型式を中心とする。このように見れば、Ａ～Ｆ群とＧ～Ｌ群の大きくわけた二群はそれぞれ尾根の背に沿った方向で設置されている特徴と共に、異なった造営時期であることが理解できる。尾支群の中で南側のＧ～Ｌ群がTK73型式から造営が始まり、TK208型式には終焉し、北側のＡ～Ｆ群はTK208型式から造営が始まり、MT15型式には終焉している。また、北側の一群のなかで南側に位置する１・２・３・５号墳はTK208型式からTK47型式の古い時期にあたる。このようにみていけば、尾支群は南側から北側へ造営位置が変遷していることがわかる。Ａ～Ｌ群は２基が１セットとなっている場合が多く、時期幅がないか、あるいは２型式幅しか持たない。それぞれの群には血縁関係の被葬者が想定でき、１・２世代目がＧ～Ｌ群を構成し、その後の２・３世代目にはＡ～Ｆ群の位置へ展開していったことが考えられよう。

埴輪が出土したのは北端の8号墳と南側中央の17号墳のみである。8号墳は尾支群が方墳を主体とする古墳群の中で数少ない円墳であり、かつ、尾支群の北端に位置することが特徴である。17号墳は尾支群の中では平均的な規模であり、立地上で言えば尾根の背部分に位置していることが特徴と言えようか。突出した特徴を有する古墳ではないが、埴輪の樹立は尾支群の中でも被葬者の階層差を示すものとして注視すべき点であることは間違いないだろう。

３．周辺の古墳動向と集落

太秦古墳群は段丘面に拡がる尾根に位置する。現在では住宅地、浄水場建設により多くの古墳が消滅したようであるが、その中で現在は高塚古墳が残存し、遺跡近辺ではあるが、鹿形埴輪出土地点も知られている。高塚古墳は直径約37ｍの造り出しを有する円墳である。埴輪も樹立し、太秦古墳群の中でも有力階層に属する被葬者を推定することができる。尾支群は高塚古墳とは異なる尾根に位置し、太秦古墳群の中で南端に位置するのであるが、高塚古墳や尾支群のように５世紀前葉から造営が始まり、５世紀中葉から後葉を中心に６世紀にかけて、大規模に展開した古墳群と考えられる。

太秦古墳群周辺の造墓活動をたどると平野部から丘陵縁辺部、丘陵上への移動が指摘（一瀬和夫2003）されており、北河内を見渡した古墳造営の動向を考える上で重要な成果をあげた意義は大きい。

さて、尾支群の属する５世紀の集落は周辺を見れば、直線距離で約0.7㎞、南西方向に高宮遺跡が存在し、28棟の竪穴住居が検出されている。傾斜面に立地しているが、地山面を水平にカットし、床面を作り出している。竪穴住居が同一方向軸で検出された部分もあり、斜面地に累々と造営された様子をみることができる。大半は方形プランで作り付けの竈を有し、初期須恵器・韓式系土器を共伴する。また、やや離れるが約２㎞西方向の長保寺遺跡では同時代遺物が出土しており、約２㎞南西方向の四條畷市蔀屋北遺跡では集落がみつかっている。これらの集落が、尾支群に限定できないが、太秦古墳群を墓域とする集落である可能性が高いと考えられる。

４．結語

以上、太秦古墳群尾支群について検討をおこなった。

太秦古墳群の尾支群の中には突出した規模や副葬品などを有する古墳は確認されていない。５～６世紀にかけてのいわゆる初期群集墳については多くの論考が発表されており、歴史的意義について論議さ

れている。

太秦古墳群尾支群の造営集団の性格は、地域首長・集落首長あるいはその血族の墳墓ではなく、それより下位にあたる有力構成員や有力家長層を被葬者とした集団墓、同族墓的な群集墳と類推できるのではないであろうか。

## 第3節　古墳時代後期の様相

古墳時代後期の6世紀後半には竪穴住居・掘立柱建物が点在しており、その北側の8トレンチ部分には土壙墓が5基確認された。マウンドを有する墳墓ではなく、墓壙のみを穿つ。この地区を墓域として利用していたと考えられる。土壙墓の副葬品は1基のみ出土している。銀環、鉄鏃、須恵器が出土しており、木棺の埋葬施設であると考えられる。

## 第4節　古代の様相

### 1．建物群の構造

調査区の南半で掘立柱建物10棟、竪穴住居5棟を検出した。すべての建物が同時期に存在していたとは考えられないが、その組み合わせは不明瞭である。7世紀から8世紀にかけての遺構である。

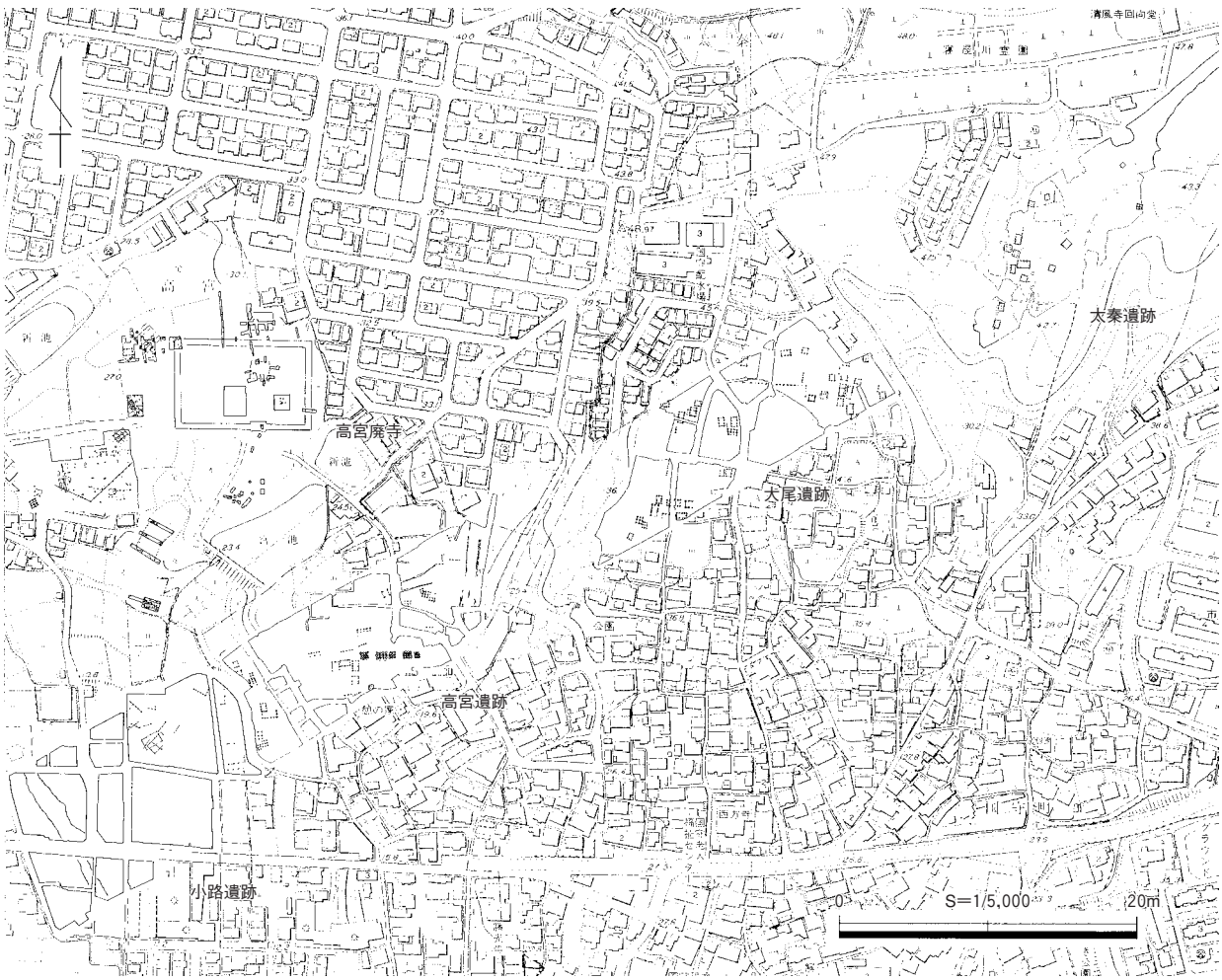



**図113　古代 太秦遺跡とその周辺 検出遺構**

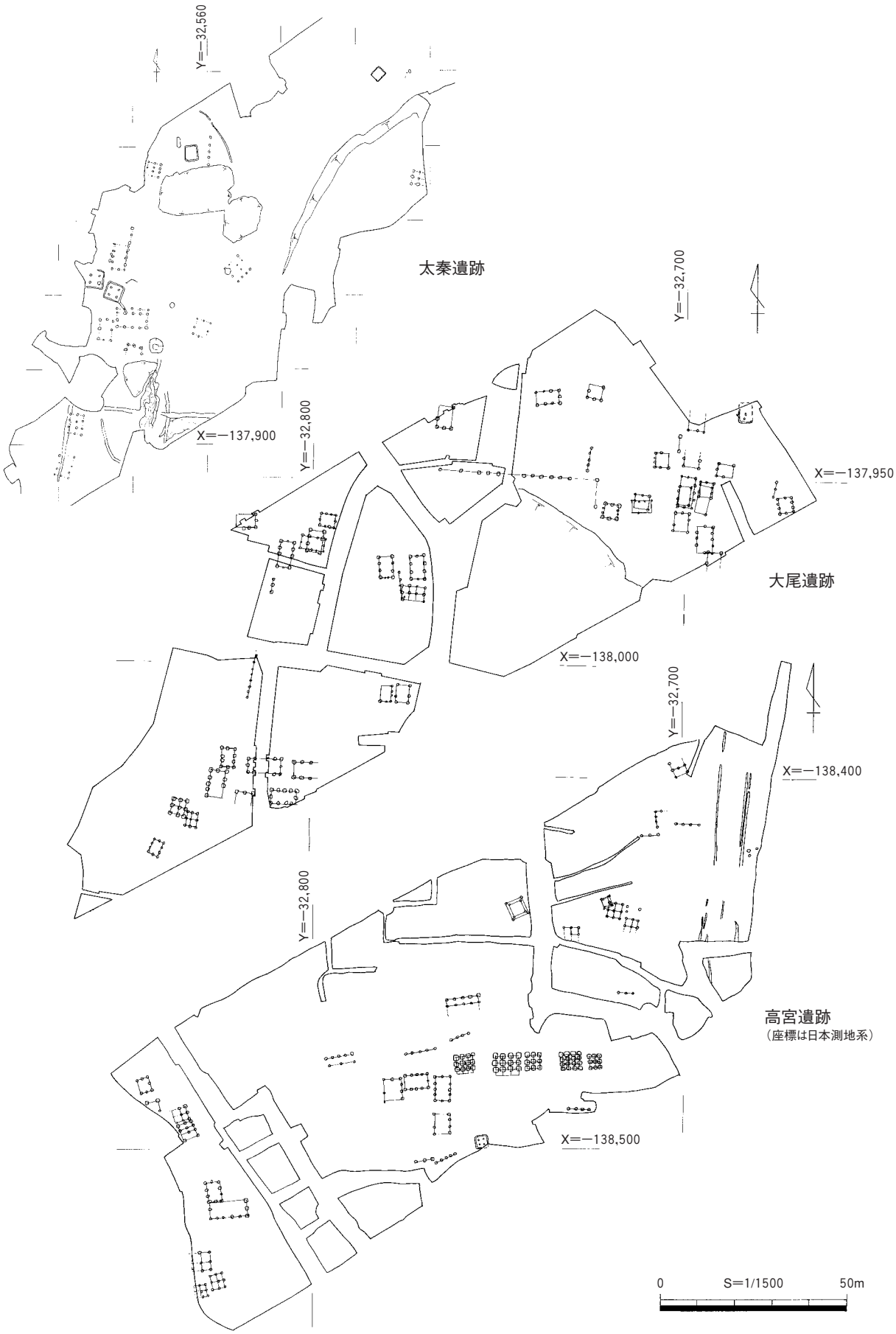



**図114　太秦遺跡・大尾遺跡・高宮遺跡 古代遺構図**

建物の方向は方位軸を指向しているが、微妙な差異が認められる。

Ａ群：Ｎ－６～８°－Ｅの範囲の軸を有する。掘立柱建物５・７・10であり、28溝も同様である。

Ｂ群：Ｎ－13～15°－Ｅの範囲の軸を有する。掘立柱建物１・４・８・11、柱列３・４があたる。

掘立柱建物６はいずれの群にも属していないが、掘立柱建物７とは近接しすぎ、同時存在は考えられない。竪穴住居32・33も近接しすぎ、竪穴住居33は34と重複した位置関係である。

掘立柱建物６は庇を有する東西棟の大型建物であり、南東方向には1720井戸が存在する。1720井戸も隅丸方形を呈した一辺約3.8ｍを測る規模が大きいものであり、その南側には27谷があるにも関わらず、井戸を掘削している。特殊な意図があったのではないかと想定される。掘立柱建物３・６には北側に庇が付属し、注視すべき点である。

27谷の東西両側には24溝、30溝が検出された。27谷に沿って南北方向にやや弧を描きながら伸びる。また、27谷をはさんで両側には29溝が東西方向に方位軸を合わせ伸びている。さらに150溝が南北方向に伸び、29溝と直角をなした配置をとる。いずれも谷地形を意識した区画溝であろう。

２．高宮遺跡・高宮廃寺と大尾遺跡と太秦遺跡（周辺遺跡との動向）

古代の遺構は西隣の大尾遺跡、高宮遺跡から多くの掘立柱建物が検出されており、高宮遺跡の中心には高宮廃寺が存在する（図113・114）。高宮遺跡の丘陵縁辺から谷地形をはさみながら丘陵上の大尾遺跡や太秦遺跡に古代の掘立柱建物群が拡がっていた。おおよそ７世紀から８世紀の年代を与えることができる。

高宮廃寺跡は南門、中門が南北に続き、中門からは回廊が伸び、東塔、金堂が回廊内に配置される。講堂は回廊外の北側に位置する。東塔に相対する西側には西塔あるいは西金堂の存在が考えられている。創建は白鳳期である。

主要伽藍の南西方向においては寝屋川市において調査がなされており、掘立柱建物、竪穴住居の他、柵列が検出されている。柵列はＶ字形に開く長大なものであり、同じ軸を有する掘立柱建物が検出されている。高宮廃寺を前後する時期と考えられ、高宮廃寺を建立した高宮氏の集落として竪穴住居と共に存在していたと想定される。

高宮遺跡では高宮廃寺跡の南東方向で調査が実施され、大形総柱掘立柱建物が５棟、掘立柱建物が20棟近く検出された。柱穴掘形は一辺約1.2ｍを測る非常に大きなものであり、５棟の建物が東西に並ぶ。また、総柱建物の南側には東西方向の、東側には南北方向の道路状遺構が検出されている。大形建物や南北道路状遺構は高宮廃寺の伽藍軸と合致し、高宮廃寺を中心として計画的に土地開発されていたことが想定できる。

大尾遺跡は高宮遺跡から、さらに丘陵上に上がり、東隣の太秦遺跡とをわける谷までの段丘上平坦面に遺構は拡がる。掘立柱建物が38棟、竪穴住居１棟、柵が検出されている。建物の主軸方位は３～13°と25～33°を示すものがある。柵１は東西方向に15間、約43ｍ伸びており、南側の谷地形を区画したものである。

今回の太秦遺跡の調査では、掘立柱建物10棟、竪穴住居５棟検出されており、その建物の主軸方位は角度が違うものの大尾遺跡と同様に２つの軸にわけることができる。この状況は寝屋川市での調査区でも見られ、また、高宮廃寺跡確認調査では廃寺の下層からも検出されている。軸が大きく振れている１群は高宮廃寺造営以前の建物であり、軸と大きく振れない１群は高宮廃寺造営以後の建物として推定できるのではないだろうか。

また、大尾遺跡において谷地形を区画した長大な柵１があり、太秦遺跡でも同様に谷地形を区画した29溝、1501溝が検出され、いずれも方位軸を指向している。西側に位置する高宮廃寺を意識したもので狭小な谷地形を管理する何らかの理由があったのであろう。
以上のように高宮廃寺を周辺では７世紀から８世紀にかけて、廃寺付属施設を含め、在地氏族の集落が丘陵上に拡がっていることが明らかになった。
また、今回の１トレンチでは、同時期の短頸壺が単独で出土しており、骨壺としての性格も想定される。推論が許されるのならば、前述した集落が拡がる丘陵上の東端に墓域としての性格をもった区域が存在していたのではないだろうか。

## 第５節　総括

以上、調査成果と共に、その検討をおこなった。ここで今後の検討課題も含め、総括として記述しておきたい。
弥生時代中期：中期後半を中心とする集落。大型の竪穴住居を含め、合計32棟、検出した。大型竪穴住居は同一箇所での建て替え、或いは拡張を繰り返している。集落は７群を想定した。集落と重なる方形周溝墓も検出された。丘陵先端を切断する溝。西隣の大尾遺跡が墓域、谷をはさんで太秦遺跡が集落域として両遺跡の性格が明らかになった。前期から中期に営まれた高宮八丁遺跡から中期後半の太秦遺跡への移動が想定でき、弥生時代社会の動向として注目される。
古墳時代中期：太秦古墳群尾支群、既調査を含め25基が明らかになった。小規模の方墳を主体とする５世紀から６世紀にかけてのいわゆる初期群集墳。埋葬主体は削平を受けていたが、周溝から、須恵器、埴輪が出土。全体を12群に分割でき、南から北方向への造営の動きが想定される。墳丘の軸は丘陵の伸びる方向に合わせている。
古墳時代後期：６世紀後半の竪穴住居２棟、掘立柱建物１棟が点在する。土壙墓５基が確認され、銀環、鉄鏃が出土。土壙墓は集中しており、墓域が形成されていたと考えられる。
古代：７～８世紀の掘立柱建物12棟、竪穴住居２棟を検出した。掘立柱建物は主軸方位から２グループにわけることができる。西側の大尾遺跡、高宮廃寺、高宮遺跡を含め、寺院と建立氏族集落との関係が明らかになった。
中世以後：幅約５ｍの大溝を東端で検出した。痩せ尾根部分を切断している。出土遺物がなく、詳細不明だが、中世以降の城郭の存在も考えておきたい。

引用文献

秋山浩三2004－１『史跡池上曽根99』和泉市教育委員会

秋山浩三・中川二美・長友朋子・河村恵理2004－２
「瓜生堂遺跡における生駒西麓産土器の占有率」『瓜生堂遺跡１』（財）大阪府文化財センター

一瀬和夫2003『太秦古墳群』（財）大阪府文化財センター

入江正則2001「大阪府内の小方墳資料」『大阪府埋蔵文化財研究会第43回資料』（財）大阪府文化財センター

川西宏幸1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻　第２号

木下尚子1987「弥生定形勾玉考」『東アジアの考古と歴史　中　岡崎敬先生退官記念論集』

古代の土器研究会1992『古代の土器１　都城の土器集成』

小山雅人1992「近畿地方の弥生勾玉」『京都府埋蔵文化財情報』第46号（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

小山雅人1992「弥生勾玉の分布とその変遷」『究班－埋蔵文化財研究会15周年記念論文集－』埋蔵文化財研究会

杉山秀宏1988「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集　第八』吉川弘文館

寺前直人1989「弥生時代の武器形石器」『考古学研究』第42巻第2号　考古学研究会

寺前直人2001「弥生時代における武器の変質と地域関係」『考古学研究』第48号第2号　考古学研究会

寺沢薫・森井貞雄1989「河内地域」『弥生土器の様式と編年』木耳社

長友朋子・秋山浩三2004「弥生土器における色調研究への模索」『瓜生堂遺跡１』（財）大阪府文化財センター

長沼　孝1986「磨製石剣・磨製石戈」『弥生文化の研究９　弥生人の世界』雄山閣出版

西口陽一1989「近畿・磨製石剣の研究」

『大阪文化財論集－財団法人大阪文化財センター設立15周年記念論集－』（財）大阪文化財センター

濱田延充1993「生駒西麓第Ⅲ・Ⅳ様式の編年」『弥生文化博物館研究報告』第２集　大阪府立弥生文化博物館

濱田延充2001「北河内地域における弥生時代遺跡群の動向」『市史紀要』第８号　寝屋川市教育委員会

埋蔵文化財研究会2003『埴輪－円筒埴輪製作技法の観察・認識・分析－』第52回埋蔵文化財研究集会実行委員会

松村隆文2000「小方墳について覚書」『百樹－松村隆文さん追悼集－』松村隆文さん追悼集刊行会

三好孝一1987「生駒西麓型土器についての一視点」『花園史学』第８号

森貞次郎1980「弥生勾玉考」『鏡山猛先生古稀記念古文化論攷』

若林邦彦1992「弥生土器地域色に関する一考察」

『同志社考古学シリーズⅤ　考古学と生活文化』同志社大学考古学研究室

若林邦彦1993「生駒西麓型土器をめぐる諸相～亀井遺跡・城山遺跡を中心に～」

『河内平野遺跡群の動態Ⅵ』（財）大阪文化財センター

報告書

（財）大阪府文化財センター2003『太秦古墳群』

（財）大阪府文化財センター2003『大尾遺跡』

（財）大阪府文化財センター2004『高宮遺跡－遺構編－』

（財）大阪府文化財センター2004『高宮遺跡（その２）』

（財）大阪府文化財センター2005『太秦遺跡・太秦古墳群Ⅰ』

（財）大阪府文化財センター2005『太秦遺跡・太秦古墳群　大尾遺跡　高宮遺跡』

（財）大阪府文化財センター2005『大尾遺跡Ⅱ』

寝屋川市教育委員会1992『高宮八丁遺跡Ⅱ』

# 掲載遺物一覧

# 主要遺構一覧

## 表５　掲載遺物一覧（１）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 46-1 | 57-1 | 弥生土器 | 広口短頸壺 | 3 | 竪穴住居１ | 1-2と同一個体の可能性。口縁短く立ち上がり広がる。 | 赤 | 中期後葉 | 7 |
| 46-2 | | 弥生土器 | 広口短頸壺 | 3 | 竪穴住居１ | 1-1と同一個体の可能性。外面ミガキ。 | 赤 | 中期後葉 | 7 |
| 46-3 | | 弥生土器 | 無頸壺 | 3 | 竪穴住居１ | 段状口縁。外面簾状文。穿孔2箇所。 | 生駒 | 中期後葉 | 7 |
| 46-4 | | 弥生土器 | 広口壺 | 3 | 竪穴住居１ | 口縁端に凹線文と円形浮文。頸部内面波状文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 7 |
| 46-5 | 57-2 | 弥生土器 | 壺 | 3 | 竪穴住居１ | 体部。外面櫛描波状文・直線文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 7 |
| 46-6 | | 弥生土器 | 甕 | 3 | 竪穴住居１ | 口縁端面を上方に肥厚する。口縁と体部が屈曲する。 | 赤 | 中期後葉 | 7 |
| 46-7 | 57-4 | 弥生土器 | 甕 | 3 | 竪穴住居１ | 口縁と体部が屈曲する。 | 白 | 中期後葉 | 7 |
| 46-8 | | 弥生土器 | 甕 | 3 | 竪穴住居１ | 口縁端部をつまみあげる。口縁と体部が屈曲する。<br>外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 7 |
| 46-9 | | 弥生土器 | 甕底部 | 3 | 竪穴住居１ | 外面調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 7 |
| 46-10 | | 弥生土器 | 甕底部 | 3 | 竪穴住居１ | 外面ミガキ、炭化物付着。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 7 |
| 46-11 | | 弥生土器 | 甕底部 | 3 | 竪穴住居１ | 内外面ハケメ。 | 生駒 | 中期後葉 | 7 |
| 46-12 | 57-3 | 弥生土器 | 大形鉢 | 3 | 竪穴住居１ | 口縁端面を内側に肥厚。<br>口縁端面に3条の凹線文と部分的に櫛描列点文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 7 |
| 46-13 | 57-5 | 弥生土器 | 高杯 | 3 | 竪穴住居１ | 水平口縁をもち、内面突帯は口縁部より高い。<br>内外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 7 |
| 46-14 | | 弥生土器 | 高杯 | 3 | 竪穴住居１ | 中空で内面に絞り痕。ミガキ後凹線文３帯。 | 赤 | 中期後葉 | 7 |
| 46-15 | 57-6 | 弥生土器 | 高杯 | 3 | 竪穴住居１ | 脚部から裾部にかけて緩やかに広がる。内面ケズリ。<br>外面ミガキ。端部凹線。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 7 |
| 46-16 | 57-7 | 弥生土器 | 壺 | 3 | 竪穴住居１ | 外面ハケメ、下半ケズリ。内面ハケメ。<br>1-1、1-2と同一個体の可能性。 | 赤 | 中期後葉 | 2 |
| 46-17 | | 弥生土器 | 甕 | 3 | 竪穴住居１ | 口縁端部を上方につまみあげる。外面ハケメ。 | 赤 | 中期後葉 | 2 |
| 47-1 | | 弥生土器 | 広口壺 | 7 | 1055落込 | 口縁端部下方に肥厚。端面に３条の凹線文。 | 赤 | 中期後葉 | 1055 |
| 47-2 | | 弥生土器 | 甕 | 7 | 1055落込 | 口縁部を丸くおさめる。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1055 |
| 47-3 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1055落込 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 1055 |
| 47-4 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1055落込 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 1055 |
| 47-5 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1055落込 | 内面指オサエナデ。 | | 中期後葉 | 1055 |
| 47-6 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1055落込 | 剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 1055 |
| 47-7 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1055落込 | 外面体部ミガキ、底部ハケメ。 | | 中期後葉 | 1055 |
| 47-8 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1055落込 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1055 |
| 47-9 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1055落込 | 剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 1055 |
| 47-10 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 1055落込 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1055 |
| 47-11 | | 弥生土器 | 高杯 | 7 | 1055落込 | 水平口縁をもち、内面突帯は口縁部より低い。<br>口縁端面に凹線。 | 赤 | 中期後葉 | 1055 |
| 47-12 | | 弥生土器 | 高杯 | 7 | 1055落込 | 外面ナデ。中空になっていない。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1055 |
| 47-13 | | 弥生土器 | 高杯 | 7 | 1055落込 | 裾端部つまみあげる。剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 1055 |
| 47-14 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1383ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期中葉～後葉 | 1383 |
| 47-15 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 573土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 573 |
| 47-16 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1321ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1321 |
| 47-17 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 1806ﾋﾟｯﾄ | 外面ミガキ。生駒西麓産。 | | 中期中葉～後葉 | 1806 |
| 47-18 | 58-12 | 弥生土器 | 鉢 | 7 | 2330土坑 | 口縁端部を肥厚させ、面を有する。<br>外面凹線文・簾状文・刺突文。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 2330 |
| 47-19 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 2330土坑 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 2330 |
| 47-20 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 2330土坑 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉～後葉 | 2330 |
| 47-21 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 2330土坑 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 2330 |
| 48-1 | 61-21 | 弥生土器 | 広口壺 | 8 | 竪穴住居５覆土 | 口縁端部が上下に拡張され端面をもつ。<br>剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 2870 |
| 48-2 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 竪穴住居４覆土 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉～後葉 | 2868 |
| 48-3 | 58-11 | 弥生土器 | 壺 | 8 | 竪穴住居７<br>2771排水溝 | 口縁端面・外面頸部に櫛描簾状文。簾状文幅広。 | 生駒 | 中期後葉 | 2771 |
| 48-4 | | 弥生土器 | 鉢 | 8 | 竪穴住居７<br>3257ﾋﾟｯﾄ | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 3257 |
| 48-5 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 竪穴住居３<br>3298ﾋﾟｯﾄ | 外面ハケメのち裾部ミガキ。底部ミガキ。 | | 中期中葉～後葉 | 3298 |
| 48-6 | | 弥生土器 | 鉢底部 | 8 | 竪穴住居３<br>3298ﾋﾟｯﾄ | 外面ハケメ。内面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 3298 |
| 48-7 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 3318ﾋﾟｯﾄ | 外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 3318 |
| 48-8 | | 弥生土器 | 壺底部 | 8 | 3200土坑 | 内外面ミガキ。 | | 中期中葉～後葉 | 3200 |
| 48-9 | | 弥生土器 | 高杯 | 8 | 2878土坑 | 中空ではない。剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期中葉～後葉 | 2878 |
| 48-10 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 2878土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 2878 |
| 49-1 | 58-2 | 弥生土器 | 広口壺 | 7 | 竪穴住居９覆土 | 口縁端部が上下に拡張され端面をもつ。櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期中葉 | 1025 |
| 49-2 | 58-3 | 弥生土器 | 無頸壺 | 7 | 竪穴住居９<br>643ﾋﾟｯﾄ | 口縁丸くおさめる。外面櫛描簾状文。 | 白 | 中期中葉 | 643 |
| 49-3 | 58-1 | 弥生土器 | 甕 | 7 | 竪穴住居９<br>769壁溝 | 口縁端部に面。剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉 | 769 |
| 49-4 | 58-6 | 弥生土器 | 鉢 | 7 | 竪穴住居９<br>579ﾋﾟｯﾄ | 口縁端部は折れ曲がる。外面波状文。 | 白 | 中期中葉 | 579 |
| 49-5 | | 弥生土器 | 壺 | 7 | 竪穴住居９<br>583ﾋﾟｯﾄ | 口縁端面櫛描簾状文か。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 583 |
| 49-6 | 58-7 | 弥生土器 | 甕 | 7 | 竪穴住居９<br>1116ﾋﾟｯﾄ | 口縁断面三角形。内外面ハケメ。 | 赤 | 中期中葉 | 1116 |
| 49-7 | 58-8 | 弥生土器 | 台形土器 | 7 | 竪穴住居９<br>582ﾋﾟｯﾄ | 内外面ミガキ。 | 赤 | 中期中葉 | 582 |
| 49-8 | 58-9 | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居９<br>2265ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 2265 |
| 49-9 | 58-5 | 弥生土器 | 無頸壺 | 7 | 竪穴住居９<br>618ﾋﾟｯﾄ | 外面櫛描直線文。 | 生駒 | 中期中葉 | 618 |
| 49-10 | 58-4 | 弥生土器 | 鉢脚部 | 7 | 竪穴住居９<br>1416ﾋﾟｯﾄ | 外面凹線文・竹管文。穿孔。 | 赤 | 中期中葉 | 1416 |

## 表６　掲載遺物一覧（２）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 49-11 | | 弥生土器 | 蓋 | 7 | 竪穴住居10<br>2310ﾋﾟｯﾄ | 内外面指ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 2310 |
| 49-12 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居10<br>720排水溝 | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 720 |
| 49-13 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 竪穴住居13<br>1338ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉～後葉 | 1338 |
| 49-14 | 61-19 | 弥生土器 | 広口壺 | 7 | 竪穴住居11覆土 | 口縁端部が上下に拡張され端面をもつ。<br>剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉 | 1026 |
| 49-15 | | 弥生土器 | 甕 | 7 | 竪穴住居11<br>1055土坑 | 体部外面ハケメ。<br>口縁部やや長く伸び、端部櫛描列点文か。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1161 |
| 49-16 | 61-20 | 弥生土器 | 甕 | 7 | 竪穴住居11<br>1149壁溝 | 口縁端部上方につまみ出す。剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉 | 1149 |
| 49-17 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居11<br>1160排水溝 | 剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉 | 1160 |
| 49-18 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居11<br>1149壁溝 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉 | 1149 |
| 49-19 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居11<br>2641ﾋﾟｯﾄ | 外面ミガキ。 | | 中期中葉 | 2641 |
| 49-20 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居11覆土 | 内外面ナデ。 | | 中期中葉 | 1026 |
| 49-21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居11覆土 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1026 |
| 49-22 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居11覆土 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1026 |
| 49-23 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 竪穴住居11覆土 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1026 |
| 49-24 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 竪穴住居11<br>1377ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉 | 1377 |
| 49-25 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居11<br>2439ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉 | 2439 |
| 49-26 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 竪穴住居11覆土 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1026 |
| 49-27 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 竪穴住居11覆土 | 外面ミガキ。内面ハケメ。<br>第93集－第74図－20掲載再録。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1026 |
| 49-28 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居11<br>1380ﾋﾟｯﾄ | 外面ミガキ。 | 白 | 中期中葉 | 1380 |
| 49-29 | 61-16 | 弥生土器 | 鉢 | 7 | 竪穴住居14覆土 | 段状口縁。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1029 |
| 49-30 | 61-15 | 弥生土器 | 広口壺 | 7 | 竪穴住居14覆土 | 口縁端面櫛描簾状文。 | 赤 | 中期後葉 | 1029 |
| 49-31 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 竪穴住居14<br>1390土坑 | 外面ミガキ。 | | 中期後葉 | 1390 |
| 49-32 | 61-17 | 弥生土器 | 甕 | 7 | 竪穴住居12<br>2489ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期後葉 | 2489 |
| 49-33 | 61-18 | 弥生土器 | 鉢 | 7 | 竪穴住居12<br>1367壁溝 | 段状口縁。外面波状文。 | 白 | 中期後葉 | 1367 |
| 49-34 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居12<br>1365壁溝 | 剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 1365 |
| 49-35 | | 弥生土器 | 甕底部 | 7 | 竪穴住居12覆土 | 第93集－第74図－19掲載再録。 | | 中期後葉 | 1031 |
| 49-36 | | 弥生土器 | 壺底部 | 7 | 竪穴住居12覆土 | 第93集－第74図－18掲載再録。 | | 中期後葉 | 1031 |
| 50-1 | | 弥生土器 | 甕 | 4 | 竪穴住居24<br>403壁溝 | 口縁丸くおさめる。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 403 |
| 50-2 | | 弥生土器 | 底部 | 4 | 竪穴住居24<br>403壁溝 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 403 |
| 50-3 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 竪穴住居24<br>523ﾋﾟｯﾄ | 外面ハケメ。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 523 |
| 50-4 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 竪穴住居24<br>403壁溝 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 403 |
| 50-5 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 竪穴住居24<br>1012壁溝 | 外面ハケメ。 | | 中期中葉～後葉 | 1012 |
| 50-6 | | 弥生土器 | 壺底部 | 4 | 竪穴住居24<br>（5・6期）<br>456ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 456 |
| 50-7 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 竪穴住居24<br>（5・6期）<br>333ﾋﾟｯﾄ | 外面ミガキ。 | | 中期中葉～後葉 | 333 |
| 50-8 | 61-14 | 弥生土器 | 甕 | 4 | 竪穴住居22<br>268ﾋﾟｯﾄ | 口縁端部上方につまみあげる。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 268 |
| 50-9 | | 弥生土器 | 高杯 | 4 | 竪穴住居23<br>917壁溝 | 口縁直口の高杯。端部は内側に肥厚し、面を有する。<br>外面２条の凹線文。 | | 中期中葉～後葉 | 917 |
| 50-10 | | 弥生土器 | 甕 | 4 | 竪穴住居23<br>917壁溝 | 口縁と体部が屈曲。口縁端部上方につまみあげる。<br>剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 917 |
| 50-11 | | 弥生土器 | 甕 | 4 | 竪穴住居23<br>363壁溝 | 口縁端部肥厚。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 363 |
| 50-12 | 59-1 | 弥生土器 | 甕 | 4 | 竪穴住居23<br>1045ﾋﾟｯﾄ | 外面幅広のミガキ。内面工具によるナデ。 | | 中期中葉～後葉 | 1045 |
| 50-13 | 59-2 | 弥生土器 | 甕 | 4 | 竪穴住居23<br>1045ﾋﾟｯﾄ | 口縁部屈曲。外面ハケメ、炭化物付着。<br>口縁下端部に刻目。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1045 |
| 51-1 | 59-3 | 弥生土器 | 高杯 | 4 | 388土坑 | 内外面指ナデ。。凹線文。脚部内面に絞り痕。 | | 中期後葉 | 388 |
| 51-2 | 59-5 | 弥生土器 | 高杯 | 4 | 388土坑 | 脚部外面凹線文と刻目文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉・末 | 388 |
| 51-3 | | 弥生土器 | 壺 | 4 | 388土坑 | 口縁端部肥厚し、上方につまみあげる。<br>剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 388 |
| 51-4 | 59-4 | 弥生土器 | 甕 | 4 | 388土坑 | 外面ハケメ。内面ナデ。 | 赤 | 中期後葉 | 388 |
| 51-5 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 388土坑 | 外面ミガキ。底部ミガキ。 | | 中期後葉 | 388 |
| 51-6 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 388土坑 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 388 |
| 51-7 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 388土坑 | 内外面ハケメ。 | 赤 | 中期後葉 | 388 |
| 51-8 | | 弥生土器 | 壺底部 | 4 | 223土坑 | 外面工具痕。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 223 |
| 51-9 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 260ﾋﾟｯﾄ | 外面ハケメ。底部木の葉圧痕。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 260 |
| 51-10 | 60-5 | 弥生土器 | 甕 | 4 | 767土坑 | 口縁肥厚させ端面を有する。外面調整不明。内面ハケメ。 | 白 | 中期後葉 | 767 |
| 51-11 | 60-3 | 弥生土器 | 鉢 | 4 | 767土坑 | 口縁端部外方に丸くおさめる。内外面ヨコ方向のミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 767 |
| 51-12 | 59-6 | 弥生土器 | 広口壺 | 4 | 767土坑 | 受口口縁。口縁凹線文間に波状文。頸部に押捺突帯。 | 白 | 中期後葉 | 767 |

## 表７　掲載遺物一覧（３）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 51-13 | 59-7 | 弥生土器 | 壺 | 4 | 767土坑 | ハケメ調整後、櫛描平行文・波状文。<br>体部下半ケズリ後ミガキ。 | 白 | 中期後葉 | 767 |
| 51-14 | 60-4 | 弥生土器 | 器台 | 4 | 767土坑 | 外面凹線文。内面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 767 |
| 51-15 | 60-1 | 弥生土器 | 鉢 | 4 | 767土坑 | 口縁肥厚させ端面を有する。<br>口縁外面３条の凹線文。体部波状文。 | 白 | 中期後葉 | 767 |
| 51-16 | 60-2 | 弥生土器 | 高杯 | 4 | 767土坑 | 杯部屈曲し、ヨコ方向のミガキのち凹線文。<br>下半タテ方向のミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 767 |
| 51-17 | | 弥生土器 | 壺底部 | 4 | 767土坑 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 767 |
| 51-18 | | 弥生土器 | 壺底部 | 4 | 767土坑 | 外面ミガキ。 | 白 | 中期後葉 | 767 |
| 52-1 | 60-6 | 弥生土器 | 壺 | 4 | 789溝 | 口縁端面櫛描列点文。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-2 | | 弥生土器 | 壺 | 4 | 789溝 | 口縁端面櫛描簾状文。第93集－第74図－９掲載再録。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-3 | 60-7 | 弥生土器 | 広口壺 | 4 | 789溝 | 口縁端面斜格子文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 789 |
| 52-4 | | 弥生土器 | 広口壺 | 4 | 789溝 | 口縁端面斜格子文。第93集－第74図－14掲載再録。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-5 | | 弥生土器 | 広口壺 | 4 | 789溝 | 口縁端面斜格子文。 | 白 | 中期中葉 | 789 |
| 52-6 | 60-8 | 弥生土器 | 壺 | 4 | 789溝 | 外面粗いハケメ。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-7 | | 弥生土器 | 広口壺 | 4 | 789溝 | 付加状の口縁は直立する。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉 | 789 |
| 52-8 | 60-9 | 弥生土器 | 広口壺 | 4 | 789溝 | 受口口縁、下方の垂下は小さい。 | 生駒 | 中期中葉 | 789 |
| 52-9 | | 弥生土器 | 甕 | 4 | 789溝 | 口縁屈曲し、端部下方につまみ出す。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-10 | | 弥生土器 | 甕 | 4 | 789溝 | 外面ハケメ。第93集－第74図－10掲載再録。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-11 | | 弥生土器 | 甕 | 4 | 789溝 | 口縁屈曲し、端部下方につまみ出す。外面粗いハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 789 |
| 52-12 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 外面ハケメ。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-13 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 789 |
| 52-14 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 789 |
| 52-15 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 789 |
| 52-16 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉 | 789 |
| 52-17 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-18 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-19 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉 | 789 |
| 52-20 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉 | 789 |
| 52-21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 789 |
| 52-22 | | 弥生土器 | 脚部 | 4 | 789溝 | 蓋か。剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-23 | | 弥生土器 | 高杯 | 4 | 789溝 | 袖が横に伸び端面を上方に引き上げる。外面ナデ。 | 白 | 中期中葉 | 789 |
| 52-24 | | 弥生土器 | 高杯 | 4 | 789溝 | 端面を上方に引き上げる。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉 | 789 |
| 52-25 | | 弥生土器 | 底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉 | 789 |
| 52-26 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-27 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。底部焼成前穿孔 | | 中期中葉 | 789 |
| 52-28 | | 弥生土器 | 甕底部 | 4 | 789溝 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 789 |
| 53-1 | 61-10 | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 竪穴住居38<br>1111壁溝 | 口縁なだらかに外反。端部丸くおさめる。<br>外面調整不明。内面ハケメ。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 1111 |
| 53-2 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 竪穴住居37覆土 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 186 |
| 53-3 | 62-1 | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 竪穴住居37覆土 | 段状口縁。櫛描簾状文、櫛描列点文。内面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 186 |
| 53-4 | | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 竪穴住居36覆土 | 受口口縁、上下に拡張。 | | 中期後葉 | 1758 |
| 53-5 | 62-5 | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 竪穴住居36覆土 | 段状口縁。櫛描簾状文。内面ミガキ。 | 生駒 | 中期後葉 | 2131 |
| 53-6 | 61-13 | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 竪穴住居36覆土 | 段状口縁。櫛描簾状文。内面ミガキ。 | 生駒 | 中期後葉 | 1758 |
| 53-7 | 61-11 | 弥生土器 | 壺 | 5 | 竪穴住居36覆土 | 口縁端面櫛描簾状文。上端部に刻目。 | | 中期後葉 | 1758 |
| 53-8 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 竪穴住居36覆土 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1758 |
| 53-9 | 61-12 | 弥生土器 | 鉢脚部 | 5 | 竪穴住居36覆土 | 竹管文。裾端部、外上方につまみ上げる。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1758 |
| 53-10 | 61-3 | 弥生土器 | 壺 | 5 | 竪穴住居35覆土 | 口縁屈曲し、端部丸くおさめる。<br>外面ミガキ。内面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1773 |
| 53-11 | 61-1 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 竪穴住居35<br>2172壁溝 | 口縁短く立ち上がり広がる。端部丸くおさめる。<br>外面ナデ。内面ケズリ。 | 赤 | 中期後葉 | 2172 |
| 53-12 | 61-5 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 竪穴住居35覆土 | 口縁端部やや上方につまむ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1773 |
| 53-13 | 61-4 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 竪穴住居35覆土 | 口縁端面下半に刻目。剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 1773 |
| 53-14 | 61-2 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 竪穴住居35覆土 | 外面ハケメ。 | 赤 | 中期後葉 | 1773 |
| 53-15 | 61-7 | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 竪穴住居35覆土 | 外面ミガキ。 | | 中期後葉 | 1773 |
| 53-16 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 竪穴住居35<br>2172壁溝 | 外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 2172 |
| 53-17 | 61-6 | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 竪穴住居35<br>2172壁溝 | 外面ミガキ。内面工具によるナデ。底部ミガキ。 | | 中期後葉 | 2172 |
| 53-18 | 61-8 | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 竪穴住居35覆土 | 裾端部穿孔、未貫通痕跡。外面ミガキ。内面ハケメ。<br>裾端部つまみ上げる。 | | 中期後葉 | 1773 |
| 53-19 | 61-9 | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 竪穴住居35覆土 | 裾端部と柱部に穿孔。外面ミガキ。内面ハケメ。 | 赤 | 中期後葉 | 1773 |
| 53-20 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 竪穴住居35覆土 | 外面ミガキ。内面絞り痕。裾端部上下に拡張。 | 赤 | 中期後葉 | 1773 |
| 54-1 | 62-6 | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1512土坑 | 外面粗いハケ後、櫛描直線文。内面ハケメ。 | 白 | 中期中葉 | 1512 |
| 54-2 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1512土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1512 |
| 54-3 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1512土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1512 |
| 54-4 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1512土坑 | 外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1512 |
| 54-5 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1512土坑 | 外面ミガキ。 | 白 | 中期中葉 | 1512 |
| 54-6 | | 弥生土器 | 壺 | 5 | 1516土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1516 |
| 54-7 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1516土坑 | 外面ナデ。炭化物付着。口縁屈曲、端部やや摘み上げる。 | | 中期中葉～後葉 | 1516 |
| 54-8 | | 弥生土器 | 脚部 | 5 | 1516土坑 | 台付鉢の脚部か。剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 1516 |
| 54-9 | 62-7 | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1494ﾋﾟｯﾄ | 内外面ハケメ後、ミガキ。口縁端部下端に刻目。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1494 |
| 54-10 | | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1474ﾋﾟｯﾄ | 外面ハケメ。口縁短く外上方に伸び丸くおさめる。 | | 中期中葉～後葉 | 1474 |

## 表８　掲載遺物一覧（４）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 54-11 | | 弥生土器 | 壺 | 5 | 1483ﾋﾟｯﾄ | 口縁端部、上下に拡張され端面をもつ。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1483 |
| 54-12 | 62-3 | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 182溝 | 段状口縁。外面櫛描簾状文。内面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 182 |
| 54-13 | 62-4 | 弥生土器 | 台付鉢 | 6 | 182溝 | 内外面ミガキ。脚部凹線文。 | 赤 | 中期後葉 | 182 |
| 54-14 | 62-2 | 弥生土器 | 甕 | 6 | 182溝 | 内外面ハケメ。口縁上端部つまみあげる。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 182 |
| 54-15 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 182溝 | 内外面ナデ。 | | 中期後葉 | 182 |
| 54-16 | | 弥生土器 | 壺 | 6 | 202溝 | 外面ハケメ後櫛描直線文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 202 |
| 54-17 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 202溝 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 202 |
| 54-18 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1721土坑 | 外面一部ミガキ。内面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1721 |
| 54-19 | 67-7 | 弥生土器 | 壺 | 6 | 197土坑 | 外面ハケメ。口縁端部上下に肥厚。 | 赤 | 中期中葉 | 197 |
| 54-20 | 67-8 | 弥生土器 | 壺 | 6 | 197土坑 | 口縁端面に２条の櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期中葉 | 197 |
| 54-21 | 67-9 | 弥生土器 | 甕 | 6 | 197土坑 | 外面ハケメ。内面ミガキ。 | 白 | 中期中葉 | 197 |
| 54-22 | 67-15 | 弥生土器 | 無頸壺 | 6 | 197土坑 | 口縁端部下方に折り曲げ。外面櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期中葉 | 197 |
| 54-23 | 67-10 | 弥生土器 | 無頸壺 | 6 | 197土坑 | 外面波状文・櫛描直線文。内面ミガキ。口縁端面刻み目文。 | 白 | 中期中葉 | 197 |
| 54-24 | 67-12 | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 197土坑 | 口縁端面刻み目文。剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉 | 197 |
| 54-25 | 67-14 | 弥生土器 | 甕 | 6 | 197土坑 | 口縁鋭角に屈曲。口縁端面を有する。内外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 197 |
| 54-26 | 67-11 | 弥生土器 | 甕 | 6 | 197土坑 | 外面ハケメ。内面ナデ。 | | 中期中葉 | 197 |
| 54-27 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 197土坑 | 外面ミガキ。底部葉脈痕。 | 白 | 中期中葉 | 197 |
| 54-28 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 197土坑 | 外面ミガキ。 | | 中期中葉 | 197 |
| 54-29 | 67-13 | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 197土坑 | 外面ミガキ。蓋の可能性もあり。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 197 |
| 54-30 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 197土坑 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 197 |
| 55-1 | | 弥生土器 | 蓋 | 5 | 1684土坑 | 内面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-2 | | 弥生土器 | 壺 | 5 | 1684土坑 | 外面ハケメ。器壁薄い。 | 生駒 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-3 | 63-5 | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1684土坑 | 口縁端面櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-4 | | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-5 | | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1684土坑 | 受口口縁。剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 1684 |
| 55-6 | 63-6 | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1684土坑 | 頸部に押捺突帯。剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-7 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1684土坑 | 口縁外反、端部丸くおさめる。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-8 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1684土坑 | 口縁端面櫛描列点文。外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-9 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1684土坑 | 口縁に端面有する。剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-10 | 63-9 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1684土坑 | 外面ハケメ。口縁端面下端に刻み目文。 | 白 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-11 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1684土坑 | 内外面ハケメ。口縁端面上方につまみ出す。 | 白 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-12 | 63-8 | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1684土坑 | 段状口縁。体部櫛描簾状文・列点文、口縁は不明。 | 赤 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-13 | | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1684土坑 | 段状口縁。外面櫛描直線文一部残存。他剥離著しい。 | 白 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-14 | 63-7 | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1684土坑 | 口縁外方に折り曲げ。外面櫛描簾状文。内面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-15 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 5 | 1684土坑 | 脚部内面絞り目。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-16 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-17 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 外面一部にハケメ。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-18 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-19 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-20 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1684土坑 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-22 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 1684 |
| 55-23 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-24 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-25 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1684土坑 | 外面ミガキ。 | 白 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-26 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-27 | 63-4 | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1684土坑 | 脚部外面ミガキ、内面絞り目。中空。裾端部やや上方につまみあげる。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-28 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。裾端部やや上方につまみあげる。 | 生駒 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-29 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 5 | 1684土坑 | 台部分。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期後葉 | 1684 |
| 55-30 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1684土坑 | 脚部中空。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-31 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1684土坑 | 外面ミガキ。裾部幅広の端面。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-32 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 55-33 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1684土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1684 |
| 56-1 | | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1716土坑 | 外面凹線２条。 | | 中期後葉 | 1716 |
| 56-2 | | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1716土坑 | 口縁端面に櫛描簾状文・櫛描列点文。生駒西麓産。 | 生駒 | 中期後葉 | 1716 |
| 56-3 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1716土坑 | 口縁端部上方につまみあげる。外面ハケメ後ミガキ。 | 生駒 | 中期後葉 | 1716 |
| 56-4 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1716土坑 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1716 |
| 56-5 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1716土坑 | 口縁端部上方につまみあげる。口縁端面に凹線文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1716 |
| 56-6 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1716土坑 | 内外面ハケメ。口縁端面に凹線文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1716 |
| 56-7 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1716土坑 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1716 |
| 56-8 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1716土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1716 |
| 56-9 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1716土坑 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1716 |
| 56-10 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1716土坑 | 外面ミガキ。内面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1716 |
| 56-11 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1716土坑 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1716 |
| 56-12 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1708土坑 | 剥離著しく調整不明。外面炭化物付着。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1708 |
| 56-13 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1708土坑 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1708 |
| 56-14 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1708土坑 | 底部穿孔。外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1708 |

## 表９　掲載遺物一覧（５）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 56-15 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1708土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 1708 |
| 56-16 | | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1749ﾋﾟｯﾄ | 段状口縁。外面櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期後葉 | 1749 |
| 56-17 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1715土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1715 |
| 56-18 | | 弥生土器 | 壺 | 5 | 1751溝 | 口縁端面やや垂下。 | 生駒 | 中期中葉～後葉 | 1751 |
| 56-19 | 63-3 | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1714土坑 | 内外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1714 |
| 56-20 | | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1756土坑 | 口縁屈曲させ下端部に刻み目文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1756 |
| 56-21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1756土坑 | 剥離著しく調整不明。底部剥離面に炭化物付着。 | | 中期中葉 | 1756 |
| 56-22 | 63-2 | 弥生土器 | 壺 | 5 | 1925土坑 | 口縁端部上下ややつまみ、端面を有する。内外面ハケメ。<br>体部内面ナデ。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 1925 |
| 57-1 | 64-2 | 弥生土器 | 無頸壺 | 5 | 1927土坑 | 頸部に穿孔。剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-2 | 64-3 | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1927土坑 | 外面体部ハケメ後櫛描波状文・櫛描直線文。<br>口縁端面凹線文。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-3 | | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1927土坑 | 受口口縁。体部内外面ハケメ。口縁内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-4 | 64-4 | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1927土坑 | 頸部に押捺突帯。剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-5 | 64-5 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1927土坑 | 口縁外上方に伸び、端面を有する。内外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-6 | 64-6 | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1927土坑 | 外面ミガキ。内面ハケメ後ミガキ。<br>口縁立ち上がり部分に凹線文。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-7 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1927土坑 | 脚部、中空になっていない。剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-8 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1927土坑 | 脚部、中空になっていない。外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-9 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1927土坑 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-10 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1927土坑 | 外面、工具によるナデ。内面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-11 | | 弥生土器 | 脚付鉢 | 5 | 1927土坑 | 脚部。内外面ハケメ。竹管文。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 1927 |
| 57-12 | | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1800土坑 | 口縁端面やや垂下。端面に櫛描簾状文。 | | 中期中葉 | 1800 |
| 57-13 | | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1800土坑 | 口縁の垂下部分粘土接合痕。端面に櫛描簾状文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1800 |
| 57-14 | | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1800土坑 | 外面ハケメ。 | 赤 | 中期中葉 | 1800 |
| 57-15 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1800土坑 | 内面絞り目。器壁厚い。剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期中葉 | 1800 |
| 57-16 | 64-1 | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1800土坑 | 段状口縁。ハケメ後櫛描波状文・櫛描直線文。<br>内面ハケメ。 | | 中期中葉 | 1800 |
| 57-17 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1800土坑 | 外面ハケメ。 | 赤 | 中期中葉 | 1800 |
| 57-18 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1800土坑 | 外面工具によるナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1800 |
| 57-19 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1800土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1800 |
| 57-20 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1800土坑 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1800 |
| 57-21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1800土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1800 |
| 57-22 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1800土坑 | 外面ミガキ。 | 生駒 | 中期中葉 | 1800 |
| 57-23 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1800土坑 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1800 |
| 57-24 | 63-1 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1886土坑 | 口縁外上方に伸び、端部丸くおさめる。<br>外面ミガキ。内面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1886 |
| 57-25 | | 弥生土器 | 壺 | 5 | 1992土坑 | 内外面ナデ。受口下端に刻み目文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1992 |
| 57-26 | | 弥生土器 | 高杯 | 5 | 1992土坑 | 内面絞り目。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 1992 |
| 58-1 | 65-1 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1956土坑 | 外面ハケメ。内面ナデ。口縁端面あり。 | | 中期中葉 | 1956 |
| 58-2 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1956土坑 | 口縁端部丸くおさめる。外面調整不明。内面ハケメ。 | | 中期中葉 | 1956 |
| 58-3 | | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1956土坑 | 櫛描波状文口縁内側につまみ出す。 | 白 | 中期中葉 | 1956 |
| 58-4 | 64-7 | 弥生土器 | 把手付鉢 | 5 | 1956土坑 | 口縁直線的に伸びる。外面工具によるナデ。内面ミガキ。<br>口縁端面刻み目文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1956 |
| 58-5 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1956土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 1956 |
| 58-6 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1956土坑 | 内外面ハケメ。底部ミガキ。 | | 中期中葉 | 1956 |
| 58-7 | 65-2 | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1957土坑 | 口縁端面上下につまみ出す。外面ハケメ。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 1957 |
| 58-8 | 65-3 | 土師器 | 甕 | 5 | 1957土坑 | 内外面ハケメ。 | | 中期中葉～後葉 | 1957 |
| 58-9 | | 弥生土器 | 壺 | 5 | 1991土坑 | 垂下口縁。剥離著しく調整不明、外面一部ハケメ確認。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 1991 |
| 58-10 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 5 | 1922溝 | 鉢底部分剥落。剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉～後葉 | 1922 |
| 58-11 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 2090ﾋﾟｯﾄ | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 2090 |
| 58-12 | 65-4 | 弥生土器 | 広口壺 | 5 | 1569土坑 | 垂下口縁、櫛描簾状文。剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期中葉 | 1569 |
| 58-13 | 65-5 | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1569土坑 | 内面ミガキ。口縁端面、刺突文。 | | 中期後葉 | 1569 |
| 58-14 | | 弥生土器 | 甕 | 5 | 1569土坑 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 1569 |
| 58-15 | 65-6 | 弥生土器 | 器台 | 5 | 1569土坑 | 外面凹線文。剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 1569 |
| 58-16 | 65-7 | 弥生土器 | 細頸壺 | 5 | 1569土坑 | 口縁端面。外面櫛描波状文・凹線文。内面ハケメ。 | | 中期後葉 | 1569 |
| 58-17 | | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 1569土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 1569 |
| 58-18 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1569土坑 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 1569 |
| 58-19 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1569土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期後葉 | 1569 |
| 58-20 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1569土坑 | 内外面ナデ。 | | 中期後葉 | 1569 |
| 58-21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 5 | 1569土坑 | 剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期後葉 | 1569 |
| 58-22 | | 弥生土器 | 壺底部 | 5 | 1569土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 1569 |
| 58-23 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 5 | 1569土坑 | 脚部。内面ナデ。 | | 中期後葉 | 1569 |
| 59-1 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 竪穴住居39覆土 | 外面ナデ。 | 赤 | 中期中葉 | 2666 |
| 59-2 | 66-1 | 弥生土器 | 壺 | 6 | 竪穴住居39覆土 | 外面剥離著しく調整不明。内面ハケメ。 | | 中期中葉 | 2666 |
| 59-3 | | 弥生土器 | 壺 | 6 | 竪穴住居18覆土 | 口縁上端部鈍角になだらか。 | 生駒 | 中期中葉 | 44 |
| 59-4 | | 弥生土器 | 壺 | 6 | 竪穴住居18覆土 | 口縁端面櫛描簾状文。 | | 中期中葉 | 44 |
| 59-5 | 66-2 | 弥生土器 | 無頸壺 | 6 | 竪穴住居18覆土 | 口縁、外方に折り曲げ。櫛描波状文。 | | 中期中葉 | 44 |
| 59-6 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 竪穴住居18覆土 | 外面・底面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 44 |
| 59-7 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 竪穴住居18覆土 | 外面ミガキ。 | | 中期中葉 | 44 |
| 59-8 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 竪穴住居18覆土 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉 | 44 |
| 59-9 | 66-3 | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 竪穴住居18覆土 | 外面ミガキ。内面下部ハケメ、上部ミガキ。 | 白 | 中期中葉 | 44 |

## 表10　掲載遺物一覧（６）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 59-10 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 55土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 55 |
| 59-11 | 67-1 | 弥生土器 | 広口壺 | 6 | 56土坑 | 外面櫛描簾状文。口縁端面櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期後葉 | 56 |
| 59-12 | 67-2 | 弥生土器 | 広口壺 | 6 | 56土坑 | 外面櫛描直線文。口縁端面櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期後葉 | 56 |
| 59-13 | 67-5 | 弥生土器 | 広口壺 | 6 | 56土坑 | 口縁端面２条の櫛描簾状文。 | | 中期後葉 | 56 |
| 59-14 | 66-5 | 弥生土器 | 壺 | 6 | 56土坑 | 外面ハケメ、頸部に押捺突帯。 | 赤 | 中期後葉 | 56 |
| 59-15 | 67-4 | 弥生土器 | 無頸壺 | 6 | 56土坑 | 口縁、外方に折り曲げ。外面・口縁に櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期後葉 | 56 |
| 59-16 | 67-3 | 弥生土器 | 細頸壺 | 6 | 56土坑 | 外面櫛描簾状文。内面ハケメ。口縁端面に円形浮文。 | 生駒 | 中期後葉 | 56 |
| 59-17 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 56土坑 | 外面ハケメ。口縁上端部つまみあげる。 | | 中期後葉 | 56 |
| 59-18 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 56土坑 | 口縁なだらかに外上方に短く伸びる。<br>剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 56 |
| 59-19 | 67-6 | 弥生土器 | 甕 | 6 | 56土坑 | 外面ハケメ後ミガキ。内面ミガキ。<br>口縁端部上部につまみあげる。 | 白 | 中期後葉 | 56 |
| 59-20 | | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 56土坑 | 小型甕状。外面ミガキ。内面ナデ。 | | 中期後葉 | 56 |
| 59-21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 56土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 56 |
| 59-22 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 56土坑 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 56 |
| 59-23 | 66-6 | 弥生土器 | 高杯 | 6 | 56土坑 | 外面ミガキ、４条の凹線文。 | 白 | 中期後葉 | 56 |
| 59-24 | | 弥生土器 | 高杯 | 6 | 56土坑 | 脚部に穿孔。外面ミガキ。 | | 中期後葉 | 56 |
| 59-25 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 42土坑 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期中葉～後葉 | 42 |
| 59-26 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 42土坑 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 42 |
| 59-27 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 42土坑 | 外面ナデ。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 42 |
| 59-28 | | 弥生土器 | 高杯 | 6 | 42土坑 | 脚部中空ではない。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 42 |
| 59-29 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 6 | 42土坑 | 外面竹管文。端部外上方につまみあげる。<br>剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 42 |
| 59-30 | 66-4 | 弥生土器 | 台付鉢 | 6 | 42土坑 | 円孔。剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | 42 |
| 60-1 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 103土坑 | 内外面ハケメ。第93集－第74図－８掲載再録。 | | 中期中葉～後葉 | 103 |
| 60-2 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 103土坑 | 外面ミガキ。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 103 |
| 60-3 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 105土坑 | 外面ハケメ。口縁端部上部に刻み目文。 | | 中期中葉～後葉 | 105 |
| 60-4 | 66-7 | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 215土坑 | 内外面ミガキ。口縁外端部に刻み目文。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 215 |
| 60-5 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 28溝 | 外面ハケメ。内面ナデ。口縁端部上部につまみ出す。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 28 |
| 60-6 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 27谷 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 27 |
| 60-7 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 27谷 | 外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 27 |
| 60-8 | | 弥生土器 | 高杯 | 6 | 27谷 | 中空になっていない。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 27 |
| 60-9 | | 弥生土器 | 高杯 | 6 | 27谷 | 外面ナデ。内面ハケメ。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 27 |
| 60-10 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 6 | 27谷 | 外面竹管文。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期中葉～後葉 | 27 |
| 60-11 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 6 | 27谷 | 外面竹管文。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | 27 |
| 61-1 | | 弥生土器 | 広口壺 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ナデ。内面ハケメ。 | 白 | 中期後葉 | 20 |
| 61-2 | 68-5 | 弥生土器 | 長頸壺 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面櫛描直線文。 | 白 | 中期後葉 | 20 |
| 61-3 | 68-1 | 弥生土器 | 蓋 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。内面ハケメ。 | | 中期後葉 | 20 |
| 61-4 | | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ナデ。内面剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 20 |
| 61-5 | | 弥生土器 | 壺 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ナデ。内面剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 20 |
| 61-6 | | 弥生土器 | 壺 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 受口口縁。外面口縁ミガキ。内面剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期後葉 | 20 |
| 61-7 | 68-2 | 弥生土器 | 広口壺 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 口縁端面に凹線文、内面扇状文。<br>外面櫛描波状文・直線文。 | 白 | 中期後葉 | 20 |
| 61-8 | 68-3 | 弥生土器 | 広口壺 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 口縁端面に櫛描簾状文。体部外面櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期後葉 | 20 |
| 61-9 | 68-4 | 弥生土器 | 広口壺 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 口縁端面に櫛描簾状文。体部外面ハケメ。<br>内面工具によるナデ。 | 生駒 | 中期後葉 | 20 |
| 61-10 | | 弥生土器 | 台付鉢 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。内面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 61-11 | 68-6 | 弥生土器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 口縁端面に凹線。外面ハケメ。内面ナデ。 | | 中期後葉 | 20 |
| 61-12 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 口縁端部上部につまみあげる。外面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 61-13 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 口縁やや立ち上がる。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期後葉 | 20 |
| 61-14 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 61-15 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 口縁端面に刻み目文。剥離著しく調整不明。 | 赤 | 中期後葉 | 20 |
| 61-16 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 剥離著しく調整不明。 | | 中期後葉 | 20 |
| 61-17 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 61-18 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 口縁端面に刺突文。剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期後葉 | 20 |
| 62-1 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 内外面ナデ。穿孔。蓋か。 | 白 | 中期後葉 | 20 |
| 62-2 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 内外面ナデ。 | 白 | 中期後葉 | 20 |
| 62-3 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。 | | 中期後葉 | 20 |
| 62-4 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。 | | 中期後葉 | 20 |
| 62-5 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 内外面ナデ。 | | 中期後葉 | 20 |
| 62-6 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-7 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-8 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。内面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-9 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 内外面ナデ。 | 白 | 中期後葉 | 20 |
| 62-10 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-11 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-12 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-13 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ハケメ。底部葉脈痕。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-14 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-15 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-16 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |

## 表11　掲載遺物一覧（７）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 62-17 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-18 | | 弥生土器 | 壺底部 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。内面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 20 |
| 62-19 | | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 段状口縁。櫛描簾状文。 | 生駒 | 中期後葉 | 20 |
| 62-20 | | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 外面ミガキ。内面工具によるナデ。 | 赤 | 中期後葉 | 20 |
| 62-21 | | 弥生土器 | 高杯 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 脚部中空。杯底部剥落。外面ミガキ。 | 赤 | 中期後葉 | 20 |
| 62-22 | 68-7 | 弥生土器 | 蓋 | 6 | 周溝墓１　108溝 | 外面ミガキ。内面ハケメ。左右各２孔。 | | 中期後葉 | 108 |
| 62-23 | | 弥生土器 | 壺 | 6 | 周溝墓１　108溝 | 口縁端面に凹線文。内面櫛描列点文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期後葉 | 108 |
| 63-1 | | 弥生土器 | 広口壺 | 8 | 谷部第１層 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-2 | | 弥生土器 | 甕 | 8 | 谷部第１層 | 口縁端面に凹線。外面工具によるナデ。内面ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-3 | | 弥生土器 | 脚部 | 8 | 谷部第１層 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-4 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 谷部第１層 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-5 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 谷部第１層 | 外面ナデ。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 63-6 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 谷部第１層 | 内外面ナデ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-7 | | 弥生土器 | 壺底部 | 8 | 谷部第１層 | 内外面ナデ。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | |
| 63-8 | | 弥生土器 | 壺底部 | 8 | 谷部第１層 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-9 | | 弥生土器 | 壺底部 | 8 | 谷部第１層 | 内面ミガキ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-10 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 谷部第１層 | 剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-11 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 谷部第２層 | 外面ミガキ。内面ナデ。 | 赤 | 中期中葉～後葉 | |
| 63-12 | | 弥生土器 | 甕底部 | 8 | 谷部第２層 | 剥離著しく調整不明。 | 生駒 | 中期中葉～後葉 | |
| 63-13 | | 弥生土器 | 壺 | 5 | 第２層 | 受口口縁。口縁刻み目文・櫛描波状文・凹線文。<br>頸部に押捺突帯。剥離著しく調整不明。 | 白 | 中期後葉 | |
| 63-14 | | 弥生土器 | 細頸壺 | 5 | 第３層 | 頸部に突帯。外面ハケメ。内面ナデ。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 63-15 | | 弥生土器 | 鉢 | 5 | 第２層 | 段状口縁。外面凹線文・櫛描波状文・平行文。 | 白 | 中期中葉～後葉 | |
| 63-16 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 第１層 | 外面ミガキ。生駒西麓産。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 63-17 | | 弥生土器 | 無頸壺 | 6 | 第２層 | 外面櫛描波状文・平行文。 | | 中期中葉 | |
| 63-18 | | 弥生土器 | 甕 | 6 | 第３層 | 内面ナデ。剥離著しく調整不明。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-19 | 66-8 | 弥生土器 | 脚台付鉢 | 6 | 第１層 | 体部から口縁部にかけて丸い。櫛描扇形文。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期坑葉 | |
| 63-20 | | 弥生土器 | 鉢 | 6 | 第４層 | 外面凹線文・ハケメ。 | ﾍﾞｰｼﾞｭ | 中期中葉～後葉 | |
| 63-21 | | 弥生土器 | 甕底部 | 6 | 第３層 | 外面ミガキ。 | 白 | 中期中葉～後葉 | |
| 63-22 | | 弥生土器 | 高杯 | | 第３・４層 | 外面ミガキ。第93集－第75図－28掲載再録。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 63-23 | | 弥生土器 | 台付鉢 | | 第３・４層 | 穿孔。剥離著しく調整不明。<br>第93集－第75図－30掲載再録。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 64-1 | 69-1 | 石器 | 石鏃 | 8 | 竪穴住居３覆土 | サヌカイト。尖基型の中広型。 | | 中期中葉～後葉 | 3013 |
| 64-2 | 69-2 | 石器 | 石鏃 | 7 | 竪穴住居14<br>1388壁溝 | サヌカイト。円基型の細型。平面一部に自然面をとどめる。 | | 中期中葉～後葉 | 1388 |
| 64-3 | 69-3 | 石器 | 石鏃 | 7 | 竪穴住居12<br>2364土坑 | サヌカイト。尖基型の中広型。一部に自然面を有する。 | | 中期中葉～後葉 | 2364 |
| 64-4 | 69-4 | 石器 | 石鏃 | 7 | 竪穴住居13覆土 | サヌカイト。尖基型の細型。先端欠損。 | | 中期中葉～後葉 | 1030 |
| 64-5 | 69-5 | 石器 | 石鏃 | 5 | 第1層 | サヌカイト。有茎型の中広型。鏃身平面側辺ラインが直線的。<br>先端部欠損。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 64-6 | 69-6 | 石器 | 石鏃 | 5 | 第1層 | サヌカイト。有茎型の中広型。先端部・側面欠損。 | | 中期中葉～後葉 | 1536 |
| 64-7 | 69-7 | 石器 | 石鏃 | 4 | 444土坑 | サヌカイト。有茎型の細型。茎部欠損。 | | 中期中葉～後葉 | 444 |
| 64-8 | 69-8 | 石器 | 石鏃 | 7 | 竪穴住居10<br>744ﾋﾟｯﾄ | サヌカイト。凹基型の細型。鏃身平面側辺ラインが直線的。 | | 中期中葉～後葉 | 744 |
| 64-9 | 69-9 | 石器 | 石鏃 | 7 | 竪穴住居13<br>（3・4期） | サヌカイト。基部欠損。 | | 中期中葉～後葉 | 1375 |
| 64-10 | 69-10 | 石器 | 中型尖頭器 | 8 | 竪穴住居４<br>（5・6期） | サヌカイト。平基型の細型。未成品の可能性あり。 | | 中期中葉～後葉 | 2867 |
| 64-11 | 69-11 | 石器 | 中型尖頭器 | 7 | 竪穴住居14覆土 | サヌカイト。平基型の細型。一部に自然面を有する。<br>未成品の可能性あり。 | | 中期中葉～後葉 | 1029 |
| 65-1 | 69-12 | 石器 | 中型尖頭器 | 7 | 竪穴住居13覆土 | サヌカイト。尖基型。 | | 中期中葉～後葉 | 1030 |
| 65-2 | 69-13 | 石器 | 中型尖頭器 | 7 | 竪穴住居11<br>1149壁溝 | サヌカイト。尖基型。 | | 中期中葉～後葉 | 1149 |
| 65-3 | 69-18 | 石器 | 大型尖頭器 | 8 | 谷部第１層 | サヌカイト。細型。基部の欠損端部風化。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 65-4 | | 石器 | 大型尖頭器 | 4 | 789溝 | サヌカイト。細型。基部側欠損。 | | 中期中葉～後葉 | 789 |
| 65-5 | 69-19 | 石器 | 大型尖頭器 | 7 | 1384ﾋﾟｯﾄ | サヌカイト。細型。基部。欠損端部風化。 | | 中期中葉～後葉 | 1384 |
| 65-6 | 69-20 | 石器 | 大型尖頭器 | 4 | 竪穴住居24<br>401壁溝 | サヌカイト。細型。欠損両端部風化。 | | 中期中葉～後葉 | 401 |
| 66-1 | 69-17 | 石器 | 石錐 | 6 | 竪穴住居29覆土 | サヌカイト。I型。上下両端に磨滅痕。 | | 中期中葉～後葉 | 41 |
| 66-2 | 69-14 | 石器 | 石錐 | 7 | 竪穴住居13覆土 | サヌカイト。V型。錐部磨滅痕。頭部欠損。 | | 中期中葉～後葉 | 1030 |
| 66-3 | 69-15 | 石器 | 石錐 | 4 | 875ﾋﾟｯﾄ | サヌカイト。I型。錐部磨滅痕。縞石。 | | 中期中葉～後葉 | 875 |
| 66-4 | 69-16 | 石器 | 石錐 | 8 | 竪穴住居５<br>2934壁溝 | サヌカイト。V型。錐部磨滅痕。第93集－第74図－17掲載再録。 | | 中期中葉～後葉 | 2934 |
| 66-5 | 69-21 | 石器 | 刃器 | 7 | 竪穴住居13 | サヌカイト。ｽｸﾚｲﾊﾟｰ? | | 中期中葉～後葉 | 1375 |
| 66-6 | 69-22 | 石器 | 刃器 | 4 | 789溝 | サヌカイト。一部に自然面を有する。 | | 中期中葉～後葉 | 789 |
| 66-7 | 69-23 | 石器 | 刃器 | 4 | 789溝 | サヌカイト。ごく一部に自然面を有する。 | | 中期中葉～後葉 | 789 |
| 67-1 | 70-1 | 石器 | 石庖丁 | 7 | 竪穴住居13<br>（4･5期） | 粘板岩。杏仁型。 | | 中期中葉～後葉 | 1375 |
| 67-2 | 70-2 | 石器 | 石庖丁 | 6 | 竪穴住居29覆土 | 結晶片岩。杏仁型。 | | 中期中葉～後葉 | 41 |
| 67-3 | 70-3 | 石器 | 石庖丁 | 6 | 197土坑 | 粘板岩。直線型。 | | 中期中葉～後葉 | 197 |
| 67-4 | 70-4 | 石器 | 石庖丁 | 5 | 1569土坑 | 粘板岩。直線型。 | | 中期中葉～後葉 | 1569 |
| 67-5 | 70-5 | 石器 | 石庖丁 | 6 | 竪穴住居30覆土 | 粘板岩。直線型。未成品。 | | 中期中葉～後葉 | 62 |
| 67-6 | 70-6 | 石器 | 磨製石剣 | | 竪穴住居13覆土 | 粘板岩。有柄式。基部には斜め方向の研磨痕。<br>断面は杏仁形。茎部に鎬明瞭。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 67-7 | 70-7 | 石器 | 磨製石剣 | | 竪穴住居24覆土 | 粘板岩。鉄剣形。明瞭な鎬。 | | 中期中葉～後葉 | |

## 表12　掲載遺物一覧（８）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 67-8 | 70-8 | 石器 | 磨製石鏃 | | 竪穴住居13覆土 | 粘板岩。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 67-9 | | 石製品 | 小型勾玉 | | 1200ﾋﾟｯﾄ | ヒスイ。半玦状。 | | 中期中葉～後葉 | 1200 |
| 68-1 | 71-1 | 石器 | 柱状片刃石斧 | 7 | 竪穴住居11<br>1055落込 | 石材風化と考えられる。 | | 中期中葉～後葉 | 1055 |
| 68-2 | 71-2 | 石器 | 大型蛤刃石斧 | 4 | 第1層 | 歯先潰れている。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 68-3 | 71-3 | 石器 | 柱状片刃石斧 | 7 | 竪穴住居12<br>1368壁溝 | 全面丁寧な研磨。各面ごく一部に自然面を有する。 | | 中期後葉 | 1368 |
| 68-4 | 71-4 | 石器 | 扁平片刃石斧 | 6 | 182溝 | 粘板岩。石庖丁の転用。 | | 中期中葉～後葉 | 182 |
| 68-5 | 71-5 | 石器 | 扁平片刃石斧 | 7 | 竪穴住居10<br>720排水溝 | 結晶片岩。石庖丁の転用。 | | 中期中葉～後葉 | 720 |
| 69-1 | 71-6 | 石器 | 敲石 | 7 | 竪穴住居12覆土 | 砂岩。両端に磨滅痕。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 69-2 | 71-7 | 石製品 | 投弾 | 6 | 第１層 | 円礫。 | | 中期中葉～後葉 | |
| 69-3 | | 石製品 | 砥石 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 砂岩。 | | 中期中葉～後葉 | 20 |
| 69-4 | 71-8 | 石製品 | 砥石 | 4 | 411ﾋﾟｯﾄ | 粘板岩。２か所円形擦痕あり。 | | 中期中葉～後葉 | 411 |
| 69-5 | 71-9 | 石製品 | 砥石 | 8 | 竪穴住居５<br>2881ﾋﾟｯﾄ | | | 中期中葉～後葉 | 2881 |
| 81-1 | 72-1 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 内外面斜め方向の板ナデ。口縁はヨコナデ。<br>粘土紐接合痕。硬質。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 81-2 | 72-2 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 内外面横方向板ナデ。内面指押え痕。粘土紐接合痕。硬質。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 81-3 | 72-3 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 外面横方向板ナデ、１・２段目に板ナデ静止痕。<br>内面ナデ、１段目はケズリ。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 81-4 | 72-4 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 内外面ヨコハケ。内面に指圧痕。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 81-5 | 72-5 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 外面タテハケ後、一気に１周するヨコハケ。<br>内面は断続的なヨコハケ。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 81-6 | | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 外面一気に１周するヨコハケ。内面ナデ。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 81-7 | | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 外面一気に１周するヨコハケ。<br>内面は静止痕のあるヨコハケ、突帯裏面部分は指押え痕。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 81-8 | 72-6 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 外面一気に１周するヨコハケ。<br>内面斜め方向に板ナデ、凹凸著しい。底部肥厚 | | ５世紀前半 | 1 |
| 81-9 | 73-1 | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 外面横方向板ナデ、静止痕、底部ケズリ。<br>内面１段目下半及び部分的にケズリ。硬質。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 82-1 | 73-2 | 埴輪 | 朝顔形埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 頸部内面粘土接合痕。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 82-2 | 73-3 | 埴輪 | 朝顔形埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 頸部。花状部との接合面にて剥離。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 82-3 | 73-4 | 埴輪 | 朝顔形埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 花状部下段。上段部との接合面に刻み目文。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 82-4 | | 埴輪 | 朝顔形埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 花状部上段。下段部との接合面に刻み目文の圧痕。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 82-5 | 73-5 | 埴輪 | 朝顔形埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 花状部上段。下段部との接合面に刻み目文の圧痕。<br>外面ヨコハケ斜め上方に施す。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 82-6 | 74-1 | 埴輪 | 朝顔形埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 花状部。上段・下段部との接合面、タガ接合面剥離。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 82-7 | | 埴輪 | 円筒埴輪 | 3 | 17号墳　１溝 | 底部。外面タテハケ後、ヨコハケ、静止痕。<br>内面ヨコナデ。底部内外面ケズリ。硬質。 | | ５世紀前半 | 1 |
| 82-8 | 74-2 | 須恵器 | 無蓋高坏 | 3 | 17号墳　１溝 | 脚部大きく「ハの字」に開く。 | | TK208型式 | 1 |
| 82-9 | 74-3 | 須恵器 | 甕 | 3 | 17号墳　１溝 | 胴部に張り。底部回転ヘラケズリ。胴部下半にヘラ記号。 | | TK208型式 | 1 |
| 82-10 | | 須恵器 | 高坏 | 3 | 17号墳　１溝 | 脚部。内面に粘土絞り痕。 | | TK208型式 | 1 |
| 82-11 | | 須恵器 | 高坏 | 3 | 17号墳　１溝 | 脚部。端部上方へややつまみ出す。 | | TK208型式 | 1 |
| 82-12 | | 須恵器 | 甕 | 3 | 19号墳　13溝 | 口縁外面上部と凸帯に波状紋。 | | TK216型式 | 13 |
| 82-13 | 74-5 | 須恵器 | 甕 | 3 | 19号墳　13溝 | 体部に２段の波状紋。 | | TK216型式 | 13 |
| 82-14 | 74-6 | 須恵器 | 把手付椀 | 3 | 19号墳　13溝 | 口縁は外上方へまっすぐ伸び端部に面を有する。<br>把手上端部に装飾。 | | TK216型式 | 13 |
| 82-15 | 74-4 | 須恵器 | 壺 | 3 | 18号墳　４溝 | 口縁直下に1条の凸帯が巡る。体部外面に叩き痕。 | | TK216～208型式 | 4 |
| 82-16 | 74-7 | 須恵器 | 坏身 | 3 | 20号墳　17溝 | 外面体部下半回転ヘラケズリ。 | | TK73～216型式 | 17 |
| 82-17 | | 須恵器 | 坏身 | 3 | 20号墳　17溝 | 体部内面の受部部分に静止でのナデ。 | | TK73～216型式 | 17 |
| 82-18 | 74-8 | 須恵器 | 壺 | 3 | 20号墳　17溝 | 焼け歪みが著しいが球形と想定。<br>体部に螺旋状の沈線。口縁端部に面。 | | TK73～216型式 | 17 |
| 82-19 | 75-1 | 須恵器 | 坏蓋 | 3 | 22号墳　９溝 | 確認調査時出土。第93集－第74図－1掲載再録 | | TK208型式 | 9 |
| 82-20 | 75-2 | 須恵器 | 坏身 | 3 | 22号墳　９溝 | 確認調査時出土。第93集－第74図－2掲載再録 | | TK208型式 | 9 |
| 82-21 | | 須恵器 | 坏身 | 3 | 22・23号墳　９溝 | 受部、水平に伸びる。 | | TK208型式 | 9 |
| 82-22 | | 須恵器 | 把手付椀 | 3 | 22号墳　９溝 | 外面底部不定方向にケズリ。把手上端部に装飾。 | | TK208型式 | 9 |
| 82-23 | 75-3 | 須恵器 | 器台 | 3 | 22号墳　９溝 | 口縁外面に２段の波状紋。 | | TK208型式 | 9 |
| 82-24 | | 須恵器 | 甕 | 3 | 24号墳　上層 | 26-27と同一個体の可能性あり。 | | TK216～208型式 | 24号墳 |
| 82-25 | 75-4 | 須恵器 | 壺 | 3 | 24号墳　10溝 | 口縁端部直下に凸帯。体部外面タタキ、かすかに残存。 | | TK216～208型式 | 10 |
| 82-26 | | 須恵器 | 甕 | 3 | 24号墳　10溝 | 肩部に凹線に挟まれた波状紋。 | | TK216～208型式 | 10 |
| 82-27 | | 須恵器 | 甕 | 3 | 24号墳　10溝 | 26-24と同一個体の可能性あり。底部外面タタキ後、回転ナデ。 | | TK216～208型式 | 10 |
| 88-1 | | 須恵器 | 坏蓋 | 4 | 428土坑 | － | | TK209型式 | 428 |
| 88-2 | | 須恵器 | 坏身 | 4 | 428土坑 | 器高は浅く偏平 | | TK209型式 | 428 |
| 88-3 | 75-8 | 須恵器 | 坏蓋 | 4 | 429土坑 | 内面中央仕上げナデ | | ７世紀前葉 | 429 |
| 88-4 | 75-9 | 須恵器 | 有蓋高坏 | 4 | 429土坑 | 立ち上がりは浅く、内傾。 | | ７世紀前葉 | 429 |
| 88-5 | | 須恵器 | 平瓶 | 5 | 1789土坑 | 外面底部回転ヘラケズリ。 | | ７世紀前葉 | 1789 |
| 88-6 | | 須恵器 | 坏蓋 | 5 | 1789土坑 | 口縁垂直に伸びる。 | | ７世紀前葉 | 1789 |
| 88-7 | | 須恵器 | 高坏 | 5 | 1789土坑 | 脚部中央に沈線。 | | ７世紀前葉 | 1789 |
| 88-8 | | 須恵器 | 甕 | 5 | 1789土坑 | 体部・底部回転ヘラケズリ。 | | ６～７世紀 | 1789 |
| 88-9 | | 須恵器 | 壺 | 5 | 1789土坑 | 口縁端部断面は三角形。 | | ６～７世紀 | 1789 |
| 88-10 | 75-10 | 須恵器 | 坏蓋 | 8 | 土坑墓７ | 天井部と口縁部をわける凹線。内面中央仕上げナデ。 | | ６世紀後半 | 2785 |
| 88-11 | 75-11 | 須恵器 | 坏身 | 8 | 土坑墓７ | 完形。内面中央仕上げナデ。 | | ６世紀後半 | 2785 |
| 88-12 | | 須恵器 | 坏身 | 8 | 土坑墓７ | 内面中央仕上げナデ。外面底部回転ヘラケズリは粗雑。 | | ６世紀後半 | 2785 |
| 88-13 | 75-12 | 金属製品 | 耳環 | 8 | 土坑墓７ | 銀膜、銅芯。 | | ６世紀後半 | 2785 |
| 88-14 | 75-5 | 金属製品 | 鉄鏃 | 8 | 土坑墓７ | 鏃身は片丸造り。茎部欠損。 | | ６世紀後半 | 2785 |

## 表13　掲載遺物一覧（９）

| 挿図番号 | 写真番号 | 種別 | 器形 | 調査区 | 掲載新遺構・層位 | 特徴 | 胎土 | 時期 | 調査時遺構番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 88-15 | 75-6 | 金属製品 | 鉄鏃 | 8 | 土坑墓７ | 鏃身は片丸造り。茎部に有機質残存。 | | ６世紀後半 | 2785 |
| 88-16 | 75-7 | 須恵器 | 坏蓋 | 7 | 竪穴住居15<br>1427ﾋﾟｯﾄ | 内面中央仕上げナデ。 | | ７世紀前葉 | 1427 |
| 88-17 | | 須恵器 | 坏身 | 7 | 竪穴住居15<br>1403ﾋﾟｯﾄ | ― | | ７世紀前葉 | 1403 |
| 88-18 | | 須恵器 | 坏身 | 6 | 27谷 | 天井部と口縁部をわける凹線。内面中央仕上げナデ。 | | ６世紀後半 | 27 |
| 88-19 | | 須恵器 | 甕 | 6 | 周溝墓１　20溝 | 体部穿孔部の磨耗著しい。 | | ６～７世紀 | 20 |
| 88-20 | | 須恵器 | 甕 | 6 | 27谷 | 確認調査時出土。第93集－第75図－32掲載再録 | | ６～７世紀 | |
| 104-1 | | 須恵器 | 坏蓋 | 5 | 掘立柱建物７<br>1459ﾋﾟｯﾄ | 天井部と口縁部屈曲。 | | ７世紀中葉<br>（７世紀第2四半期 | 1459 |
| 104-2 | | 須恵器 | 蓋 | 5 | 竪穴住居33<br>1504排水溝 | 坏身の可能性もあり。 | | ７世紀中葉 | 1504 |
| 104-3 | 76-1 | 須恵器 | 蓋 | 5 | 竪穴住居33<br>1504排水溝 | 天井部外面ヘラ記号。直径9.6㎝。 | | ７世紀中葉 | 1504 |
| 104-4 | | 須恵器 | 坏身 | 5 | 竪穴住居33覆土 | 立ち上がりは短い。直径10.6㎝。 | | ７世紀中葉 | 1503 |
| 104-5 | | 土師器 | 椀 | 5 | 竪穴住居33覆土 | 外面口縁ミガキ。外面下半は剥離のため調整不明。 | | ７世紀中葉 | 1503 |
| 104-6 | 76-2 | 土師器 | 甕 | 5 | 竪穴住居33<br>1755壁溝 | 外面タテ方向のハケメ。<br>内面頸部から口縁にかけてヨコ方向のハケメ。 | | ７世紀中葉 | 1755 |
| 104-7 | | 土師器 | 甕 | 5 | 竪穴住居33覆土 | 外面体部炭化物付着。 | | ７世紀中葉 | 1503 |
| 104-8 | | 土師器 | 把手付甕 | 5 | 竪穴住居34 | 外面剥離著しく調整不明。内面ナデ、粘土接合痕。 | | ７世紀 | 1536 |
| 104-9 | | 土師器 | 坏 | 5 | 1720井戸 | 外面口縁部分に粘土接合痕。 | | ８世紀前半 | 1720 |
| 104-10 | | 須恵器 | 坏 | 5 | 1720井戸 | ― | | ８世紀前半 | 1720 |
| 104-11 | | 須恵器 | 平瓶 | 5 | 1720井戸 | 外面体部下半・底部ケズリ。 | | ８世紀前半 | 1720 |
| 104-12 | 76-5 | 土師器 | 甕 | 5 | 1720井戸 | 内面ケズリ後ナデ。外面と口縁内面炭化物付着。 | | ８世紀前半 | 1720 |
| 104-13 | 76-6 | 土師器 | 鍋 | 5 | 1720井戸 | 外面体部上半縦方向の粗いハケ。 | | ８世紀前半 | 1720 |
| 104-14 | | 土師器 | 壺 | 5 | 2100井戸 | 内外面指オサエ。 | | ８世紀前半 | 2100 |
| 104-15 | | 須恵器 | 広口壺 | 5 | 2100井戸 | 肩は張り、肩部から頸部にかけてはおだやかに外反する。 | | ８世紀前半 | 2100 |
| 104-16 | | 須恵器 | 甕 | 5 | 2100井戸 | ― | | ８世紀前半 | 2100 |
| 104-17 | | 土師器 | 甕 | 5 | 2100井戸 | 口縁外面炭化物付着。 | | ８世紀前半 | 2100 |
| 104-18 | | 土師器 | 鍋 | 5 | 2100井戸 | 内外面剥離のため調整不明。外面一部炭化物付着。 | | ８世紀前半 | 2100 |
| 104-19 | | 木製品 | 桶 | 5 | 2100井戸 | 一木くり抜き。下半に約６㎝四方の穿孔があり、別材でふさぐ。 | | ８世紀前半 | 2100 |
| 105-1 | 76-7 | 須恵器 | 短頸壺 | 1 | 26溝 | 内面底部仕上げナデ。肩部に蓋の焼成時痕跡。 | | ８世紀 | 26 |
| 105-2 | | 須恵器 | 蓋 | 6 | 28溝 | ― | | ８世紀 | 28 |
| 105-3 | | 須恵器 | 坏 | 6 | 28溝 | ― | | ８世紀 | 28 |
| 105-4 | | 須恵器 | 壺 | 6 | 28溝 | 底部高台部分。高台、外方に張る。底部内面に粘土接合痕。 | | ８世紀 | 28 |
| 105-5 | | 土師器 | 坏 | 6 | 28溝 | 外面に粘土接合痕。 | | ８世紀 | 28 |
| 105-6 | | 土師器 | 皿 | 6 | 28溝 | 口縁端部内側に丸くおさめる。 | | ８世紀 | 28 |
| 105-7 | | 土師器 | 皿 | 6 | 28溝 | 口縁端部内側に丸くおさめる。 | | ８世紀 | 28 |
| 105-8 | 76-8 | 土師器 | 甕 | 6 | 28溝 | 底部焼成後穿孔。体部下半内面に同芯円紋の当て具痕。 | | ８世紀 | 28 |
| 105-9 | | 土師器 | 甕 | 6 | 28溝 | 内面剥離のため調整不明。 | | ７世紀 | 28 |
| 105-10 | | 土師器 | 甕 | 6 | 28溝 | 内外面剥離のため調整不明。 | | ８世紀 | 28 |
| 105-11 | | 土師器 | 鉢 | 6 | 28溝 | 内外面ナデ調整。 | | ８世紀 | 28 |
| 105-12 | | 土師器 | 把手付甕 | 6 | 24溝 | | | ７世紀 | 24 |
| 106-1 | | 須恵器 | 蓋 | 6 | 27谷 | ― | | ８世紀 | |
| 106-2 | | 須恵器 | 坏 | 6 | 27谷 | ― | | ８世紀 | |
| 106-3 | | 須恵器 | 坏身 | 6 | 27谷 | ― | | ７世紀 | 27 |
| 106-4 | | 須恵器 | 高坏 | 8 | 谷部第１層 | 脚部端部外方へつまみ出す。 | | ７・８世紀 | |
| 106-5 | | 須恵器 | 短頸壺 | 6 | 27谷 | 第93集－第75図－35掲載再録 | | ７・８世紀 | |
| 106-6 | | 須恵器 | 壺 | 6 | 27谷 | 第93集－第75図－34掲載再録 | | ７・８世紀 | |
| 106-7 | | 須恵器 | 長頸壺 | 6 | 27谷 | 30-8と同一個体の可能性。第93集－第76図－54掲載再録 | | ７世紀 | |
| 106-8 | | 須恵器 | 壺 | 6 | 27谷 | 30-7と同一個体の可能性。高台透かし穴。<br>第93集－第76図－55掲載再録 | | ７世紀 | |
| 106-9 | | 土師器 | 甕 | 6 | 27谷 | 外面、細かいハケメ。 | | ７世紀 | 27 |
| 106-10 | | 土師器 | 甑 | 6 | 27谷 | 第93集－第75図－27掲載再録 | | ７・８世紀 | |
| 106-11 | | 須恵器 | 壺 | 6 | 27谷 | 第93集－第75図－33掲載再録 | | ７・８世紀 | |
| 106-12 | | 須恵器 | 壺 | 6 | 27谷 | 外面頸部にヘラ記号。 | | ７・８世紀 | |
| 106-13 | | 須恵器 | 壺 | 6 | 27谷 | 外面頸部に波状紋。 | | ７世紀 | 27 |
| | 58-10 | 焼土塊 | | 7 | 竪穴住居10<br>697ピット | | | 弥生時代<br>中期中葉～後葉 | 1024 |
| | 76-3 | 骨 | | 6 | 35土壙 | 76-4の甕内出土。 | | ７・８世紀 | |
| | 76-4 | 土師器 | 甕 | 6 | 35土壙 | 体部破片。骨蔵器として使用。 | | ７・８世紀 | |

## 表14　主要遺構一覧（１）

| 新遺構番号 | 調査区 | 地 区 名 | 土　色 | 旧遺構番号 | 旧遺構種類 | 所属・付属旧遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 竪穴住居1 | 3 | 4M-10g | | 7 | 竪穴 | |
| 竪穴住居2 | 8 | 5N-6d | | 2667 | 竪穴 | |
| 竪穴住居3 | 8 | 5M-7d | | 3013 | 竪穴 | |
| 竪穴住居3 | 8 | 5M-6d | | 3130 | 竪穴 | |
| 竪穴住居4 | 8 | 5M-7e | | 2867 | 竪穴 | |
| 竪穴住居4 | 8 | 5M-7e | | 2868 | 竪穴 | |
| 竪穴住居4 | 8 | 5M-7e | | 2869 | 竪穴 | |
| 竪穴住居4 | 8 | 5M-7d | 10YR5/3ｼﾙﾄ　10YR6/6粘土ブロック多く混 | 3030 | | |
| 竪穴住居5 | 8 | 5M-7e | | 2870 | 竪穴 | |
| 竪穴住居5 | 8 | 5M-8e | | 3316 | 竪穴 | |
| 竪穴住居6 | 8 | 5M-8f | | 2665 | 竪穴 | |
| 竪穴住居7 | 8 | 5M-9g | | 3315 | 竪穴 | |
| 竪穴住居8 | 8 | 5M-10g | | 2664 | 竪穴 | |
| 竪穴住居9 | 7 | 6M-3i,3j 4i,4j | | 1025 | 竪穴 | 769溝 |
| 竪穴住居10 | 7 | 6M-3j,4j 3a,4a | | 1024 | 竪穴 | 774溝 |
| 竪穴住居10 | 7 | 6M-4j | | 1028 | 竪穴 | 775溝 |
| 竪穴住居11 | 7 | 6M-3j | | 1026 | 竪穴 | 771溝 |
| 竪穴住居12 | 7 | 6M.6N-1ｊ,2ｊ | | 1031 | 竪穴 | |
| 竪穴住居12 | 7 | 6M-1j | | 1392 | 竪穴 | 1368壁溝 |
| 竪穴住居13 | 7 | 6N-1a,1b 2a,2b | | 1030 | 竪穴 | |
| 竪穴住居14 | 7 | 6N-1a | | 1029 | 竪穴 | |
| 竪穴住居15 | 7 | 6N-1a | | 1033 | 竪穴 | |
| 竪穴住居16 | 7 | 6N-2a | | 1032 | 竪穴 | |
| 竪穴住居17 | 6 | 6N-1d | 10YR3/4ｼﾙﾄ | 95 | | |
| 竪穴住居18 | 6 | 6N-2d | | 44 | 竪穴 | |
| 竪穴住居19 | 4 | 6N-4c,4d | | 1022 | 竪穴 | 896溝 |
| 竪穴住居20 | 4 | 6M,6N-5b | | 1023 | 竪穴 | 777溝 |
| 竪穴住居21 | 4 | 6N-6a | | 1019 | 竪穴 | 389,390溝 |
| 竪穴住居22 | 4 | 6N-7a,7b | | 1017 | 竪穴 | 391～398溝 |
| 竪穴住居23 | 4 | 6N-7b,8b | | 1016 | 竪穴 | 363,916,917溝 |
| 竪穴住居24 | 4 | 6N-7b.7c,8b,8c | | 1015 | 竪穴 | |
| 竪穴住居24 | 4 | 6N-7b,7c | | 1018 | 竪穴 | 399,400溝 |
| 竪穴住居25 | 4 | 6N-7c | | 1020 | 竪穴 | 404溝　方形 |
| 竪穴住居26 | 4 | 6N-4d,5d | | 1021 | 竪穴 | 915溝 |
| 竪穴住居27 | 5 | 6N-5e | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 2144 | 壁溝 | |
| 竪穴住居28 | 5 | 6N-6f | | 2663 | 竪穴 | |
| 竪穴住居29 | 6 | 6N-5g | | 41 | 竪穴 | |
| 竪穴住居30 | 6 | 6N-5g | 10YR4/6粘質土（φ3～4mm　礫混） | 62 | 竪穴 | |
| 竪穴住居31 | 6 | 6N-5g | | 43 | 竪穴 | |
| 竪穴住居32 | 5 | 6N-9f,10f | | 1545 | 竪穴 | |
| 竪穴住居33 | 5 | 6N-9f,9g | | 1503 | 竪穴 | |
| 竪穴住居34 | 5 | 6N-9f | 10YR4/3ｼﾙﾄ | 1536 | 土坑 | |
| 竪穴住居35 | 5 | 6N-8g | | 1773 | 竪穴 | |
| 竪穴住居36 | 5 | 6N-7h | | 1758 | 竪穴 | |
| 竪穴住居37 | 5.6 | 6N-7h | 10YR5/2ｼﾙﾄ | 186 | 竪穴 | |
| 竪穴住居38 | 5 | 6N-10h | | 1114 | 竪穴住居 | 1074炉跡、<br>1004～1110ﾋﾟｯﾄ,<br>1111～1113壁溝 |
| 竪穴住居39 | 6 | 7O-2a | | 2666 | 竪穴 | 20溝,下層竪穴 |
| 周溝墓1 | 6 | 7N,7O-1j,1a | | 214 | 周溝墓 | |
| 掘立柱建物1 | 6 | 6N-1c,1d | | 2657 | 建物 | |
| 掘立柱建物2 | 5 | 6N-6ｆ | | 2133 | 掘立 | |
| 掘立柱建物3 | 5 | 6N-6ｆ | | 2133 | 掘立 | |
| 掘立柱建物4 | 4 | 6N-8c | | 2661 | 建物 | |
| 掘立柱建物5 | 5 | 6N-9e,9f | | 1683 | 掘立 | |
| 掘立柱建物6 | 5 | 6N-8g,9g | | 1682 | 掘立 | |
| 掘立柱建物7 | 5 | 6N-9g,9h | | 1681 | 掘立 | |
| 掘立柱建物8 | 5 | 6N-8h,9h | | 1771 | 掘立 | |
| 掘立柱建物8 | 5 | 6N-8h,9h | | 1772 | 掘立 | |
| 掘立柱建物9 | 5 | 6N-7g | | 2134 | 掘立 | |
| 掘立柱建物10 | | 6N-10j | | 212 | 掘立 | |
| 掘立柱建物11 | | 6O-10a | | 213 | 掘立 | |
| 柱列1 | 4 | 6N-6a,6b | | 2659 | 柵列 | |
| 柱列2 | 4 | 6N-6b,6c | | 2660 | 柵列 | |
| 柱列3 | 5 | 6N-9e | | 2662 | 柵 | |
| 柱列4 | 5 | 6N-9e | | 1685 | 掘立柱、柵 | |
| 土壙墓1 | 3 | 4M-7d | 2.5Y6/6ｼﾙﾄ | 3343 | | |
| 土壙墓2 | 3 | 4M-8d | | 15 | 土坑 | |
| 土壙墓3 | 8 | 5M-5c | 10YR3/2粘土　10YR6/6ブロック混(炭混) | 3201 | 土坑 | |
| 土壙墓4 | 8 | 5M-7e | | 2871 | 土坑 | |
| 土壙墓5 | 8 | 5M-7e | | 2980 | 土坑 | |
| 土壙墓6 | 8 | 5M-8g | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2852 | 土坑 | |
| 土壙墓7 | 8 | 5M-8g | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2785 | 土壙墓 | |
| 2溝(竪穴住居1) | 3 | 4M-10h | | 2 | 溝 | 7土坑 |
| 20周溝 | 6 | 7N,7O-1j,1a | | 20 | 溝 | |
| 21墓壙 | 6 | 7O-2a | | 21 | 土坑 | |
| 24溝 | 6 | 6N-9j | | 24 | 溝 | |
| 26溝 | 1 | 4L-10j | | 26 | 溝 | |
| 27谷 | 6 | 6N-8j | | 27 | 溝 | |

## 表15　主要遺構一覧（２）

| 新遺構番号 | 調査区 | 地 区 名 | 土　色 | 旧遺構番号 | 旧遺構種類 | 所属・付属旧遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 28溝 | 6 | 6N-7j | | 28 | 溝 | |
| 29溝 | 6 | 6N-7j | | 29 | 溝 | |
| 30溝 | 6 | 6N-8i,8j | | 30 | 溝 | |
| 32土坑 | 6 | 6N-5i | | 32 | 土坑 | |
| 41壁溝(竪穴住居29) | 6 | 6N-5g | | 41 | 竪穴 | |
| 42土坑 | 6 | 6N-4f | | 42 | 土坑 | |
| 45ピット(掘立柱建物11) | 6 | 7O-1a | 10YR5/3ｼﾙﾄ　柱痕10YR4/1ｼﾙﾄ | 45 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 46ピット(掘立柱建物11) | 6 | 7O-1a | 2.5Y3/１ｼﾙﾄ　柱痕10YR3/2ｼﾙﾄ | 46 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 47ピット(掘立柱建物11) | 6 | 6O-10a | 2.5Y4/１ｼﾙﾄ　柱痕10YR4/2粘質ｼﾙﾄ | 47 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 48ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3d | 2.5Y4/１ｼﾙﾄ | 48 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 51ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3d | 2.5Y4/１ｼﾙﾄ | 51 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 52ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3d | 2.5Y4/１ｼﾙﾄ | 52 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 53溝(竪穴住居18) | 6 | 6N-3d | 2.5Y4/3ｼﾙﾄ | 53 | 溝 | |
| 54ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3d | 2.5Y4/１ｼﾙﾄ | 54 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 55土坑 | 6 | 6N-5h | | 55 | 土坑 | |
| 56土坑 | 6 | 6N-5i | | 56 | 土坑 | |
| 64ピット(竪穴住居30) | 6 | 6N-5g | | 64 | | |
| 66溝(竪穴住居30) | 6 | 6N-5g | 10YR5/4粘質土（炭混） | 66 | 溝 | |
| 67溝(竪穴住居29) | 6 | 6N-5g | | 67 | | |
| 68排水溝(竪穴住居30) | 6 | 6N-5g | | 68 | | |
| 70壁溝(竪穴住居29) | 6 | 6N-5g | | 70 | 竪穴 | |
| 72ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3e | 2.5Y3/1ｼﾙﾄ | 72 | | |
| 86ピット(掘立柱建物1) | 6 | 6N-1c | 10YR3/3ｼﾙﾄ　砂混10YR2/2ｼﾙﾄ混 | 86 | | |
| 87ピット(掘立柱建物1) | 6 | 6N-1c | 10YR2/2ｼﾙﾄ　砂混 | 87 | | |
| 88ピット(掘立柱建物1) | 6 | 6N-1c | 10YR4/3ｼﾙﾄ　砂混 | 88 | | |
| 89ピット(掘立柱建物1) | 6 | 6N-1c | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 89 | | |
| 90ピット(掘立柱建物1) | 6 | 6N-1d | 10YR3/2ｼﾙﾄ　砂混，10YR2/2ｼﾙﾄ　炭少量混 | 90 | | |
| 91ピット(掘立柱建物1) | 6 | 6N-1d | 10YR2/2ｼﾙﾄ（炭少量混） | 91 | | |
| 96ピット(竪穴住居17) | 6 | 6N-1d | 10YR2/2ｼﾙﾄ | 96 | | |
| 97ピット(竪穴住居17) | 6 | 6N-1d | 10YR2/1ｼﾙﾄ | 97 | | |
| 103土坑 | 6 | 6N-2d | 10YR4/3ｼﾙﾄ(炭少量混) | 103 | | |
| 105土坑 | 6 | 6N-2d | 2.5Y4/3粘質土　φ2～3mm礫混 | 105 | | |
| 107周溝 | 6 | 7O-1a | | 107 | 溝 | |
| 108周溝 | 6 | 7O-1a | | 108 | 溝 | |
| 133ピット(掘立柱建物11) | 6 | 6O-10a | 10YR5/4粘質ｼﾙﾄ | 133 | | |
| 136ピット(掘立柱建物11) | 6 | 6O-10a | 2.5Y5/3ｼﾙﾄ | 136 | | |
| 137ピット(掘立柱建物11) | 6 | 6O-10a | 10YR5/3粗砂 | 137 | | |
| 140ピット(掘立柱建物11) | 6 | 6O-10a | 2.5Y5/3ｼﾙﾄ | 140 | | |
| 144ピット(掘立柱建物11) | 6 | 6O-10a | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 144 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 145ピット(掘立柱建物11) | 6 | 6O-10a | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 145 | | |
| 150溝 | 6 | 6N-10j | 10YR6/3粘質ｼﾙﾄ | 150 | | |
| 152ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | | 152 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 154ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | 10YR5/4粘質ｼﾙﾄ　炭化物混 | 154 | ﾋﾟｯﾄ | ﾋﾟｯﾄ(堀立) |
| 182溝 | 6 | 6N-8i | | 182 | | |
| 185溝(竪穴住居37) | 6 | 6N-8i | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 185 | | |
| 188ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | 10YR5/4粘質ｼﾙﾄ　10YR8/4粘土ブロック混 | 188 | | |
| 189ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | 10YR5/4粘質ｼﾙﾄ | 189 | | |
| 190ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | 10YR5/4粘質ｼﾙﾄ | 190 | | |
| 191ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | 10YR5/4粘質ｼﾙﾄ | 191 | | |
| 192ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | 10YR4/4粘質ｼﾙﾄ | 192 | | |
| 193ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | 10YR5/4粘質ｼﾙﾄ　10YR7/6粘土ブロック混 | 193 | | |
| 195ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | 10YR6/4粘質ｼﾙﾄ | 195 | | |
| 197土坑 | 6 | 6N-8h | 10YR4/2ｼﾙﾄ　炭化物混 | 197 | 土坑 | |
| 202溝 | 6 | 6N-8i | | 202 | 溝 | |
| 204ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | | 204 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 205ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | | 205 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 206ピット(掘立柱建物10) | 6 | 6N-10j | | 206 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 207炉(竪穴住居29) | 6 | 6N-5g | | 207 | | 41竪穴 |
| 208ピット(竪穴住居29) | 6 | 6N-5f | 10YR2/2ｼﾙﾄ（粘質） | 208 | | 41竪穴 |
| 215土坑 | 6 | 6N-1d | 10YR3/2ｼﾙﾄ | 215 | 土坑 | |
| 223土坑 | 4 | 6N-6a | | 223 | | |
| 224ピット(竪穴住居21) | 4 | 6N-6a | | 224 | | |
| 226ピット(竪穴住居21) | 4 | 6N-6a | | 226 | | |
| 227ピット(竪穴住居21) | 4 | 6N-6a | | 227 | | |
| 228炉(竪穴住居21) | 4 | 6N-6a | | 228 | 炉跡 | |
| 235ピット(柱列1) | 4 | 6N-6a | | 235 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 236ピット(柱列1) | 4 | 6N-6a | | 236 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 237ピット(柱列1) | 4 | 6N-6a | | 237 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 239ピット(柱列1) | 4 | 6N-6a | | 239 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 240ピット(柱列1) | 4 | 6N-6b | | 240 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 242ピット(柱列1) | 4 | 6N-6b | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 242 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 255ピット(柱列2) | 4 | 6N-6b | 10YR5/3ｼﾙﾄ（炭混）<br>柱痕10YR5/4ｼﾙﾄ　下層は10YR5/2ｼﾙﾄ | 255 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 260ピット(竪穴住居24) | 4 | 6N-6b | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 260 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 262ピット(柱列2) | 4 | 6N-6b | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 262 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 268ピット(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | 10YR5/4ｼﾙﾄ | 268 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 333ピット(竪穴住居24) | 4 | 6N-7b | 10YR5/2ｼﾙﾄ（炭混） | 333 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 363壁溝(竪穴住居23) | 4 | 6N-7b.,8b | 10YR6/4ｼﾙﾄ | 363 | 溝 | |
| 388土坑 | 4 | 6N-7b | 10YR4/4　ｼﾙﾄ | 388 | 土坑 | |

## 表16　主要遺構一覧（３）

| 新遺構番号 | 調査区 | 地 区 名 | 土　色 | 旧遺構番号 | 旧遺構種類 | 所属・付属旧遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 389溝(竪穴住居21) | 4 | 6N-6a | | 389 | 溝 | |
| 390溝(竪穴住居21) | 4 | 6N-6a | | 390 | 溝 | |
| 391壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 391 | 溝 | |
| 393壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 393 | 溝 | |
| 394壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 394 | 溝 | |
| 395壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 395 | 溝 | |
| 397壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 397 | 溝 | |
| 399壁溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7b | | 399 | 溝 | |
| 400壁溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7b.7c | | 400 | 溝 | |
| 401壁溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7b,7c | | 401 | 溝 | |
| 402壁溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-8c | | 402 | 溝 | |
| 403壁溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c,8c | | 403 | 溝 | |
| 404溝(竪穴住居25) | 4 | 6N-7c | | 404 | 溝 | |
| 406溝 | 4 | 6N-6b | | 406 | 溝 | |
| 411ピット | 4 | 6N-6c | 10YR5/4ｼﾙﾄ | 411 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 415ピット(柱列2) | 4 | 6N-6c | 10YR5/4ｼﾙﾄ（炭混） | 415 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 428土坑 | 4 | 6N-6c | 10YR5/4ｼﾙﾄ（炭混） | 428 | 土坑 | |
| 429土坑 | 4 | 6N-6c | 10YR5/3　粘質ｼﾙﾄ | 429 | 土坑 | |
| 441ピット(柱列2) | 4 | 6N-6c | 炭混 | 441 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 443ピット(柱列2) | 4 | 6N-6c | 10YR4/4　ｼﾙﾄ（細砂多く混） | 443 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 444土坑 | 4 | 6N-6b | 10YR5/4粘質ｼﾙﾄ | 444 | 土坑 | |
| 455ピット(竪穴住居25) | 4 | 6N-7c | 10YR4/4　粘質ｼﾙﾄ | 455 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 456ピット(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 456 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 489排水溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 489 | | |
| 498土坑(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 498 | 炉跡 | |
| 500排水溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 500 | | |
| 501排水溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 501 | | |
| 502排水溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 502 | 溝 | |
| 503排水溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 503 | | |
| 504排水溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 504 | 溝 | |
| 523ピット(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | 10YR5/3　ｼﾙﾄ | 523 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 547ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（細砂多混） | 547 | | |
| 548ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（細砂多混）（炭混） | 548 | | |
| 549ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（粗砂混） | 549 | | |
| 550ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/3　ｼﾙﾄ（粗砂混） | 550 | | |
| 557ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR4/4　粘質ｼﾙﾄ | 557 | | |
| 559ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/3　ｼﾙﾄ | 559 | | |
| 561ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/3　粘質ｼﾙﾄ | 561 | | |
| 562ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（炭混） | 562 | | |
| 563ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/3　粘質ｼﾙﾄ | 563 | | |
| 564ピット(掘立柱建物4) | 4 | 6N-8c | 10YR5/4ｼﾙﾄ（細砂混） | 564 | | |
| 565壁溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c.8c | | 565 | 竪穴 | |
| 573土坑 | 7 | 6M-3i | | 573 | 土坑 | |
| 579ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i | 10YR4/3　細砂（φ0.5cm程度の礫混）<br>柱痕；炭多く混 | 579 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 582ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i | 10YR4/3　細砂（炭多く混） | 582 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 583ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i | 10YR5/3　ｼﾙﾄ　細砂多く混 | 583 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 610ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3j | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（10YR5/4粘土多く混） | 610 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 618ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3j | 10YR5/2　ｼﾙﾄ　細砂多く混（炭多く混）<br>柱痕；10YR5/2　ｼﾙﾄ（炭少量混） | 618 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 643ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3j | 10YR5/2　ｼﾙﾄ　細砂多く混（炭多く混） | 643 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 697ピット(竪穴住居10) | 7 | 6M-4j | 10YR5/2　ｼﾙﾄ　細砂多く混（炭多く混） | 697 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 720排水溝(竪穴住居10) | 7 | 10N-4a | | 720 | 溝 | |
| 721排水溝(竪穴住居10) | 7 | 6N-4a | | 721 | 溝 | |
| 723排水溝(竪穴住居10) | 7 | 6N-4a | | 723 | 炉跡 | |
| 744ピット(竪穴住居10) | 7 | 6N-4a | 10YR4/3　ｼﾙﾄ（炭多く混） | 744 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 767土坑 | 4 | 6N-5b | 細砂多く含む（炭多く混） | 767 | 土坑 | |
| 769壁溝(竪穴住居9) | 7 | 6N-3i,3j,4i,4j | | 769 | 溝 | |
| 770排水溝(竪穴住居9) | 7 | 6N-3j | | 770 | 溝 | |
| 772排水溝(竪穴住居10) | 7 | 6N,6M-3a,4j | | 772 | 溝 | |
| 773排水溝(竪穴住居10) | 7 | 6N-3a | | 773 | 溝 | |
| 774壁溝(竪穴住居10) | 7 | 6M,6N-3j,4j,3a,4a | | 774 | 溝 | |
| 775溝(竪穴住居10) | 7 | 6M-4j | | 775 | 溝 | |
| 776溝(竪穴住居10) | 7 | 6M-5j | | 776 | 溝 | |
| 777溝(竪穴住居20) | 4 | 6N -5b | | 777 | 溝 | |
| 789溝 | 4 | 6N-3c.4c.5c | | 789 | 溝 | |
| 875ピット | 4 | 6N-5d | 10YR4/3　ｼﾙﾄ | 875 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 896壁溝(竪穴住居19) | 4 | 6N-4c,4d | | 896 | 溝 | |
| 906ピット(竪穴住居26) | 4 | 6N-4d | | 906 | 炉跡 | |
| 913土坑(竪穴住居26) | 4 | 6N-4d | | 913 | 炉跡 | |
| 916壁溝(竪穴住居23) | 4 | 6N-7b,8b | 10YR5/3　ｼﾙﾄ（炭少量混） | 916 | 溝 | |
| 917壁溝(竪穴住居23) | 4 | 6N-7b,8b | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（炭少量混） | 917 | 溝 | |
| 977排水溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | 10YR5/3　ｼﾙﾄ | 977 | 溝 | |
| 986ピット(竪穴住居25) | 4 | 6N-7c | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（細砂多く混） | 986 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 987ピット(竪穴住居25) | 4 | 6N-7c | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（細砂多く混） | 987 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 988土坑(竪穴住居9) | 7 | 6M-3j | 10YR5/3　ｼﾙﾄ（細砂多く混） | 988 | 炉跡 | |
| 989排水溝(竪穴住居9) | 7 | 6M-3j | 10YR5/3　ｼﾙﾄ（細砂多く混） | 989 | 炉跡 | |
| 993ピット(竪穴住居20) | 4 | 6N-5b | 10YR5/2　ｼﾙﾄ | 993 | ﾋﾟｯﾄ | 1023竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 994ピット(竪穴住居20) | 4 | 6N-5b | 10YR5/2　ｼﾙﾄ | 994 | ﾋﾟｯﾄ | 1023竪穴内ﾋﾟｯﾄ |

## 表17　主要遺構一覧（４）

| 新遺構番号 | 調査区 | 地 区 名 | 土　色 | 旧遺構番号 | 旧遺構種類 | 所属・付属旧遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1012壁溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 1012 | 竪穴 | |
| 1045ピット(竪穴住居22) | 4 | 6N-8b | 10YR5/3ｼﾙﾄ（炭少量混） | 1045 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1049ピット(竪穴住居25) | 4 | 6N-7c | 10YR5/3ｼﾙﾄ　粗砂少量混 | 1049 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1052土坑(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 1052 | 炉跡 | 1029竪穴 |
| 1053土坑(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 1053 | 炉跡 | 1029竪穴 |
| 1054炉跡(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 1054 | 炉跡 | 1029竪穴 |
| 1055落込 | 7 | 6N-2b | | 1055 | 溝 | 溝 |
| 1074土坑・排水溝<br>(竪穴住居38) | 5 | 6N-10h | 10YR5/3細粒砂<br>（10YR4/3細粒砂を粒状に混、焼土混） | 1074 | 炉跡 | |
| 1089土坑 | 5 | 7N-1h | | 1089 | 溝 | |
| 1102ピット(竪穴住居38) | 5 | 7N-1h | 2.5Y5/2細粒砂（地山ブロック混） | 1102 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1107ピット(竪穴住居38) | 5 | 6N-10h | 10YR5/3細粒砂　柱痕；10YR4/3細粒砂（炭混） | 1107 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1111壁溝(竪穴住居38) | 5 | 6N-10h | 10YR4/4細粒砂（φ1.0cmの礫,炭混） | 1111 | 壁溝 | |
| 1112壁溝(竪穴住居38) | 5 | 6N-10h | 10YR4/4細粒砂～極細粒砂（φ1.0cm礫,炭混） | 1112 | 壁溝 | |
| 1113壁溝(竪穴住居38) | 5 | 6N-10h | 10YR5/4細粒砂（φ1.0cmの礫,炭混） | 1113 | 壁溝 | |
| 1116ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3ｉ | | 1116 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1129壁溝(竪穴住居24) | 4 | 6N-7c | | 1129 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1147壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6N,6M-2a,3a 2j,3j | | 1147 | 壁溝 | |
| 1148壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6M-3j | | 1148 | 壁溝 | |
| 1149壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6N,6M-2a,3a 2j,3j | | 1149 | 壁溝 | |
| 1160排水溝(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | | 1160 | 炉跡（溝） | |
| 1200ピット | 7 | 6N-2a | 10YR5/2　細砂 | 1200 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1227ピット(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | 10YR5/2　ｼﾙﾄ　細砂多く混 | 1227 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1261ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR4/3　ｼﾙﾄ　細砂多く混 | 1261 | | |
| 1263ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR4/3　ｼﾙﾄ（炭多く混） | 1263 | | |
| 1271土坑(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（炭多く混）<br>（遺構輪郭に沿って炭が入る） | 1271 | 炉跡 | |
| 1272土坑(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 1272 | 炉跡 | |
| 1274排水溝(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 1274 | 炉跡 | |
| 1276ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR4/2ｼﾙﾄ（炭,焼土多く混） | 1276 | | |
| 1279ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR5/3　細砂（φ0.5～1.0cmの礫少量混） | 1279 | | |
| 1281ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR4/3　ｼﾙﾄ（炭多く混） | 1281 | | |
| 1283ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR4/3　ｼﾙﾄ（炭多く混） | 1283 | | |
| 1285ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR4/3　細砂 | 1285 | | |
| 1287土坑(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR4/3　細砂（炭多く混） | 1287 | | |
| 1290ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | 10YR5/3　細砂 | 1290 | | |
| 1295ピット(竪穴住居15) | 7 | 6M-1a | 10YR4/3　ｼﾙﾄ | 1295 | ﾋﾟｯﾄ | 1033竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 1296ピット(竪穴住居15) | 7 | 6M-1a | | 1296 | ﾋﾟｯﾄ | 1033竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 1299ピット(竪穴住居15) | 7 | 6M-1a | 10YR4/3　ｼﾙﾄ | 1299 | ﾋﾟｯﾄ | 1033竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 1301ピット(竪穴住居15) | 7 | 6M-1a | 10YR4/3　ｼﾙﾄ（10YR5/6粘質土,炭少量混） | 1301 | ﾋﾟｯﾄ | 1033竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 1303排水溝(竪穴住居12) | 7 | 6M-1a | 10YR5/4ｼﾙﾄ | 1303 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1321ピット | 7 | 6N-1a | 10YR5/2　ｼﾙﾄ | 1321 | | |
| 1336ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-1a | | 1336 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1338ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-2a | 10YR4/3　ｼﾙﾄ（炭多く混） | 1338 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1339ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-2b | 10YR5/3　細砂 | 1339 | | |
| 1363壁溝(竪穴住居12) | 7 | 6N,6M-2a,2j | | 1363 | 溝 | 1031竪穴壁溝 |
| 1364溝(竪穴住居16) | 7 | 6N,6M-2a,2j | | 1364 | 溝 | 1032竪穴壁溝 |
| 1365壁溝(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | | 1365 | 溝 | |
| 1366壁溝(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | | 1366 | 溝 | 排水溝 |
| 1367壁溝(竪穴住居12) | 7 | 6N,6M-2a,2j | | 1367 | 溝 | |
| 1368壁溝(竪穴住居12) | 7 | 6N-1j | | 1368 | 溝 | 1392竪穴壁溝 |
| 1369壁溝(竪穴住居15) | 7 | 6N-1a | | 1369 | 溝 | 1033竪穴壁溝 |
| 1372溝(竪穴住居15) | 7 | 6N-1a | | 1372 | 溝 | 排水溝 |
| 1373排水溝(竪穴住居12) | 7 | 6N-1a | | 1373 | 溝 | 排水溝 |
| 1374壁溝(竪穴住居13) | 7 | 6N-1a,2a | | 1374 | 溝 | 1030竪穴内壁溝（外側） |
| 1375壁溝(竪穴住居13) | 7 | 6N-1a,2a | | 1375 | 溝 | 1030竪穴内壁溝（内側） |
| 1377ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | 10YR5/4ｼﾙﾄ　細砂多く混 | 1377 | 溝 | |
| 1380ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | 10YR5/2　細砂（炭少量混） | 1380 | 溝 | |
| 1383ピット | 7 | 6M-2j | 10YR5/2　細砂 | 1383 | | |
| 1384ピット | 7 | 6M-2j | 10YR5/2　細砂 | 1384 | | |
| 1387壁溝(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 1387 | 溝 | 1029竪穴内壁溝 |
| 1388溝(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 1388 | 溝 | 1029竪穴内壁溝 |
| 1389ピット(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | 10YR5/2　細砂（炭少量混） | 1389 | | |
| 1390土坑(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 1390 | 炉跡 | |
| 1396ピット(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | 10YR5/4細砂 | 1396 | | |
| 1400ピット(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | 10YR5/2　細砂（炭少量混） | 1400 | | |
| 1401ピット(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | 10YR5/2　ｼﾙﾄ | 1401 | | |
| 1403土坑 | 7 | 6N-1a | 10YR3/2ｼﾙﾄ（炭混） | 1403 | 土坑 | |
| 1416ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i | | 1416 | | |
| 1421壁溝(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i,3j | | 1421 | 溝 | |
| 1422壁溝(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i,3j | | 1422 | 溝 | |
| 1423壁溝(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i | | 1423 | 溝 | |
| 1424壁溝(竪穴住居10) | | 6M-4j | | 1424 | | |
| 1425壁溝(竪穴住居10) | | 6M-4j | | 1425 | | |
| 1427土坑 | 7 | 6N-1a | 10YR5/3　ｼﾙﾄ（炭少量混） | 1427 | ﾋﾟｯﾄ | 1033竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 1428土坑(竪穴住居13) | 7 | 6N-1a | | 1428 | 土坑（炉跡） | 1030竪穴内 |
| 1430土坑(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a,3a | | 1430 | 炉跡 | 1026竪穴内 |
| 1432ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-3a | | 1432 | | |
| 1433ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-3a | | 1433 | | |

## 表18　主要遺構一覧（５）

| 新遺構番号 | 調査区 | 地 区 名 | 土　色 | 旧遺構番号 | 旧遺構種類 | 所属・付属旧遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1437ピット(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | | 1437 | | |
| 1453ピット(掘立柱建物7) | 5 | 6N-9h | | 1453 | 掘立 | |
| 1454ピット(掘立柱建物7) | 5 | 6N-9h | | 1454 | 掘立 | |
| 1455ピット(掘立柱建物7) | 5 | 6N-9h | | 1455 | 掘立 | |
| 1456ピット(掘立柱建物7) | 5 | 6N-9g | | 1456 | 掘立 | |
| 1457ピット(掘立柱建物7) | 5 | 6N-9g | | 1457 | 掘立 | |
| 1458ピット(掘立柱建物7) | 5 | 6N-9g | | 1458 | 掘立 | |
| 1459ピット(掘立柱建物7) | 5 | 6N-9g | | 1459 | 掘立 | |
| 1460ピット(掘立柱建物7) | 5 | 6N-9g | | 1460 | 掘立 | |
| 1474ピット | 5 | 6N-9g | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 1474 | | |
| 1483ピット | 5 | 6N-9g | 10YR4/3ｼﾙﾄ | 1483 | | |
| 1494ピット | 5 | 6N-9g | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 1494 | | |
| 1496ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9g | 10YR4/3ｼﾙﾄ | 1496 | | |
| 1504排水溝(竪穴住居33) | 5 | 6N-9g | 10YR4/3ｼﾙﾄ | 1504 | 排水溝 | |
| 1511ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9g | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 1511 | | |
| 1512土坑 | 5 | 6N-9g | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 1512 | 土坑 | |
| 1516土坑 | 5 | 6N-9g | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 1516 | 土坑 | |
| 1548溝(竪穴住居32) | 5 | 6N-9f,10f | 10YR5/3ｼﾙﾄ（炭化物混） | 1548 | 側溝 | |
| 1550ピット(竪穴住居32) | 5 | 6N-10ｆ | 10YR5/3ｼﾙﾄ（炭化物混） | 1550 | | |
| 1551ピット(竪穴住居32) | 5 | 6N-9f | 10YR5/3ｼﾙﾄ（炭化物混） | 1551 | | |
| 1552ピット(竪穴住居32) | 5 | 6N-10f | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 1552 | | |
| 1558ピット(竪穴住居32) | 5 | 6N-9f | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 1558 | | |
| 1564溝(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9f | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 1564 | 溝 | |
| 1569土坑 | 5 | 6N-7e | | 1569 | 土坑 | |
| 1603ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9e | | 1603 | | |
| 1604ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9e | | 1604 | | |
| 1605ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9e | | 1605 | | |
| 1606ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9f | | 1606 | | |
| 1607ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9f | | 1607 | | |
| 1608ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9f | | 1608 | | |
| 1609ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9f | | 1609 | | |
| 1610ピット<br>(掘立柱建物5・柱列3) | 5 | 6N-9f | | 1610 | | |
| 1611ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9e | | 1611 | | |
| 1612ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9e | | 1612 | | |
| 1613ピット(掘立柱建物5) | 5 | 6N-9e | | 1613 | | |
| 1617ピット(柱列4) | 5 | 6N-9f | 10YR4/2ｼﾙﾄ　礫混 | 1617 | | |
| 1618ピット(柱列4) | 5 | 6N-9e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 1618 | | |
| 1619ピット(柱列4) | 5 | 6N-9e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 1619 | | |
| 1620ピット(柱列4) | 5 | 6N-9e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 1620 | | |
| 1621ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9g | | 1621 | | |
| 1622ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9g | | 1622 | | |
| 1623ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9g | | 1623 | | |
| 1624ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9g | | 1624 | | |
| 1625ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-8g | | 1625 | | |
| 1626ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-8g | | 1626 | | |
| 1627ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-8g | | 1627 | | |
| 1628ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-8g | | 1628 | | |
| 1629ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-8g | | 1629 | | |
| 1630ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-8g | | 1630 | | |
| 1631ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9g | | 1631 | | |
| 1632ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-9g | | 1632 | | |
| 1636ピット(柱列3) | 5 | 6N-9e | | 1636 | | |
| 1637ピット(柱列3) | 5 | 6N-9e | | 1637 | | |
| 1643ピット(柱列3) | 5 | 6N-9e | | 1643 | | |
| 1667ピット(柱列3) | 5 | 6N-9e | 10YR3/1ｼﾙﾄ | 1667 | | |
| 1684土坑 | 5 | 6N-9f | | 1684 | 土坑 | |
| 1686ピット(竪穴住居33) | 5 | 6N-9f | | 1686 | | 1503竪穴 |
| 1687ピット(竪穴住居33) | 5 | 6N-9g | | 1687 | | 1503竪穴 |
| 1688ピット(竪穴住居33) | 5 | 6N-9f | | 1688 | | 1503竪穴 |
| 1689ピット(竪穴住居33) | 5 | 6N-9f | | 1689 | | 1503竪穴 |
| 1700ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-8g | | 1700 | | 1682建物、1511ﾋﾟｯﾄ |
| 1701ピット(掘立柱建物6) | 5 | 6N-8g | | 1701 | | 1682建物 |
| 1703ピット(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1703 | | |
| 1708土坑 | 5 | 6N-8g | | 1708 | 土坑 | |
| 1710排水溝(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1710 | 溝 | |
| 1714土坑 | 5 | 6N-8g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1714 | 土坑 | |
| 1715土坑 | 5 | 6N-8g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1715 | 土坑 | |
| 1716土坑 | 5 | 6N-8h | | 1716 | 土坑 | |
| 1720井戸 | 5 | 6N-8h | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1720 | 井戸 | |
| 1721土坑 | 5 | 6N-8h | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1721 | 土坑 | |
| 1724ピット(掘立柱建物8) | 5 | 6N-9h | | 1724 | 建物ｏｒ柵 | |
| 1725ピット(掘立柱建物8) | 5 | 6N-8h | | 1725 | 建物ｏｒ柵 | |
| 1726ピット(掘立柱建物8) | 5 | 6N-8h | | 1726 | 建物ｏｒ柵 | |
| 1727ピット(掘立柱建物8) | 5 | 6N-9h | | 1727 | 柵 | |
| 1728ピット(掘立柱建物8) | 5 | 6N-8h | | 1728 | 柵 | |
| 1729ピット(掘立柱建物8) | 5 | 6N-8h | | 1729 | 柵 | |
| 1740ピット(掘立柱建物8) | 5 | 6N-9h | 10YR6/2ｼﾙﾄ | 1740 | | |
| 1749ピット | 5 | 6N-8g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1749 | | |

## 表19　主要遺構一覧（６）

| 新遺構番号 | 調査区 | 地 区 名 | 土　色 | 旧遺構番号 | 旧遺構種類 | 所属・付属旧遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1751溝 | 5 | 6N-8g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1751 | 溝 | |
| 1755壁溝(竪穴住居33) | 5 | 6N-9f.9g | | 1755 | 壁溝 | 1503竪穴,壁溝 |
| 1756土坑 | 5 | 6N-8f | | 1756 | 土坑 | |
| 1759溝(竪穴住居37) | 5 | 6N-7h | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1759 | 溝 | |
| 1760溝(竪穴住居36) | 5 | 6N-7g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1760 | 溝 | |
| 1766ピット(掘立柱建物9) | 5 | 6N-7h | 10YR6/2ｼﾙﾄ　礫混 | 1766 | | |
| 1770ピット(掘立柱建物9) | 5 | 6N-7g | 10YR5/2ｼﾙﾄ | 1770 | | |
| 1774ピット(掘立柱建物9) | 5 | 6N-7g | 10YR5/3ｼﾙﾄ　礫混 | 1774 | | |
| 1789土坑 | 5 | 6N-7g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1789 | | |
| 1797溝(竪穴住居36) | 5 | 6N-7g | 10YR6/2ｼﾙﾄ | 1797 | 溝 | |
| 1800土坑 | 5 | 6N-7g | 10YR5/1ｼﾙﾄ | 1800 | 土坑 | |
| 1806ピット | 7 | 6N-2a | | 1806 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1810ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | | 1810 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1812ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-2j | | 1812 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1818ピット(竪穴住居10) | 7 | 6N-4a | | 1818 | ﾋﾟｯﾄ | 723土坑内ﾋﾟｯﾄ |
| 1855ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i | 10YR5/2　ｼﾙﾄ（炭少量混） | 1855 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 1882土坑 | 5 | 6N-7g | 10YR4/1ｼﾙﾄ | 1882 | 土坑 | |
| 1885ピット(掘立柱建物9) | 5 | 6N-7g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1885 | | |
| 1886土坑 | 5 | 6N-7g | 10YR5/1ｼﾙﾄ | 1886 | | |
| 1889ピット(掘立柱建物9) | 5 | 6N-6g | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1889 | | |
| 1922溝 | 5 | 6N-7ｆ | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1922 | 溝 | |
| 1925土坑 | 5 | 6N-7ｆ | 10YR6/1ｼﾙﾄ（炭化物混） | 1925 | 土坑 | |
| 1927土坑 | 5 | 6N-7ｆ | 10YR5/1ｼﾙﾄ | 1927 | 土坑 | |
| 1956土坑 | 5 | 6N-6g | 10YR4/1ｼﾙﾄ | 1956 | 土坑 | |
| 1957土坑 | 5 | 6N-6g | 10YR4/1ｼﾙﾄ | 1957 | 土坑 | |
| 1991土坑 | 5 | 6N-7ｆ | 10YR4/1ｼﾙﾄ（炭化物混） | 1991 | 土坑 | |
| 1992土坑 | 5 | 6N-7ｆ | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 1992 | 土坑 | |
| 2062排水溝(竪穴住居28) | 5 | 6N-5ｆ,6ｆ | 10ＹR6/1ｼﾙﾄ（炭化物混） | 2062 | 排水溝 | |
| 2063土坑(竪穴住居28) | 5 | 6N-6ｆ | 10ＹR6/1ｼﾙﾄ（炭化物混） | 2063 | 炉 | |
| 2065ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6ｆ | 10ＹR6/1ｼﾙﾄ | 2065 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2066ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6ｆ | 10ＹR6/1ｼﾙﾄ | 2066 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2090ピット | 5 | 6N-6e | 10YR5/1ｼﾙﾄ | 2090 | | |
| 2100井戸 | 5 | 6N-6ｆ | 10YR5/1ｼﾙﾄ | 2100 | 井戸 | |
| 2101ピット(掘立柱建物9) | 5 | 6N-7g | 10YR5/1ｼﾙﾄ | 2101 | | |
| 2103ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6ｆ | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 2103 | | |
| 2105ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6ｆ | | 2105 | | 掘立2133 |
| 2110ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-5ｆ | | 2110 | | 掘立2133 |
| 2111ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-5ｆ | | 2111 | | 掘立2133 |
| 2114ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6ｆ | 10YR6/4ｼﾙﾄ | 2114 | | |
| 2115ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6ｆ | 10YR6/1ｼﾙﾄ　10YR6/6ｼﾙﾄブロック混 | 2115 | | |
| 2116ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6ｆ | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 2116 | | |
| 2117ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6e | | 2117 | | 掘立2133 |
| 2119ピット(掘立柱建物3) | 5 | 6N-6ｆ | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 2119 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2131土坑 | 5 | 6N-7h | | 2131 | | |
| 2144壁溝(竪穴住居27) | 5 | 6N-5e | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 2144 | 壁溝 | |
| 2146排水溝(竪穴住居27) | 5 | 6N-5ｆ | 10YR6/1ｼﾙﾄ | 2146 | 溝 | |
| 2172壁溝(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | | 2172 | 溝 | 1773竪穴壁溝 |
| 2176壁溝(竪穴住居37) | 5 | 6N-7h | | 2176 | 溝 | 186竪穴壁溝 |
| 2177ピット(竪穴住居37) | 5 | 6N-7h | | 2177 | | 186竪穴ﾋﾟｯﾄ |
| 2178ピット(竪穴住居37) | 5 | 6N-7h | | 2178 | | 186竪穴ﾋﾟｯﾄ |
| 2179ピット(竪穴住居37) | 5 | 6N-7h | | 2179 | | 186竪穴ﾋﾟｯﾄ |
| 2181壁溝(竪穴住居36) | 5 | 6N-7h | | 2181 | 溝 | 1758竪穴壁溝 |
| 2189溝(竪穴住居36) | 5 | 6N-7h | | 2189 | 溝 | |
| 2193土坑(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | | 2193 | | 1773竪穴 |
| 2194溝(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | | 2194 | | 1773竪穴 |
| 2195溝(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | | 2195 | | |
| 2196ピット(竪穴住居37) | 5 | 6N-7h | | 2196 | | 186竪穴 |
| 2197ピット(柱列3) | 5 | 6N-9e | | 2197 | | |
| 2198ピット(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | | 2198 | | 1773竪穴 |
| 2200ピット(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | | 2200 | | 1773竪穴 |
| 2204ピット(竪穴住居35) | 5 | 6N-8g | | 2204 | | 1773竪穴 |
| 2221溝(竪穴住居9) | 7 | 6M-3j | 10YR4/3　ｼﾙﾄ（炭少量混） | 2221 | 溝 | |
| 2265ピット(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i | 10YR4/3ｼﾙﾄ | 2265 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2272ピット(竪穴住居14) | 7 | 6Ｎ-2b | 10YR5/2　ｼﾙﾄ(地山ブロック多く混) | 2272 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2276壁溝(竪穴住居13) | 7 | 6Ｎ-1a,1b,2a,2b | | 2276 | 溝 | 1030竪穴内 |
| 2310ピット(竪穴住居10) | 7 | 6M-3j | 10YR4/2ｼﾙﾄ（炭少量混） | 2310 | | |
| 2320溝(竪穴住居10) | 7 | 6M、6N-4j,4a | 10YR5/3　ｼﾙﾄ　極粗砂多く含む（炭少量混） | 2320 | 溝 | |
| 2330土坑 | 7 | 6N-1a | 10YR3/1ｼﾙﾄ（炭混）　ブロック地山；10YR5/6 | 2330 | 土坑 | |
| 2364土坑(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | | 2364 | 土坑 | 1031竪穴内 |
| 2380溝 | 7 | 6M-3j | | 2380 | 溝 | 1026竪穴内の壁溝 |
| 2380壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6M-3j | | 2380 | 溝 | 1026竪穴内の壁溝 |
| 2386土坑(竪穴住居11) | 7 | 6M-3j | | 2386 | 炉跡 | |
| 2394土坑(竪穴住居13) | 7 | 6N-2a | | 2394 | 炉跡 | 1030竪穴内 |
| 2395ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-1b | | 2395 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2400ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-2b | | 2400 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2401壁溝(竪穴住居13) | 7 | 6N-2a | | 2401 | 溝 | 1030竪穴内の1375壁溝に伴 |
| 2403土坑(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | | 2403 | 炉 | 1026竪穴内 |
| 2405壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6M-2j,3j | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2405 | 溝 | 1026竪穴内 |

## 表20　主要遺構一覧（７）

| 新遺構番号 | 調査区 | 地 区 名 | 土　色 | 旧遺構番号 | 旧遺構種類 | 所属・付属旧遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2407ピット(竪穴住居11) | 7 | 6M-3j | 10YR6/8粘質土、<br>地山ブロック土（10YR4/2粘質土、炭混） | 2407 | 溝 | 1026竪穴内 |
| 2417壁溝(竪穴住居13) | 7 | 6N-2a | | 2417 | 溝 | 1030竪穴内の壁溝 |
| 2425ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-1a | | 2425 | ﾋﾟｯﾄ | 1030竪穴内 |
| 2430溝(竪穴住居13) | 7 | 6N-2a | | 2430 | 溝 | 1030竪穴内の壁溝 |
| 2431ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-2a | | 2431 | ﾋﾟｯﾄ | 1030竪穴内 |
| 2435排水溝(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | | 2435 | 溝 | 1026竪穴内 |
| 2439ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | | 2439 | ﾋﾟｯﾄ | 1026竪穴内 |
| 2440ピット(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | 10YR4/1ｼﾙﾄ（炭混） | 2440 | ﾋﾟｯﾄ | 1026竪穴内 |
| 2442ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-3a | | 2442 | ﾋﾟｯﾄ | 1026竪穴内 |
| 2443ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-3a | | 2443 | ﾋﾟｯﾄ | 1026竪穴内 |
| 2446排水溝(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 2446 | 溝 | 1029竪穴内 |
| 2447土坑(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 2447 | 炉 | 1029竪穴内 |
| 2448排水溝(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 2448 | 溝 | 1029竪穴内 |
| 2451ピット(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 2451 | ﾋﾟｯﾄ | 1029竪穴内 |
| 2455ピット(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 2455 | ﾋﾟｯﾄ | 1029竪穴内 |
| 2465ピット(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | 10YR5/2ｼﾙﾄ　10YR6/6粘土ブロックを多く混 | 2465 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2472溝(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 2472 | 溝 | |
| 2475ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-2j | | 2475 | ﾋﾟｯﾄ | 1031竪穴内 |
| 2476ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-2j | | 2476 | ﾋﾟｯﾄ | 1031竪穴内 |
| 2480ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-2j | | 2480 | ﾋﾟｯﾄ | 1031竪穴内 |
| 2489ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2489 | ﾋﾟｯﾄ | 1031竪穴内 |
| 2491ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2491 | ﾋﾟｯﾄ | 1031竪穴内 |
| 2495排水溝(竪穴住居12) | 7 | 6N-1a | | 2495 | 溝 | 1031竪穴内 |
| 2526ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-2j | | 2526 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2527ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2527 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2528ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2528 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2534ピット(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | | 2534 | ﾋﾟｯﾄ | 1031竪穴内 |
| 2554土坑(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2554 | 土坑(炉) | |
| 2556ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2556 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2558土坑(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2558 | ﾋﾟｯﾄ | 1392竪穴内 |
| 2561土坑(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2561 | 土坑 | 1392竪穴内 |
| 2562ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2562 | ﾋﾟｯﾄ | 1392竪穴内 |
| 2594ピット(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | | 2594 | ﾋﾟｯﾄ | 1031竪穴内 |
| 2607排水溝(竪穴住居11) | 7 | 6N-3a | | 2607 | 溝 | 1026竪穴内 |
| 2619土坑(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | | 2619 | 炉 | 1026竪穴内 |
| 2626ピット(竪穴住居11) | 7 | 6M-3j | | 2626 | ﾋﾟｯﾄ | 1026竪穴内 |
| 2634壁溝(竪穴住居14) | 7 | 6N-2a | | 2634 | 溝 | 1029竪穴内の壁溝 |
| 2636ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2636 | ﾋﾟｯﾄ | 1392竪穴内 |
| 2637土坑(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2637 | 土坑 | 1392竪穴内 |
| 2641ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-3a | | 2641 | ﾋﾟｯﾄ | 1026竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 2642ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-2j | | 2642 | ﾋﾟｯﾄ | 1031竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 2646ピット(竪穴住居15) | 7 | 6N-1a | | 2646 | ﾋﾟｯﾄ | 1033竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 2655ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-1a | | 2655 | ﾋﾟｯﾄ | 1033竪穴内ﾋﾟｯﾄ |
| 2658壁溝(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 2658 | 溝 | 壁溝 |
| 2668排水溝(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 2668 | 溝 | |
| 2673ピット(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a | | 2673 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2739排水溝(竪穴住居8) | 8 | 5M-10g | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2739 | 土坑 | |
| 2771排水溝(竪穴住居7) | 8 | 5M-9g | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2771 | 溝 | |
| 2874土坑(竪穴住居6) | 8 | 5M-8f | 10YR5/3ｼﾙﾄ(10YR7/8ｼﾙﾄブロック,炭化物混) | 2874 | 炉跡 | |
| 2875排水溝(竪穴住居6) | 8 | 5M-8f | 10YR5/3ｼﾙﾄ(10YR7/8ｼﾙﾄブロック,炭化物混) | 2875 | 溝 | |
| 2878土坑 | 8 | 5M-8e | 10YR5/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2878 | 土坑 | |
| 2898溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2898 | 溝 | |
| 2899排水溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2899 | 溝 | |
| 2900壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2900 | 溝 | |
| 2901壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2901 | | |
| 2902壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2902 | 溝 | |
| 2903壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2903 | 溝 | |
| 2904排水溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2904 | 溝 | |
| 2905排水溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2905 | 溝 | |
| 2906排水溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2906 | 溝 | |
| 2907排水溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2907 | 溝 | |
| 2909ピット(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ　10YR6/6粘土ブロック混 | 2909 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 2924壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2924 | 壁溝 | |
| 2933壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2933 | 壁溝 | 2870竪穴壁溝 |
| 2934壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e | 10YR5/3ｼﾙﾄ（炭化物・焼土片混） | 2934 | 壁溝 | 2870竪穴壁溝 |
| 2938壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e | 10YR5/4ｼﾙﾄ(地山ブロック少量.炭,焼土多く混) | 2938 | 壁溝 | 2870竪穴 |
| 2939壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e | 10YR4/4ｼﾙﾄ(炭,焼土多く混) | 2939 | 壁溝 | 2870竪穴 |
| 2940壁溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e | 10YR4/3粘質ｼﾙﾄ(炭,焼土多く混) | 2940 | 壁溝 | 2870竪穴 |
| 2948壁溝(竪穴住居4) | 8 | 5M-7e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2948 | 壁溝 | 2867竪穴壁溝 |
| 2964(竪穴住居4) | 8 | 5M-7e | 7.5YR4/1ｼﾙﾄ　7.5YR7/6粘土ブロック+炭化物 | 2964 | | |
| 2980土坑(竪穴住居4) | 8 | 5M-7e | | 2980 | 土坑 | |
| 2985壁溝(竪穴住居4) | 8 | 5M-7e | 7.5YR4/2ｼﾙﾄ | 2985 | 壁溝 | 2668竪穴壁溝 |
| 2986壁溝(竪穴住居4) | 8 | 5M-7e | 7.5YR3/1ｼﾙﾄ　7.5YR7/6粘土ブロック | 2986 | 壁溝 | |
| 2987壁溝(竪穴住居4) | 8 | 5M-7e | | 2987 | 壁溝 | |
| 3009壁溝(竪穴住居4) | 8 | 5M-7d | | 3009 | 壁溝 | 2868竪穴壁溝 |
| 3031土坑(竪穴住居3) | 8 | 5M-7d | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 3031 | 炉 | 3013竪穴 |
| 3052壁溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR5/2ｼﾙﾄ　10YR6/4ｼﾙﾄブロック混(炭混) | 3052 | 壁溝 | 3013竪穴壁溝 |
| 3053壁溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR5/2ｼﾙﾄ　10YR6/4ｼﾙﾄブロック混(炭混) | 3053 | 壁溝 | 3013竪穴壁溝 |

## 表21　主要遺構一覧（８）

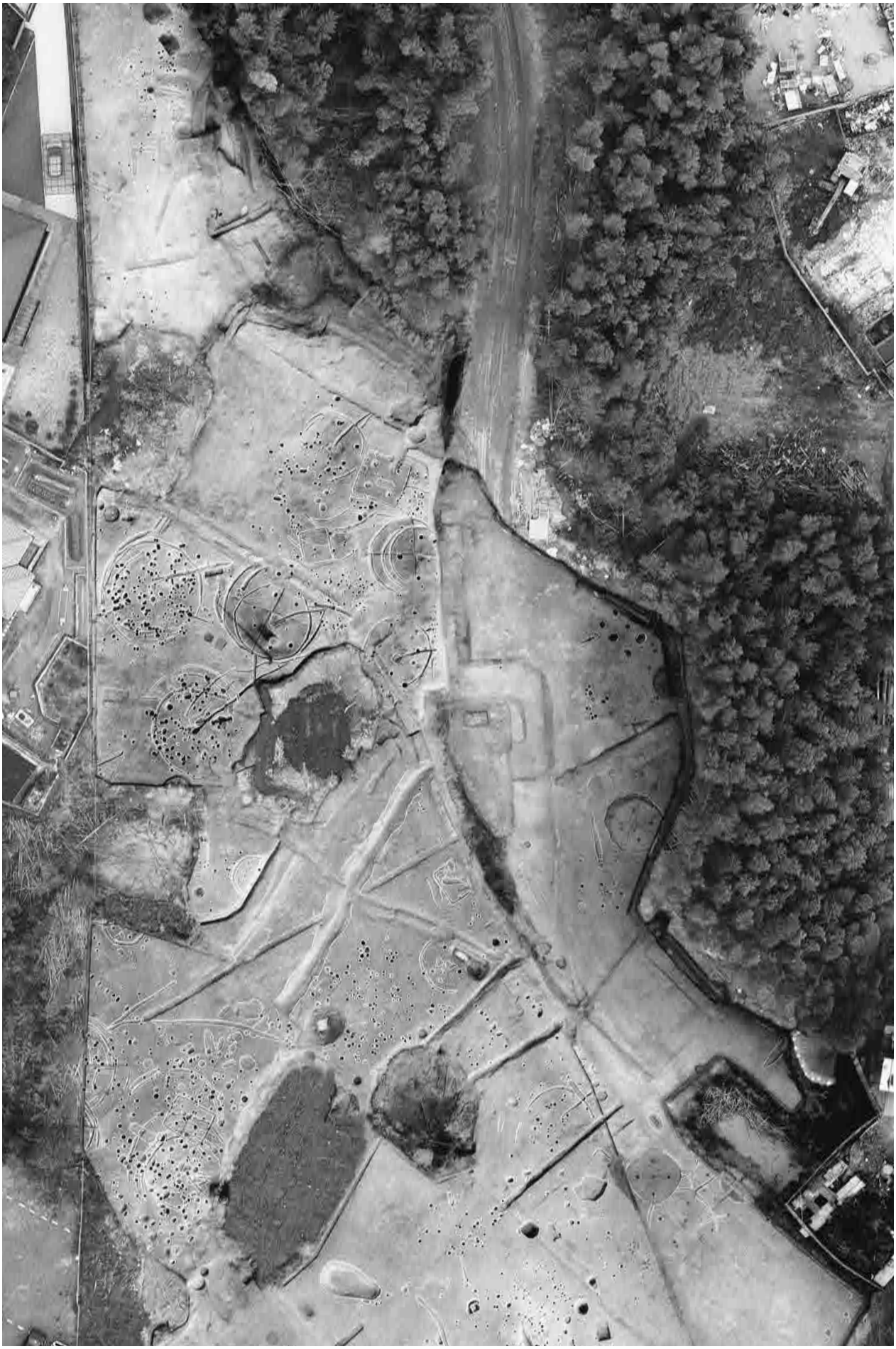
| 新遺構番号 | 調査区 | 地 区 名 | 土　色 | 旧遺構番号 | 旧遺構種類 | 所属・付属旧遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3077排水溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR5/3ｼﾙﾄ　10YR6/6粘土ブロック(炭混) | 3077 | 溝 | |
| 3100土坑(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR4/3ｼﾙﾄ　10YR6/6粘土ブロック(炭混) | 3100 | 炉 | 3130竪穴 |
| 3101排水溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR4/3ｼﾙﾄ　10YR6/6粘土ブロック(炭混) | 3101 | 排水溝 | 3130竪穴 |
| 3110溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 3110 | 溝 | |
| 3120壁溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 3120 | 壁溝 | 3130竪穴壁溝 |
| 3125壁溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR5/3ｼﾙﾄ(炭混) | 3125 | 壁溝 | 3130竪穴 |
| 3189土坑(竪穴住居2) | 8 | 5M-5d | 10YR5/3ｼﾙﾄ | 3189 | | |
| 3200土坑 | 8 | 5M-6c | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 3200 | 土坑 | |
| 3208溝 | 8 | 5M-5b | 10YR5/3ｼﾙﾄ　10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混)<br>10YR5/3ｼﾙﾄ | 3208 | 溝 | |
| 3218溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e,8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 3218 | 溝 | |
| 3225排水溝(竪穴住居4) | 8 | 5M-7e | 10YR4/2ｼﾙﾄ　下層部；10YR6/6粘土ブロック | 3225 | 排水溝 | |
| 3241排水溝(竪穴住居7) | 8 | 5M-9g | | 3241 | 炉 | |
| 3242排水溝(竪穴住居7) | 8 | 5M-9g | | 3242 | 炉 | |
| 3257ピット(竪穴住居７) | 8 | 5M-9g | | 3257 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3259溝(竪穴住居7) | 8 | 5M-9g | | 3259 | 溝 | |
| 3260溝(竪穴住居7) | 8 | 5M-9g | | 3260 | 溝 | |
| 3298(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | | 3298 | | |
| 3318ピット(竪穴住居3) | 8 | 5M-6d | 10YR4/3ｼﾙﾄ | 3318 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3321ピット(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/3ｼﾙﾄ(炭.焼土多く混) | 3321 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3322ピット(竪穴住居18) | 6 | 6N-2e | 2.5Y5/4ｼﾙﾄ、2.5Y6/4砂質土(炭微量混) | 3322 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3324ピット(竪穴住居29) | 6 | 6N-5g | N3/1ｼﾙﾄ(粘質)炭混 | 3324 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3325ピット(竪穴住居29) | 6 | 6N-5g | N3/1ｼﾙﾄ(粘質)炭混 | 3325 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3326ピット(竪穴住居29) | 6 | 6N-5g | 10YR5/6粘質土+10YR2/1粘質土 | 3326 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3327ピット(竪穴住居30) | 6 | 6N-5g | 10YR5/6年質土+10YR2/1粘質土 | 3327 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3331ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3e | 2.5Y3/1ｼﾙﾄ | 3331 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3333ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3e | | 3333 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3334ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3e | | 3334 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3335ピット(掘立柱建物2) | 6 | 6N-3e | | 3335 | ﾋﾟｯﾄ | |
| 3350壁溝(竪穴住居4) | 8 | 5M-7e | | 3350 | 溝 | 2867竪穴 |
| 3351溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-7d | | 3351 | 溝 | 3013竪穴 |
| 3352溝(竪穴住居3) | 8 | 5M-7d | | 3352 | 溝 | 3013竪穴 |
| 3353排水溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-8e | 10YR4/2ｼﾙﾄ(炭混) | 2904 | 溝 | |
| 3354排水溝(竪穴住居5) | 8 | 5M-7e | 10YR4/2ｼﾙﾄ | 2907 | 溝 | |
| 3355溝(竪穴住居9) | 7 | 6M-3i, 4i | | 3355 | 溝 | 1025竪穴の北側 |
| 3356壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6M-3j | | 3356 | 溝 | 竪穴11　(1026竪穴) |
| 3357壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6M-2j | | 3357 | 溝 | 竪穴11　(1026竪穴) |
| 3358壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6M-2j | | 3358 | 溝 | 竪穴11　(1026竪穴) |
| 3359排水溝(竪穴住居10) | 7 | 10N-4a | | 720 | 溝 | |
| 3360土坑(竪穴住居10) | 7 | 10N-4a | | 720 | 溝 | |
| 3361壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a,3a | | 3361 | 溝 | 竪穴11　(1026竪穴) |
| 3362壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6N-3a | | 3362 | 溝 | 竪穴11　(1026竪穴) |
| 3363壁溝(竪穴住居11) | 7 | 6N-3a | | 3363 | 溝 | 竪穴11　(1026竪穴) |
| 3364排水溝(竪穴住居11) | 7 | 6N-2a,3a | | 3364 | 溝 | 竪穴11　(1026竪穴) |
| 3365ピット(竪穴住居11) | 7 | 6M-2j | | 3365 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴11　(1026竪穴) |
| 3366溝(竪穴住居11) | 7 | 6N,6M-2a,3a 2j,3j | | 1149 | 壁溝 | |
| 3367ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-2a | | 3367 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴13　(1030竪穴) |
| 3368ピット(竪穴住居13) | 7 | 6N-1a | | 3368 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴13　(1030竪穴) |
| 3369壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 396 | 溝 | |
| 3370壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 396 | 溝 | |
| 3371土坑(竪穴住居12) | 7 | 6M-2j | | 3371 | 土坑 | 竪穴12　(1031竪穴) |
| 3372ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-2j | | 3372 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴12　(1031竪穴) |
| 3373ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 3373 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴12　(1031竪穴) |
| 3375排水溝(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 3375 | 排水溝 | 竪穴12　(1031竪穴) |
| 3376ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 3376 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴12　(1031竪穴) |
| 3377ピット(竪穴住居12) | 7 | 6M-1j | | 3377 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴12　(1031竪穴) |
| 3378ピット(竪穴住居12) | 7 | 6N-2a | | 3378 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴12　(1031竪穴) |
| 3379炉(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 3379 | 炉 | 竪穴14　(1029竪穴) |
| 3380ピット(竪穴住居14) | 7 | 6N-2b | | 3380 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴14　(1029竪穴) |
| 3381壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 398 | 溝 | |
| 3382壁溝(竪穴住居22) | 4 | 6N-7b | | 394 | 溝 | |
| 3383溝(竪穴住居11) | 7 | 6M-3j | | 2380 | 溝 | 1026竪穴内の壁溝 |
| 3384溝(竪穴住居37) | 5 | 6N-7h | | 3384 | 溝 | 竪穴36 (1758竪穴) |
| 3385壁溝(竪穴住居39) | 6 | 7O-2a | | 2666 | 竪穴 | 20溝,下層竪穴 |
| 3398壁溝(竪穴住居39) | 6 | 7N-2j | 10YR5/3粘質ｼﾙﾄ | 109 | ﾋﾟｯﾄ | 下層竪穴 |
| 3399ピット(竪穴住居18) | 6 | 6N-2d | | 3399 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴18 (44竪穴) |
| 3400ピット(竪穴住居18) | 6 | 6N-2e | | 3400 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴18 (44竪穴) |
| 3401壁溝(竪穴住居18) | 6 | 6N-2d | | 3401 | 壁溝 | 竪穴18 (44竪穴) |
| 3402壁溝(竪穴住居26) | 4 | 6N-5d | | 3402 | 壁溝 | 竪穴26 (1021竪穴) |
| 3403ピット(掘立柱建物8) | 5 | 6N-9h | | 3403 | ﾋﾟｯﾄ | 掘立8 (1771･1772建物) |
| 3405炉(竪穴住居29) | 6 | 6N-5f | | 3405 | 炉 | 竪穴29 (41竪穴) |
| 3406ピット(竪穴住居30) | 6 | 6N-5g | | 3406 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴30 (62竪穴) |
| 3407ピット(竪穴住居30) | 6 | 6N-5g | | 3407 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴30 (62竪穴) |
| 3408炉(竪穴住居30) | 6 | 6N-5g | | 3408 | 炉 | 竪穴30 (62竪穴) |
| 3409ピット(竪穴住居31) | 6 | 6N-5g | | 3409 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴31 (43竪穴) |
| 3410ピット(竪穴住居31) | 6 | 6N-5g | | 3410 | ﾋﾟｯﾄ | 竪穴31 (43竪穴) |
| 3411排水溝(竪穴住居13) | 7 | 6N-1b | | 3411 | 排水溝 | 竪穴13 (1030竪穴) |
| 3412ピット(竪穴住居15) | 7 | 6N-3a | | 2607 | 溝 | 1026竪穴内 |

# 写　真　図　版

## 図版1　空中写真

1．1～3・8トレンチ合成写真　S＝1/500（左上が北）

## 図版2　空中写真



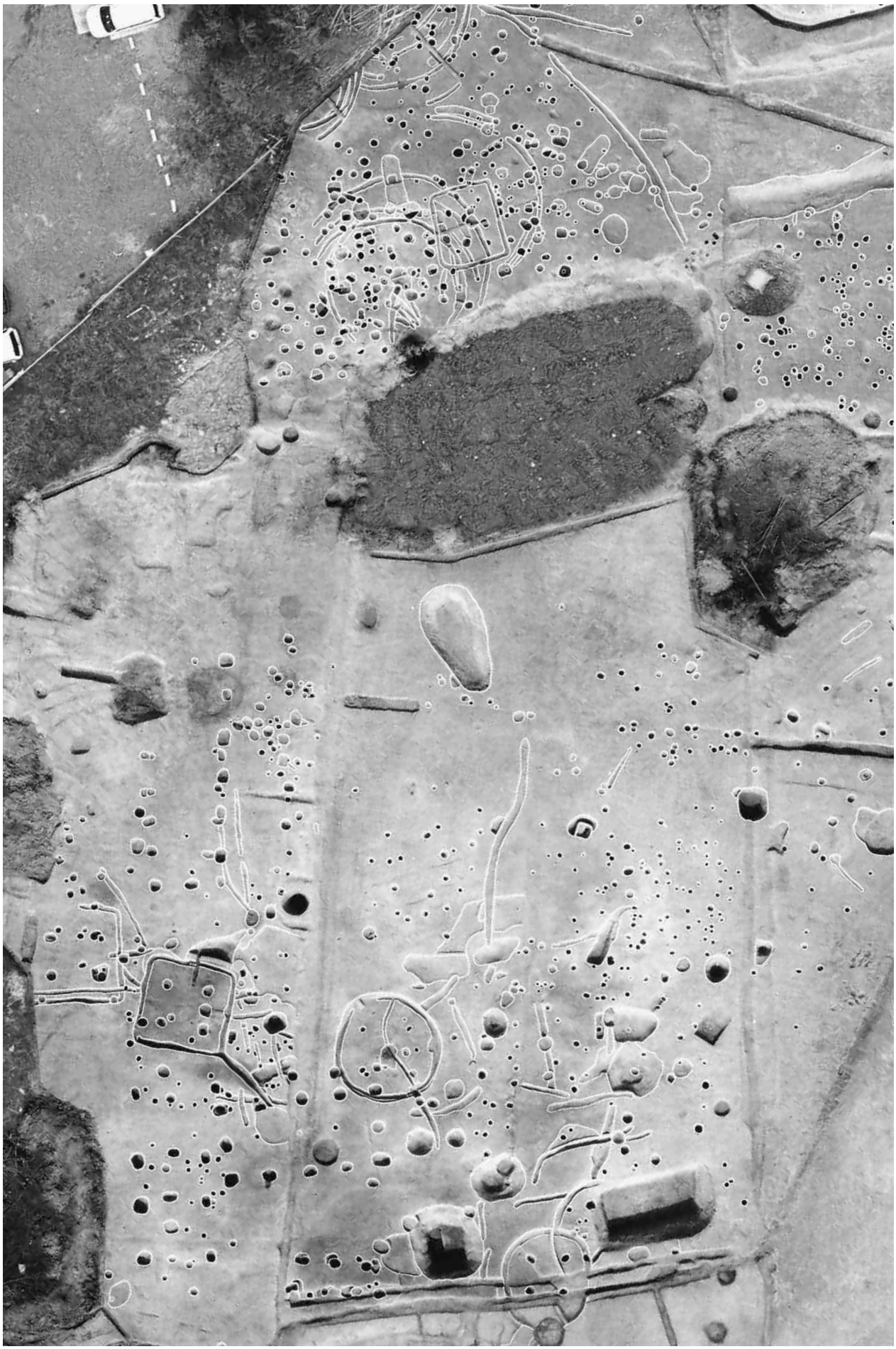
1．4～8トレンチ合成写真　S＝1/500（左上が北）

## 図版３　空中写真

１．４～７トレンチ合成写真　Ｓ＝1/500（左上が北）

## 図版4　空中写真

1．4・7トレンチ合成写真 弥生時代中期集落（左上が北）



１．４・５トレンチ合成写真　古代集落（上が北）

## 図版6　弥生時代中期遺構

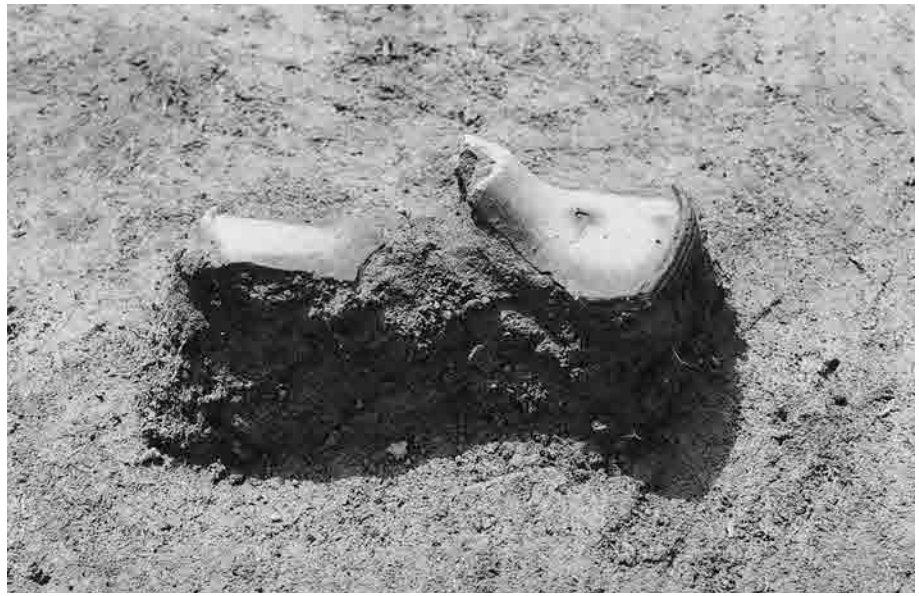
1．竪穴住居9～14（南西から）

2．竪穴住居9～14・22～24（南西から）

1．竪穴住居1（南東から）

2．竪穴住居1壁溝（南東から）

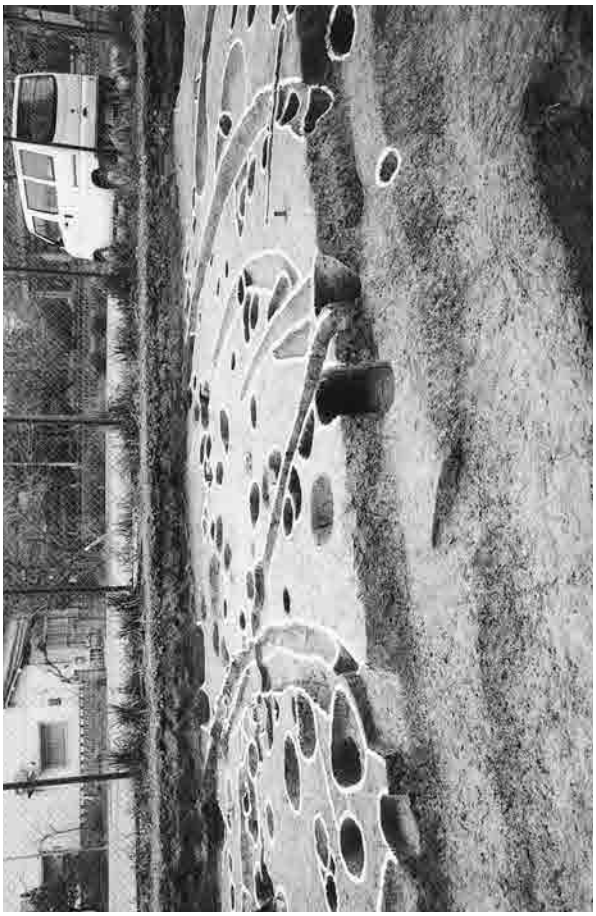
3．竪穴住居1遺物出土状況（南東から）



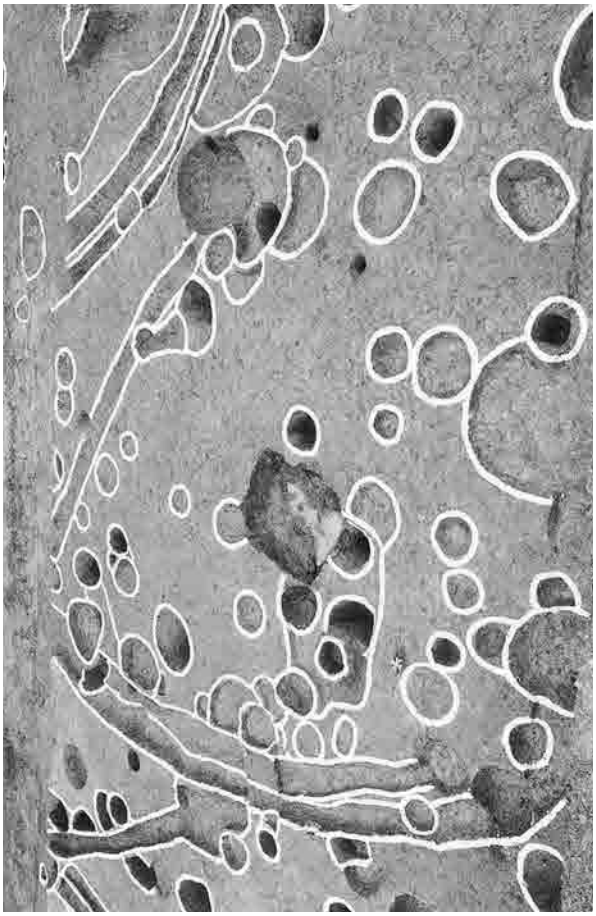
4．竪穴住居1遺物出土状況（北東から）

図版7　弥生時代中期遺構

## 図版8　弥生時代中期遺構



1．竪穴住居3（南東から）



2．竪穴住居3－③④期（北西から）

3．竪穴住居3－①②期（北西から）

4．竪穴住居3－③④期（南から）

## 図版９　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居４
（北から）

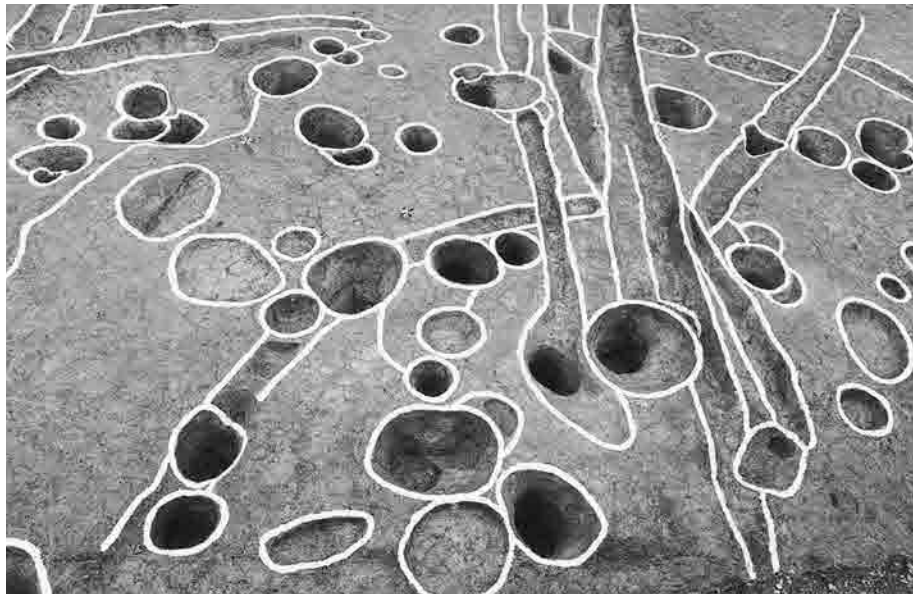
2．竪穴住居
４ー①②期
（北西から）

3．竪穴住居
４ー③～⑤期
（北西から）

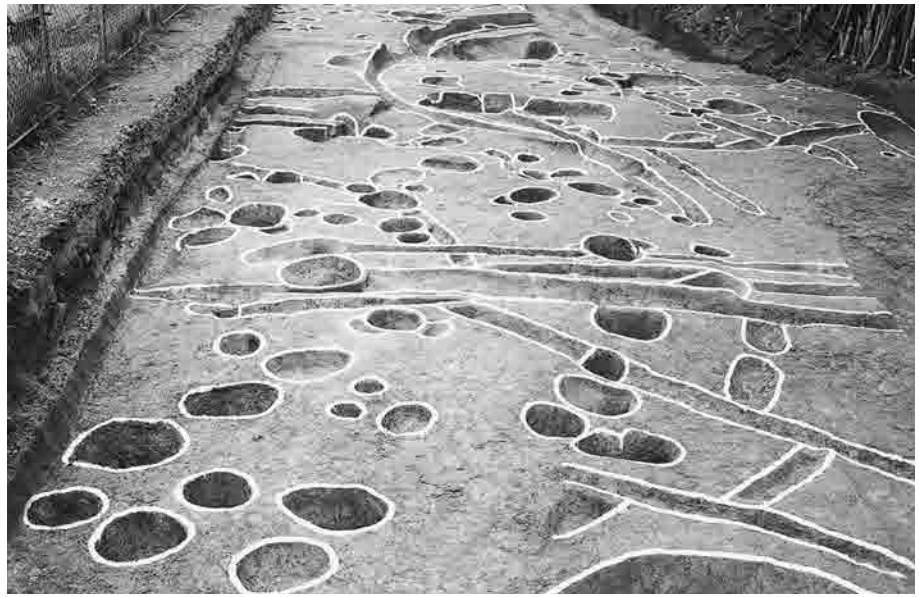
## 図版10　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居3・4（北東から）

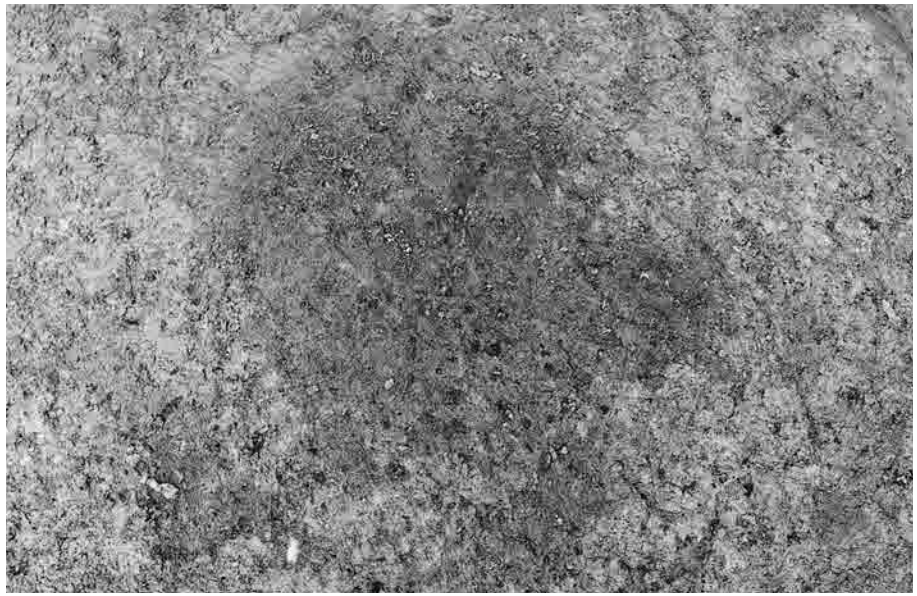
2．竪穴住居4　3225排水溝（南から）
3．竪穴住居4　3077排水溝（東から）
4．竪穴住居4　2985・2986壁溝断面（南東から）
5．竪穴住居4　2985・3009壁溝断面（南東から）



1．竪穴住居5（北西から）



2．竪穴住居5（南西から）

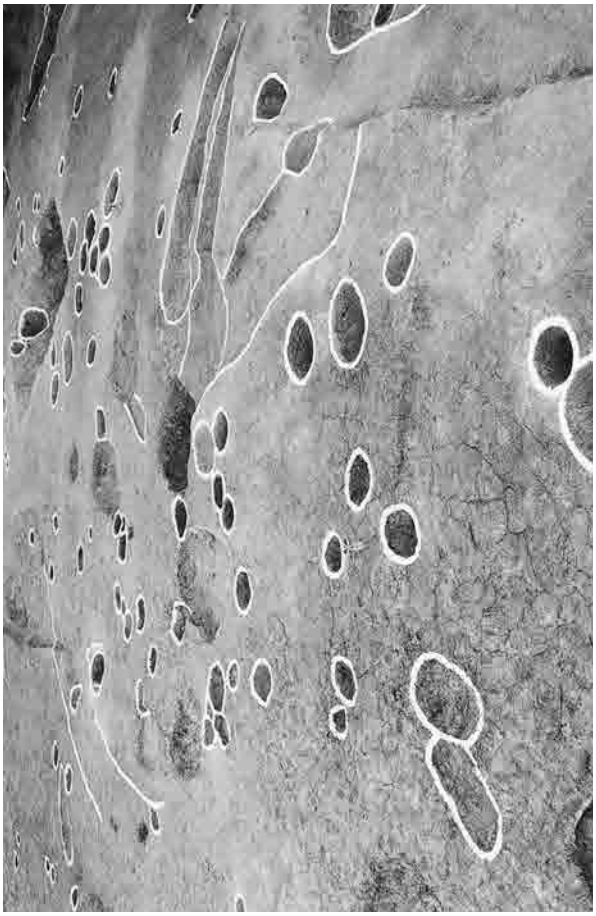


3．竪穴住居5内焼土検出状況（西から）

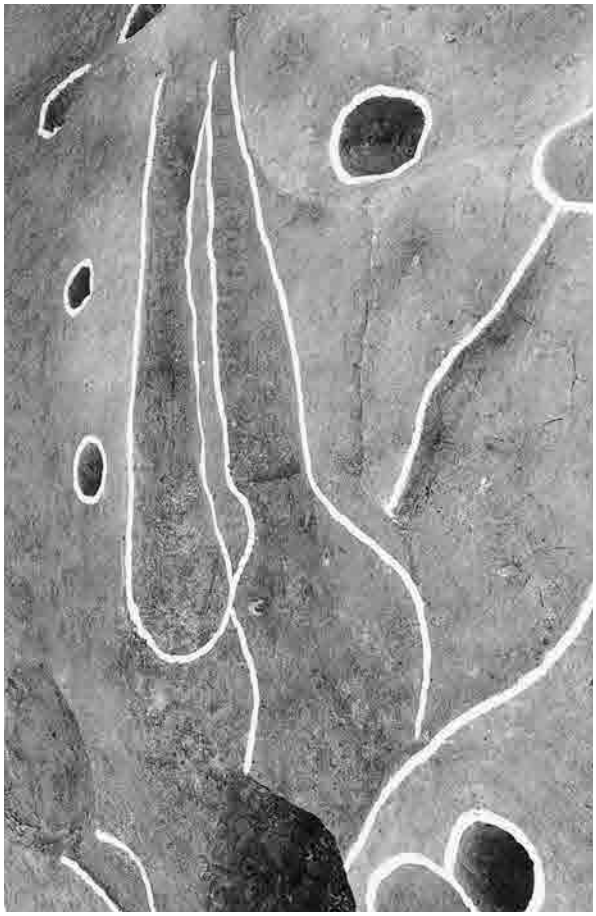
4．竪穴住居6　2874土坑・2875排水溝断面（西から）

図版11　弥生時代中期遺構

## 図版12　弥生時代中期遺構

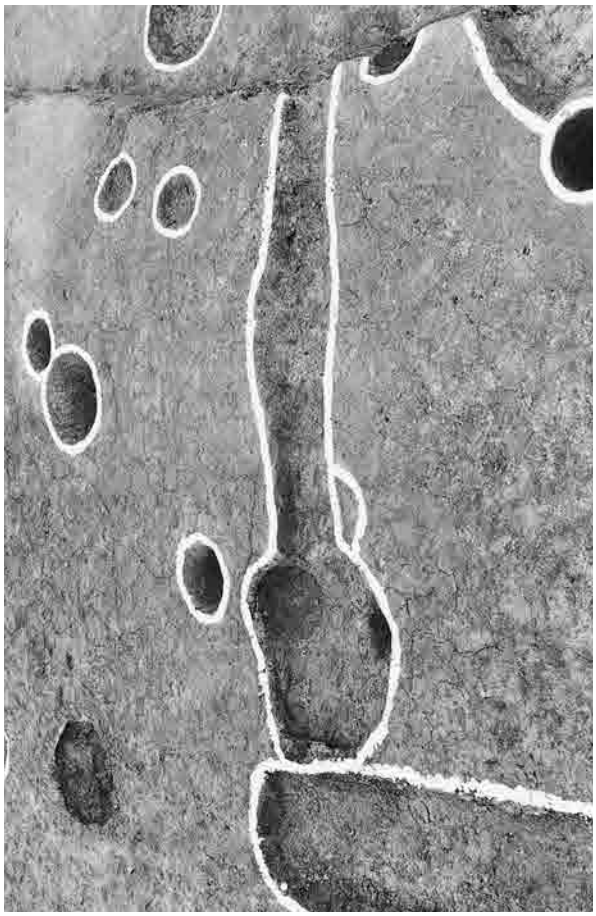


1．竪穴住居7・8（南西から）



2．竪穴住居7（西から）

3．竪穴住居8　2739土坑・排水溝（南西から）



4．竪穴住居7　3241・3242排水溝（南西から）

1．2878土坑（西から）

2．竪穴住居２　3187土坑・排水溝（南西から）

3．8トレンチ南東側斜面（西から）

4．8トレンチ南東側斜面土層（西から）

図版13　弥生時代中期遺構

## 図版14　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居10（北西から）

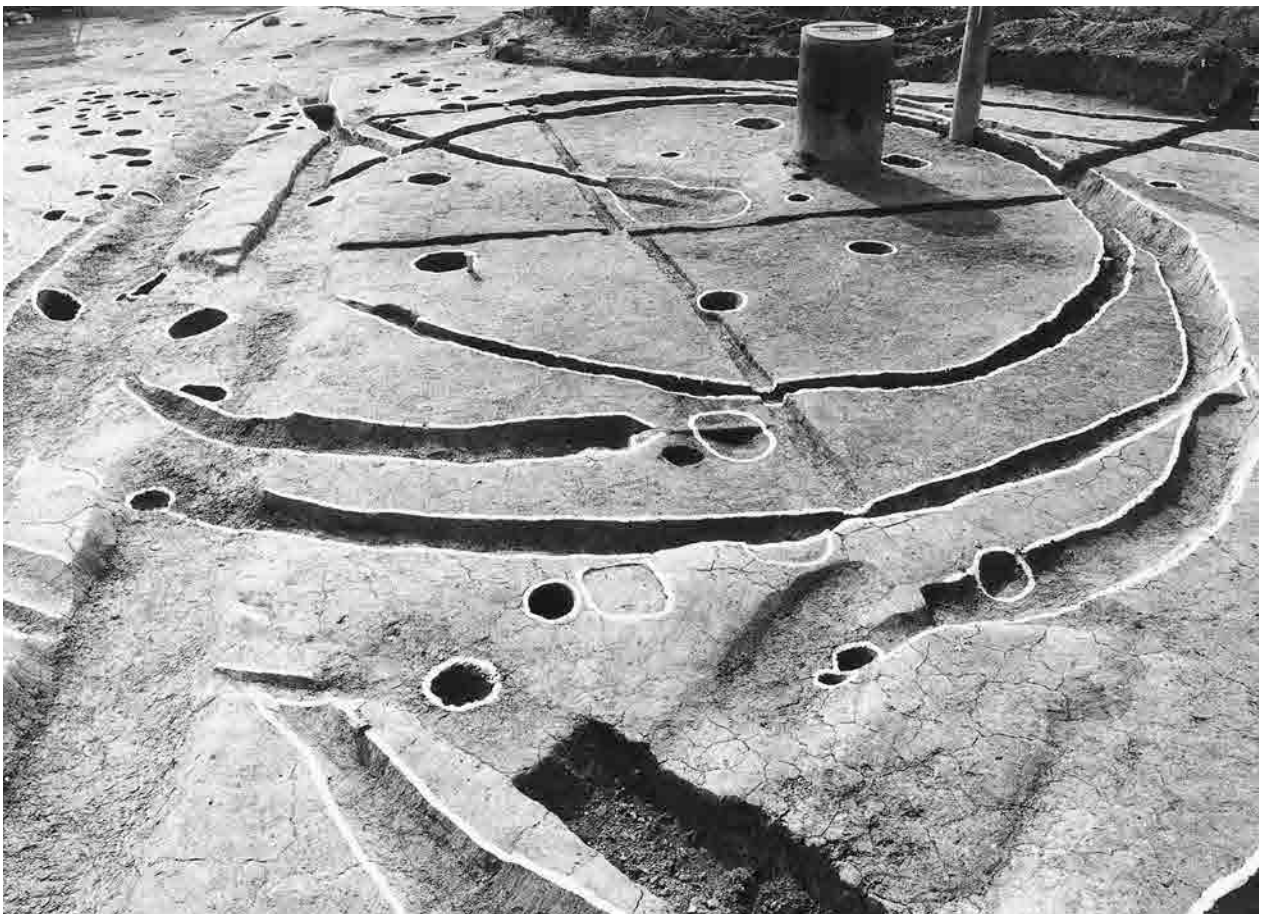
2．竪穴住居10（西から）

# 図版15　弥生時代中期遺構

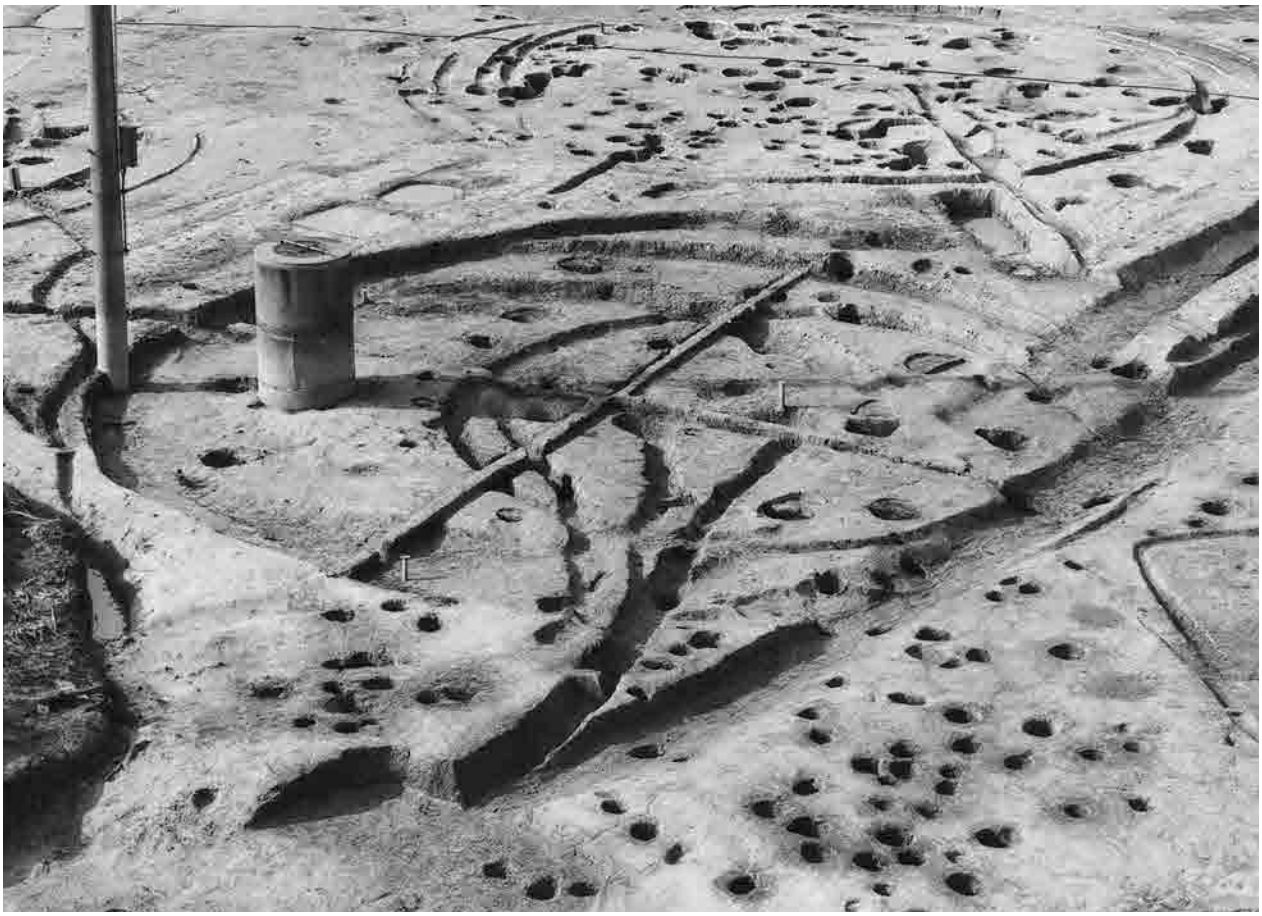
1．竪穴住居9（北東から）

2．竪穴住居10　720土坑・排水溝断面（南東から）
3．竪穴住居10　718土坑断面（北東から）
4．竪穴住居11　2403土坑・2607排水溝断面（東から）
5．竪穴住居11　1147・1148壁溝断面（東から）

## 図版16　弥生時代中期遺構



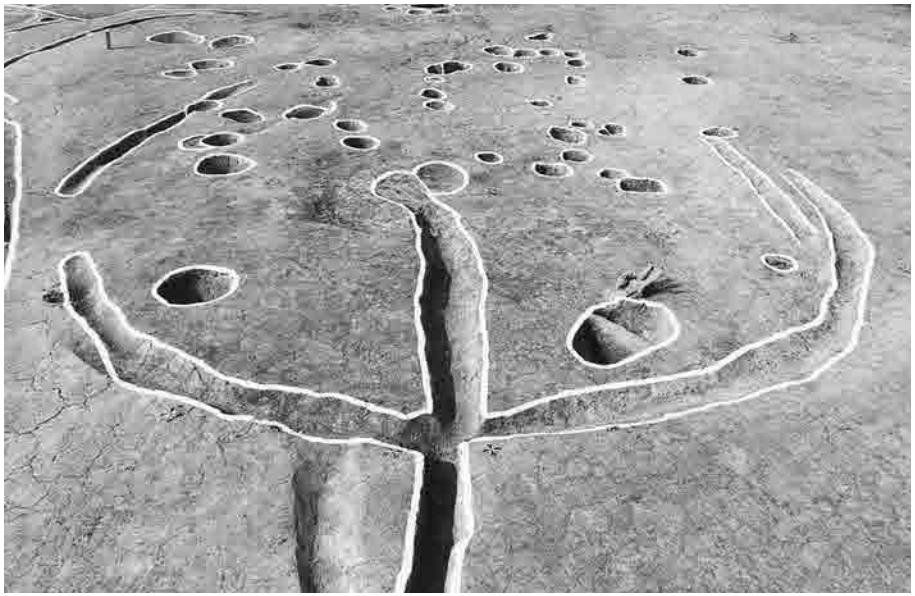
1．竪穴住居11ー④～⑧期（北から）



2．竪穴住居11ー①～⑥期（南東から）

1．竪穴住居12（南から）

2．竪穴住居12（北西から）



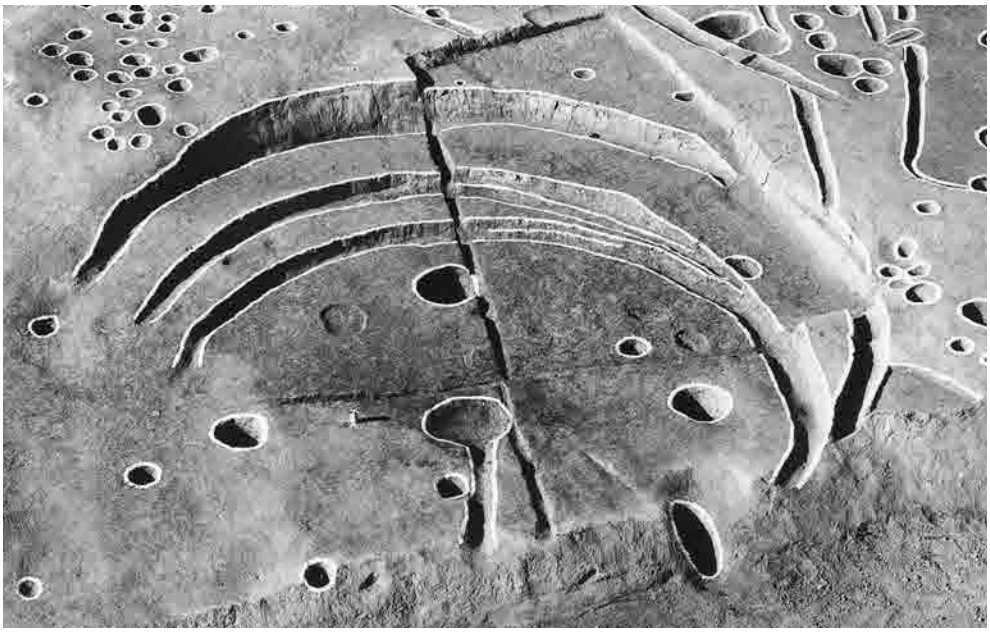
3．竪穴住居12ー⑤期（東から）

4．竪穴住居12　1274土坑断面（東から）

図版17　弥生時代中期遺構

## 図版18　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居13
断面（南東から）



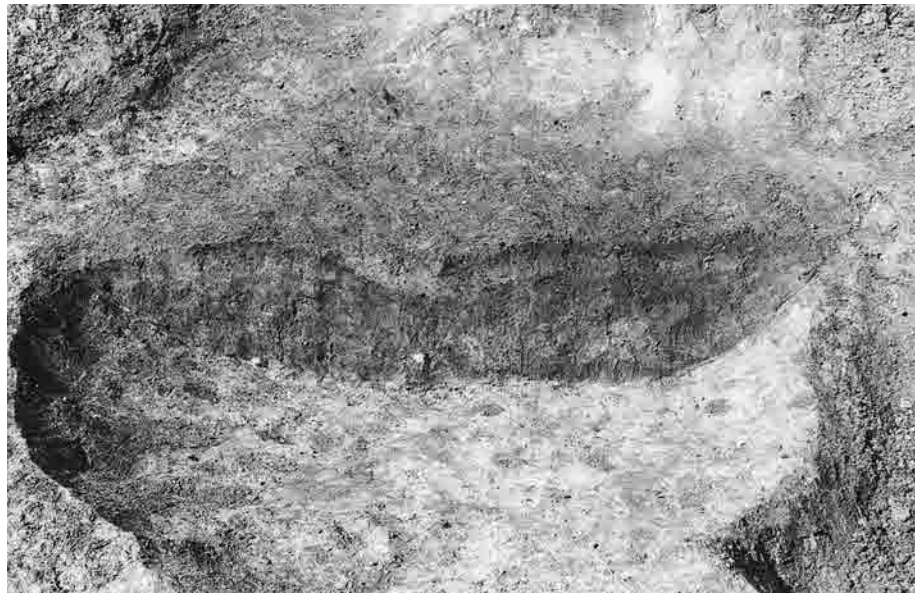
2．竪穴住居13
1428土坑
（南東から）

3．竪穴住居13
1390土坑
（南東から）

1．竪穴住居13南北方向断面（東から）

2．竪穴住居13　磨製石剣出土状況（南西から）

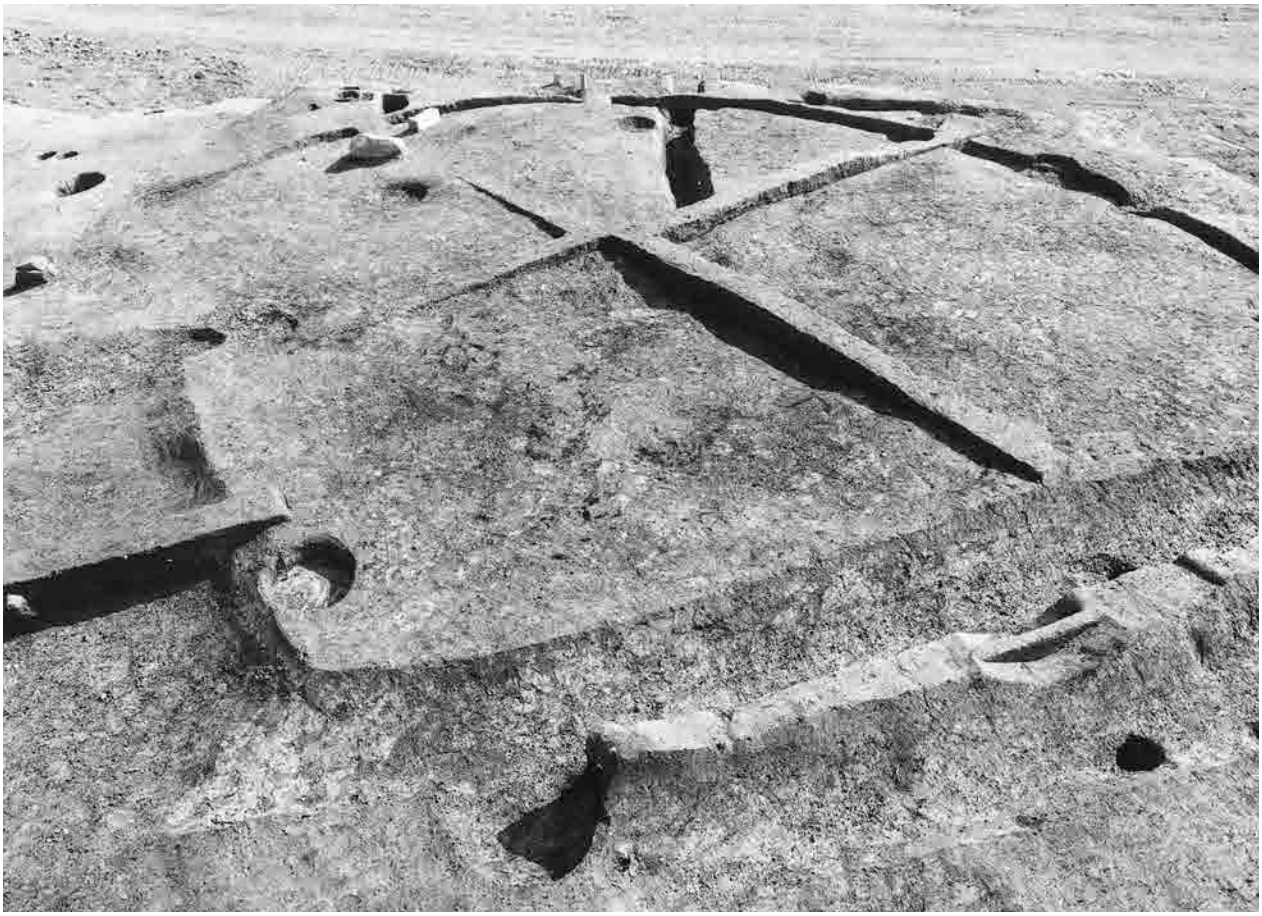
3．1200ピット　勾玉出土状況（東から）



4．2330土坑断面（東から）

図版19　弥生時代中期遺構

## 図版20　弥生時代中期遺構



1．竪穴住居14ー③期（北西から）

2．竪穴住居14ー②期（南東から）

1．竪穴住居14ー①期（南東から）

2．竪穴住居14　1390土坑（北から）

3．竪穴住居14　2447土坑検出状況（西から）

4．竪穴住居14貼床　南北方向断面（東から）

## 図版22　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居18（北西から）

2．竪穴住居18（南西から）

3．竪穴住居18　南北方向断面（東から）

4．6トレンチ東半　斜面堆積状況（南西から）

1．竪穴住居20（西から）

2．竪穴住居21（南から）

3．竪穴住居22（南東から）

4．竪穴住居26（北東から）

図版23　弥生時代中期遺構

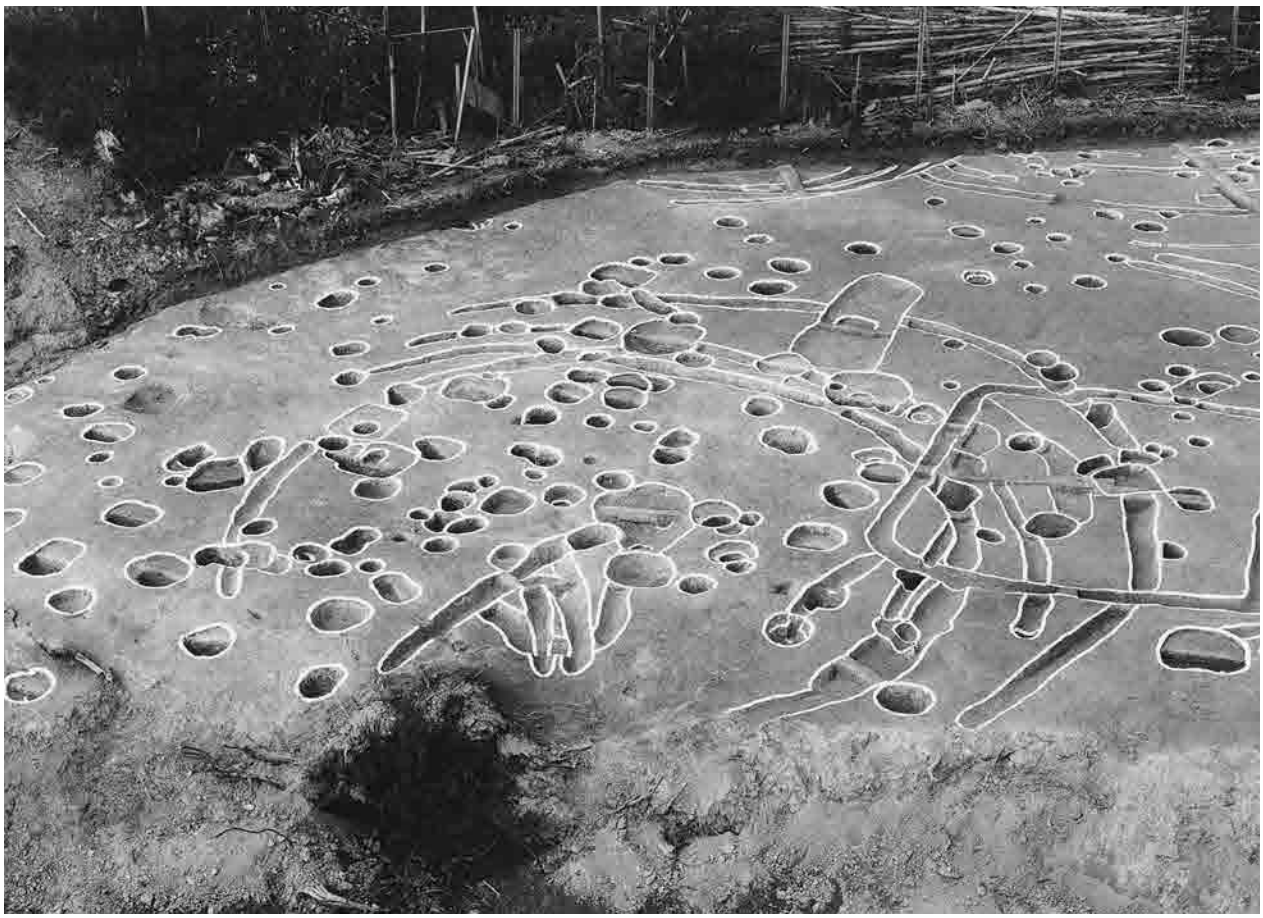
## 図版24　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居24　498土坑断面（南から）

2．竪穴住居24　401壁溝内石剣出土状況（南東から）

3．竪穴住居23（南東から）

4．竪穴住居23　1045土坑遺物出土状況（北西から）



1．竪穴住居24（南から）

2．竪穴住居26　913土坑断面（東から）
3．789溝断面（東から）
4．767土坑遺物出土状況（東から）
5．388土坑遺物出土状況（西から）

## 図版26　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居26、789溝、ピット群（南西から）

2．竪穴住居21・26、789溝（東から）

1．竪穴住居29・30（北西から）

2．竪穴住居30　68土坑・排水溝断面（南から）
3．竪穴住居39－①期（北から）
4．竪穴住居39－①期断面（東から）
5．竪穴住居39遺物出土状況（北東から）

## 図版28　弥生時代中期遺構

1．竪穴住居35（南西から）

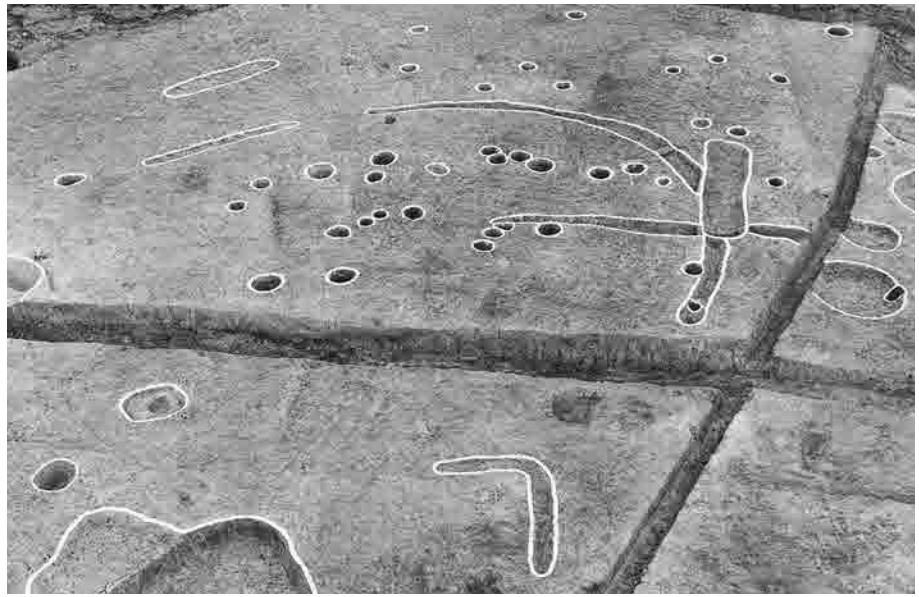
2．竪穴住居35　2172壁溝断面（南から）
4．竪穴住居35　1710排水溝（南から）

3．竪穴住居35　2193土坑（南から）
5．竪穴住居35
2194排水溝・2172壁溝接合部（南西から）

1．竪穴住居38（南東から）

2．竪穴住居38　1074土坑・排水溝断面（南西から）

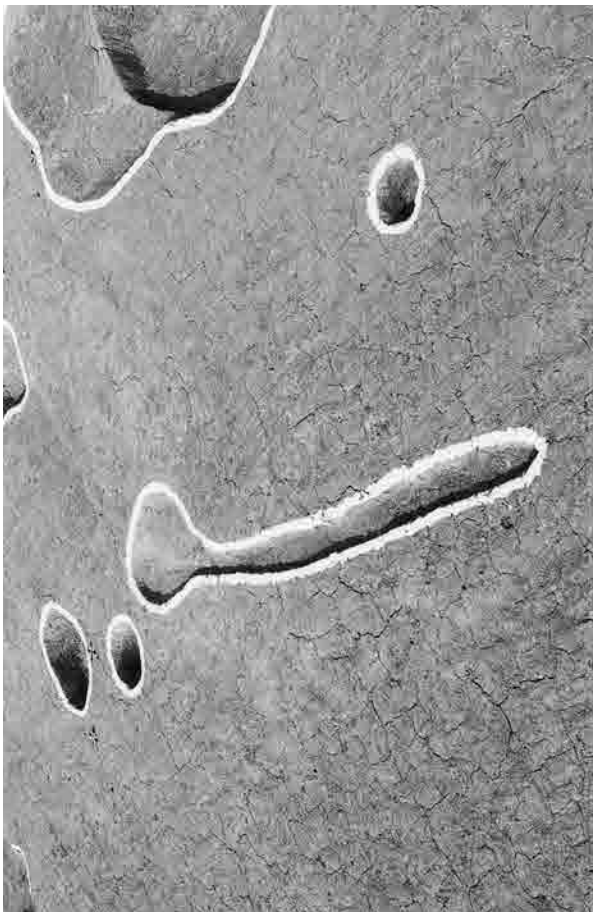
3．竪穴住居37（東から）



4．竪穴住居27（南から）

図版29　弥生時代中期遺構

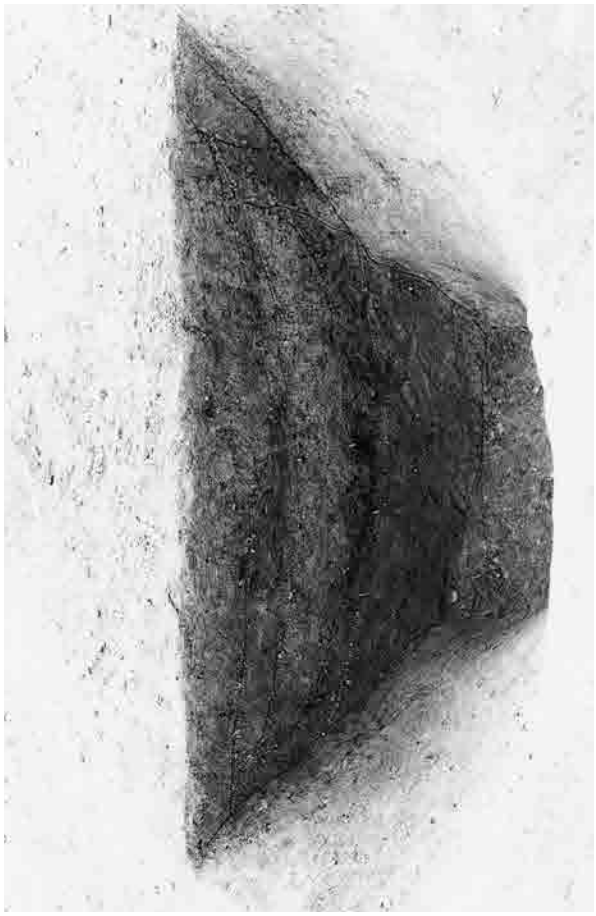
## 図版30　弥生時代中期遺構



1．竪穴住居28　2062排水溝（南東から）

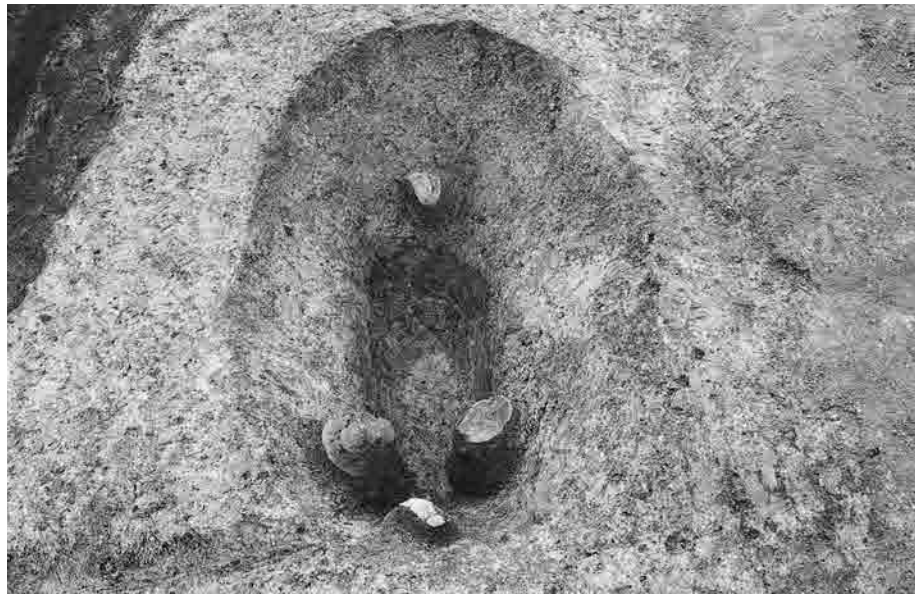
2．1886土坑遺物出土状況（北から）

3．1569土坑断面（北西から）

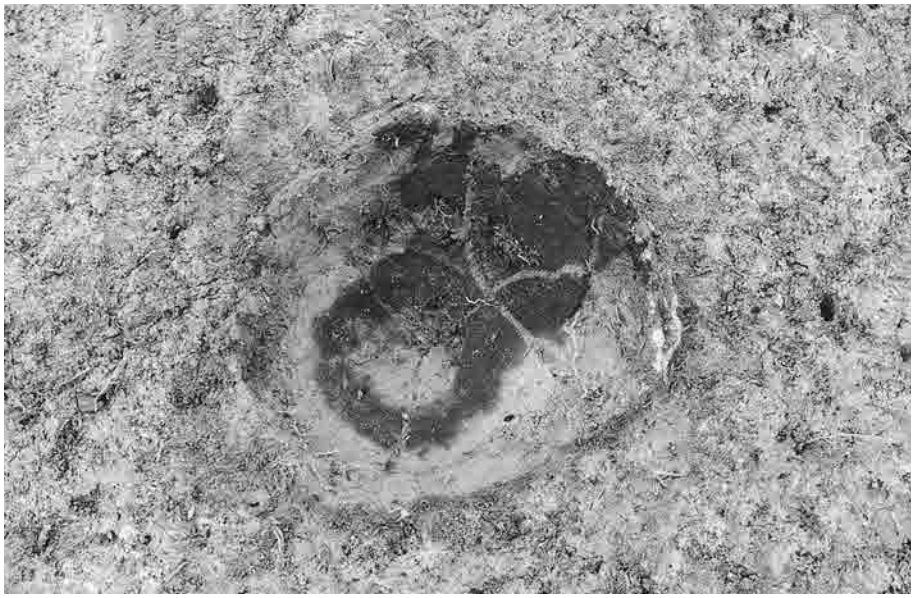


4．1516土坑断面（北から）

1．32土坑遺物出土状況（南東から）



2．42土坑遺物出土状況（北東から）



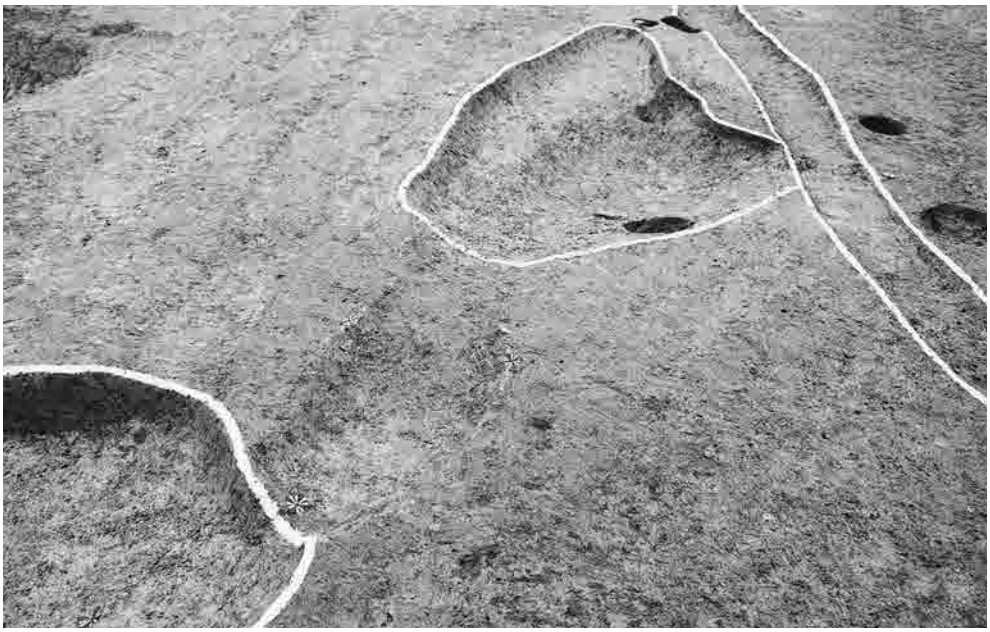
3．55土坑遺物出土状況（北東から）

4．56土坑遺物出土状況（西から）

図版31　弥生時代中期遺構

## 図版32　弥生時代中期遺構

1．方形周溝墓1全景
（北西から）



2．方形周溝墓1
20・105・107周溝
（南から）

3．方形周溝墓1
20周溝
遺物出土状況
（北東から）

1．方形周溝墓1　20周溝遺物出土状況（南東から）

2．方形周溝墓1　20周溝遺物出土状況（南から）

3．方形周溝墓1　108周溝遺物出土状況（南東から）

4．方形周溝墓1　21墓壙 木棺底板検出状況（南西から）

図版33　弥生時代中期遺構

## 図版34　弥生時代中期遺構

1．27谷・28溝（西から）

2．27谷（北から）

3．28溝（南西から）

4．28溝断面（北西から）

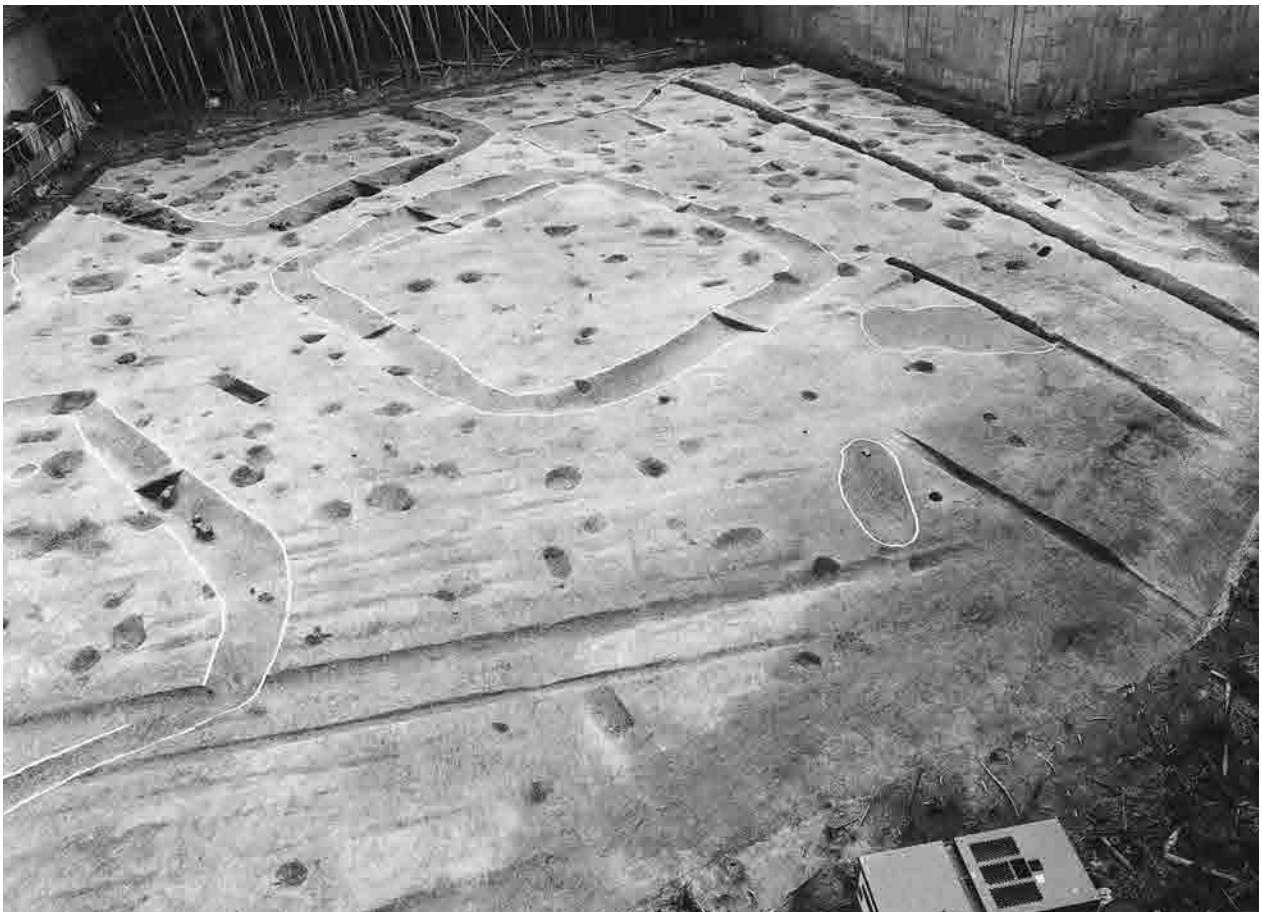
## 図版35　古墳時代中期遺構

1．古墳群全景（北西から）

2．22～24号墳（北から）

## 図版36　古墳時代中期遺構

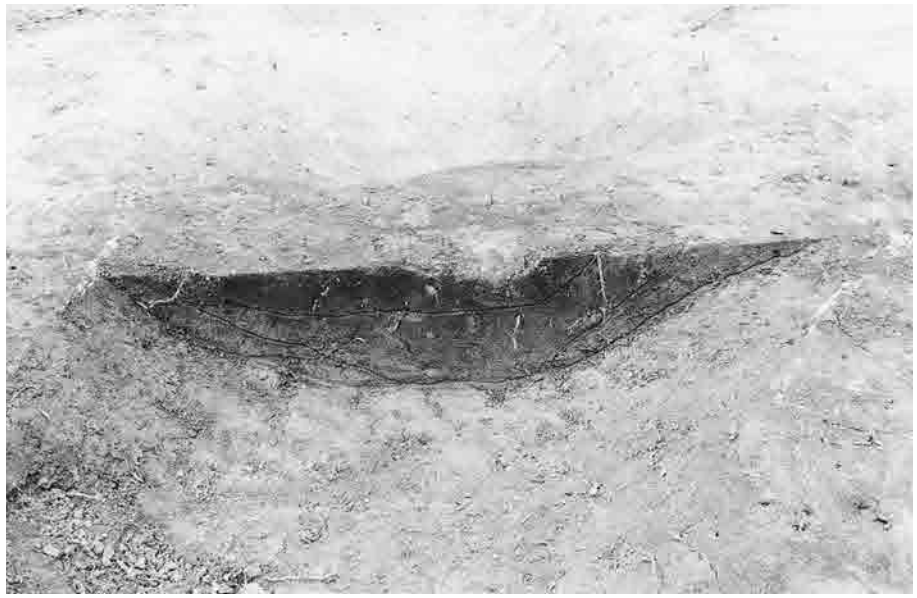
1．17～20号墳、土壙墓2（北西から）



2．14～18号墳（北から）

1．14号墳（北西から）

2．15号墳（北西から）



3．14号墳周溝断面（南東から）

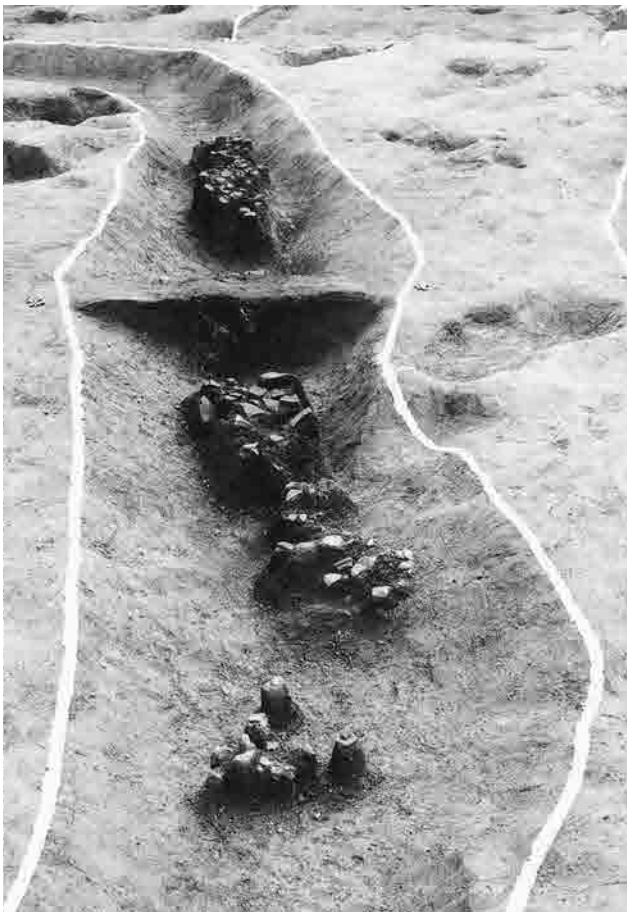
4．15号墳周溝（南東から）

図版37　古墳時代中期遺構

## 図版38　古墳時代中期遺構

1．17・18号墳（北西から）

2．16号墳（北東から）



3．17号墳北西周溝　遺物出土状況（北東から）

1．16号墳周溝 トレンチ壁断面（北西から）

2．17号墳北東周溝遺物出土状況（北西から）

3．17号墳南西周溝 遺物出土状況（北西から）

4．17号墳南西周溝断面（南西から）

図版39 古墳時代中期遺構

# 図版40　古墳時代中期遺構

1．17号墳北東周溝　埴輪出土状況（西から）

2．17号墳南西周溝　埴輪出土状況（南東から）

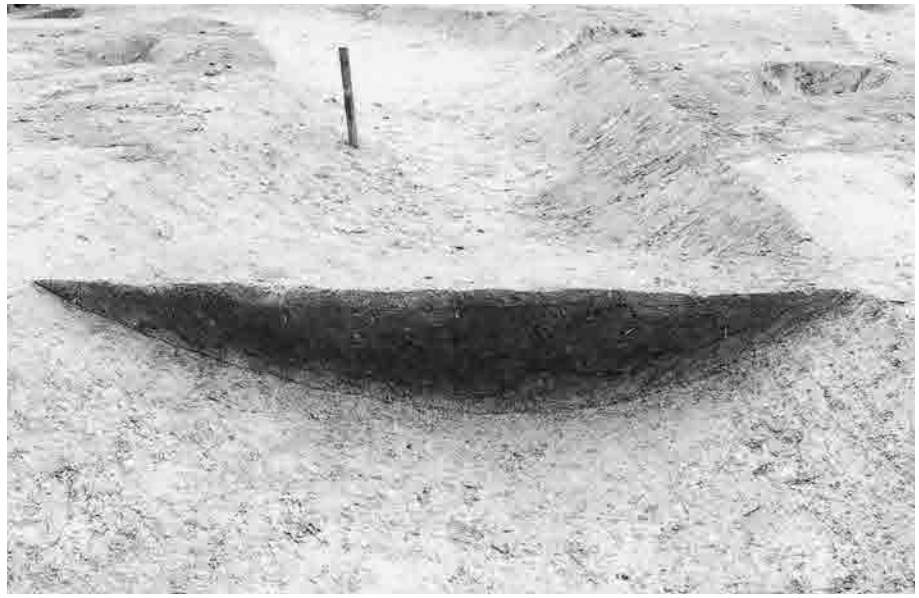
3．17号墳北東周溝　須恵器出土状況（南から）

4．17号墳南西周溝　トレンチ壁断面（北西から）

1．17号墳北東周溝断面（南西から）

2．17号墳北西周溝断面（北東から）

3．19号墳北東周溝断面（南西から）

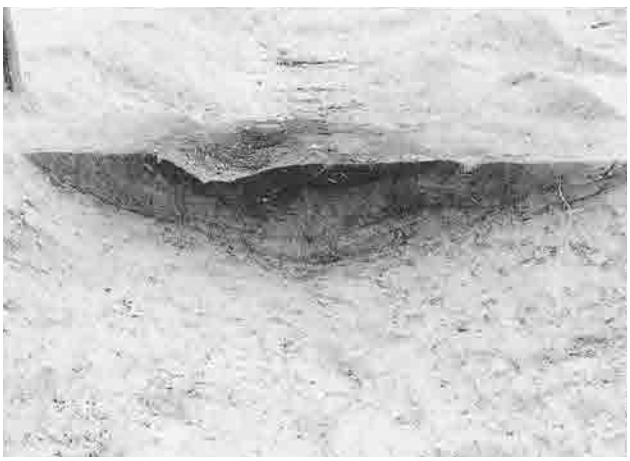


4．19号墳北西周溝断面（南東から）

図版41　古墳時代中期遺構

## 図版42　古墳時代中期遺構

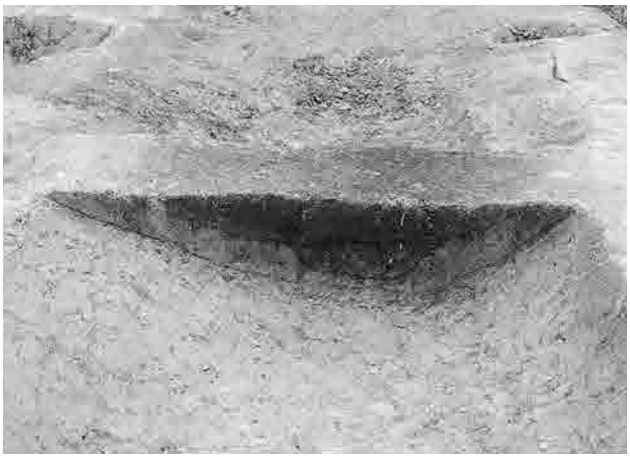
1．19・20号墳（北西から）



2．18号墳北東周溝断面（南西から）
3．18号墳南西周溝断面（南東から）
4．18号墳南東周溝断面（北東から）
5．18号墳東隅周溝　遺物出土状況（南西から）

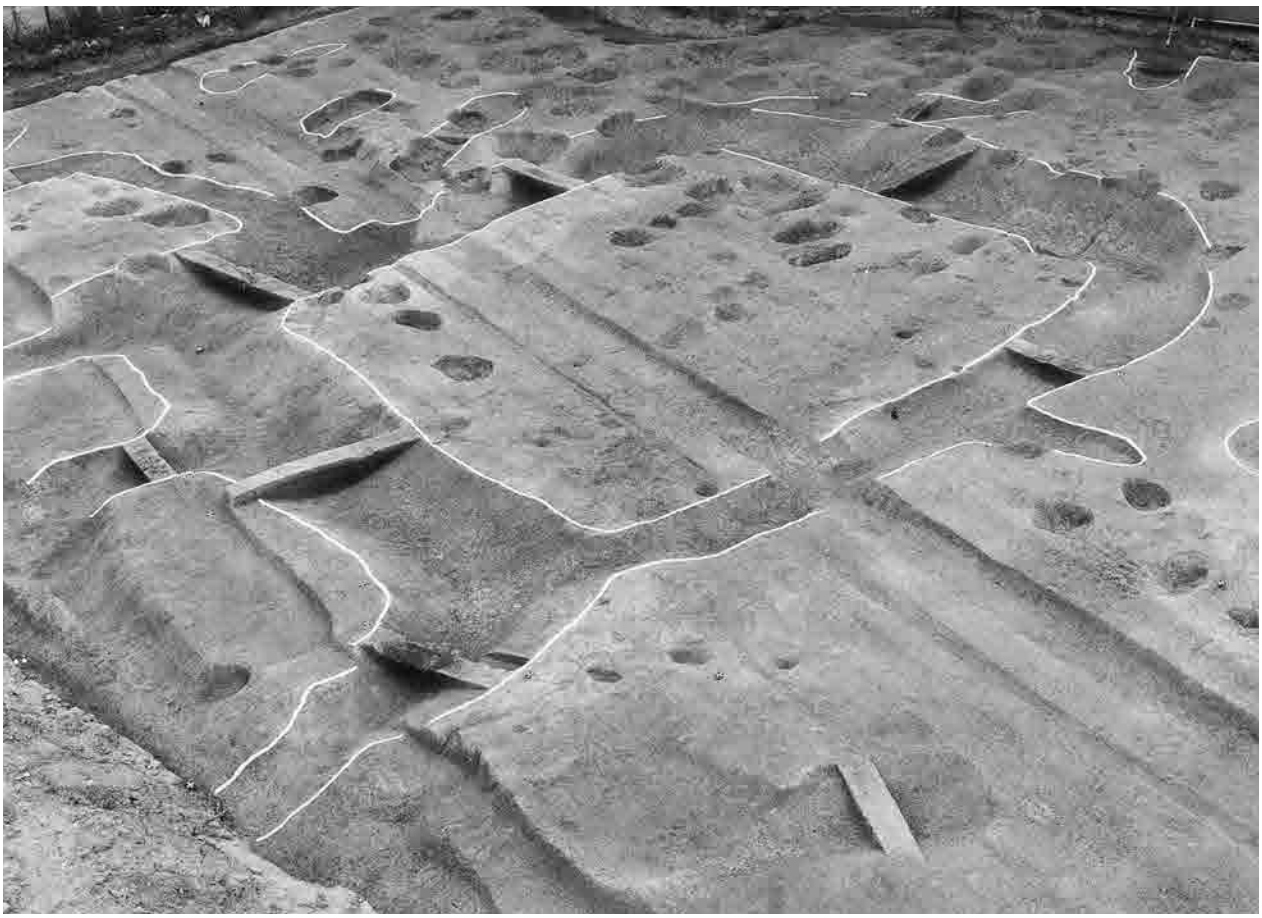
## 図版43　古墳時代中期遺構

1．20号墳（北西から）



2．20号墳北西周溝断面（南東から）
3．20号墳南東周溝断面（北東から）
4．20号墳北西周溝　須恵器出土状況（北から）
5．20号墳北東周溝断面（南東から）

## 図版44　古墳時代中期遺構



1．21～24号墳（西から）

2．22号墳北東周溝断面（南東から）
3．21号墳周溝・22号墳南東周溝断面（北から）
4．22号墳北西周溝断面（北東から）
5．22・23号墳周溝断面（北東から）

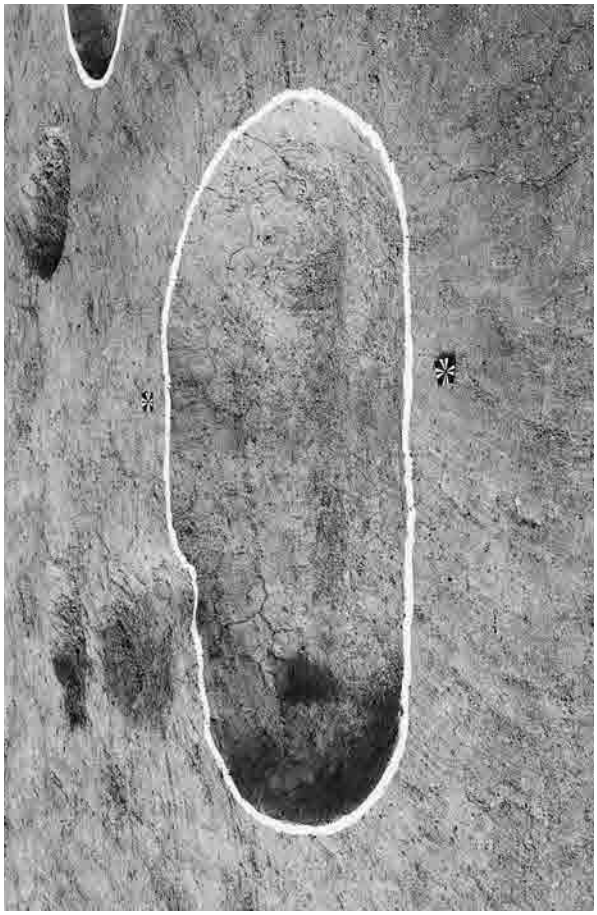
1．24号墳（北西から）

2．24号墳北東周溝断面（南東から）
3．23号墳北西周溝断面（北東から）
4．23号墳南東周溝断面（北東から）
5．23号墳南西周溝断面（南東から）

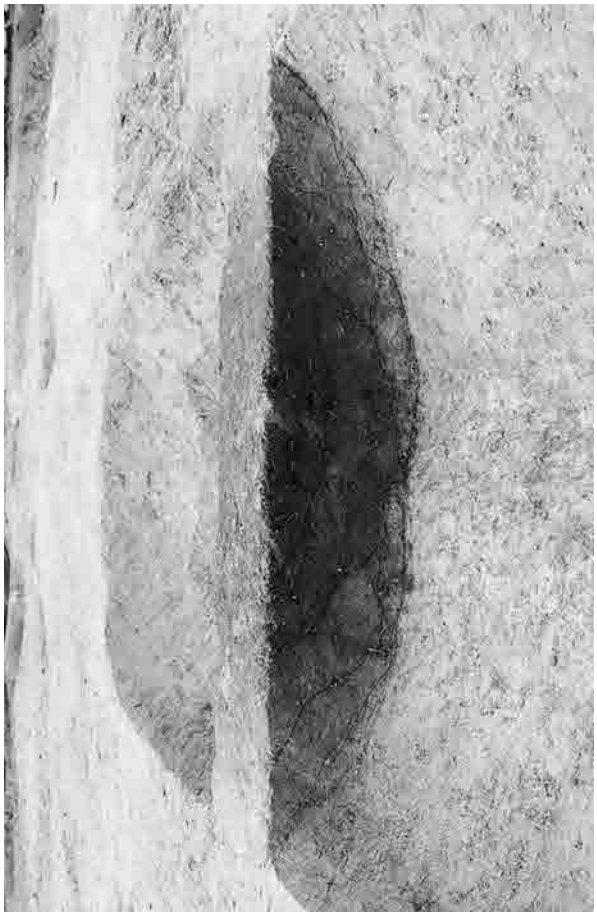
## 図版46　古墳時代中期遺構

1．25号墳（南から）

2．22・24号墳周溝断面（南東から）



3．土壙墓2（南東から）



4．土壙墓2断面（北東から）

1．土壙墓7（北東から）

2．土壙墓7　須恵器出土状況（南から）

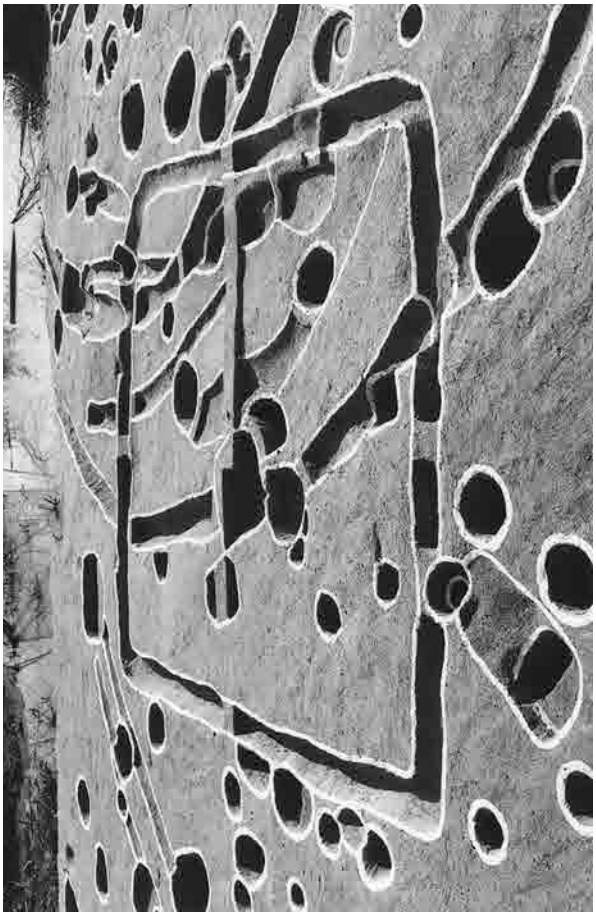
3．土壙墓7　鉄鏃出土状況（南から）

4．土壙墓7断面（北東から）

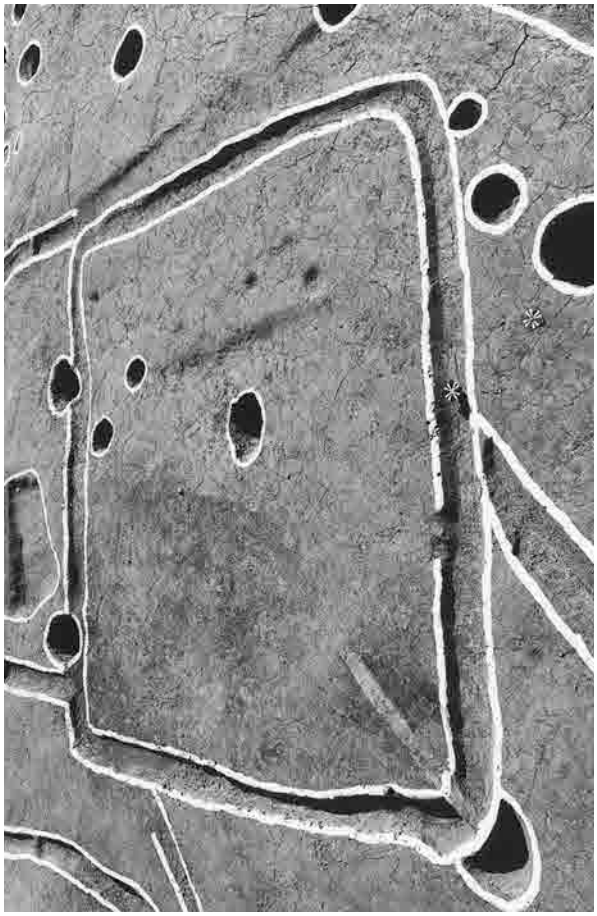
5．土壙墓6（西から）

6．土壙墓3（南西から）

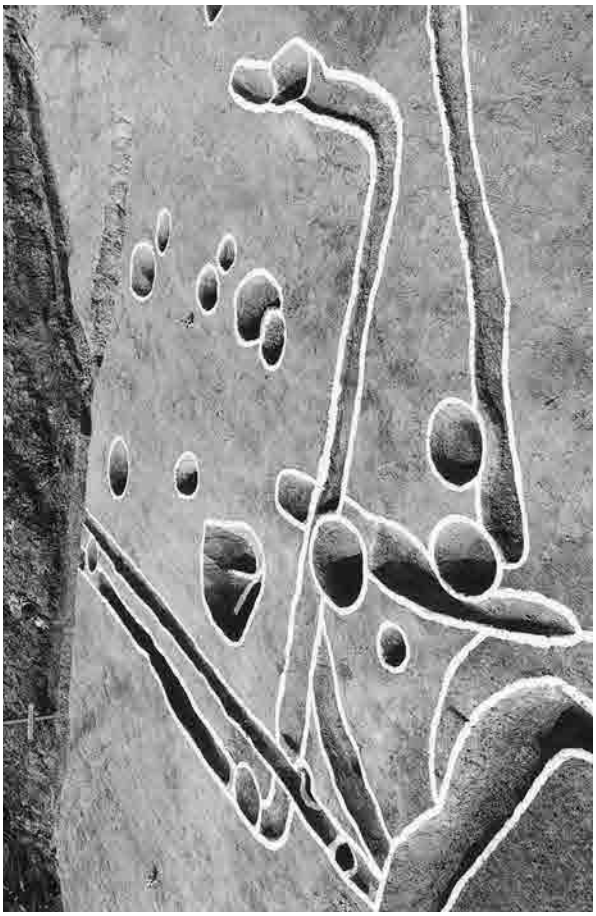
## 図版48　古代遺構



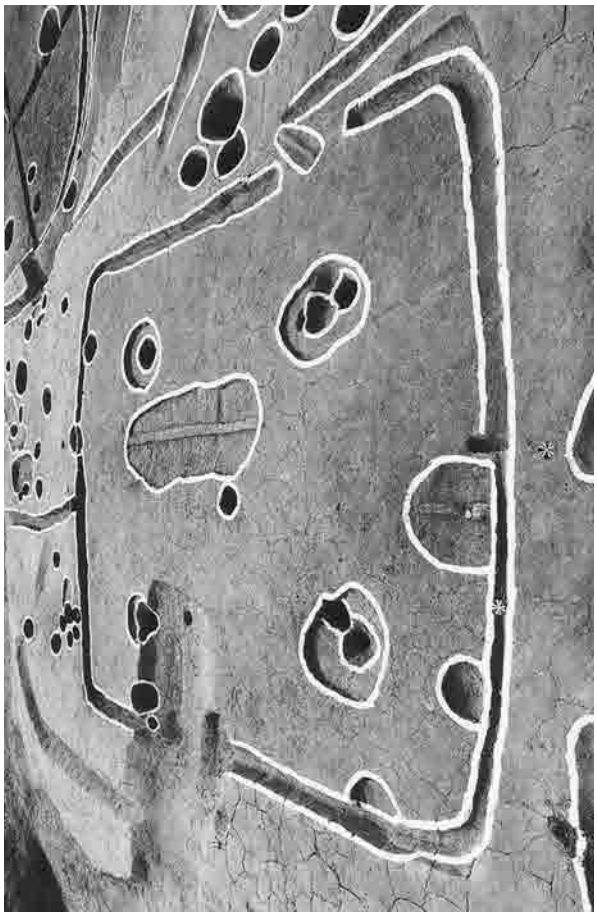
1．竪穴住居32（南東から）



2．竪穴住居25（北から）



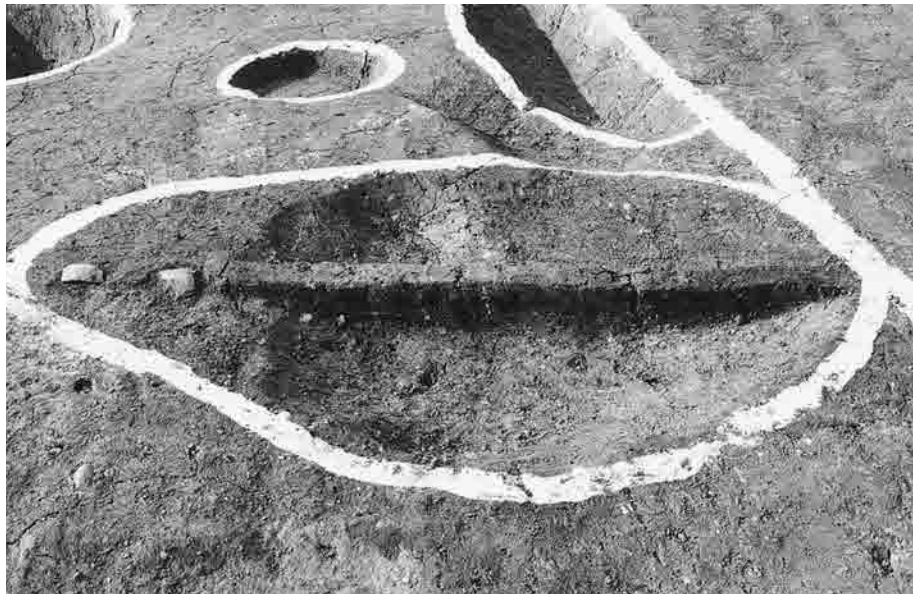
3．竪穴住居15（北から）



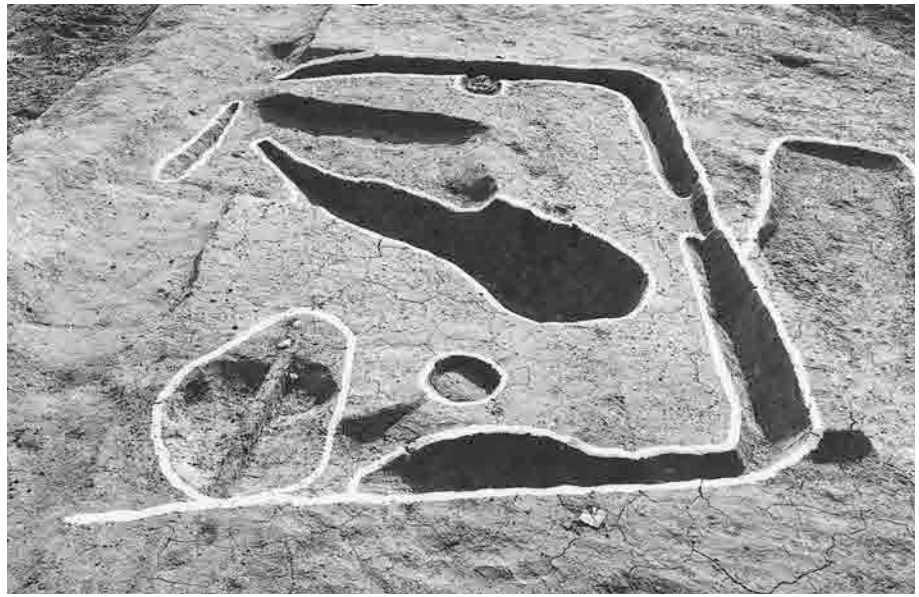
4．竪穴住居16（北西から）

1．竪穴住居33（南東から）

2．竪穴住居33　1755壁溝内暗渠（南から）



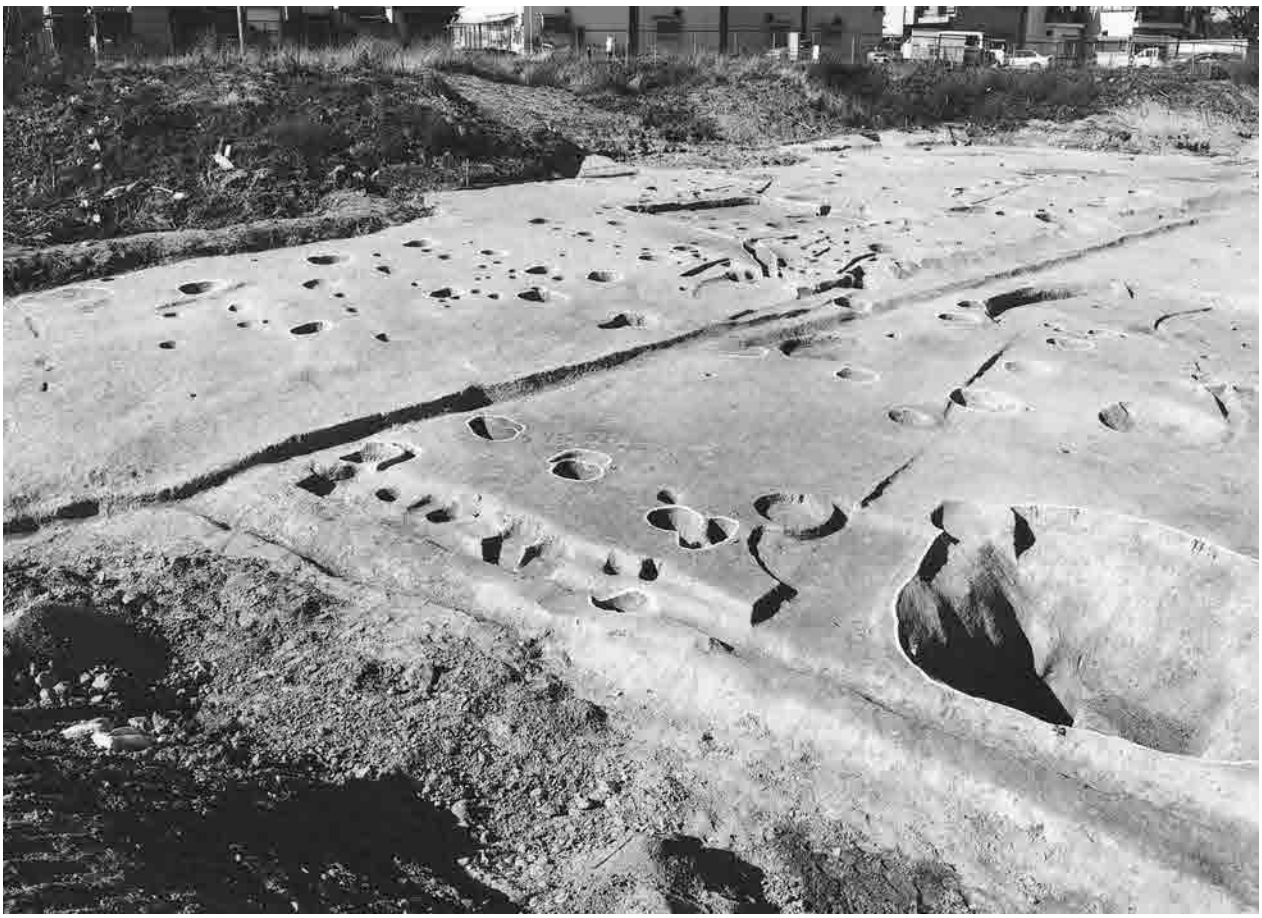
3．竪穴住居19　895土坑（南東から）



4．竪穴住居19（北東から）

図版49　古代遺構

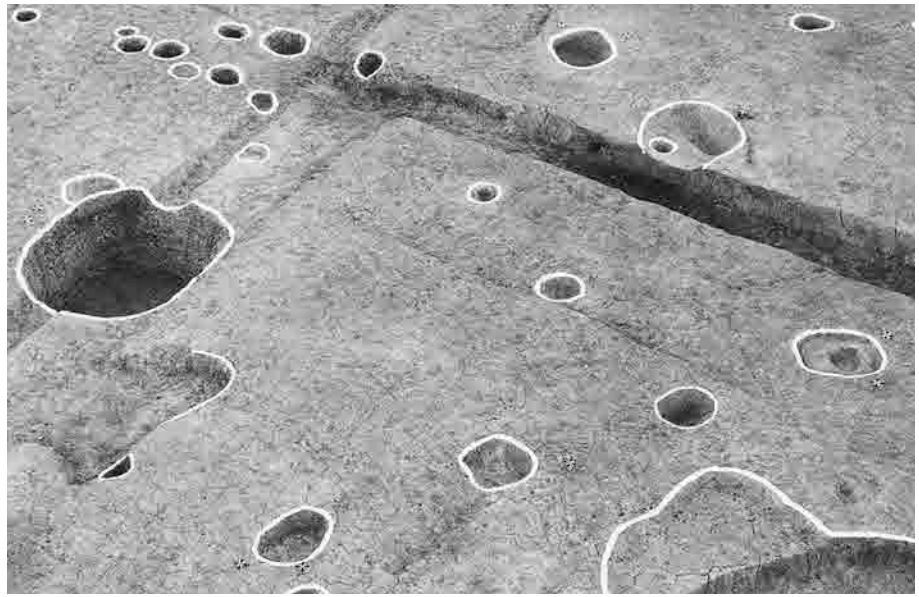
## 図版50　古代遺構



1．掘立柱建物5～8（南東から）

2．掘立柱建物6～8（北西から）

1．掘立柱建物9（北東から）



2．掘立柱建物3（南から）

3．掘立柱建物4（東から）

4．柱列2（北から）

## 図版52　古代遺構

1．掘立柱建物6
（東から）

2．掘立柱建物8
（南から）

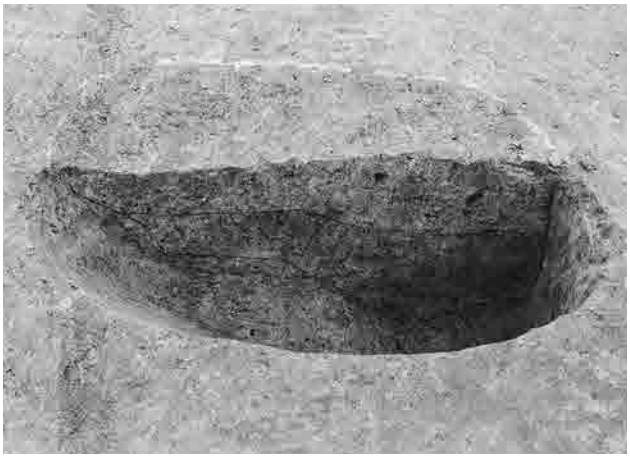
3．掘立柱建物5、
柱列3・4
（北から）

1．掘立柱建物7
（東から）

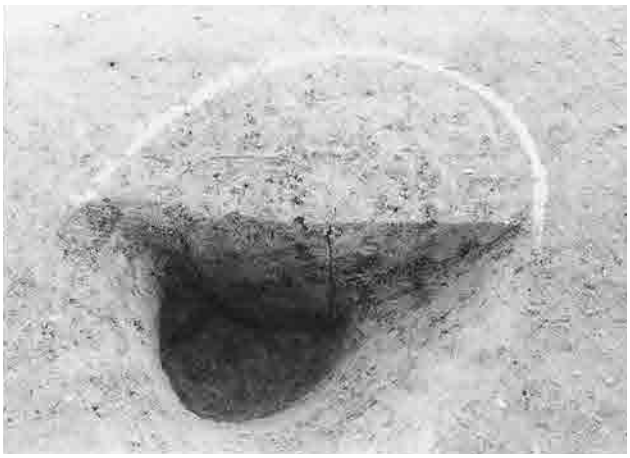
2．掘立柱建物10
（北から）

3．掘立柱建物10
（北西から）

## 図版54　古代遺構



1．掘立柱建物6　1629ピット断面（南から）
2．掘立柱建物6　1630ピット断面（南から）
3．掘立柱建物6　1621ピット断面（西から）
4．掘立柱建物3　2111ピット断面（東から）



5．竪穴住居33　1688ピット断面（東から）
6．竪穴住居33　1686ピット断面（西から）
7．1720井戸（北から）
8．2100井戸断面（南から）

1．24・29・30溝、27谷（西から）

2．24溝（南から）
3．30溝（南西から）
4．6トレンチ6N－9g地区　堆積状況断面（南から）
5．27谷堆積状況断面（東から）

## 図版56　中世以降遺構

1．1トレンチ全景（南東から）

2．26溝（北から）

3．26溝断面（南から）

4．26溝　トレンチ南壁断面（北から）

# 図版57　弥生時代 土器

46－1　1

46－7　4

46－13　5

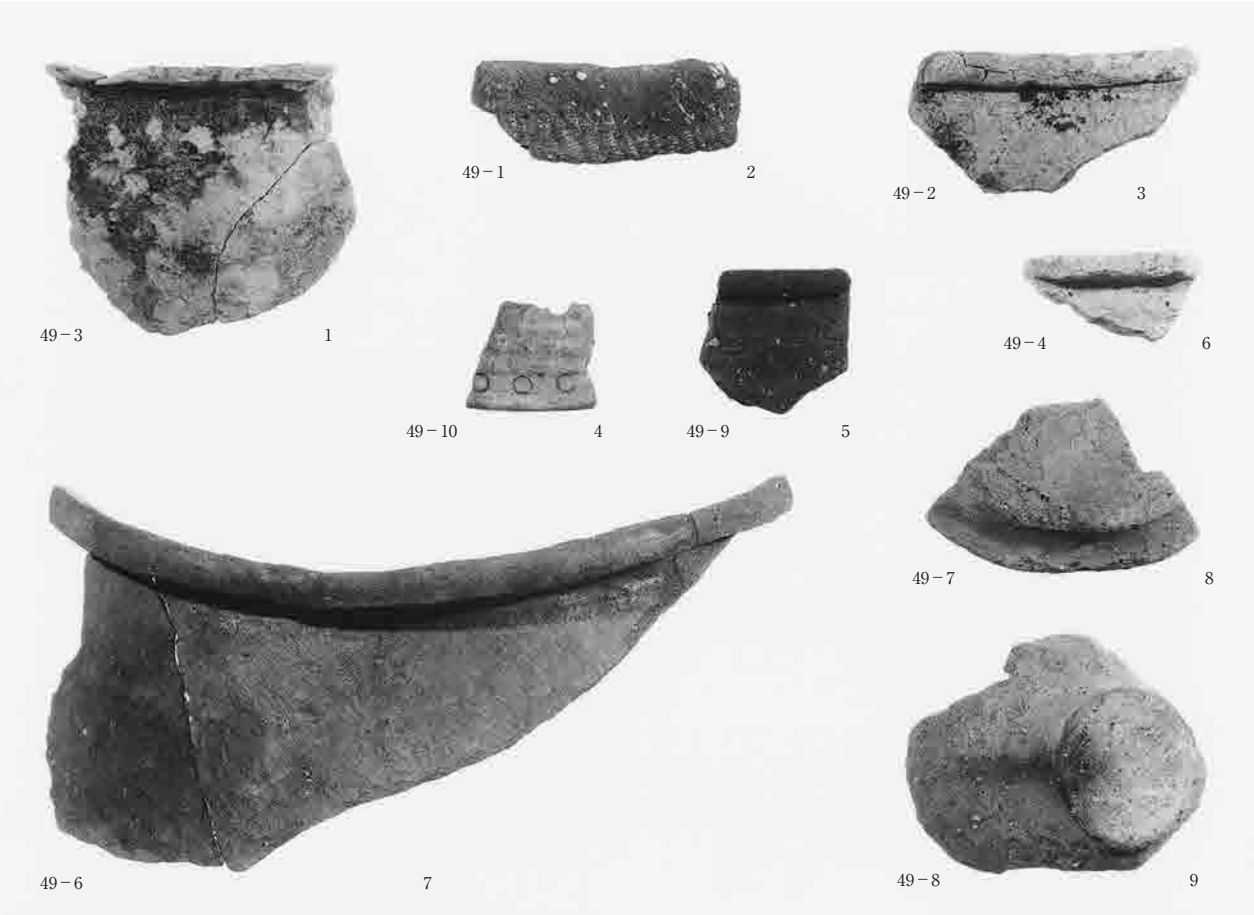
46－5　2

46－15　6

46－12　3

46－16　7

# 図版58　弥生時代 土器



竪穴住居7・9・10、2330土坑

50－12　1

50－13　2

51－13　7

51－1　3

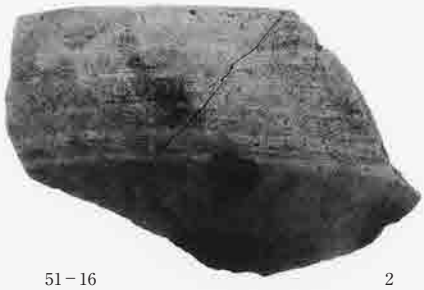
51－4　4

51－2　5

51－12　6

# 図版60　弥生時代 土器

51－15　1



51－16　2

51－11　3

51－14　4

51－10　5

52－1　6

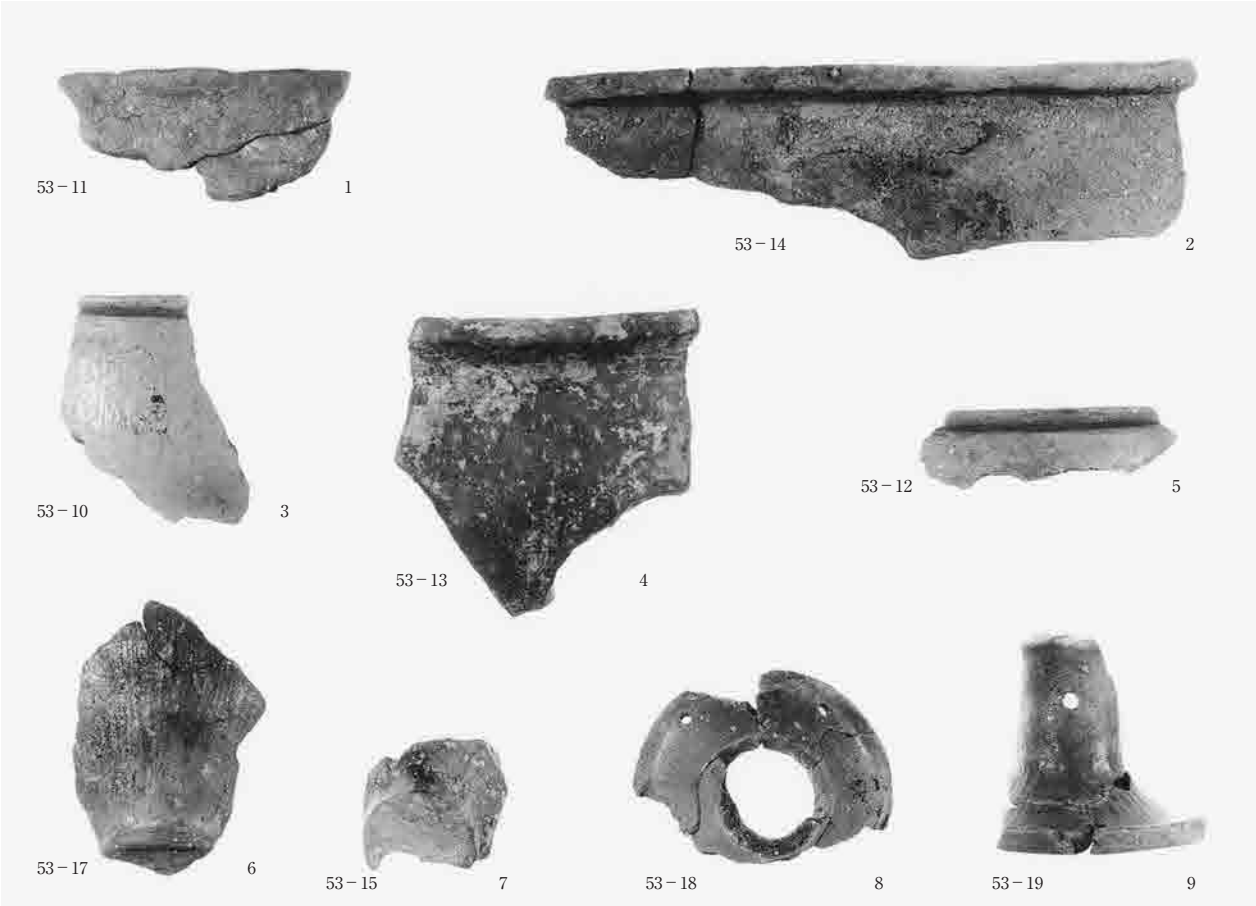
52－6　8

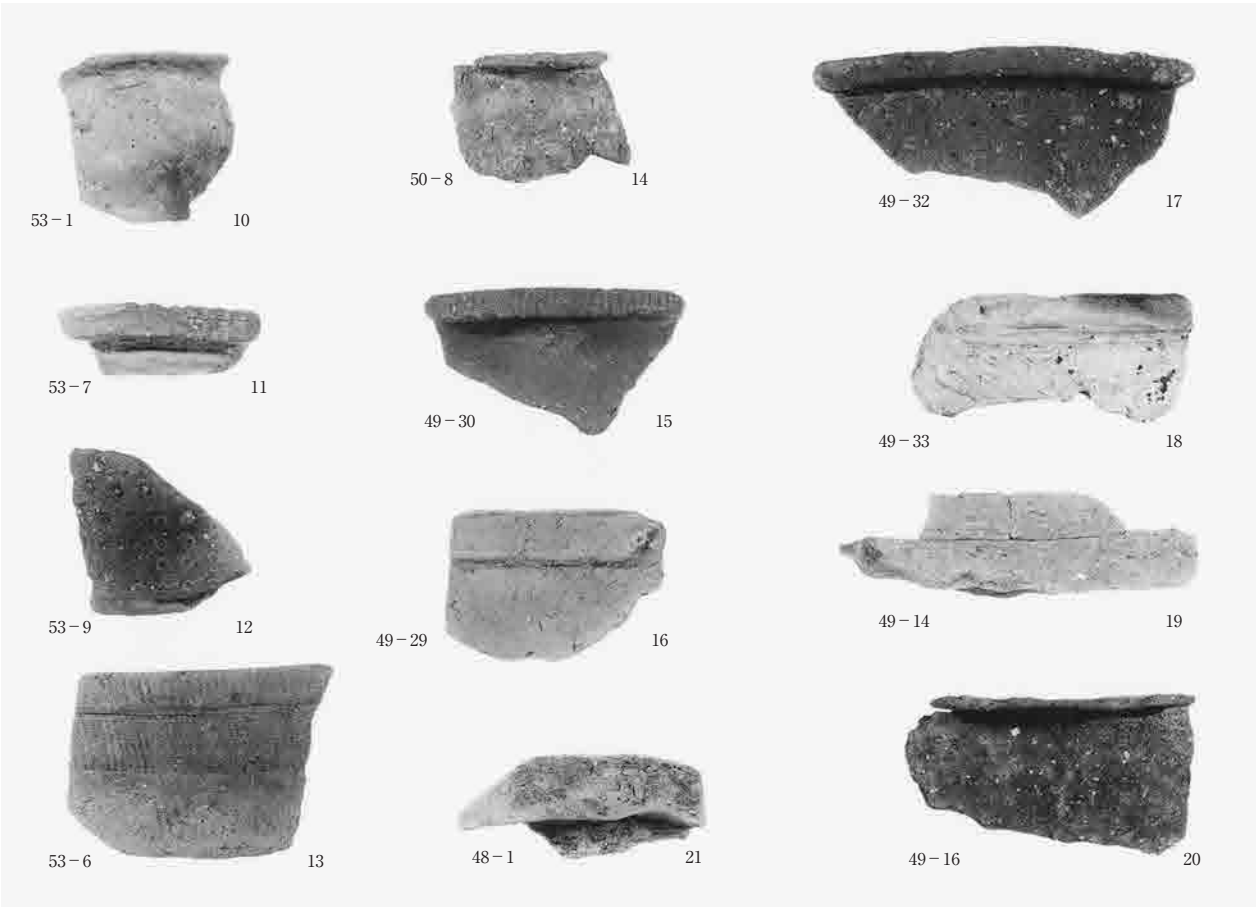
52－3　7

52－8　9

767土坑、789溝

# 図版61　弥生時代 土器




竪穴住居5・11・12・14・22・35・36・38

# 図版62　弥生時代 土器

53－3　1

53－5　5

54－14　2

54－1　6

54－12　3

54－13　4

54－9　7

竪穴住居36・37、1512土坑、182溝、 1494ピット

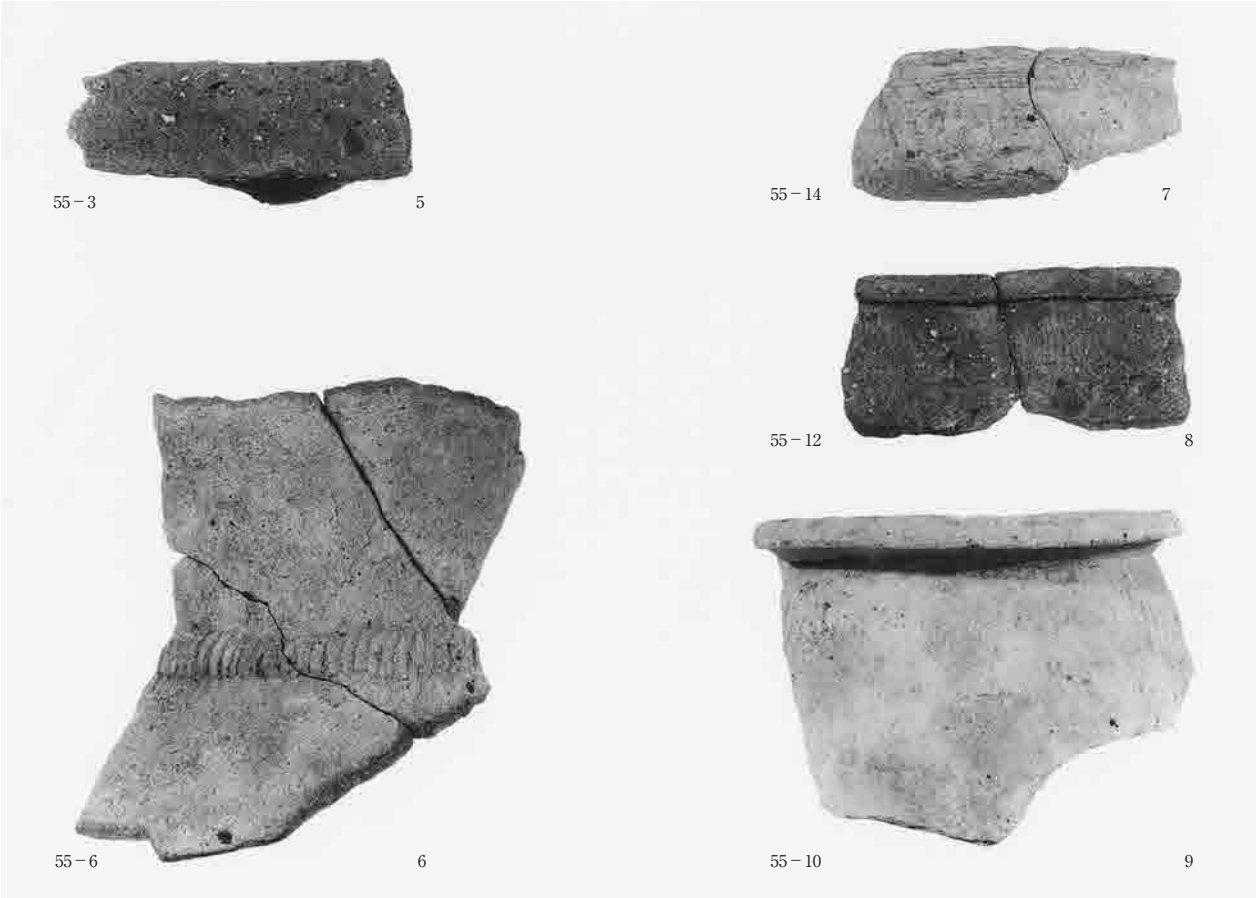
# 図版63　弥生時代 土器

57－24　1

56－19　3

56－22　2

55－27　4


55－3　5

55－14　7

55－12　8

55－6　6

55－10　9

1684・1714・1886・1925土坑

# 図版64　弥生時代 土器

57－16　1

57－4　4

57－5　5

57－1　2

57－6　6

57－2　3

58－4　7

1800・1927・1956土坑

# 図版65　弥生時代 土器

58－1　1

58－7　2

58－8　3

58－12　4

58－13　5

58－15　6

58－16　7

1569・1956・1957土坑

# 図版66　弥生時代 土器

59－2　1

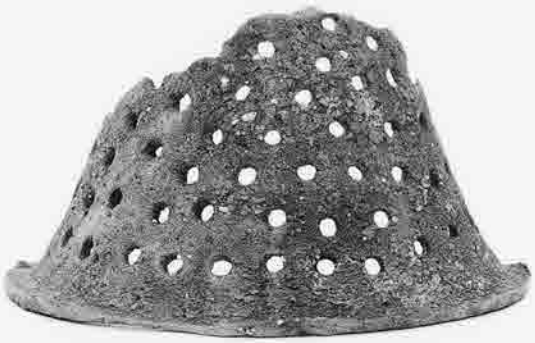
59－14　5

59－5　2

59－23　6

59－9　3

60－4　7

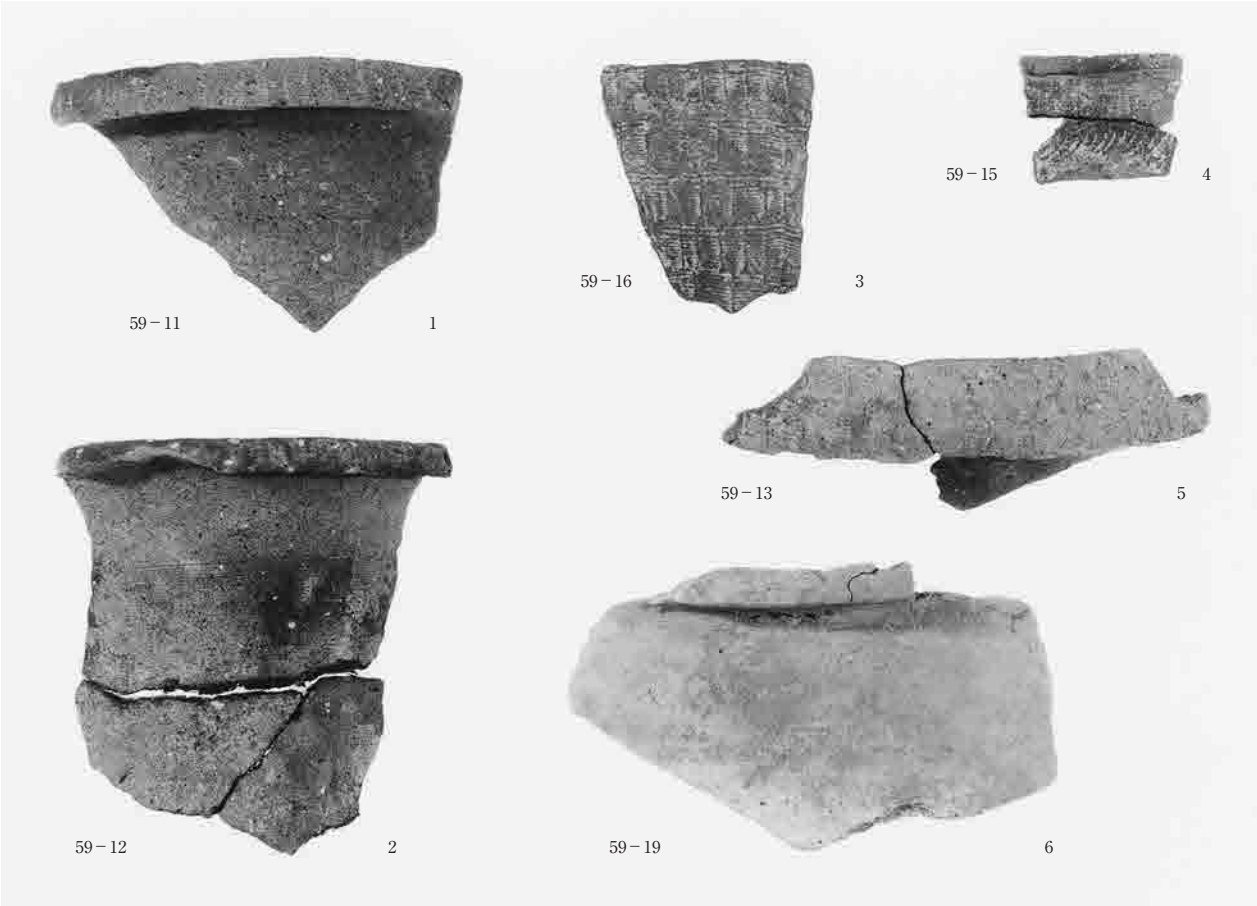


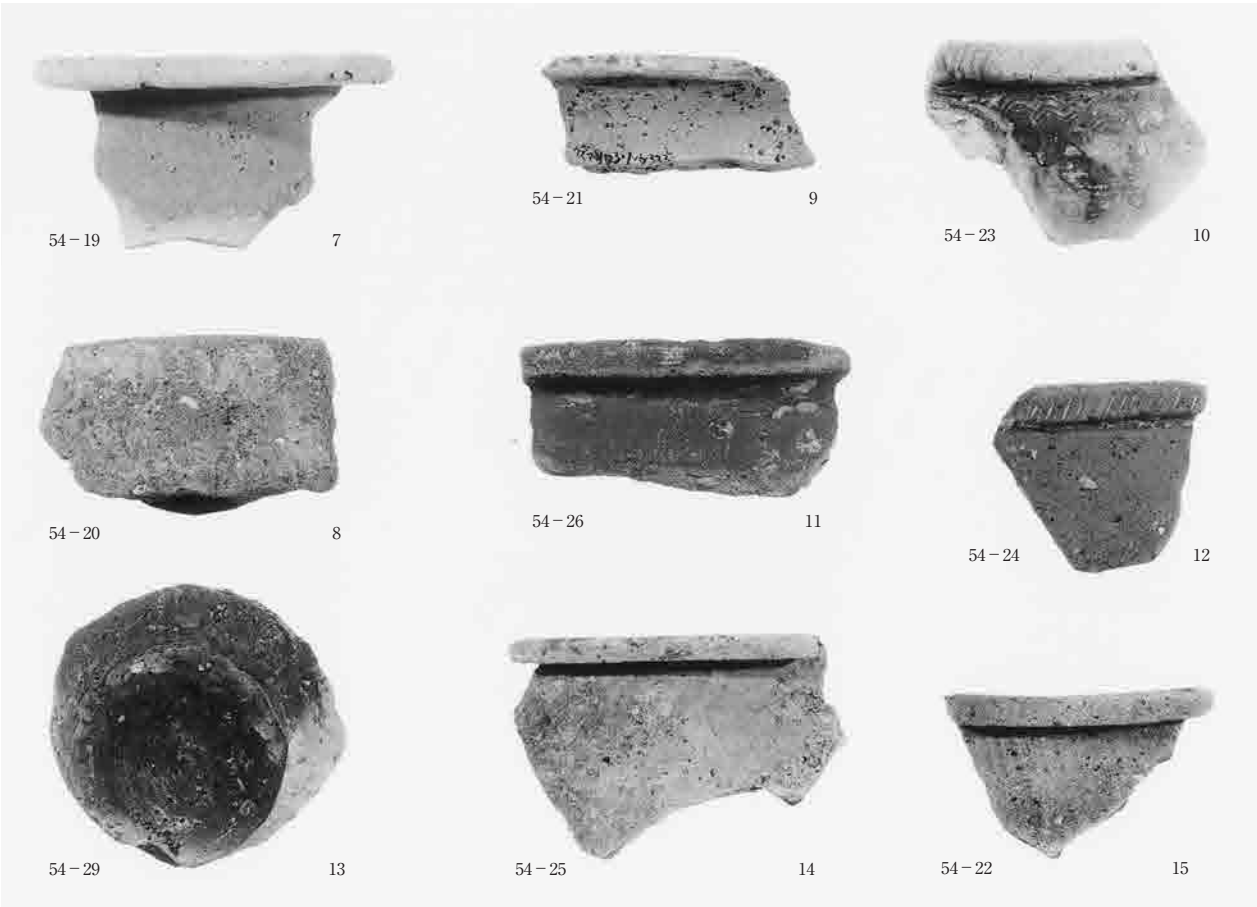
59－30　4

63－19　8

竪穴住居18・39、42・56・215土坑、第一層

# 図版67　弥生時代 土器




56・197土坑

# 図版68　弥生時代 土器

61－3　1

61－7　2

61－8　3

61－9　4

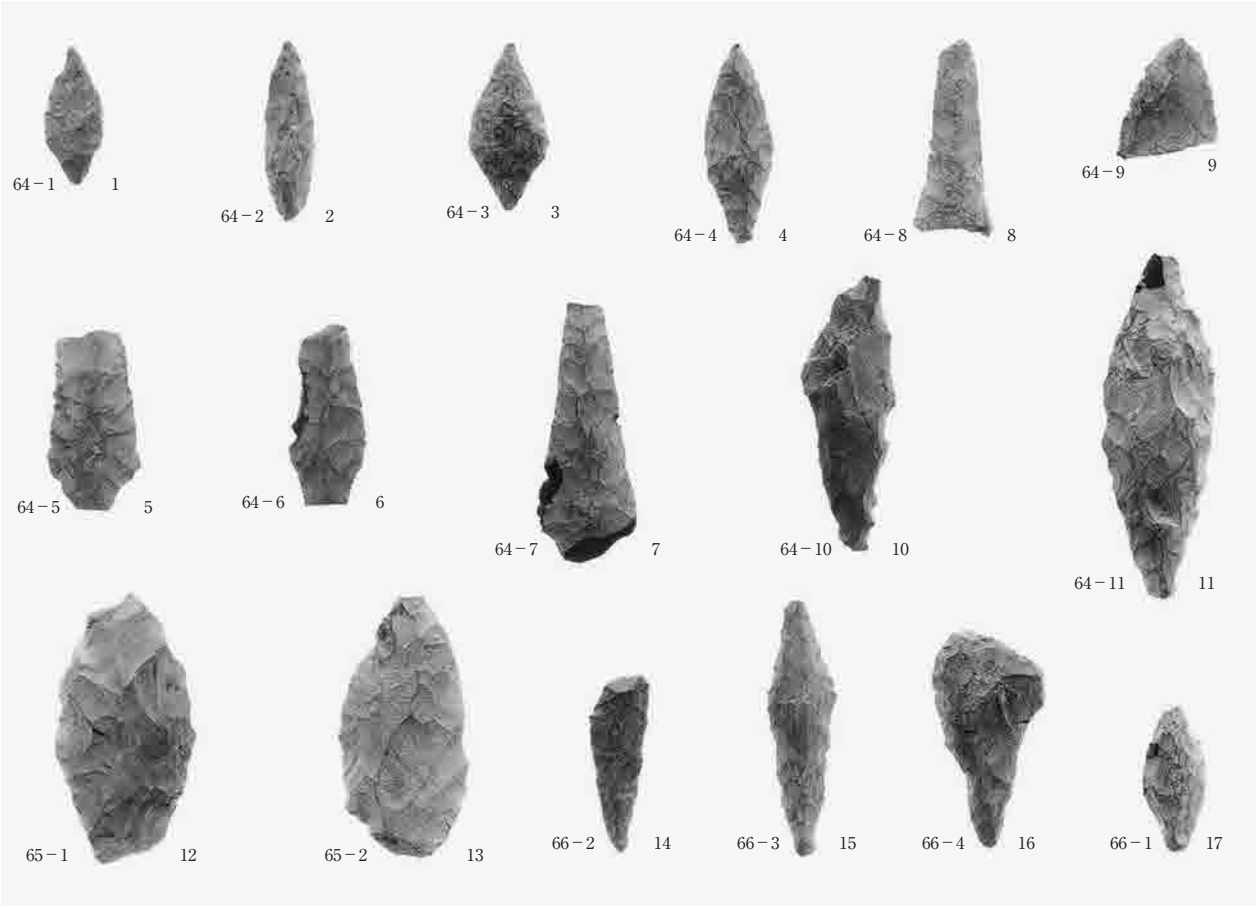
61－2　5

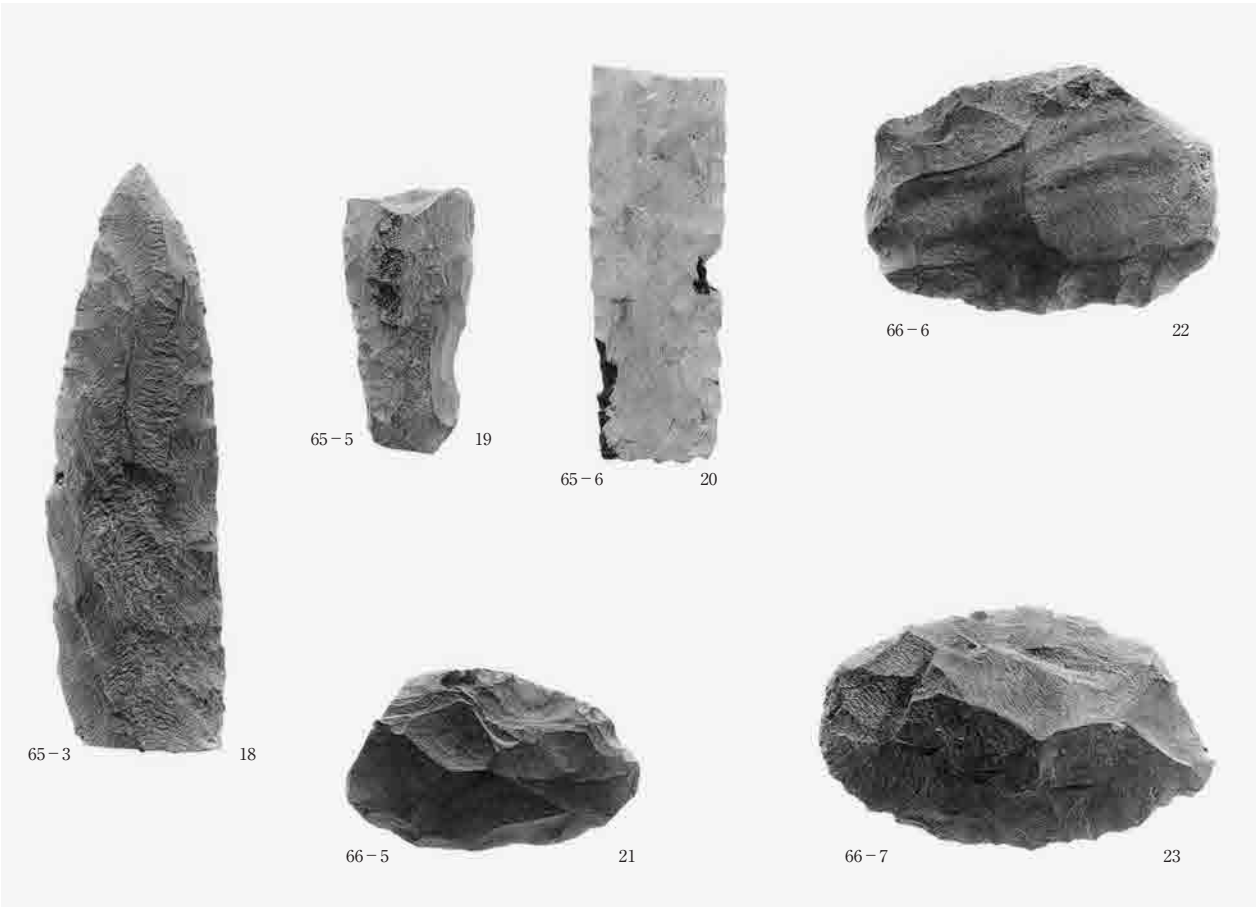
61－11　6

62－22　7

周溝墓1

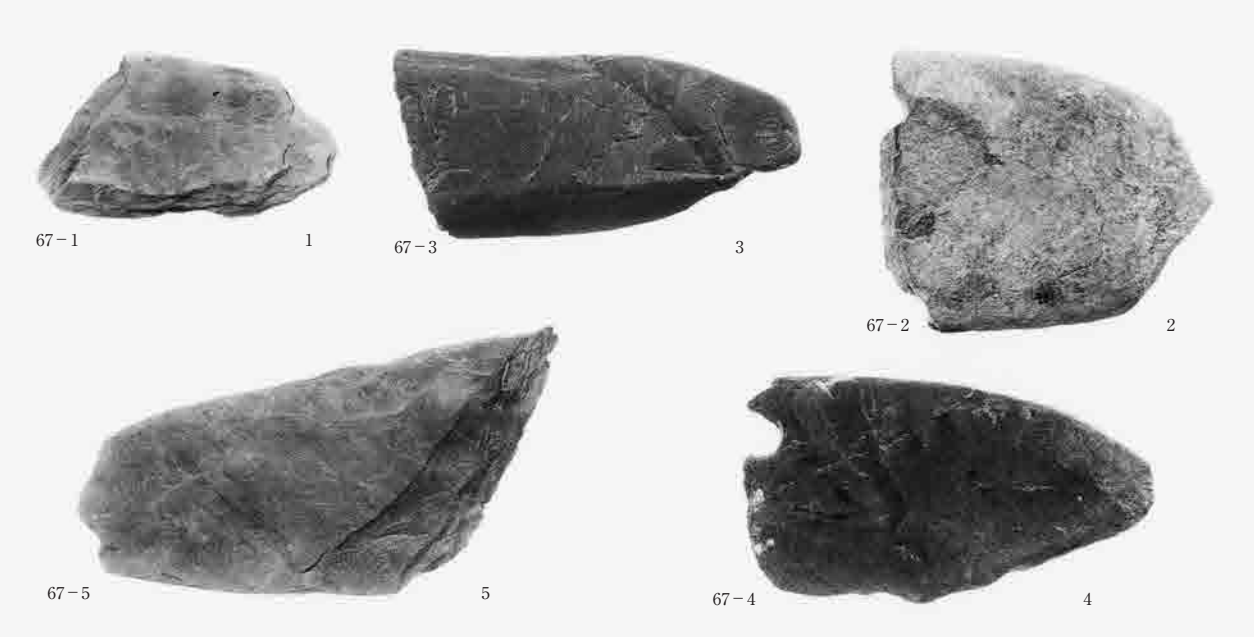
# 図版69　弥生時代 石器

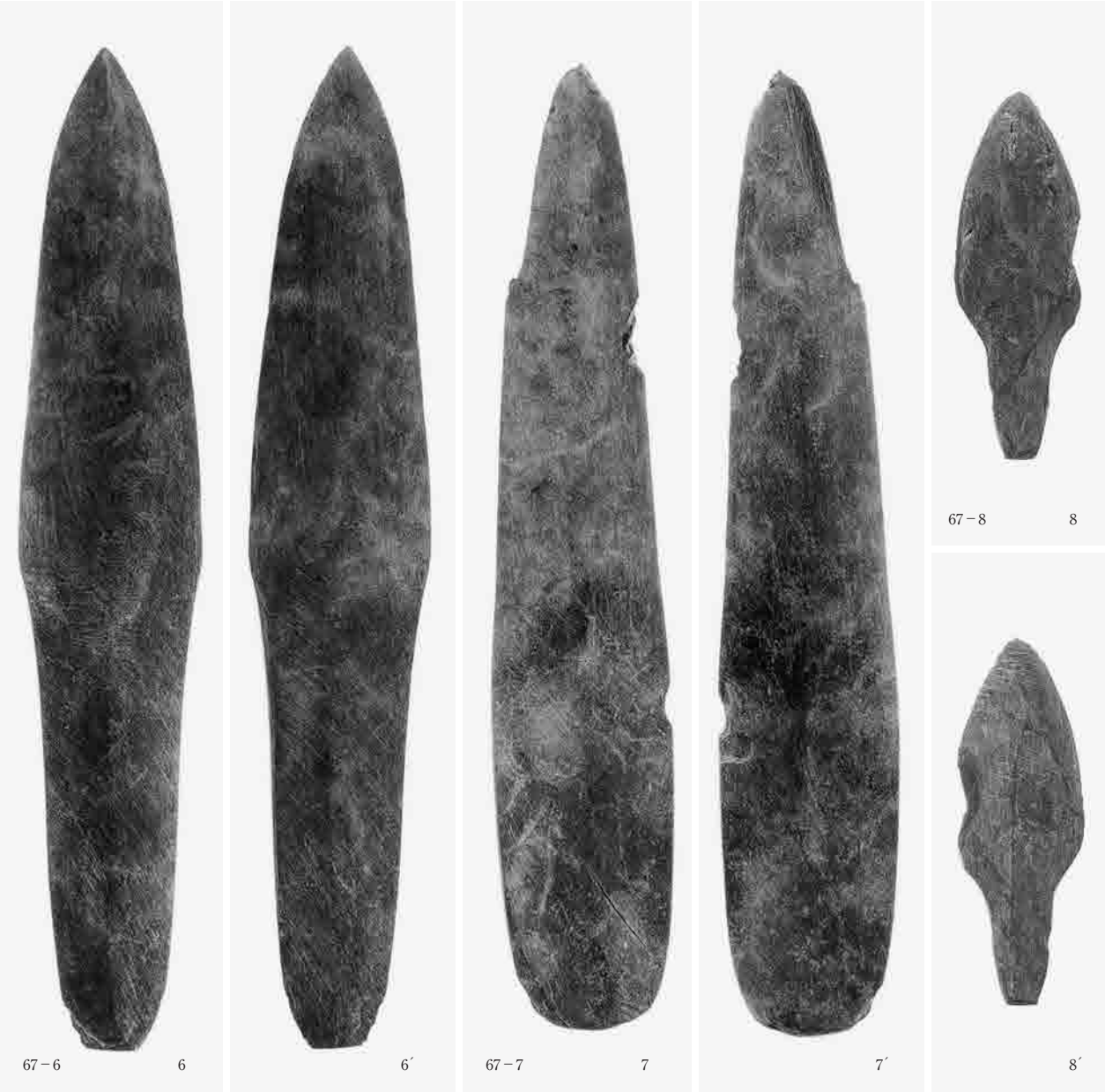



竪穴住居3・4・5・10・11・12・13・14・24・29、444土坑、789溝、875・1384ピット、谷部、第1層

# 図版70　弥生時代 石器




竪穴住居13・24・29・30、197・1569土坑

# 図版71　弥生時代 石器

68－1　1

68－2　2

68－3　3

3′

68－4　4

68－5　5

69－1　6

69－2　7

69－5　9

69－4　8

竪穴住居5・10・12、182溝、1055落込、 411ピット、第1層

# 図版72　古墳時代 埴輪

81－1　1

81－2　2

81－3　3

81－4　4

81－5　5

81－8　6

17号墳

81－9　1

82－3　4

4′

82－5　5

82－1　2

5′

82－2　3

# 図版74　古墳時代 埴輪・須恵器

82－6　1

82－8　2

82－9　3

82－15　4

82－13　5

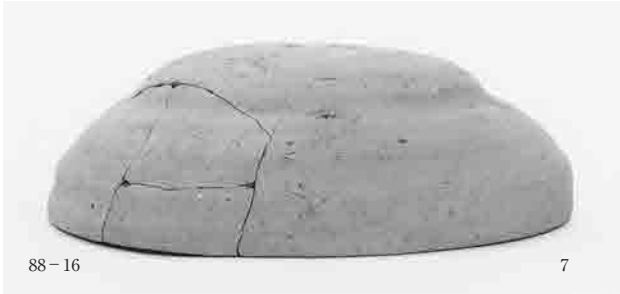
82－14　6

82－16　7

82－18　8

# 図版75　古墳時代 須恵器・鉄器・銀環

82－19　1


88－16　7

82－20　2

88－3　8

82－23　3

88－4　9

88－10　10

82－25　4

88－11　11

88－14　5

88－15　6

88－13　12

22・24号墳、竪穴住居15、土壙墓7、429土坑

# 図版76　古代 土器・骨

104－3　1

104－6　2

3

4

104－12　5

104－13　6

105－1　7

105－8　8

竪穴住居33、35土坑、26・28溝、1720井戸

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふ　り　が　な | うずまさ いせき・うずまさこふんぐん２ |
| 書　　名 | 太秦遺跡・太秦古墳群Ⅱ |
| 副　書　名 | 一般国道１号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻　　次 | |
| シ リ ー ズ 名 | （財）大阪府文化財センター調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第１４３集 |
| 編　著　者　名 | 市本芳三・松下知世 |
| 編　集　機　関 | 財団法人　大阪府文化財センター |
| 所　　在　　地 | 〒590－0105　大阪府堺市竹城台３丁21番４号　℡072-299-8791 |
| 発 行 年 月 日 | 2006年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| うずまさ いせき・うずまさ こふんぐん<br>太秦遺跡・<br>太秦古墳群 | おおさかふ　ねやがわし<br>くにもりちょう<br>大阪府寝屋川市<br>国守町 | 27215 | 3 | 34°<br>45′<br>14″ | 135°<br>38′<br>48″ | 2003年５月14日～<br>2004年３月19日 | 9,710㎡ | 一般国道１号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 太秦遺跡・<br>太秦古墳群 | 集落<br>周溝墓<br>古墳 | 弥生時代中期 | 集落 | 土器・石器(磨製石剣・翡翠製勾玉) | 竪穴住居を32棟検出。<br>大型の竪穴住居を検出。拠点集落の一つと考えらる。 |
| | | | 周溝墓 | 弥生土器 | １基。大型の墓壙 |
| | | 古墳時代中期 | 古墳 | 須恵器・埴輪 | 12基検出。既調査と合わせ25基を数える古墳群 |
| | | 古墳時代後期 | 集落 | 須恵器 | 掘立柱建物１棟・<br>竪穴住居２棟 |
| | | | 土壙墓 | 須恵器・耳環・鉄鏃 | 土壙墓５基 |
| | | 飛鳥～奈良時代 | 掘立柱建物・柱穴・土坑・溝 | 土師器・須恵器 | 同一方向の軸を指向した配置 |

| | |
|---|---|
| 要　　約 | 弥生時代中期の集落を検出した。大型の竪穴住居群であり、西隣の大尾遺跡の周溝墓群との関連、また、北河内の拠点集落として重要視される。<br>古墳時代中期のいわゆる初期群集墳。埴輪と初期須恵器の出土。<br>古代の掘立柱建物群。高宮廃寺とその周辺で検出された建物群との関連が注目される。 |

（財）大阪府文化財センター調査報告書　第143集

# 太秦遺跡・太秦古墳群Ⅱ

一般国道１号バイパス（大阪北道路)・第二京阪道路建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日／2006年３月31日

編集・発行／財団法人　大阪府文化財センター
大阪府堺市竹城台３丁２１番４号

印刷・製本／株式会社　中島弘文堂印刷所
大阪府大阪市東成区深江南２丁目６番８号